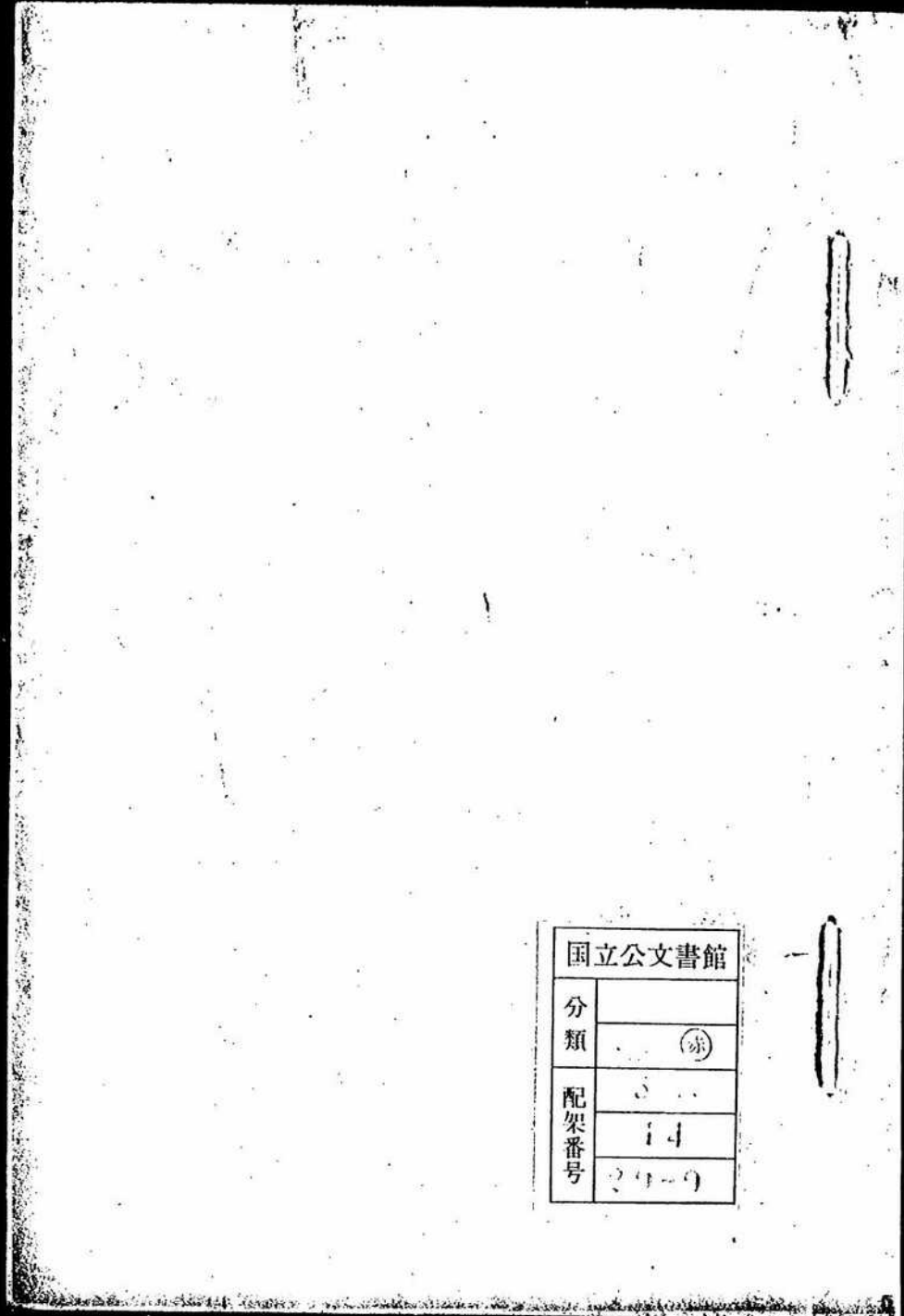


1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10



国立公文書館	
分類	...
配架番号	14
	29-9

4595

陸技壹砲報第六號

昭和四年一月

曲射歩兵砲修正機能試験報告

37

SHIPPING ADVICE# 10112  
NO. 17  
DATE 3.33

昭和四年  
陸軍技術本部第一

国立公文書館	
分類	
配架番号	20-9

めくれず



WDC No

Team

Scanner

Index No

397363333.

Handwritten mimeographed loose-bound sheets, "Test Report on the Improved Functions of the Infantry Forward, n. Army Technical Headquarters, 1929, "Confidential".

RESTRICTED

めくられず

曲射歩兵砲修正機能試験報告

第一 試験ノ目的

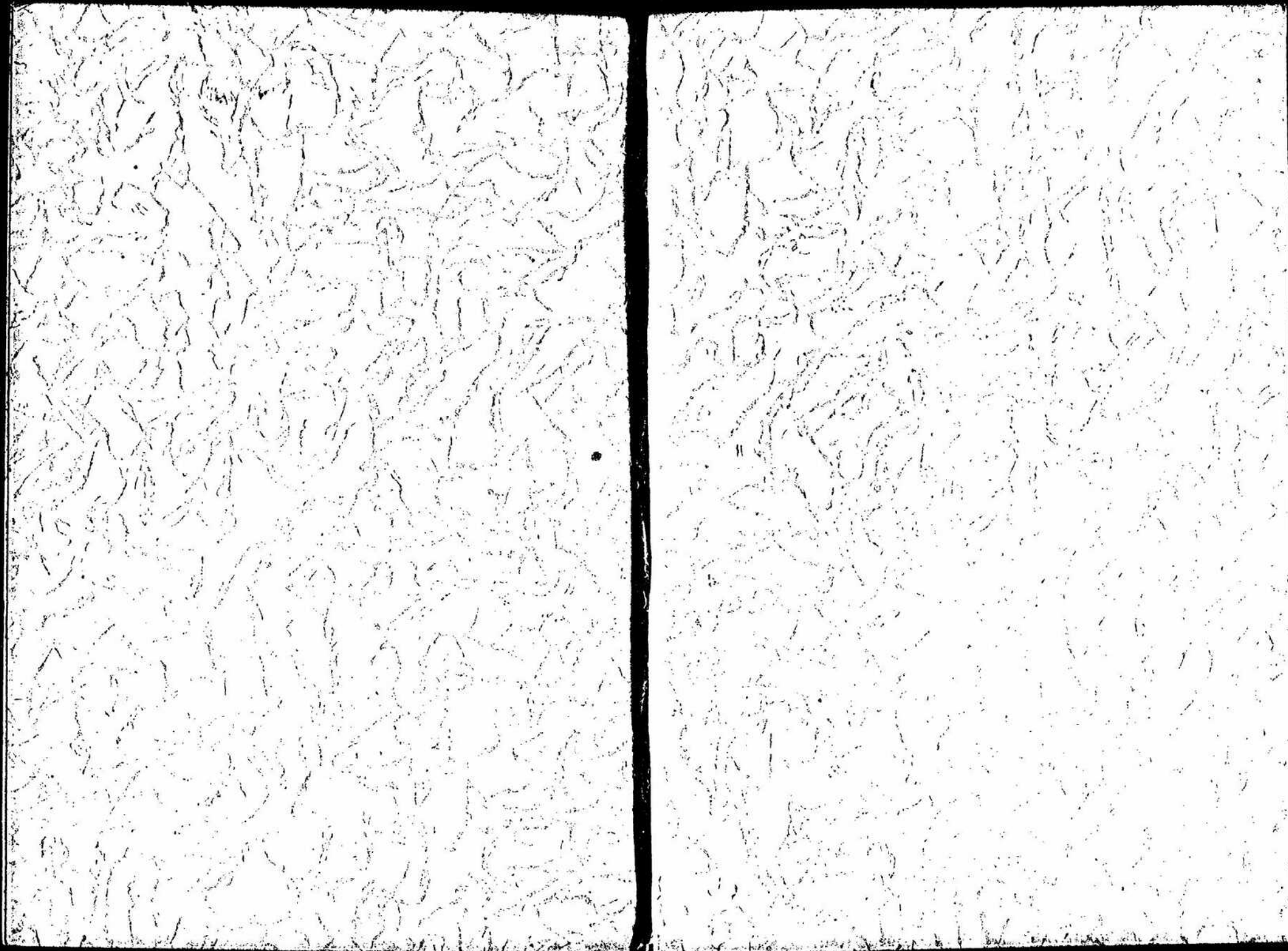
昭和三年三月本砲ニ駐退機ヲ附シ且履板ヲ装シテ試験レシタル結果駐退機ハ之ヲ必要トセス寧ロ履板ノ抗力ヲ増加シ放列ノ布置ヲ容易ニシ且砲床ノ傾斜ヲ修正シ得ルヲ有利ト認ノ其ノ改修ヲ完成シ同時ニ方向射界ヲ増大シ射撃ノ機能ヲ試験セントス

第二 判決

一 支柱及履板ハ駐退機ヲ装セサル射撃ニ對シ抗力充分ナリ

11 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	返 赤
配架番号	3 A
	14
	20-8





想定

所要地圖

五十方分一奉天及懷仁附近圖奉天及懷仁附近圖  
十方分一錦州附近圖其一共二  
(各々梯尺ヲ示シ標高ハ其儘トス)

一新京方向ヨリ前進中ノ敵ヲ擊滅スベキ任務ヲ有スル西軍第一師團(1LPW, 1AA, 2AA, 1FM)ヲ

屬ス)ハ十月一日山海関ニ下車シ、山海関—錦州—鎮安道ヲ大凌河ニ向ヒ前進

中三日十二時第一梯團ノ先頭ヲ以テ錦州西端ニ達ス

二師團長ハ同時迄ニ左ノ狀況ヲ知り師團ハ本夜錦州東北方地區ニ宿營スルニ決ス

此ノ時ニ於ケル師團ノ行軍部署別紙要圖ノ如シ

ハ飛行機ノ偵察ニ依リ左ノ事項ヲ知ル

1. 戰車三四十輛、自動貨車百數十輛ヨリナル機甲部隊ハ本三日十一時四十分新民

駅ニ下車中ナリ

2. 大凌河ハ數日來、降雨ノ爲水幅ニ百—三百米ニシテ義州—廣寧道(合)ヨリ

下流ニ大凌河甸、油家山子、于家章、蘇家堡、各東方ニ橋梁アル外渡河點ヲ

認メ又沿岸ニ殆ト舟筏ヲ認メ又

3. 大凌河、小凌河ニ注ク小流ニハ十分一圖片點線路ノ通ル所ニ概テ橋梁アリ

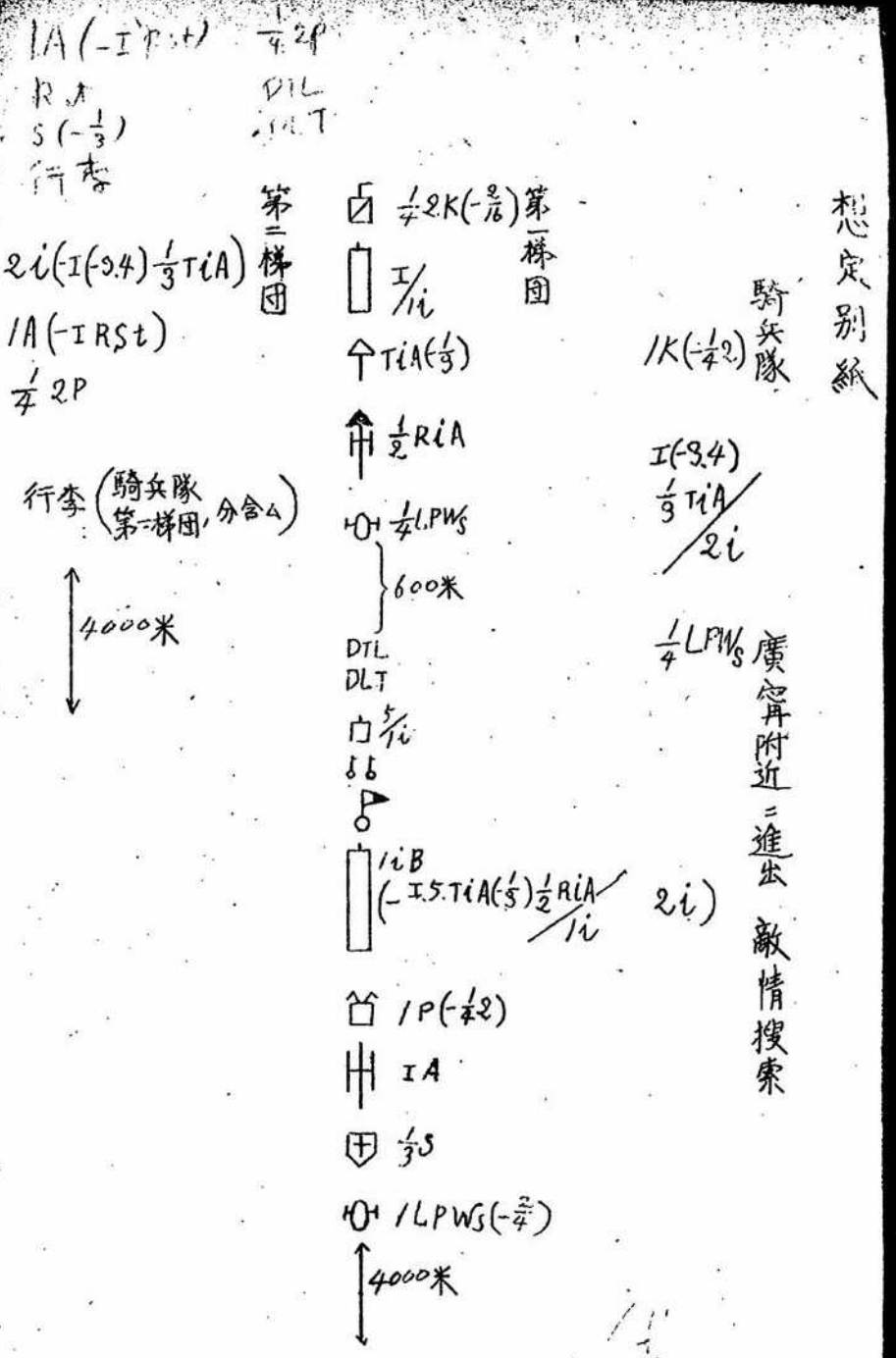
又其附近ニ徒涉場アリ

4. 信スベキ諜報ニ依リ約一師團ノ敵ハ奉天附近ニ待機中ニシテ本夕刻マデニ前打虎

山駅ニ前進スル筈

5. 平時調査ニ依リ錦州附近ノ小部隊ハ一隊乃至二中隊ノ收容力ヲ有シ概テ各々

營 備

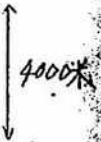


井戸有  
 山海関前打虎山間、鉄道ハ使用シ得ズ  
 三備考  
 十月三日、日没 同四日、日出  
 日没 〇六、二〇  
 日没 一七、〇〇  
 薄明 概ネ一時間三十分トス

第三機団

2IB, RSt S(-1/3)

行李



第四機団

丁凡

AA 2AA 八躍進シツ、縦隊ヲ掩護ス

備考

- 一、IFM<sub>3</sub> 八明三日ヨリ連山ヲ前進 飛行場トシテ使用ス
- 二、山海關出發以來降雨續キニシテ本三日十一時頃ヨリ次第ニ雨止ミ快復シツアリ
- 三、明日ノ前衛ハ 2IB (3C) IA 基幹ノ子定ナリ

### 第一問題

第一師團錦州東北方地區宿營復案要圖

答解事項

- 1. 宿營及警戒ニ關シ師團長トシテ部署スベキ事項
  - 2. 警戒正面ハ歩哨線概畧ノ線ヲ以テ示スベシ
- 用紙 小方眼紙 五方分一  
呈出 一月六日 八時

### 方針

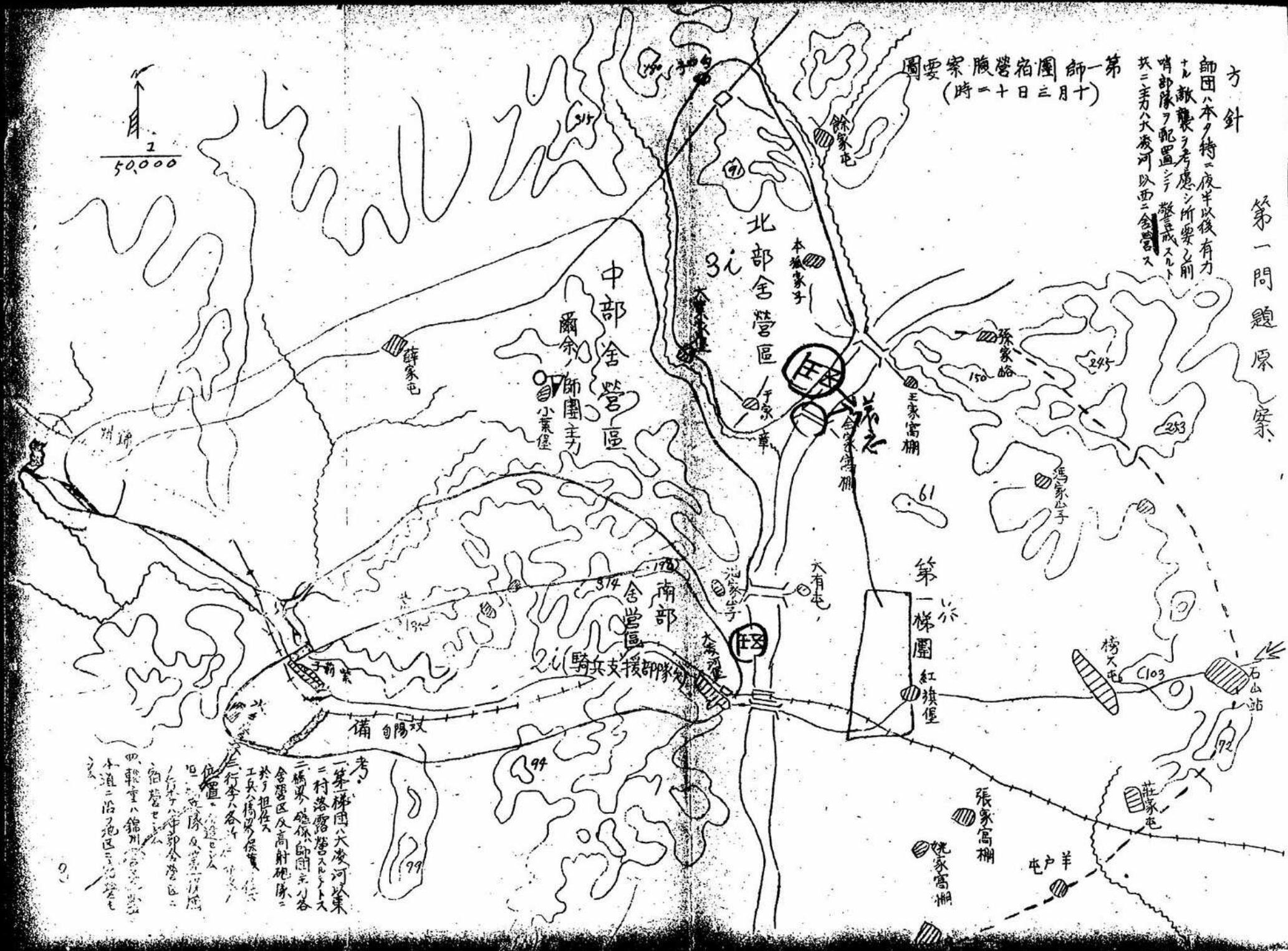
師團ハ本夕特ニ夜半以後有力  
ニ敵襲ヲ考慮シ所要ノ前  
哨部隊ヲ配置シテ警戒ニ  
於テ主力ハ大凌河以西ニ合營ス

### 第一問題原案



- 一、第一機団大凌河以東
- 二、村落露宿スルところ
- 三、橋梁、隘路、師團主力各
- 合營区及高射砲隊ニ
- 於テ担任ス
- 四、工兵ハ橋梁保護、修繕
- 行李八各、
- 位置、
- 五、敵襲ハ本師團分營区ニ
- 於テ担任ス
- 六、
- 七、
- 八、
- 九、
- 十、





第一師團宿營案要圖  
(時二十日三月十)

方針

師團八本夕特ニ夜半以後有力  
ナル敵襲ヲ考慮シ所要ノ前  
哨部隊ヲ配置シテ警戒スルト  
共ニ主力ハ大凌河以西ニ宿營ス

第一問題原案

第一師團錦州東北方地區宿營案要圖  
答解事項

1. 宿營及警戒線ハ師團長トシテ部署スベキ事項
  2. 警戒正面ハ歩哨線概畧ノ線ヲ以テ示スベシ
- 用紙 小方眼紙 五方分一  
呈出 一月六日 八時

裏面白紙

考  
一 第一梯團大凌河以東ニ村落露營スルトス  
二 橋界確保師團主力各舍營區及高射砲隊ニ於テ担任ス  
三 工兵高射砲隊ニ於テ担任ス  
四 行李各々ニ於テ担任ス  
五 宿營地及警戒線ハ師團長トシテ部署スベシ  
六 宿營地ハ錦州東北方地區ニ於テ宿營ス



第一問題原案ノ説明

一宿營法

敵機中部隊ノ急襲ヲ受クルノ虞ハ本夕以後大ナルミナラス我隘路進出ニ乘セント積極的公圖ヲ有スル敵ヲ本夜相當部隊ノ敵ノ攻撃ヲ受クル虞アリ故ニ有カナル部隊ヲ以テ警戒シ且明日師團主力ノ大凌河進出掩護ノ爲ノ要點ヲ確保シ既往ノ行軍經過ヲ考ヘ本夜勉メテ休養シ銳氣ヲ養フヲ可トス故ニ師團主力ハ明日ノ出發部署ヲ考慮シ舍營スルヲ有利トス

二宿營地

本夕以後ノ敵機甲部隊ノ急襲或ハ明日宿營地出發後間モナク主力ノ戦斗惹起ナキヲ保シ難キ本狀況ニ於テ行軍從隊ノ長徑ニ應ジテ就宿スルヲ許サズ

399) 明日ノ出發ニ便ニシテ且警戒容易ナル如クアルヲ要ス

師團主力ヲ以テ大凌河以東ニ宿營スルハ宿營地到着ノ時機遅ルト警戒ノ爲

大ナル部隊ヲ要シ休養ヲ主トスル本狀況ニ於テ適當ナラズ

然レドモ今後ニ於ケル師團機動ノ自由ヲ確保スル爲本夕大凌河以東ニ確保スル

地歩ヲ占メ置クヲ必要トスルヲ以テ有カナル警戒部隊ヲ進出セシメ置クヲ要スコレ

ニ依リ大凌河ニ架セル四橋梁ヲ保全ス

3. 輜重ハ敵ノ空襲ヲ考フル時ハ勉メテ隘路内ニ宿營スル部隊ヲ少カラシムルヲ要シ戰

列部隊ニ成ルベク近接シテ宿營セシム

三舍營區ノ配當

明日ノ軍隊區分ヲ顧慮シ出發警戒ニ容易ナラシムルト明日ノ前衛ヲシテ本夜ニ於

ケル警戒上ノ負担ヲ軽減スル如クス(398)

本日速カニ就宿セシムルヲ主トセバ宿營地到着時ノ部署ニ從ヒ舍營區ヲ配當スル

ヲ有利トスルモ明日大凌河ヲ渡河シテ前進スル時刻ヲ考フルニ師團主力ハ天明

前ニ通過シアルヲ得策トスベキヲ以テ夜間ノ混雜ヲ予防スル見地ヨリ明日ノ軍隊

區分ニ適應セシムルヲ有利トス(399)

主力ノ舍營區ハ住民地散布ノ狀態ヲ顧慮シ指揮統率ト各舍營區ニ於ケル業務

ノ勤務員ヲ要スルヲトナリ休養上不利ナリ

3. 交通ヲ阻碍スベキ地障等ヨリ一舍營區ヲ分断セラレザル如クスルト共ニ舍營區ノ

境界ハ明瞭ナル地形ヲ利用ス

四 警戒

1. 警戒ハ宿營ニ附隨スベキモノナルモ宿營地決定ノ爲ニ警戒ノ便否ヲモ顧慮スル

ベキモノナリ 本狀況ニ於ケル大凌河ノ利用ハ前述セル如シ

2. 騎兵隊ハ敵情未ダ明瞭ナラザレト明日師團前進路上ノ要點ヲ扼シタル本

狀況ニ於テハ勿ク本夜歸還セシムルコトナリ 要點ヲ占領シ遠距離搜索ヲ実

施シメ敵ト接觸ヲ保持セシムルヲ有利トス

3. 警戒大集合場ヲ設ケザル理由(362)

制限セラレタル橋梁ト師團ノ前進方向ハ限定セシレアリ且師團ノ宿營ハ之ヲ最モ

顧慮シアルカ故ニ其ノ方向ニ向テスル行動ハ自ラ容易ナリ

五 行李 糧食ノ宿營(略ス)

第二狀況

一 第一師團長ハ第一師團本隊ノ先頭ニ在リテ行進中 一二四〇 第一狀況

ニ示セル 師團命令ノ要旨ヲ受領ス

第二問題

三日夜ニ於ケル第一師團長ノ警戒部署

答解事項

一 前哨ノ編組 要ハレハ前哨區ノ境界

二 第一師團本隊ノ所在

三 第一師團本隊ニ直接派遣スベキ警戒部隊アル時ハソノ位置 部隊号

任務等ニ関スル事項

四 連絡ニ関スル事項

作業用紙

小方紙 五方分

一、二、七、日、八、時

第一狀況

一師團長ハ第一問題原案ノ如ク宿營スルニ決シ左記要旨ノ命令ヲ步兵第一旅團長(爾後第一梯團長トナル)ニ與フ

左記

第一師團命令要旨

一敵情(想定ニ示セルモノヲ以テ代フ)

騎兵隊ハ依然廣甯附近ニ在リテ新以方尙ニ對シ搜索並警戒ニ任ズ

二師團ハ本三日夜大凌河右岸錦州東岸方地區ニ宿營セントス

三第一梯團ハ大凌河左岸本道ニ沿フ地區ニ村落露營シ大張林堡子ヨリ石

山站ヲ經テ孫家峪ニ亘ル間ヲ警戒スベシ

敵襲ニ方リテハ。。。ニ亘ル線ヲ確保スベシ

四給養ハ行李糧秣ヲ使用スベシ

五予八十五時以後小葉堡ニ在リ

十九時命令受領者ヲ出スベシ

8月7日  
陽關

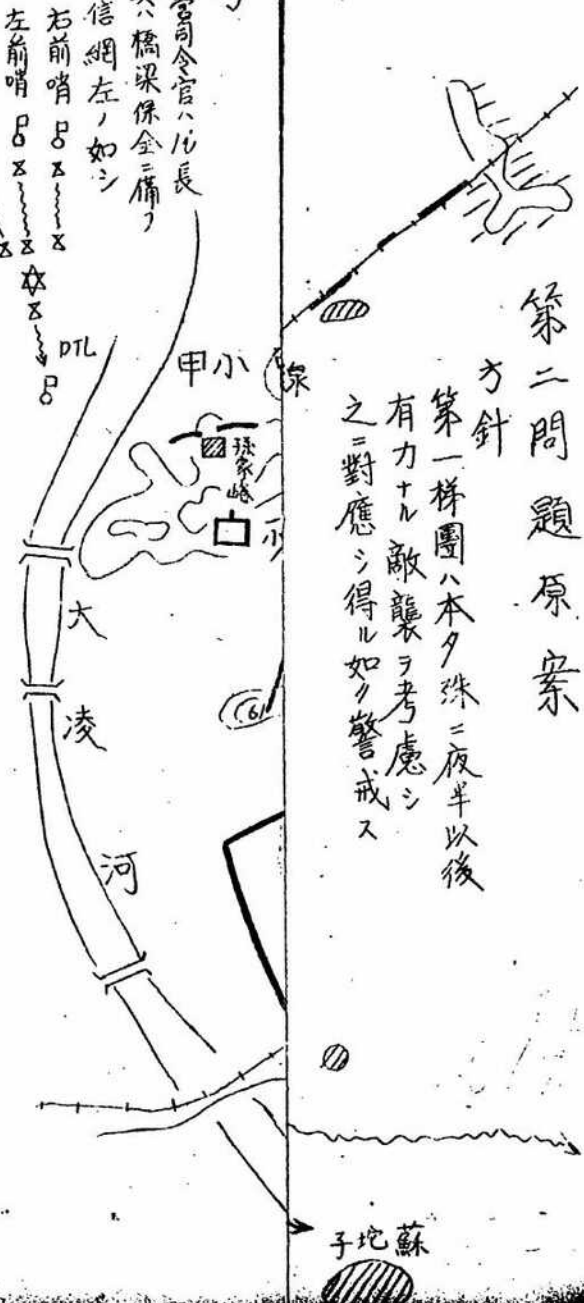
第二問題原案

方針

第一梯團八本夕殊ニ夜半以後  
有力ナル敵襲ヲ考慮シ  
之ニ對應シ得ル如ク警戒ス

備考

- 一 瀋陽司令官ハル長
- 二 工兵ハ橋梁保全ニ備フ
- 三 通信網左ノ如シ
- 右前哨 P O X X X X X X X X
- 左前哨 P O X X X X X X X X
- 甲小哨 P O X X X X X X X X
- 四 前哨大隊ノミ天幕炭火及軒下利用ヲ許可ス
- 五 給養ハ行李糧秣ニ依ル但行李ハ糧秣交附後
- 中即舎營区ニ至リソノ區署ニ依リ宿營ス
- 六 主力ノ宿營地ニ於ケル警戒ハ省略ス

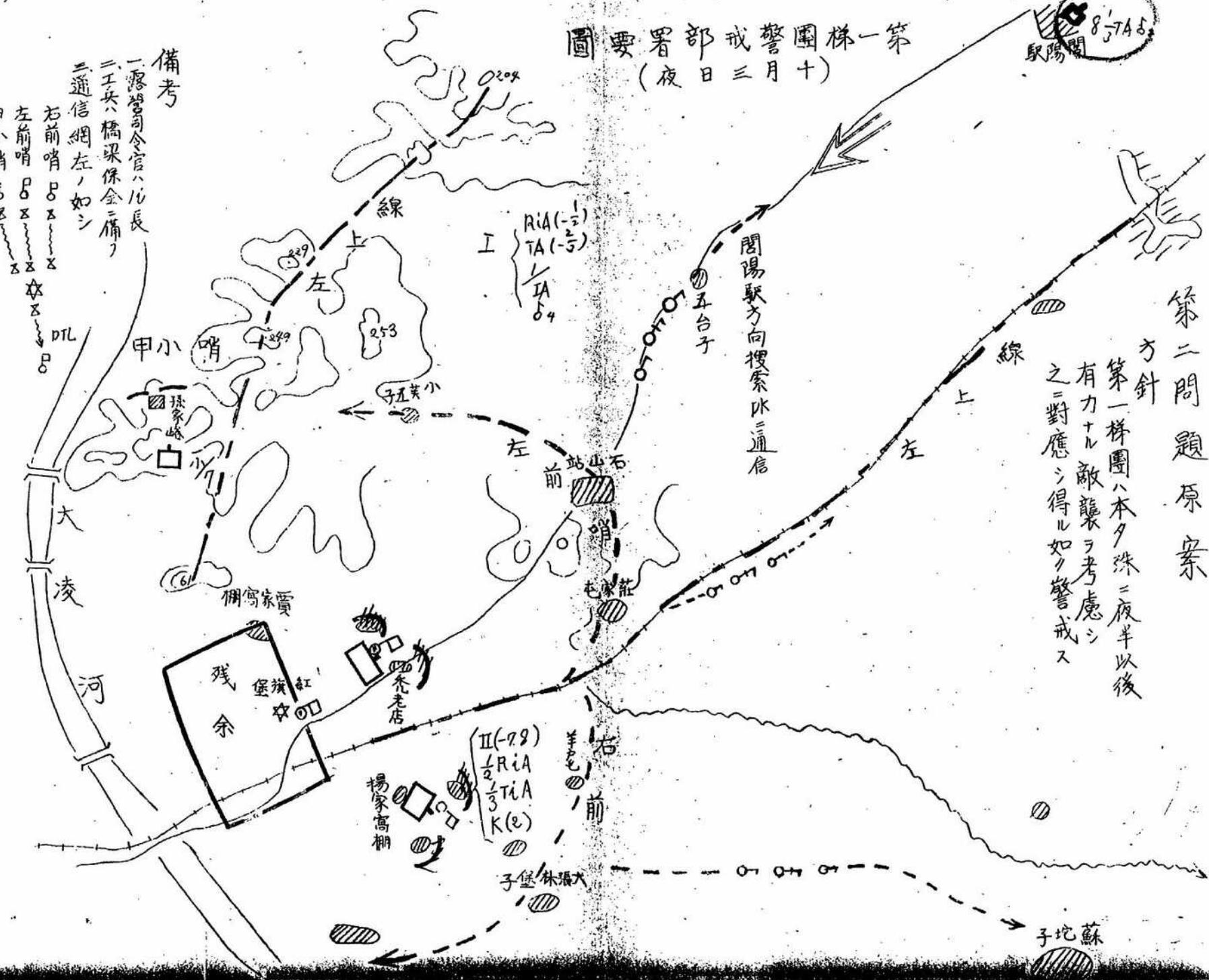






第一梯團警戒部署要圖  
(十月三日夜)

85745  
陽陽



第二問題原案

方針  
第一梯團八本夕珠ニ夜半以後  
有カナル敵襲ヲ考慮シ  
之ニ對應シ得ル如ク警戒ス

備考

- 一 露營司令官ハル長
- 二 工兵ハ橋梁係全ニ備フ
- 三 通信網左ノ如シ
- 四 前哨大隊ノミ天幕炭火及軒下利用ヲ許可ス
- 五 給養ハ行李糧秣ニ依ル但行李ハ糧秣交附後
- 六 中部舎營区ニ至リソノ区署ニ依リ宿營ス
- 七 大主力ノ宿營地ニ於ケル警戒ハ省略ス

裏面白紙

第二問題原案ノ説明

一、地形

錦州——石山站——鎮安道以西ニ於テ侵入セントスルモ大凌河渡河点  
制限セラレアル本狀況ニ於テハ概テ閣陽驛附近ヨリ以北ニ於テ  
ハ山險ヲ越エテ大凌河畔ニ進テ南下スルヲ要シ以南ニ於テハ比較的平地  
ヲ通過スルコトナル又錦州——石山站——鎮安道以東ニ於テハ大凌河  
ヲテ到ル処近接容易ナリ

二、前哨ノ編組(182/187)

本狀況ニ於テハ本夕以後敵機甲部隊ノ攻撃ヲ受クルノミナラス夜半  
以後有力部隊ノ攻撃ヲナキヲ保シ難シ故ニ警戒ヲ嚴ナラシムル為所要  
ノ前哨部隊ヲ配置スルヲ要シ正面廣大ナルヲ以テ原案ノ如クシ且敵情  
ト夜間ニ於テモ本道方面ニテハ砲兵ノ火力ヲ發揚シ得ル地形トヲ考ヘ若  
干ノ砲兵ヲ附ス

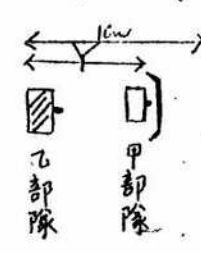
三、前哨ノ區分(186)

兵力ノ關係上ニ前哨區トナシ其ノ重負ヲ敵機甲部隊ノ近接容易ナ  
ルト明日ノ師団主力大凌河進出掩護ノ為、要矣石山站附近ニ保  
持シ大黃山堡附近ニハ正面過廣ナル關係上本隊ヨリ一部隊ヲ差遣ス  
抑、警戒地域ノ境界(184)ヲ明ニスルニ兩前哨ノ任務達成手段ナル

視搜索、抵抗ノ三要素ノ中、最モ尙題ヲ惹起シ易キ監視、抵抗ノ責  
任ヲ闡明ナラシムルニ外ナラス。而シテ前哨ハ適時奇襲ヲ予ハスル  
為必要ナル範圍ノ搜索ヲ行フ(189)モノナルヲ以テ搜索範圍ハ自ラ限度ヲ  
ルベシ。即チ原案ニ於テ鐵道線路ヲ境界トシ、概本岡陽駅南北ノ線  
以西ニ限定セル所以ナリ

四 前哨大隊位置  
前項ニ述ベタル事由ニ依リ前哨ヲ對シテ赴援ヲ要スル場合ナシセズ故ニ  
本道ニ近ク且道路網ノ便ナル地ニ位置ス

五 警戒  
警戒ノ候ガ自己ノ所屬セル部隊ノ前方幾何ノ距離ニ於テ敵ヲ  
発見セザレバ歸來報告ノ機ヲ失スルヤラ白紙的ニ考察セバ次ノ如シ



$$\frac{x-y}{a} = \frac{x+y}{b}$$

敵ノ時速  $Km/h$   
我ノ時速  $Km/h$   
甲部隊ヨリ出シ敵ト衝突シ  
乙部隊ニ歸來報告後甲部隊  
ニ歸還ス

第三狀況

一 第一梯團長ハ第二問題原案ノ如ク警戒部署ヲ立案スルヤ步兵第一聯隊  
長ニ要旨命令ヲ下達シ本隊ヲ率ヒ大凌河ニ向ヒ前進ヲ命ジ第一第二大隊長  
第七中隊小隊長及副官ヲ伴ヒ大凌河左岸ニ進出シ地形ノ一瞥シ前哨ノ  
為左記第一梯團命令ヲ下達ス

第一梯團命令  
十月三日十六時  
紅旗堡

- 一 敵情及騎兵隊ノ狀況(畧ス)
- 二 師團ハ本夜錦州東北方地區ニ宿營ス
- 三 第一梯團ハ現在地附近ニ宿營シ三トシテ新民方方向ニ對シ警戒セントス
- 四 第一梯團ハ二中隊ヲ欠キ聯隊砲一小隊速射砲一小隊通信班ノ一部傳騎ニヲ  
屬スハ右前哨トナリ姚家窩棚附近ニ位置シ趙家窩棚 大張林堡子ヲ經テ  
羊山屯 侯家屯ニ至ル間ヲ警戒スベシ
- 五 敵襲ニ方リテ姚家窩棚 張家窩棚ノ線ヲ確保スベシ
- 六 第一大隊(聯隊砲中隊(一小隊欠)速射砲中隊(一小隊欠)野砲兵第一中隊通  
信班ノ一部傳騎四ヲ屬ス)ハ左前哨トナリ先老店 附近ニ位置シ莊家屯  
ヲ石山站 双店子 大茨五心ニ至ル間ヲ警戒スベシ
- 七 敵襲ニ方リテハ。。。。。。。ノ線ヲ確保スベシ
- 八 第七中隊ノ一小隊ハ甲小哨トナリ大黄山堡附近ニ位置シ大凌河ニ沿テ

東側地區ヲ警戒スベシ

敵襲ニ方リテハ大黄山堡北側ヲ確保スベシ  
 大兩前哨大隊間ノ搜索警戒地域ノ境界ハ鉄道線路上ハ左ニ屬ス  
 左前哨ト甲小哨トノ搜索警戒地域ノ境界ハ右ニ屬ス  
 東北 204高地ニ連ル線路上ハ左ニ屬ス  
 七 第八中隊(細川ヨ属ス)ハ閘門附近ニ位置シ本道方向ヲ警戒スベシ  
 八 後列通信班ヲシテ 兩前哨大隊 甲小哨及旅團司令部間ニ電話通信  
 網ヲ架設セシム  
 九 予ハ紅旗堡ニ在リ  
 二十六時第一師團ハ大凌河ニ達ス

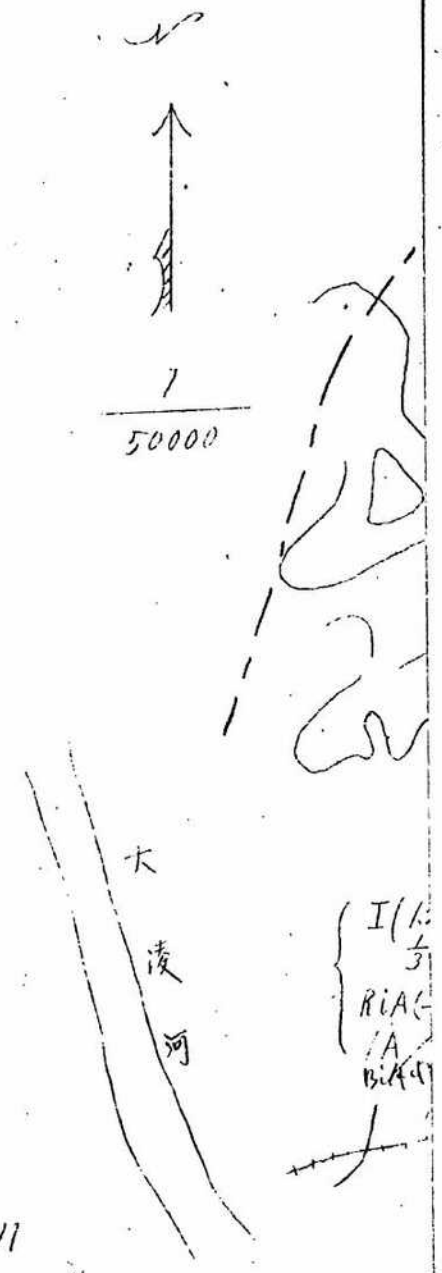
第三問題 (即題)

左前哨警戒 配備要圖

1. 前哨大隊ノ位置
  2. 前哨抵抗線
  3. 前哨中隊ノ位置
  4. 右ニ配置スベキ前哨中隊 配備ノ概要
- 用紙 藁紙  
 作業時間 三十分

第三問題原案

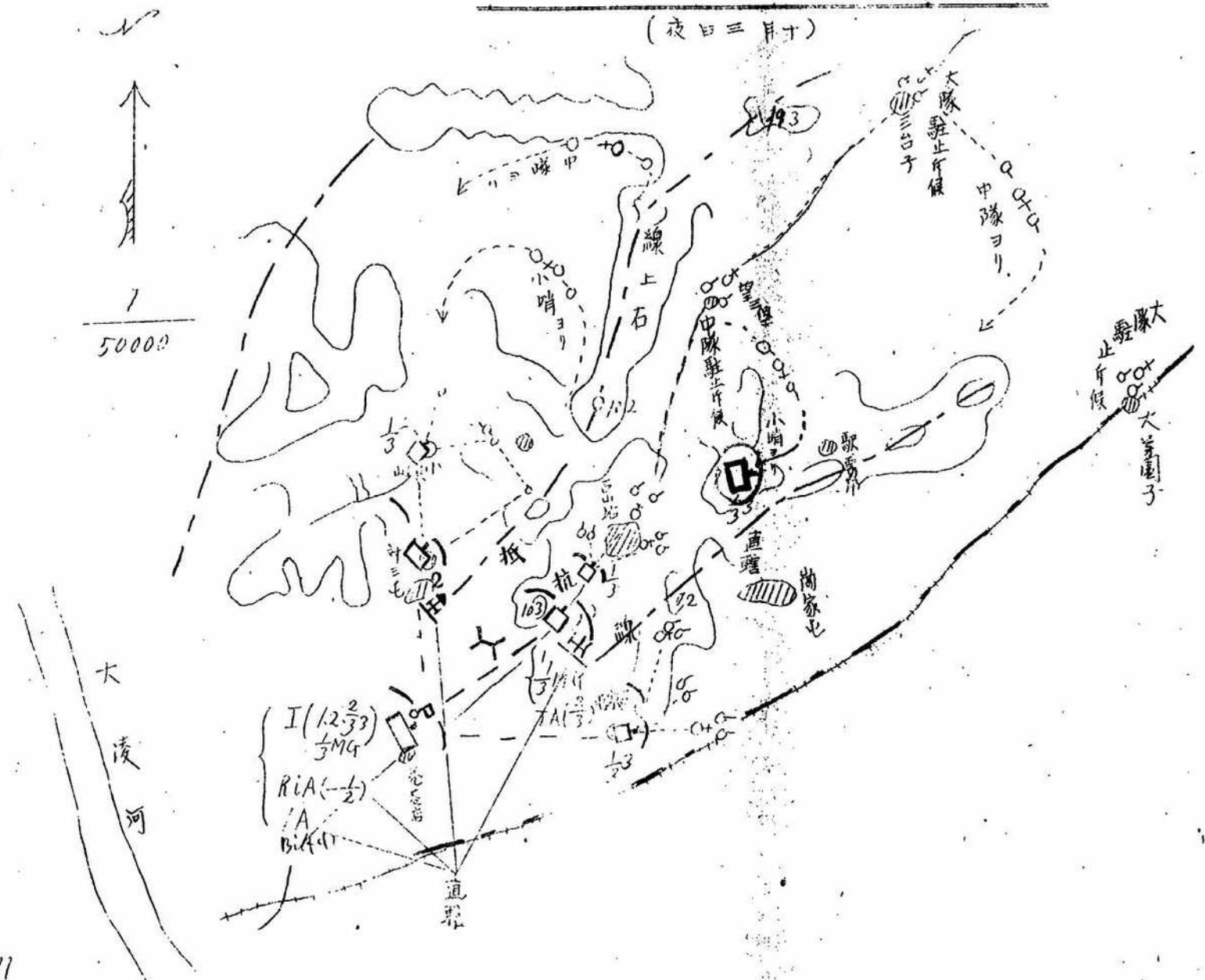
六針 機甲部隊ニ對スル搜索ヲ周密ナラシムルト共ニ前哨  
 抵抗線ヲ確保ス







左前哨並第四中隊警戒配備要圖  
(夜日三月十)



第三問題原案  
六針 機甲部隊ニ對スル搜索ヲ周密ナラシムルニ共ニ前哨  
抵抗線ヲ確保ス

左前哨警戒 配備要圖  
1. 前哨大隊ノ位置  
2. 前哨抵抗線  
3. 前哨中隊ノ位置  
4. 右ニ配置スベキ前哨中隊配備ノ概要  
用紙 藁 半紙  
作業時間 三十分

裏面白紙

第三問題 原案ノ説明

一 前哨大隊ノ位置 (200)

概畧旅團長ヨリ基準ヲ與ヘラレアルモ其ノ附近ニ於テ前哨中隊ノ増援ニ棟ナル如ク交通便利ナル要點ニ位置ス

二 前哨中隊ノ數 (206)

左前哨當面ニ對スル敵ノ襲撃方向ヲ考察スル時本道ニ沿フ石山附近ノ確保ハ最モ必要ナルヘキヲ以テ本道ニ沿ク一中隊ヲ配置シ全正面ノ廣サニヨリ原案ノ如ク部署ス

三 前哨抵抗線 (205)

本狀況ニ於ケル前哨抵抗線ハ師團主力ノ大凌河渡河ニ際シ前哨全部カ據リテ以テ師團主力ノ進出ヲ掩護セザルヘキナルニシテ地線ナラサルヘカラス即チ後方ニ相當ノ余地ヲ存シ且渡河點ニ對スル敵ノ砲臺ヲ阻止シ得レハ一層妙ナリ  
故ニ二級指揮官ハ當ルノ地線ニ閉シ前哨大隊長ニ命令スルニテ  
ノナルニ前哨大隊長東ニ地形ヲ綿密ニ偵察シ其ノ位置ヲ確定スルヲ要ス

四 前哨中隊ノ位置 (205)

前哨中隊カ主要ナル抵抗線ヲ成ルルハ喋々ノ要ナキモ某方面ニ於テ前哨中隊ノ位置ヲ綿密ニ偵察スルヲ要ス

ヲ生スルアリ是レ前哨大隊長ノ下達<sup>ハヤ</sup>命令中要スレハ前哨  
 哨抵抗線ヲ指示スルコトアルハ斯ル場合ヲ指示セシモノナリ<sup>(19)</sup>  
 本狀況ニ於テ第一中隊ハ石山站西南ノ要點ヲ第二中隊ハ<sup>(19)</sup>  
 屯站ソノ北方浸線ヲ確保スルコトニ依リ敵ノ進入ヲ防止シ得  
 ヘシ故ニソノ位置ニ中隊ヲ配置シ原則通り中隊ノ線ヲ以テ抵抗  
 線トナシ得タリ

五 搜索警戒

搜索ノ周密ナルハ警戒<sup>警戒</sup>シ主要條件ナリ<sup>(13)</sup>故ニ第一掃蕩長ハソ  
 ノ有スル騎兵ヲ以テ敵ト接觸ヲ保持シ前哨大隊長トシテ保持  
 ニ快運ナル敵ニ對シ其ノ突進ヲ速ニ察知スルノ手段ヲ講<sup>講</sup>  
 コト所要ナリ之カ爲成<sup>成</sup>シ得ル限リ遠ク歩兵將校自候ヲ派遣ス  
 ル等ノ処置ヲ必要トス

第四問題

中部舎管區ニ於ケル配宿並警戒配備要圖

答解事項

人舎管地區ノ配當  
 及警戒ニ関スル事項  
 用紙 小方眼紙 五万介一  
 呈出 一月九日 八時

第四問題

中部舎管區ニ於ケル配宿並警戒配備要圖

答解事項

一 舎管地區ノ配當

二 警戒ニ関スル事項

用紙 小方眼紙 一五万介一

呈出 一月九日 八時

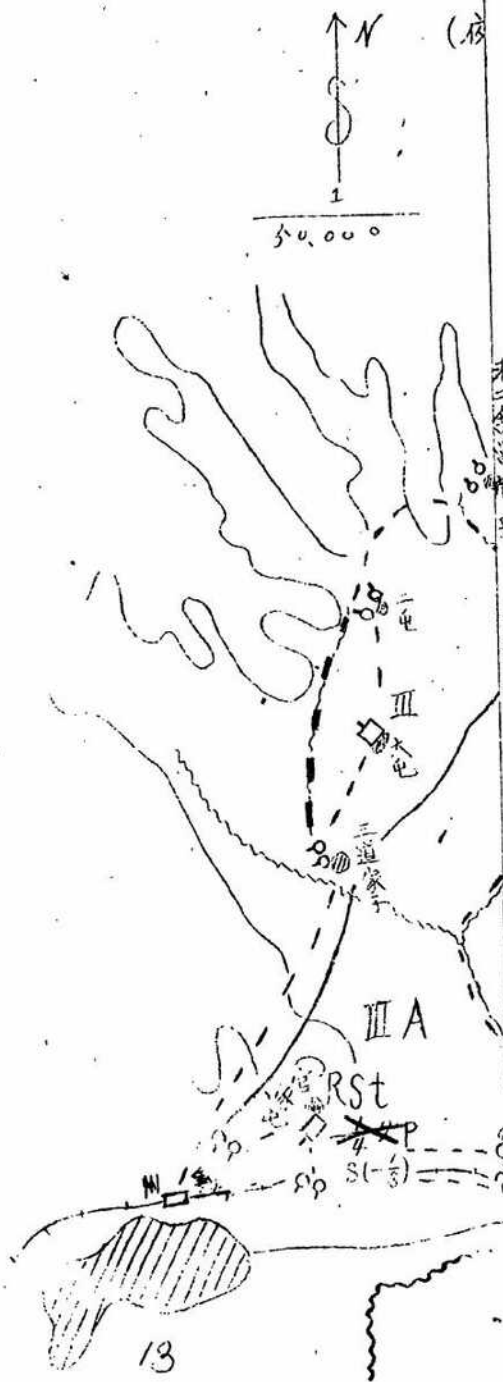
第四問題原案

方針

明日ノ出発ヲ円滑迅速ナラシムル如ク配慮スルト共ニ主トシテ上空  
土民ニ對シ警告ヲ遺漏ナカラシム

警戒要領  
一 巡察將校 若 兵各 大隊野砲才ニ大隊各三名野砲兵才三大隊ヨリ一名  
ヲシテ各部隊ノ舎營地区内ノ巡察ヲ命ズ

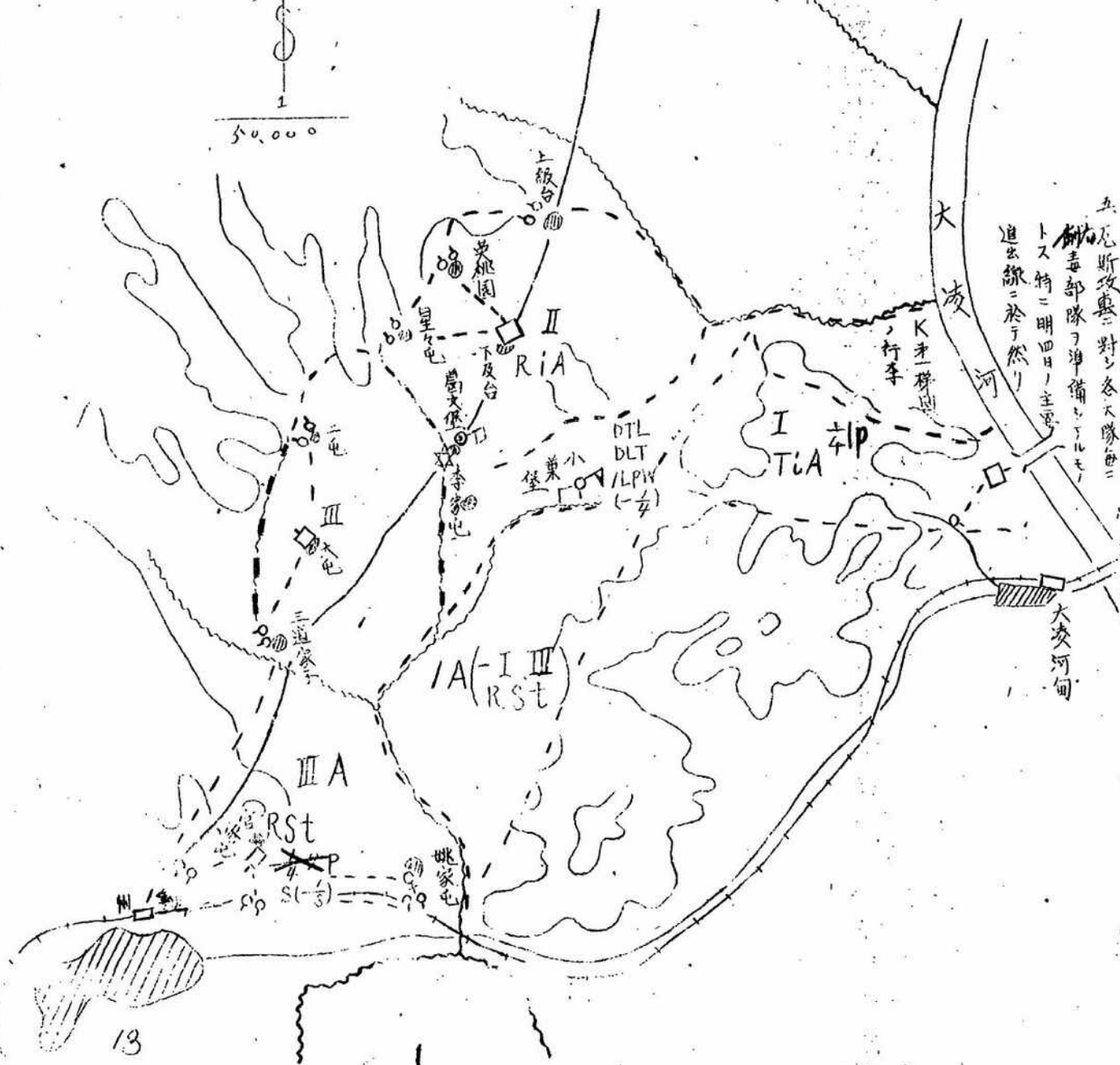
ニ 舎營衛兵 各担任区域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ舎營区内外ニ屢々巡察  
才一舎營衛兵 歩兵才一大隊ヨリ  
才二舎營衛兵 歩兵才一大隊ヨリ







中司令部營區配宿警要領圖(十月三日夜)



方針  
 第四問題原案  
 明四日出発ヲ内滑迅速ナラシムル如ク配慮スルト共ニ主トシテ上空  
 土民ニ對シ警戒ヲ遺漏ナカラシム

- 警戒要領
- 一 巡察將校 各大隊野砲才二大隊各二名野砲兵才三大隊ヨリ一名ヲシテ各部隊ノ營地内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 二 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 三 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 四 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 五 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 六 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 七 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 八 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 九 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十一 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十二 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十三 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十四 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十五 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十六 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十七 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十八 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 十九 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察
  - 二十 營衛兵 各担任區域内ノ警戒ニ任ゼシ 特ニ營區内外ニ厚々巡察

裏面白紙

第四問題原案ノ説明

一 舍營地区ノ区分

此四日ノ前進ニ方リ前衛ト決定セラレテ以テ成ル可ク集結シ行進交叉等ヲ惹起スルコトナク行軍縦隊ニ移リ得ル如ク配當ス

弱兵隊及第一梯団ノ行李ハ本日ノ所屬部隊ノ位置ニ分進シ其

用ヲ辨シタル後歸還スルノ距離ヲ考ヘ明日ノ諸隊ニ分進シ其

害ニサレ如クシテ而モ徒勞ヲ避ケテ配當ス

舍營地区ノ境界ハ地形ノ明瞭ナルモノヲ以テシ且舍營地全般

ニ亘リ概不住民地散布ノ景況同様ナルヲ以テ休養ノ準備ヲ期

二 舍營衛兵 (350)

本狀況ニ於ケル舍營衛兵ノ警戒上ノ主ナル對象ハ潛入シ來ル

間諜ト住民ノ行動ニシテ舍營地区廣袤ノ關係上一舍營衛兵ヲ以

テシテハ舍營区内ノ安寧秩序ノ維持困難ナリ依ツテ第一指揮

ハ便ナル如ク四ノ舍營衛兵ヲ設ケルヲ可トス

其兵力並配置ハ前哨及隣接舍營区トノ連絡ヲ顧慮シ舍營区ノ

出口外圍要點ニ哨兵ヲ配置シ屢々巡察及斥候ヲ派遣シ偵察ニ於

テ附屬部隊ノ偵知スルニ努ム

三 對空警戒

主トシテ日没時ノ低空爆撃等ニ對シ有效ニ舍營地ヲ防禦シ得ル如ク監視並ニ射撃部隊ヲ配置スルモ夜間ニ於テモ不設河ニ沿ヒテ飛来スル敵機ノ低空爆撃(橋梁ニ對シ)ヲモ考慮シテハ要ス(350)勿論之ニ對シ野戰高射砲隊ヲ準備シテモ橋梁ノ重要性ヨリ之ヲ爆破ヲ企圖スル敵機ハソノ飛来時機ノ如何ヲ問ハズ墜主義ヲ採ルヲ可トス

四 瓦斯空襲ニ對シテ

1. 各部隊ハ所要ノ瓦斯勤務員(所要ノ防護資材ヲ含む)ヲ彙集シ根柢セシム
2. 舍營區要スレバ舍營地區毎ニ制毒班(所要ノ消毒資材ヲ含む)ヲ編成交通便利ナル地區ニ投宿セシム
3. 舍營衛兵ニ瓦斯検知ノ爲所要ノ瓦斯勤務員ヲ加フ
4. 瓦斯警報規定ヲ設ケ瓦斯警報機ヲ舍營衛兵ニ與フ
5. 各家屋及清井毎ニ天幕及應用材料ヲ以テ集團防護ヲ實施ス
6. 各部隊ハ器材車輛等ヲ勉メテ掩蔽下ニ入ラシム然ラザルモハハ蔽セテ施ス
7. 各部隊長ハ宿營者ノ屋外行動ノ簡常ニ必ズ防毒面及覆ヲ携行スルコトニ關シ所要ノ規定ヲナス

五 敵ノ間諜等ニ對シテ

1. 用水ノ汚毒ニ關スル検査ヲナス
2. 宿營勤務員ヲシテ要スレバ哨兵ヲ配置シ井戸ノ警戒ヲナス
3. 河水ノ汚毒ニ對シ警戒ス



第四狀況

十月三日夜ニ於ケル第一師團主力ノ宿營ハ各級指揮官ノ適切  
ナル部署ト警戒各部隊ノ献身的努力トニ依リ十分ナル銳氣ヲ  
養ヒ得タリ

山平街 遼陽 遼河

想定

五十分分 奉天懷仁附近圖(三十分分下假想)  
 十分分分 八面城昌圖開原、鉄嶺附近圖(五十分分下假想)

一、大石橋(遼陽南方十五里)附近ニ集中中ノ敵ヲ撃滅スベキ任務ヲ有シ公主嶺(四平街北方大里)附近ニ集中中ナル北國第一軍(三師団ヲ基幹トス)ノ先遣兵団タル第一師団ハ奉天附近ヲ確保シ軍ノ作戰ヲ有利ナラシムベキ任務ヲ以テ南進シ一月十日夕四平街附近ニ遼シ別紙要圖ノ如ク宿營セリ

二、師団長ハ旧四平街ニ於テ同日二十一時迄ニ左ノ狀況ヲ知ル

イ、砲ヲ有スル歩兵三四大隊ノ敵ハ奉天——開原道ヲ北進シ本十日十四時頃以來南部開原南方高地ニ陣地占領中ニシテ飛行機偵察ノ結果ニヨレハ高台子西方一四〇高地、一〇〇高地、一五三高地ニハ工事ノ部隊ヲ認ム

ロ、一師団ヲ下ラザル敵ハ奉天——鉄嶺道ヲ北進シ本日十七時其先頭鉄嶺南方地区ニ達セリ

ハ、遼西地区前進シ師団ノ作戰ヲ容易ナラシムベキ任務ヲ有スル騎兵第一旅団ハ本日正午頃略、同等ノ敵騎ト西部昌圖西方地区ニ於テ遭遇シコレヲ壓迫シテ夜ニ入り昌圖——法庫道ニ遼河ノ線ニ達ス

一、我騎兵隊

IK(42) 9.1/3 Mg/3i 1/4 LPWS

83(小)

六鉄嶺方向ノ敵情ヲ搜索スベキ任務ヲ

以テ南進シ本日午後西部昌圖ヲ通過南進セリ

本軍飛行隊ハ公主嶺飛行場ニ在リ

三、第一師團ノ編組尤ノ如シ

長 中將 某

第一師團

獨立輕裝甲車第一中隊

戰車第一聯隊第一中隊

騎兵第一旅團

野戰重砲兵第一聯隊第一大隊(同聯隊段列半部屬)

獨立野戰重砲兵第一聯隊第一大隊(同聯隊段列半部屬)

第一師團第一第二野戰高射砲隊

第一獨立飛行隊

無線電信第一小隊

野戰瓦斯第一中隊(連)

備考 師團ハ甲車輛編成トシ砲兵聯隊ハ拂曉攻撃ノモノニ同ジ

### 東舎營区



### 備考

一、飛行隊ハ本日ヨリ公主嶺飛行場ヲ使用ス

二、騎兵隊(1K) 9.1/3 Mg/3i 1/4 LPWS 83(小)ハ開原方向ノ敵情

搜索中ナリ

三、砲兵聯隊段列及行李ハ當該部隊ニ共ニアリ

四、輜重ハ公主嶺南方ハ吉米△ヲ先頭トシ宿營ス

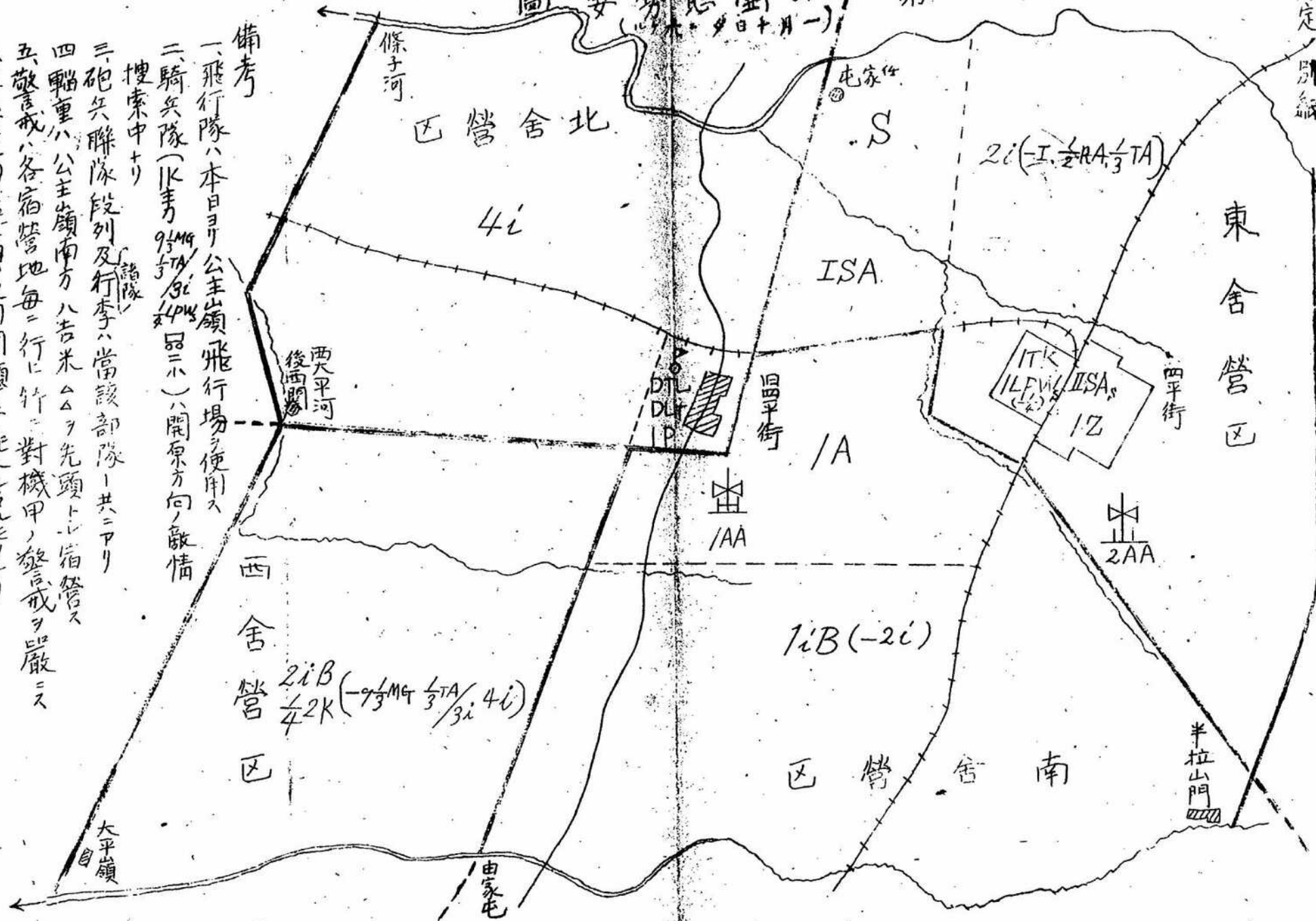
五、警戒ハ各宿營地毎ニ行ヒ竹ノ對機甲ノ警戒ヲ嚴ニス

六、舎營区内ハ配宿ハ次回問題上記入シタルモノナリ



第一師團態勢要圖 (一月十日)

- 備考
- 一、飛行隊ハ本日ヨリ公主嶺飛行場ニ使用ス
  - 二、騎兵隊(1K) 9<sup>MG</sup> 3<sup>TA</sup> 3<sup>TA</sup> 4<sup>PK</sup> 5<sup>シ</sup>ハ開原方向ノ敵情 搜索中ナリ
  - 三、砲兵聯隊段列及行李ハ當該部隊ニ共ニアリ
  - 四、輜重ハ公主嶺南方ハ吉米ハムヲ先頭トシ宿營ス
  - 五、警戒ハ各宿營地毎ニ行ヒ行ニ對機甲ノ警戒ヲ嚴ニス
  - 六、舍營区内ノ配宿ハ次回問題上ニ記入シタルモノナリ



野戰重砲兵第一聯隊第一大隊(同聯隊段列半部屬)  
 獨立野戰重砲兵第一聯隊第一大隊(同聯隊段列半部屬)  
 第一師團第一第二野戰高射砲隊  
 第一獨立飛行隊  
 無線電信第一小隊  
 野戰瓦斯第一中隊(連)  
 備考 師團ハ甲軍車輛編成トシ砲兵聯隊ハ拂曉攻撃ノモノニ同シ

裏面白紙



四、地形其ノ他尤ノ如シ  
 一、五十分一分一箇上道路並ニ十分一分一箇上片点線路ハ山地ヲ通ス  
 ル部ヲ除キ野戰諸車輛ノ通過ヲ許ス  
 口、圖上ニ点在スル地隙ハ徒歩兵ノ通過ニ支障ナシ  
 八、南滿洲鐵道ハ作戰ニ使用シ得ズ  
 二、遼河ハ結氷シ諸折渡河点アリ但シ桑墩子(通江口南方四吉米)附近ヨ  
 リ清河トノ合流點迄ハ兩岸ノ斷崖峻峻ニシテ橋梁無ク他諸兵ノ  
 通過困難ナリ其ノ他ノ諸川ハ諸兵ノ通過ニ支障ナシ  
 本、昌圖附近一月ニ於ケル氣象等ノ概要尤ノ如シ(假想)  
 日出 五時四十分  
 日没 十六時三十分  
 風位 北風最モ多ク西北風之ニ次ケ  
 氣温 最高 一〇度 最低 零下二十度

第一問題(宿題)

一月十日二十一時ニ於ケル第一師團長ノ決心(要圖答解)  
 答解事項 決心理由處置ノ大要(前進目標出發時刻各縱隊ノ進路)

一月十日八時提出

第一問題原案

一月十日二十一時ニ於ケル第一師団長ノ決心

決心

師団ハ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ明十日一時出發ニ縱隊トナリ開原城  
(北部開原ヲ杯ス以下同シ)北方高地線ニ向ヒ前進セントス

理由

一、師団が奉天附近ニ進出シテ軍將來ノ作戰ヲ有利ナラシムル為ニ  
ハ進ンデ先ヅ當面ノ敵ヲ撃滅スルヲ要ス而シテコノ積極的任務遂行  
ニ當リ既得ノ敵情ヨリ判断シテ爲シ得ベキ行動ハ攻財ニ  
様ニ判断セラルルモ我方策遂行ニ影響大ナルハ敵ガ攻勢急走ヲ以テ  
我ニ向ヒ前進シ來ル場合ナルヲ以テ師団ハ先ヅコレニ乘ジ撃滅スルヲ主眼ト  
シ前進ヲ部署スルヲ要ス  
ニコレカ爲ニハ敵主力ノ開原南方ノ隘路進出ニ乘スルヲ得ル最モ有利  
ナリト雖モ敵ノ一部既ニ該地附近ヲ占領シアルト有力ナル敵兵團ノ先  
頭既ニ其ノ後方近クニ到着シアルヤト現狀ニ於テハ過望ナリト謂ハサルベ  
カラス然レ共此ノ場合ニ於テモ師団ガ有利ニ戰鬪センガ爲ニハ速カニ開  
原城北方高地ニ進出シ敵ニ力ヲシラ之ニ確乎タル之脚地ヲ得シノザルコト

攻勢ヲ得ズキ機會ハ未ダ以テ望ナシトセズ  
 又敵ニシテ退嬰閑原南方地区ニ守勢ニ立ツ場合ニ於テモコレガ陣地攻撃  
 ノ為該高地縁端ハ一ノ要線タリ茲ヲ以テ師団ハ敵ノ攻防何レニ出ヅルモ  
 之ニ論ナク自主的ニ我カ欲スル此ノ要線ニ向ヒ前進スルヲ要ス  
 三 師団ノ前進ハ敵トノ遭遇ヲ予期スルヲ以テ豫想戰場附近ニ於テ態  
 勢ノ優越ヲ期スル為ニハ道路網ノ關係ヲ顧慮シ三縦隊トナリテ前  
 進シ主力ヲ行進並ニ機動ノ容易ナル旧四平街—西部島圖—閑  
 原道ニ保持シテ兵力運用ノ自由ヲ保持シ尚リノ東方山地ニ連ナル  
 波狀地ト西方閑放正面ノ高地トノ重要性ニ鑑ミ各一縦隊ヲ指向シ  
 以テ隨所ニ敵ヲ攻撃シ得ルノ態勢ヲ以テ目標ニ向ヒ前進ヲ部署ス  
 ルヲ要ス  
 師団ハ敵トノ遭遇ニ當リテハコレヲ以テ閑原北方高地ニ確乎タル立脚地  
 ヲ得シメザルヲ希望スルヲ以テ成ルベク速カニ出發スルヲ要ス  
 尚敵ガ閑原南方附近ニ防勢ニ立ケタル場合ニ於テモ明日中ニ敵陣地  
 ニ接觸シ搜索ト攻撃準備トノ為餘光ヲ有スルト否トハ爾後ノ攻塵  
 開始ニ影響スル所大ナリ故ニ可能ノ範圍ニ於テ成ル可ク速カニ  
 出發スルヲ要ス

日露戦役二大會戰ニ基ク命令傳達所要時間統計表

會戰名		戰區		平均距離		軍命令ノ二		軍命令ノ六		師團命令		軍命令ノ三		軍命令ノ四		摘要	
部	隊	分	隊	間	間	達スル平均時間		領ヨリ師團		司令發達		司令發達		司令發達		摘要	
						電通	否電通	平均時間	平均時間	平均時間	平均時間	電通	否電通				
二	A		GD			三、四〇		三、二〇									

以テ陣中ニ敵ヲ攻撃シ得ルノ能ハキニテ自標ニ付テハ  
 師ハ敵トノ遭遇ニ當リテハコレヲシテ開原北方高地ニ確平タル立脚地  
 フシメザルヲ希望スルヲ以テ成ルベク速カニ出發スルヲ要ス  
 尚敵ガ開原南方附近ニ防勢ニ立ケタル場合ニ於テモ明白ニ敵陣地  
 接觸シ搜索ト攻撃準備トノ為餘光ヲ有スルト否トハ爾後ノ攻襲  
 開始ニ影響スル所大ナリ故ニ可能ノ範圍ニ於テ成ル可ク速カニ  
 出發スルヲ要ス

日露戦役二大會戰ニ基ク命令傳達所要時間統計表

戰會名	遼			陽			奉			天			總平均
	1A	2A	4A	1A	2A	4A	1A	2A	3A	4A	5A		
部 隊	12D 2D GD	6D 4D 3D	10D 5D	12D 2D GD	12D 2D GD	10D 5D	8D 5D 4D 3D	9D 9D 1D	9D 9D 1D	10D 10D 10D	江軍 鴨綠	平均	
平均距離		七〇	一一〇		五七		五七	七四	九七			七、七	
軍命令ノ平均時間	六四〇		一一二〇	(三三〇)		一一二〇		二、五〇	二、五〇	二、五〇		二、一〇	
軍命令ノ平均時間		三、〇〇	三、三〇		一、二〇	一、二〇	二、四〇	二、三〇	二、二〇	二、二〇		二、五〇	
師団長ノ平均時間	三、四〇	二、四〇	三、一〇	三、一〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇		二、五〇	
歩兵隊ノ平均時間	三、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇		二、五〇	
軍命令ノ平均時間	九、〇〇		五、五〇	(九、一〇)	五、三〇		五、三〇	八、五〇	六、二〇	六、二〇		六、五五	
軍命令ノ平均時間		六、二〇	六、〇〇		六、三〇		六、三〇	八、四〇	九、二〇	九、二〇		七、四〇	
摘要				(一)ハ追撃中 他ハ度々入山附近 攻撃中									

電氣的通信ハ主トシテ  
 本統計ハ翌日ニ關スル軍命令及之ニ基ク各兵団命令ニヨレリ



第一問題 原案ノ説明

一 敵情判断ト我方針遂行(令一七八)

改正要務令案ニ於テハ全軍等ツテ積極的ニ行動スルガ如ク我特色  
ヲ一般強化スルノ最も有利ナルヲ認メ状況判断ニ於テハ積極的ニ任務  
ヲ達成スベキ方針等ヲ定ムベキヲ要ホシ又敵情判断ニ於テハ  
積極的方針遂行ニ資スベキ見地ヨリ自主的ニ之ヲ行フベキ意ヲ明  
ニシ第六ノ決心ハ常ニ鞏固ナル意志ヲ以テ之ヲ遂行セザルベカ  
ラザル意ト相俟ツテ第三篇以下ノ記述ヲ此ノ趣旨ヲ以テ一貫セシ  
メタリ(改正理由)  
本状況ニ於テ敵ノ企圖ヲ攻防何レカニ断定スルハ適當ナラズ敵トシ  
テ為シ得ベキ行動ヲ攻究推定シ得ルニ過ギズ只々確實ナルハ師団  
ガ任務達成ノ為當面ノ敵ノ撃滅ヲ必要トシ且ツコレヲ最良ノ手段  
トスルノ事實ナリ  
而シテ撃滅ノ最良手段ハ攻勢ニヨルヲ可トシ且ツコレヲ企圖シ得  
ル状態ニ在リ  
即チ我方針ハ積極的ニ攻襲ニ前進シ敵ヲ撃滅スルニ在リコレ  
重大ナル影響ヲ及ボスベキ敵ノ行動(即チ如何ナル方針ヲ以テ我  
方針ヲ妨害シ得ルカ)ヲ推定スルニ兵力其他ヨリ攻防兩様ノ方法アリ

就中ソノ攻勢ニ出ソル場合ヲ一層我方策ノ遂行ニ影響大ナリトス  
 故ニコノ場合ヲ攻究推定セバ我方策遂行ニ大ナル過誤ナキヲ得ハシ  
 即チ敵ニシテ守勢ニ立ケタル場合ハ攻集ノ為時機方向方法等ヲ選  
 グ為ノ時間ノ余裕アルヲ以テナリ  
 是レ敵ト遭遇ヲ予期シ前進ヲ部署セシ所以ナリ  
 更ニ敵ガ攻勢ニ出ツルニ際シ敵ノ為シ得ヘキ行動(例ハ前進部署等)  
 ノ細部ハ種々ニ判断考察セラルモ要スルニ飽ク迄判断ニ過ギザル  
 ヲ以テ我軍ノ状態地形氣象等各種資料ヨリ較量シ我任務ヲ基礎  
 トシ自主積極的ニ定ムベキモノナリ  
 之レヲ要スルニ敵ハ斯ク為スナラソ 故ニ我ガ任務上斯クスルヲ至当トス  
 從來ノ推論ハ結果ニ於テ同一ナルコトアルモ立案ガ消極追隨ニ墮ス  
 ルコトナリ 故ニ我レハ斯ク為スヲ要ス コノ方策遂行ヲ妨ケベキ敵  
 行動ハ之レトシテ之レヲナリテソノ對策ヲ考フルヲ自主的ナリトス

二、前進目標(今テ五九)

前進目標ハ彼我一般ノ狀況特ニ予想スル戰場附近ノ地形道路網關係  
 ヲ判断シテ定ムル如ク示サレタリ 即チ予定スル戰場タル鐵嶺——四  
 平街(敵情明瞭ナラバ一層限定セラルベシ)ニ於テ我レカ進ソテ敵ヲ東  
 ツ為ニハ敵ノ行動不自由ナル間原南方ノ進出及遼河渡河ニ策ズルハ策  
 ノ得タルモノナルモコレハ過五ナリ

然ラバ次ニ敵ニ策シ得ベキ地形ハ間原城地方高地線ニ敵ガ(ツクモ  
 ソノ主力ガ)確乎タル立脚地ヲ占メ得ザル如ク攻集スルニ在リ而シテ  
 彼我一般ノ態勢上我積極果敢ノ行動ニヨリテハコレガ實現ノ望ミナキ  
 ニアラザルヲ以テ先ヅコレニ希望ヲ放棄キリノ達成ニ努力スベキナリ  
 還言セバ此高地線ハ予想スル戰場附近ニ於ケル所謂要線ナリ  
 即チコノ附近ニ敵ト遭遇戦ヲ交フルノ機ヲ作爲セバ敵ヲ高キヨリ  
 低キニ攻撃シ得ベキ有利ノ地形ナリ又敵ガ防禦スルトセバ採用  
 スベキ公算最モ多キ間原城南方附近ノ陣地ニ對スル攻撃ニ於テ  
 コレガ準備ニモ有利ナル足場ナリ  
 是レ前進目標ヲ此所ニ選定セシ所以ニシテ他ノ前進部署モコレ  
 ヲ基礎トシ自主積極的ニ定メラレザルベカラズ 徒ラ一距離的ニ彼  
 我中間附近ニ選定セントスルカ如キハ無意味ナリ

三、縦隊區分(今ニ五九)

戦斗指導ノ根本ハ敵ヲ間原城北方高地線ニ立脚セシメザル如ク  
 攻撃セントスルニアリト雖モコハ我ガ希望ニシテ確定シ得ルモノニアラス  
 特ニ敵主力ノ宿營地不明確ニシテ本夕以後ノ行動亦不明ナルニ  
 於テ特ニ然リ故ニ師團ハ隨所ニ態勢ノ優越ヲ期シ得ル如ク前進  
 ヲ部署セザルベカラズ 之ガ為ニハ原則ハ兵力運用ニ便ナル如ク通常  
 諸兵連合ノ數縦隊ニ二分前進スベキヲ示スト共ニ其ノ進路及前進目

標ノ指示ニヨリ予想スル戰場附近ニ於テ自ラ包圍ハ能ク成ル  
 師団行軍長徑ハ長大ナルニ想倒セバ首肯シ得ラルベシ 遭遇戦ヲ予期  
 スルニ於テハ特ニ然リ 本狀況ニ於テハ兵力ノ運用ノ便ト行進容易トヲ顧慮シテ主力ヲ  
 四平街―開原迄ニ保持シタリ 尚一部縦隊ヲ右縦隊中右縦隊ヲ大トセシハ主力ノ道路東北  
 ヨリ西存ニ伺フヲ以テ南方ニ對スル展開(即ケル方ニ對スル展開)比較  
 的容易ナルニ比シ西方ニ對シテハ展開ニ時間ヲ要スルト左縦隊方面  
 ノ東方ハ機動ノ余地少キ山地ナルヲ以テナリ  
 四平街時刻(今午三時)  
 敵ト遭遇點ヲ前進目標附近ニ選定スルヲ得バ有利ナルハ前進ノ如  
 クニシテ正ニ我が希望スル所ナリ 之レガ為メ師団ハ可能ノ範圍ニ  
 於テ成ルベク速カニ出發スルヲ要ス 即ケル敵ニシテ進ンテ攻勢ニ出ヅル場合ニ於テハ開原城北方高地ニ  
 據テ占ムルコトニ努メ方スルハ有利ナル機會ヲ逸スルニ至ル  
 故ニ敵ニ時間ヲ與フルニ從ヒ我ニ有利ナル場合ニ於テモ明日中ニ敵陣地  
 尚敵陣南方附近ニ防勢ニ立チタル場合ニ於テモ後ノ攻襲開始時日  
 ニ接觸シ搜索ノ為メ余光ヲ有セシムルト否トハ爾後ノ攻襲開始時日

ニ影響スル所大ナリ 可能ノ範圍トハ兵力ノ休養命令傳達後実行迄ノ準備時間等ノ謂ナリ  
 二十二時ニ師団命令ヲ下達シ廣大ノ地域ニ休ムセル軍隊ヲ假令  
 要旨ヲ傳エタリトスルモ三時間以内ニ出發セシメントスルハ容易ニアラズ  
 (命令傳達所要時間統計表別紙ノ如シ) 又主力ノ集合出發並ニ前進ヲ優勢ナル敵機ノ搜索並ニ攻撃ニ對  
 シ防衛シ且ツ長ク秘匿スル為ニモ日出前ニ多クノ距離ヲ經過セ  
 シムルヲ有利トス

第一狀況

師団長ハ前記決心ニ基ヅキ十日二十二時師団命令ヲ下達ス

第二問題(宿題)

一月十一日第一師団前進部署(要図答解)

師団命令トシテ規定スベキ事項  
但シ軍隊ニ分ハ要図外ノ別紙ニ記載要図ノ右方ニ添附スベシ



第二問題 原安未

一師作命第 號

軍隊區分

騎兵旅團

騎兵隊

騎兵第一聯隊(二小隊欠)

步兵第三聯隊第九中隊同機関銃速射砲各一小隊

獨立輕裝甲一小隊

兵站自動車二小隊

配屬

右縱隊

長 步兵第二旅團長 少將某

步兵第二旅團(步兵第三聯隊第九中隊同機関銃速射砲各一小隊並步兵第四聯隊欠)

獨立輕裝甲一小隊

騎兵一分隊

野砲兵第二大隊(第四中隊欠)聯隊銃列三分ノ一

工兵第二中隊ノ一小隊

衛生隊三分ノ一

中央縱隊前衛

司令官 步兵才一旅團長 少將某  
 步兵第一旅團(步兵才二聯隊欠)  
 獨立輕裝甲第一中隊(二小隊半欠)  
 戰車才一聯隊第一中隊  
 騎兵一小隊(二分隊欠)  
 野砲兵第一大隊  
 工兵第一聯隊(第一中隊一小隊及第二中隊一小隊欠)  
 野戰瓦斯一小隊  
 衛生隊三分一

中央縱隊本隊(同梯團區分)

師團通信隊 } 前衛ノ後尾ニ續行  
 無線電信第一小隊 }  
 師團司令部  
 第一梯團  
 長 步兵才四聯隊長 某步兵大佐  
 步兵第一聯隊(第一、第二大隊聯隊段列欠)  
 野砲兵第一聯隊(第一、第二大隊聯隊段列欠)  
 野戰重砲兵第一聯隊第一大隊

工兵第一中隊ノ一小隊

第二梯團

長 步兵第一聯隊長 某步兵大佐  
 步兵第二聯隊(第一、第二大隊聯隊段列欠)  
 野砲兵第一聯隊段列(三分一欠)  
 野戰重砲兵第一聯隊段列半部  
 衛生隊(三分一欠)

獨立梯團

長 獨立野戰重砲兵第一聯隊第三大隊長 某砲兵少佐  
 步兵第一聯隊第一中隊同機關銃一小隊  
 獨立野戰重砲兵第一聯隊第一大隊同聯隊段列半部  
 野戰瓦斯第一中隊(一小隊欠)  
 左縱隊  
 步兵第一聯隊第一大隊同聯隊砲速射砲各一小隊  
 獨立輕裝甲車(三)  
 騎兵一小隊  
 野砲兵第四中隊  
 工兵第一中隊ノ一小隊

師團直轄部隊  
第一獨立飛行隊  
第一師團第一、第二野戰高射砲隊

師團輜重  
輜重兵第一聯隊  
第一乃至第四野戰病院

### 第一師團命令

一月十日二十時  
於四平街師團司令部

- 一、約一師團ノ敵ハ奉天——開原道ヲ北進シ本十日夕ソノ先頭鉄嶺ニ達ス
- 二、砲ヲ有スル三四大隊ノ敵ハ本日午後以來開原南方高地ニ工事ナリ
- 三、騎兵第一旅團ハ西部昌圖附近ニ於テ略々同等ノ敵騎ヲ撃破シ夜ニハリ西部昌圖——法庫門道上遼河ノ線ニ達ス
- 四、騎兵隊ハ本日午後西部昌圖ヲ通過南進セリ
- 五、師團ハ本夜半宿營地出發鉄嶺方向ヨリ前進中ノ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ開原城北方高地線ニ向ヒ前進セトス
- 六、騎兵第一旅團ハ速カニ當面ノ敵ヲ撃破シ遼西地区ニ進出シ師團ノ作戰ヲ容易ナラシムベシ特ニ一部ヲ以テ奉天方向ノ敵情ヲ搜索スベシ
- 七、騎兵隊ハ開原方向ニ進出シ同地南方高地並ニ清河下流方向ノ敵情ヲ搜索スベシ
- 八、右縱隊ハ其先頭ヲ以テ十一日一時小八家子(鴨綠島樹北方三五吉米)北方水流ノ線ヲ出發小八家子——大新左——四方台(西部昌圖北方四五吉米)——朝陽堡(西部昌圖西方二五吉米)——黑台子(西部昌圖

西南四吉米) — 胡頭溝(馬千總台西南三吉米)道ヲ胡頭溝ニ向ヒ前進ス

六、中央縱隊前衛ハ其先頭ヲ以テ十一日一時宿營地南端水流ノ線出發旧四平街 — 西都昌圖 — 開原城道ヲ開原城西北方高地ニ向ヒ前進ス

七、中央縱隊本隊ハ七ノ如ク集合シ前衛ノ後方千二百米ニ在リ行進ス

但シ獨立梯團ハ十一日四時宿營地出發四平街 — 郭家屯(四平街南方五吉米) — 三道林子 — 西六家溝 — 九間房 — 永安堡 — 汗勾 — 永安堡 — 馬千總台道ヲ馬千總台ニ向ヒ前進ス

師團通信隊 第一梯團長ノ區處ヲ以テ十一日一時三十分迄ニ無線電信小隊 西雙樹子東方本道十字路北側畑地 師團司令部

第一梯團 第一梯團長ノ區處ヲ以テ二時三十分迄ニ四平街北側畑地

八、河縱隊、其先頭ヲ以テ十一日一時前明水沱ヲ出發南滿洲鐵道沿フ道路ヲ東都昌圖ニ至リ不後泉眼溝ヲ經テ開原城北側高地ニ向ヒ前進ス

九、各縱隊ノ搜索地境ハ如シ線上ハ中央縱隊ニ屬ス

右縱隊 由家屯 — 王家店 — 靠山屯(西都昌圖北方三吉米) — 八家子(西都昌圖西南一五吉米) — 四道溝 — 北大房身(開原城西方四吉米) — 台子勾(開原西南三吉米)

中央縱隊 前衛 北小泉眼 — 腰家屯(鴛鴦路樹東方二吉米) — 後房身溝 — 四方台(東都昌圖西方二吉米) — 大營盤 — 開原城西端 — 大孫家台

十、第一獨立飛行隊ハ明十日早朝ヨリ飛行ヲ開始シ主力ヲ以テ鉄嶺方向ニ部ヲ以テ遼西方向ノ敵情ヲ搜索ス

十一、野戰高射砲隊ハ獨立梯團ノ前後ヲ躍進シ主トシテ該梯團並ニ本隊砲兵上空ノ防空ニ任ス

十二、行李ハ諸隊通過後其宿營地ヲ出テ六時迄ニ七ノ如ク集合シ師團行李長ノ指揮ヲ以テ先進輜重ノ後方ニ十米ヲ續行ス

特ニ四平街 — 昌圖道ヲ開放ス

南舍營區部隊 劉家店 西本道南側畑地(本道ヲ開放)

西舍營區部隊 西雙樹子東方本道十字路北側畑地



北營部隊 四四平街北側畑地上  
 東營部隊 出發ヲ準備待機  
 獨立隊部 出發ヲ準備待機  
 三、輜重ハ一時△△(公吉領南方八吉米)出発公吉領——四四平街——  
 西部昌圖道ヲ興隆泉(西部昌圖北方八吉米)ニ向ヒ前進スベシ  
 但シ歩兵彈藥一小隊砲兵彈藥二小队野戰病院二箇ハ先進輜重  
 トシテ中央縱隊ノ後方ニ十米ヲ前進セシムベシ  
 十四、予ハ一時四四平街南方ニ吉米本道十字路ニ在リ  
 爾後本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス  
 情報所ヲ十一日一時以後西部昌圖ニ開設ス

師團長 中將某

下達法

先ツ所要部隊ニ對シ要旨ヲ電話ヲ以テ傳達シ  
 後命令受領者ニ印刷交付ス  
 配布區分ハ別紙ノ如シ(別紙ハ省略)

第三問題 原案ノ説明

一、師團長行軍ヲ部署スルニ當リ規定スベキ事項ハ(令一ノ二六九)ニ示  
 サレアリソノ中前進目標縱隊ノ進路出發時刻ハ前問題ニテ詳  
 濟ナリ

二、軍隊區分  
 (一) 前部隊ハ前方部隊ヨリ後方部隊ニ及ブ如クシ又各線ニ於  
 テハ右ヨリ左ノ順序ニ記スルヲ可トス  
 飛行隊ハ最前方ニ勤務スルヲ以テ最初ニ記スルヲ通常トスルモ  
 師團配屬ノ(巴)ハ「飛行隊」トシテ軍隊區分ニ頁トスルニハ余リニ少ナル  
 矢力ナルタメAAト共ニ師團直轄部隊トシタリ

三、前衛ノ兵力編組  
 夜行軍ナルモ間モナク天明トナリ且ツ敵ト遭遇ヲ預期スルヲ以  
 テ天明後ニ於ケル狀況ヲ考慮シ其兵力編組ヲ定メタリ  
 故ニ結果ニ於テ晝間行軍ノモト差ナシ(令一ノ五七)  
 總隊全歩兵ノ三分ノ一以內ノ規定ニ從ヒ旅團長ノ指揮スル歩兵  
 一聯隊ヲ基幹トシ之レニ必要ノ騎兵野砲工兵ヲ以テ編組シ搜索  
 連絡ノ為輕裝甲車ノ主力ヲ又敵ト遭遇ヲ預期スルヲ以テ進路  
 上ノ抵抗打破要矣奪取等必要アルベキヲ顧慮シ戰車中隊ヲ又

敵ノ慣用戦法ヲ考慮シ消滅部隊ノ一部ヲ又衛生隊ノ三分ノ一  
 ヲ以テ編組セリ(令一五六)  
 四、前衛ト本隊トノ距離ハ(令一五六)ニヨル外夜間ノ行軍ナルヲ以テ  
 不時ノ事変ニ應ゼシムルト連絡トヲ考慮シ千二百米トセリ  
 五、梯団区分(令一五六)  
 有力ナル敵飛行機機甲部隊特ニ戦車等ニ関スル顧慮多キヲ以テ  
 中央縦隊本隊ハ二箇ノ梯団ニ区分シ千五百米ノ距離ヲ設ケテ  
 戦備ヲ嚴ナラシメタリ而シテ梯団区分ハ爾後ノ軍隊使中ノ顧  
 慮セリ梯団間ノ距離ハ通常ニ吉米トスルモ夜間ノ行軍ヲ以テ  
 千五百米トセリ  
 梯団長ハ明示スルヲ要ス  
 第一梯団長ニ師団長カ自ラ任ゼザルハ遺憾戰ヲ予期シアル  
 ヲ以テ師団長ハ常ニオ一梯団ト共ニアルモノニアラザルヲ以テナリ  
 梯団内ノ行軍序列カ師団長ノ企圖スル使用ノ順序ニナラザルノ  
 虞ナキニアラザルモ梯団ノ長径カ五六吉米ヲ越エザルヲ以テ梯団長  
 ニ委シ大ナル考慮ヲ要セザルモノトス  
 梯団内ノ行軍部若ハ梯団長ノ責任ナルヲ以テ細部ヲ示サ  
 ズ

六、重連編成部隊(令一五六)  
 相当多数ノ自動車編成部隊ニシテ且ツ主力縦隊ニ近ク適當ナ  
 ル併進路アルヲ以テ別路ヲ取ラシメタリ又コレガ警戒ハ主力  
 縦隊ニヨリ自然ニ掩護セラレルヲ以テ歩兵一中隊ト機銃  
 一中隊ヲ属シタリ  
 七、搜索及情報所  
 遭遇戦ニ於テハ我が予期ヲ以テ敵ノ不期ニ乗ズルヲ先制獲得  
 ノ第一要件トスルヲ以テ(令一五六)師団騎兵飛行機ニ任務ヲ與  
 フル外前衛及各縦隊ニ搜索スル地域ヲ示シ情報接手ノ為  
 情報所ヲ設ケタリ(令一五六)  
 騎兵旅団ハ戦斗兵種ナルヲ以テ師団ノ戦斗ヲ有利ナラシムル  
 ヲ主任務トシ一部ヲ以テスル遠西ノ搜索任務ヲ附與セリ  
 八、高射砲ノ有効射界ハ水平方面ニ六七吉米ナルヲ以テ二門ニテ十吉  
 米以上ヲ制空シ得ルヲ以テ獨立梯団ノ前後ヲ主力縦隊ト併進  
 シツク掩護シ得ルカ如キモ現用ノモノハ行進中射撃不能ナルト又  
 駐止スルニ於テハ急ノ向ニ合ハザルヲ以テ躍進セシムルヲ要ス  
 然レテ躍進距離度数ハ數理的ニハ被掩護部隊ノ行進ヲ状態ト  
 水平有効射界ヲ考慮セカ可ナルカ如キモ實際ニハ煩雜ニシテ機  
 二枚ナルコト困難ナルヲ以テ必要ノ時機主要ナル部隊ヲ掩護

シ得ルヲ主トシ躍進セシムルヲ可トス  
 本狀況ニ於テハ本隊後尾ノ集合出發天明ニ及ブテ先ツコ  
 ノ時機ト主力縦隊ヲ天明時敵機ニ掩護スルヲ顧慮シ興隆泉南  
 方地ニ附近ハ是非必要ノ時機ナルベシ

九、集合出發(今、二六九、二八八、二八九)  
 師団ノ集合地集合時刻出發時刻等ノ關係ヲ細述セバ尤ノ如シ  
 之等ハ幕僚事務方ニ屬シ徒勞ヲ齎シテ出發シ得ルモトス  
 右縦隊 一時小八家子西北方千二百米小流渡河處出發  
 中央縦隊 前衛 一時劉家店西南本道橋梁ヲ出發  
 同 茅一梯團

(前衛出發位置) 茅一梯團  
 (集合地) 巨南  
 (前二本隊向) 巨南  
 (前衛長徑) 巨南

$$\frac{6400 + 1200 - 4000}{86} = 42(\text{分})$$

(徒歩矢一分向ノ速度)  
 $1^k_{80} + 0^k_{42} = 1^k_{42}$

故ニ茅一梯團ノ先頭ハ一時四十二分集合地ヲ出發スルヲ要ス  
 之カ爲一時三十分迄ニ集合ヲ完了シアルヲ要ス(予備十二分)  
 但シDTLハ集合後直チニ前衛ノ後尾ニ向ヒ前進セシム

同 茅二梯團

(前衛出發位置) 茅二梯團  
 (集合地) 巨南  
 (前二本隊向) 巨南  
 (前衛長徑) 巨南

$$\frac{6300 + 1500 - 2800}{186} = 60$$

$1^k_{42} + 1^k_{00} = 2^k_{42}$

故ニ茅二梯團ノ先頭ハ一時四十二分集合地ヲ出發スルヲ要ス  
 二時三十分迄ニ集合ヲ完了シアルヲ要ス

同 獨立梯團

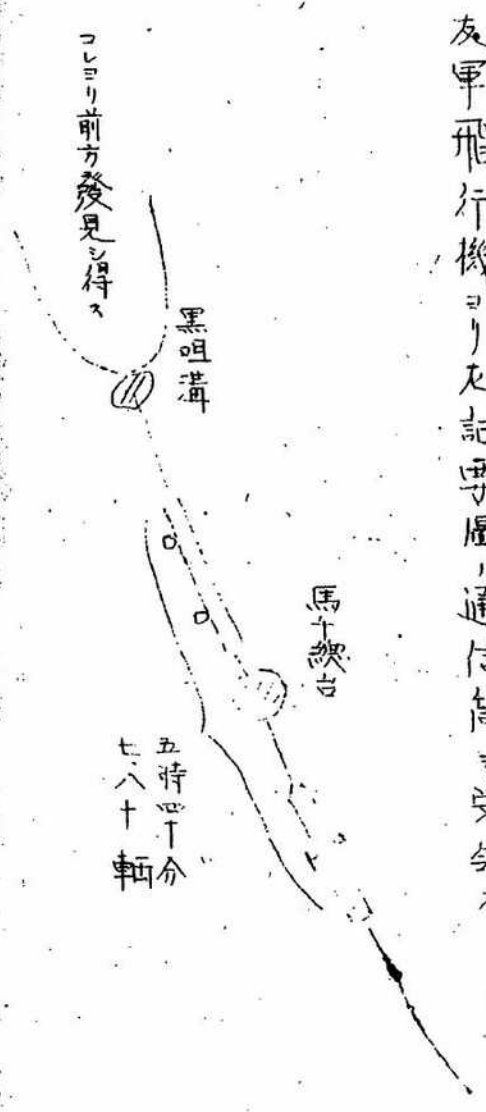
日出時(五時四十分)迄ニ本隊ト整頭面ヲ併進シ得ルヲ目途トシ  
 ソノ夜向行軍速度ヲ一時向概本十二吉米トセバ四時ニ出發シテ  
 五時ニ鷲鷲樹東方ニ達シ五時三十分ニ興隆泉東方ニ達シ得  
 左縦隊 一時前眠水泡出發

師団長ハ行軍ヲ部署スルニ當リ右ノ六單位中集合地集合時刻  
 シ示スハ中央縦隊本隊タル三單位ノミトシ他ハ各當該指揮官  
 ニ之レヲ委シ單ニ出發時刻地ヲ示スニ止ム

集合ノ為ニハ到ル處ニ集合場ヲ求メ得ラレルヲ以テ部隊ヲ徒  
 勞セシメザル爲數地集合ヲ可トスト雖モ集合場ヲ過度ニ多カ  
 ラシムルハ繁雜ニシテ錯誤多キヲ以テ本隊ノ爲行軍路ニ沿ヒ  
 徒勞ナキ位置ニ箇ヲ設ケタリ  
 但シ  
 別路ヲ取ラシムル獨立梯團ノ爲ニハソノ宿營地ガ井然タル縱横ノ  
 道路アル一區劃ヲナシアルヲ以テ宿營地自体ヲ集合場ト見做  
 シ別ニ設ケズ  
 行李ハ本隊諸隊ノ行動ヲ妨害セザル爲ソノ行動開始ヲ諸隊ノ  
 宿營地出發後トシ集合時刻ヲ諸隊ノ本道通過ニ支障ナカラシ  
 ムルト行李自体ノ輜重後方ニ十米ニ續行スルコトトニ支障ナキ  
 コトヲ顧慮シ六時トセリ  
 輜重ハ長徑ニ應シ宿營シアルヲ以テ先頭ノ出發位置時刻ヲ示  
 セバ可ナリ

狀況第二

一師團ハ予定、如ク十一日一時其先頭ヲ以テ劉家店南側水流ノ線ヲ出發シ  
 一時間三吉米ノ速度ヲ以テ前進セリ  
 此日天晴レ風無ク寒ム氣稍強シ  
 中隊縱隊前衛、先頭鞍落堡ニ達スル頃天明トナリ我飛行機上空  
 南方ニ飛翔スルヲ見ル  
 前衛司令官ハ前衛本隊、先頭ニ在リテ六時三十三里堡ヲ前進中突如  
 友軍飛行機ヨリ足記守圍ノ通信筒ヲ受領ス

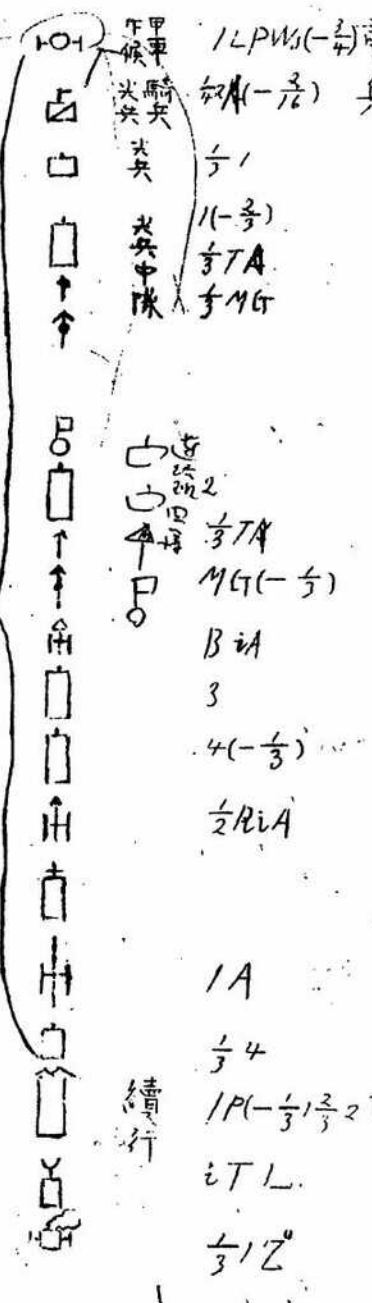




二前衛司令官ハ平ノ時後ニ於ケル對空對機甲部署ヲ實施シテ  
 以テ敢テ意ニ介スルコトナク右通報ヲ前兵長並ニ部下部隊ニ傳ヘ對機  
 甲戰鬥ヲ準備ミツシ前進ヲ繼續ス

第三問題  
 中央縱隊前衛行軍部署(要圖答解)  
 對空對機甲對瓦斯部署ヲ附記シ行軍部署ハ前兵長以下細  
 部部署ニ及ホスベシ  
 方眼紙横書  
 十二日八時提出

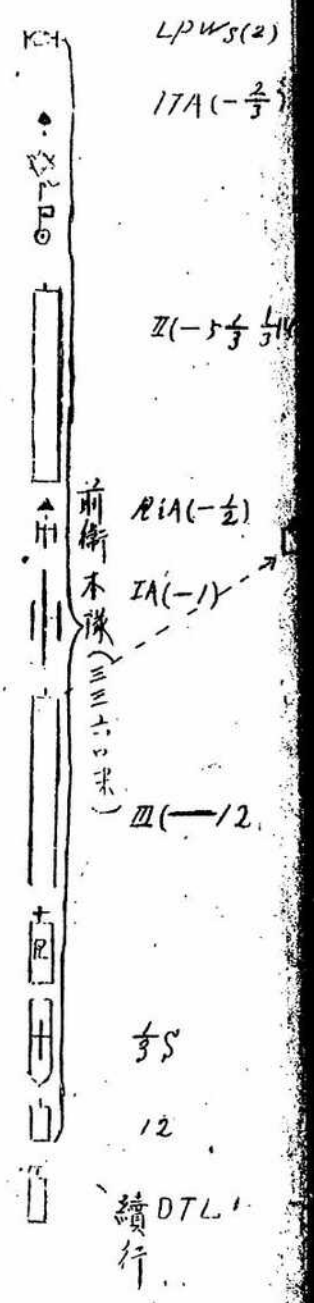
中央縱隊前衛行軍部署  
 第三問題 京菜



一前兵本隊

(右縱隊ト接去地境ニ沿ヒ前進)

100  
 200  
 400  
 前兵(一九七〇米)  
 198  
 400  
 218  
 300  
 1000  
 1198



三對空部署  
 1. 前衛本隊ノ對空部署ハ長ヲシテ担任セシム  
 2. 戰中中隊進路上、整式機銃ヲ一中隊、左側衛ヲ出シ必要ニ應ジ戰車中隊ノ為對空射撃ニ注セシム  
 3. 12ヨリ對空班(長下士官一兵九喇以手)ヲ出サシム(令一三一八未取)

全長經六三三〇米  
 左側衛  
 17K (獨立梯團、進路ヲ前進)

四對機甲部署

1. 左側衛ヲ出ス  
 2. 前衛本隊ニ於ケル對機甲部署ヲ長ヲシテ統一セシム(令一、二四三)  
 3. 長ハ右縱隊ト中間地區ニ一中隊ヲ出シ携帶地雷ヲ増加配當ス  
 4. 12ハ步兵IA長ニ命シ各一中隊ヲ以テ右方及左方後方ニ對スル對機甲射撃ヲ準備セシム(令一、二四五)

五對瓦斯部署

1. 12ノ瓦斯掛特校ヲシテ前衛全般ノ對瓦斯勤務ヲ指導セシム  
 2. 12ノ前衛ト前衛本隊ト中間ヲシテ、隔妻車ヲ前衛本隊、後尾ヲ前衛セシム  
 3. 車輛ハ出發時防水布被覆材料ヲ以テ之ヲ回復ス  
 4. 防毒脂油ハ出發時當リ各人ニ分配塗油セシム



第三問題 索索ノ説明

一 前衛ノ区分

ス(令一ノ五九)ニ依リ定メタリ

ス騎兵ノ兵力ハ僅々ニ分隊ニ隊ニ過キカルヲ以テ前兵ニ屬シ騎兵共兵トセリ

(令一ノ六〇)一六三

3 戦車中隊ハ恰適ノ別路アルヲ以テコレヲ前進セシメタリ(令一ノ六五)

4 工兵ノ主力ハ行進路ノ修理砲兵ノ進入路ノ開設等ノ意味ヲ以テ成ルベク

前方ニ位置セシムルヲ有利トスヌレ此等ノ作業ニハ相當ノ時間ヲ要ス

ルヲ以テ機ニ後レサ ラシカ為ナリ故ニ前兵ニ續行セシメタリ

5 輕裝甲車ハ短時間ニ搜索ヲ強行スルニ適スルヲ以テ進路上ノ搜索ニ任セシ

メタリ(令一ノ二五)

6 消毒隊

瓦斯隊ハ前兵自ラコレヲ使用スル機會ヨリ前衛トシテ又後方主力部隊ノ

為ニ使用スルコト多カルベキヲ以テ前衛司令官ノ直轄トシ速カニ使用シ得ル為

成ルベク前方ニ即ケ前兵ノ後方ヲ躍進セシメタリ(令一ノ七セ)

二 側衛

前進行ニシテ左右ニ部隊縱隊併進シアリトモモソノ間隔大ニシテ優勢ナル

機甲部隊ニ對スル顧慮甚カラサルヲ以テ前衛本隊ヨリ一中隊ノ左側衛

ヲ出シタリ是レ左縱隊トノ間隔大ナルト戰車獨立梯團等前進シタルヲ

（今一七〇）

三、對空對機甲對瓦斯等ノ部署ノ主ナル担任者ハ歩砲兵大隊長戰車騎  
兵工兵騎隊長以下ニシテ上級指揮官トシテ部署スベキ件ハ寧ろ僅少ニシテ  
コレ等ニ攻撃ノ機ヲ與ヘサルト發見ラ速カニスベキ件トシテ要示セラレアリ（今一七〇、一七  
一、一七二、一七三、一七四）

狀況第三

一、中央縱隊前兵長タル第一大隊長ハ六時過キ長青堡東北端附  
近ヲ前進中騎兵尖兵ヨリ左記報告ヲ受領ス  
イ、敵ノ豆戰車ラシキモノ一、台、大四家子ニ現ハル  
ロ、東ニ十家子北側高地ニハ敵兵ニ三十アリテ増加中ナリ  
突如大四家子方向ニ激烈ナル銃声起ル

問  
前兵長ノ處置

二、前兵長ハ長青堡北側高地ニ上リテ前方ヲ望見シ左ノ狀況ヲ知ル  
イ、尖兵ハ大四家子ニ進入中ニシテ尖兵中隊又本道西側ヲ疎闊  
急行中

ロ、東ニ十家子北側高地ニハ所ヲ有スル五、六十ノ敵兵アリ  
又昌圖北端附近ニハ徒歩兵左右ニ移動中ナリ

三、偶々前衛司令官ヨリ前狀況ノ敵機甲部隊ニ関スル通報ニ接ス  
ルト共ニ輕裝甲車ノ報告ニヨリ該隊ハ五時四十分頃豆戰車數  
台及七八台ノ裝車歩兵ト昌圖南側ニテ遭遇シ大平莊方向ニ後  
退セルヲ知ル



前兵長ノ決心又ハ處置  
四、前兵長ハ尖兵中隊ヲシテ当面ノ敵ヲ攻撃セシメ主力ハ對機甲  
戦斗ヲ準備シツツ依然前進スルニ決ス

第四問題(宿題)

前兵大隊前進部署

對空對機甲對瓦斯部署ヲ附記スベシ

方眼紙 横書 100-150

十四日八時提出

第四問題原案

前六前進部署

針

一部ヲ以テ東三十家子北側高地ヲ奪取セシメ主力ハ對機甲戦斗  
ヲ準備シツツ本營東側地ニ前進ス

雷各四十ヲ分配シアリ

3、4、RA = 左右両方面ニ對スル射撃ヲ準備シツツ前進セシム

4、1/Aヲシテ長青堡北側附近ニ於テ尖兵中隊協力セシムト共ニ對機甲射撃ヲ準備  
セシム

5、對空班及對空班外特ニ見ニ右方3ニ左方4ニ後方ノ對空監視ヲ命ズ

6、對空全力射撃ヲ準備スル外各中隊ノ小隊ヲ對空射撃部隊ニ指定ス

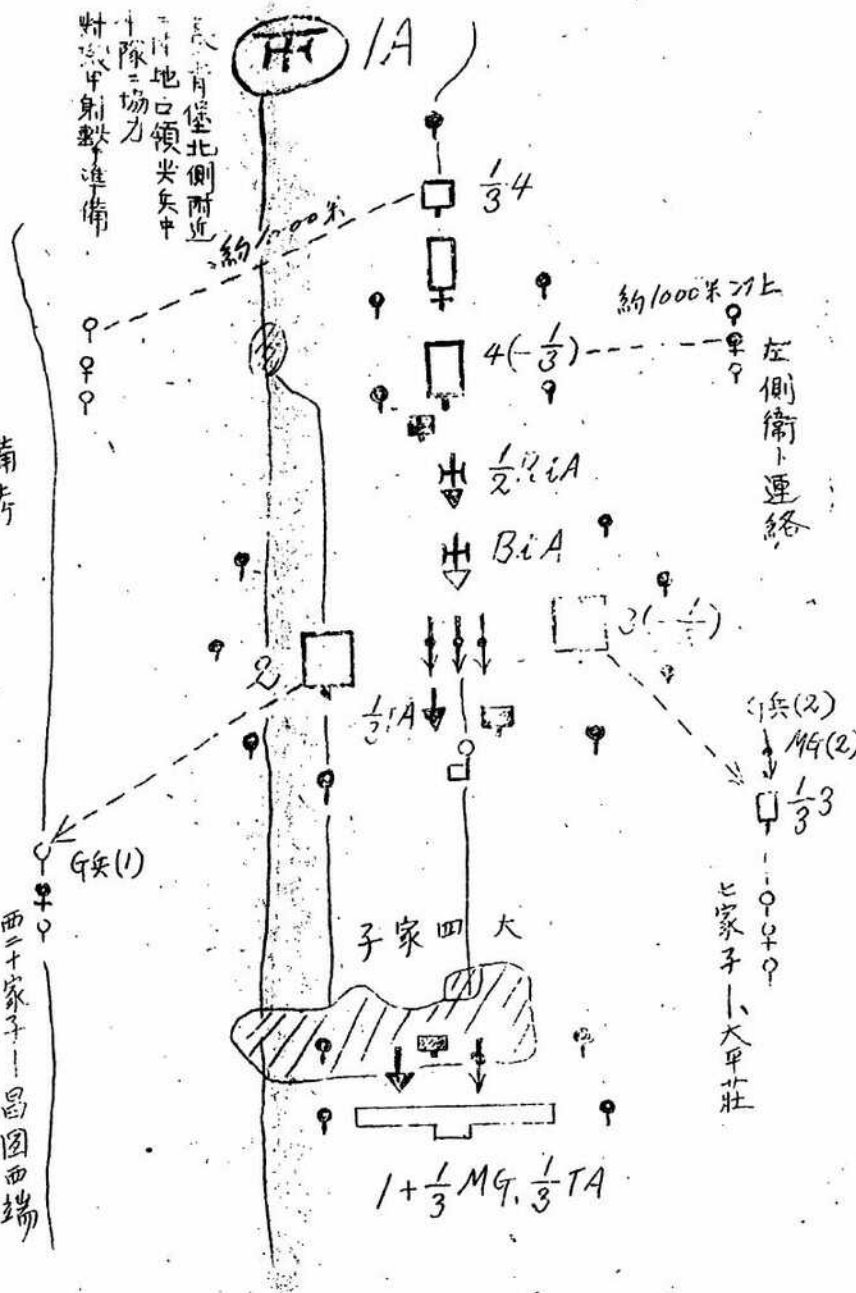
7、各中隊ノ瓦斯兵ヨリ瓦斯中隊ニ組長班一組ヲ準備ス

後方及右側ノ瓦斯中隊ニ命ズ

對空對機甲對瓦斯部署ヲ附記スベシ  
 方眼紙 横書  
 十四日八時提出

第四問題原案  
 前六前進部署

一、針  
 一部ヲ以テ東二十家子北側高地ヲ奪取セシメ主力ハ對機甲部  
 準備シツツ本道東側地ニ前進ス



對機甲對空對瓦斯部署細部

1. 各中隊ニ命シテ要圖ノ如クハ隊ヲ派遣シレバ機甲部隊ノ発見ニ任セシム
2. 各中隊ニ肉迫攻撃ヲ準備セシメ、各一班ヲ直轄トス(中隊ニハ子ヲ携行セシム)
3. 雷各四十ヲ分配シテ
4. AA RA = 左右両方面ニ對スル射撃ヲ準備シツツ前進セシム
5. AA RA = 長青堡北側附近ニ於テ先兵中隊協同セシムト共ニ對機甲射撃ヲ準備セシム
6. 對空班及テ對空班ニ任シテ外特ニ是ニ右方3ニ左方4ニ後方ノ對空監視ヲ命ズ
7. 對空全力射撃ヲ準備スル外各中隊ノ小隊ヲ對空射撃部隊ニ指定ス
8. 各中隊ノ瓦斯兵ヨリ瓦斯ノ使用ニ組消毒班一組ヲ準備ス

裏面白紙

四、對戰車部隊ノ部署

TA R A A 等ノ對戰車射撃ハ千五百米以内ヲ最モ有効トスルカ故ニ多クハ敵ノ現出マデハ射撃ヲ準備シツツ部隊ト共ニ行進セシムルヲ可トス但シ A ハ携行弾數射程共ニ大ナルト一面射撃ヲ準備他ノ二者ニ比シ遲キヲ以テ予メ駐止セシメテ射撃ヲ準備スルヲ有利トスルコト多カルベシ

五、對空對瓦斯

敵ハ機甲部隊ノ攻撃ニ関連シテ空襲ノ實施ヲ企圖スル多キヲ以テ對空ノ處置ヲ又空襲ニハ瓦斯雨下等ヲ伴フト我攻撃ヲ拘束スル爲メ撤毒ヲ顧慮シ同時ニ對瓦斯ノ處置ヲ必要トス

第四問題原案ノ説明

本問題ハ敵機甲部隊ノ攻撃ヲ顧慮セル場合ニ於ケル前兵大隊前進部署  
一例ヲ示セルモノナリ(令一、二四三、二四四)

一、搜索

機甲部隊ニ對スル戰鬥ニ於テハ敵ハ正面ニ我レヲ拘束シ機動  
力アル部隊及戰車ヲ以テ側背ヲ攻撃シ來ルモノトス  
故ニ側背ヲ構スルニ於テハ敵ノ企圖ヲ挫折

側面縱隊ノ儘ニテハ前記側背ニ向ツテスル敵ノ攻撃ニ對シ弱矣ヲ  
多ク暴露シ對抗困難ナリ故ニ掌握ノ便ト自衛力少キ部隊  
ノ掩護ヲ顧慮シ原案ホ如クセリ

三、肉迫攻撃

肉迫攻撃ニ班ハ一班ハ五組、一組ハ二名ニシテ各人携帶地雷ニ發  
煙筒ニヲ携行シ各中隊ニ二箇班(地雷四十箇、大隊ニハ二百箇)ヲ  
編成シ得



第四問題 原案ノ説明

本問題ハ敵機甲部隊ノ攻撃ヲ顧慮セル場合ニ於ケル前兵大隊前進部署  
 一例ヲ示セルモノナリ(令一ノ四三、四四)

一、搜索

機甲部隊ニ對スル戰鬥ニ於テハ敵ハ正面ニ我レヲ拘束シ機動  
 カアル部隊及戰車ヲ以テ側背ヲ攻撃シ來ルモノトス  
 故ニ之等ヲ速ニ發見シ對策ヲ構ズルニ於テハ敵ノ企圖ヲ挫折  
 シ得ルモノトス  
 故ニ敵ヲ速カニ發見スルコトヲ強調セラレタリ  
 機甲部隊警戒ノ為ニ乍候(部隊)ヲ派遣スルニハ地形敵裝甲車ノ  
 速度及警戒傳達ノ手段並其速度等ニ依リ異ナリト雖對裝甲火  
 器カ對戰準備ヲ整ヘ一ロロ米ノ距離ヨリ有効ニ射撃ヲ實施シ  
 得ルヲ目途トシ之ニ適應スル距離ニ敵ヲ發見シ得ル如ク其ノ  
 位置ヲ定ムルヲ要ス  
 出 A B C 千米以内ニシテモ  
 三ノ五ノ距離ヲマツルニトシテ

敵ヲ發見スベキ距離ハ

有効射撃ヲ開始シ得ル距離

對裝甲火器準備時間

目標發見ヨリ傳達完了ニ至ル時間

戰車一分間ノ速度

$$300 \times (V_1 + V_2) + 1000$$

而シテ肉眼ヲ以テ戰車ヲ發見シ得ルハ千五百米内外ナルヲ以テ五分トスルモ  
 乍候等ハ火器ノ位置ヨリ一ロロ米ヲ敵方ニ離隔シアルヲ要ス  
 而シテ乍候若クハ小部隊ヲ派遣シ敵情ヲ搜索セシムルニハ此等ノ  
 乍候ニハ輕無線煙火信号等ヲ携行準備セシメ機ヲ失セシメザルヲ要ス

二、隊形

側面縱隊ノ儘ニテハ前記側背ニ向ツテスル敵ノ攻撃ニ對シ弱矣ヲ  
 多ク暴露シ對抗困難ナリ故ニ掌握ノ便ト自衛力少キ部隊  
 ノ掩護ヲ顧慮シ原案ノ如クセリ

三、肉迫攻撃

肉迫攻撃班ハ一班ハ五組一組ハ二名ニシテ各人携帶地雷ニ發  
 煙筒ニシテ携行シ各中隊ニ二箇班(地雷四十箇 大隊ニハ二百箇)ヲ  
 編成シ得

狀況第四

縦隊前衛司令官ハ敵機ヲ討隊ニ関スル飛行機ノ通報ヲ接スルヤ  
馬ヲ馳セテ三十里堡高地ニ到リ自ラ視察シテ九ノ狀況ヲ知ル  
ハ尖兵中隊ハ東ニテ家子ノ敵ニ對シ攻撃中ニシテ前兵主カハ大四家子  
北側ヲ又左側衛中隊ハ大四家子北側水流ノ線ヲ前進中ナリ  
2、昌圖北端附近ニ敵兵續々現出シ陣地占領中ナルカ如シ  
コノ時俄然敵砲兵昌圖南方地區ト思ハルル方向ヨリ長青堡ニ向ヒ射  
撃ヲ開始ス

第五問題(即應三十分間)

中央縦隊前衛司令官ノ情況判断處置ヲ要圖答解

判決  
 前衛直子豊高ノ敵ヲ撃

指字守字領

二前兵ヲ本道東側沿道進

軍圖東方ノ敵ヲ撃之隊主

ノヲ以テ東方地ニ敵倒

ヲ攻撃シテ三軍壘ヲ新カ

ニ進出セシム

二砲兵不敗ヲテ三軍壘附近

陣地ニ占領シ岸隊ヲ攻

撃ニ協カセシムルナリ

對戰事財糧ヲ準備セ

シム

三戰事不敗ニテ敵砲兵

ヲ攻撃シ道路遮断

セシメテ南方原山附近

ニ集結セシム

三之新隊ヲ消去準備

シテ機勢ヲシム

二前衛不隊ノ殘奇ノ長

番煙一七家子道ニ

進出前進セシム

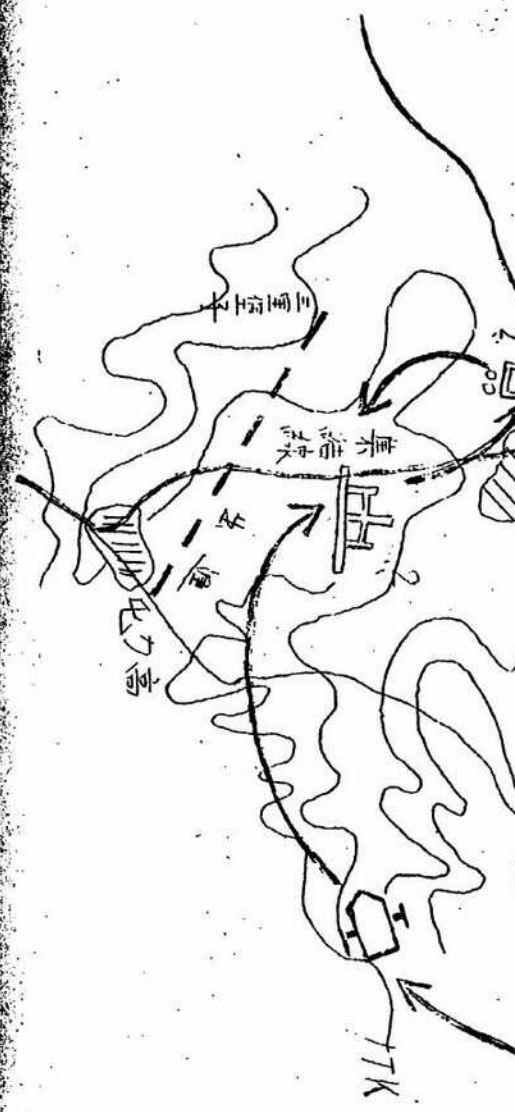
三工兵隊隊ノ砲兵陣

地進ノヲ援助後砲兵

隊ヲ準備シ

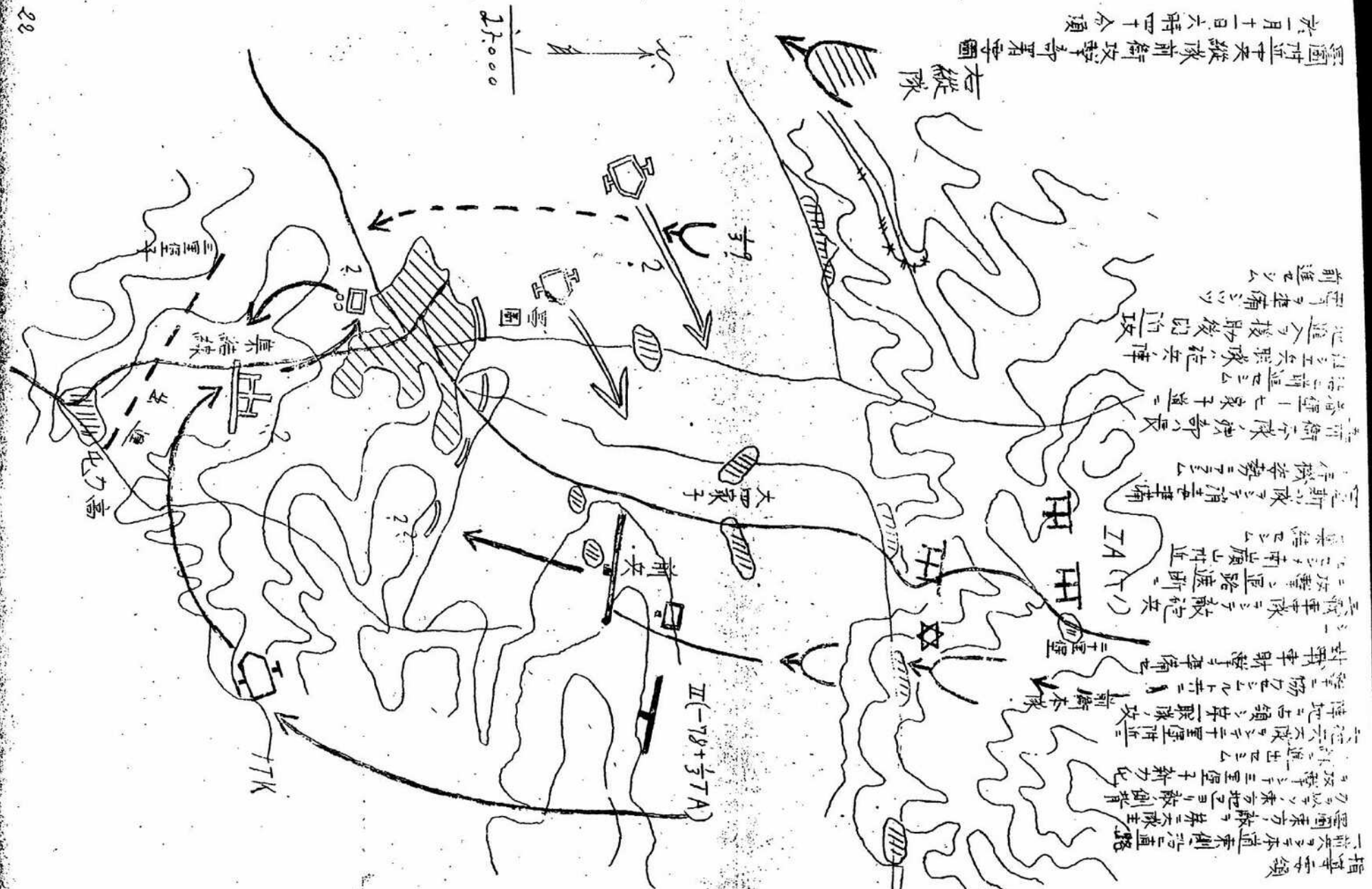
前進セシム

軍圖附近中央縱隊前衛  
 六月十一日六時四十





判決  
前街直子雲南、故、板、雲園南方地、区進ムル、雲、  
第五問題系案



雲園附近中央縦隊前街攻撃奇案手圖  
六月十日六時四十分頃

指等云嶺  
一前兵、本道、東側、沿、直、路  
雲園、東方、林、井、兵、隊、主、體、  
ク、以、テ、赤、方、地、ヨリ、敵、倒、背、  
ヲ、攻、撃、シ、テ、三、雲、園、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
二、三、雲、園、ノ、東、側、ヲ、三、雲、園、附、近、  
陣、地、ニ、占、領、シ、兵、隊、ヲ、攻、撃、  
シ、テ、三、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
三、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
四、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
五、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
六、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
七、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
八、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
九、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十一、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十二、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十三、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十四、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十五、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十六、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十七、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十八、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
十九、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム  
二十、雲、園、ノ、東、側、ヲ、新、方、化、  
シ、テ、進、出、セ、シ、ム

裏面白紙



第五問 題 京 案 說 明

一、前衛の任務

敵の部隊前衛の處理に得べき如きは、擊破し行進路上に障礙  
ヲ排除スルハ前衛の課セラレタル重大ナル任務ナリ(令一〇五五)  
コレが爲本隊ヲ煩ハシ或ハソノ行進に遲滯セシムルガ如キハ、  
モノニアラス。而シテ戰鬥開始ニ先キ敵ク機甲部隊等ヲ以テ俄  
然ハ  
攻撃シ來ルルカ又ハ要地ヲ占領シ我前衛ヲ遲滯セシメントスルハ、  
手段ニシテ斯クノ如キモノニ師團主カ、前進ヲ遲滯セシメラレ  
我希望ス  
ル態勢ヲ以テ敵主カニ乘スルノ好機ヲ逸スルグ如キハ師團トシテ忍ムベ  
カラサル所ナリ

二、使用兵力

前衛ハ宜シク迅速果敢ニ奮闘シ敵ニ及撃ヲ加ヘ以テソノ企圖ヲ盡  
ニ歸セシムルノミナラス爾後ニ於ケル戰鬥指導ニ後惠ヲ遺ササルヲ要ス  
即チ是ニスナル打撃ヲフルニアラサレバ敵部隊ノ特性上辱々我前進  
並ニ戰鬥ノ妨礙ヲ企圖スベシ故ニ本隊ノ任務ニ向ヒ戰鬥開始シアラサ  
ル現狀ニ於テハ速カニ是レヲ痛棒ニシテ特策トス(令一〇五七)  
コレガ爲敵兵カハ一大隊内外ト判断セラレルモ鶏頭ヲ割クニ牛刀  
ヲ用ヒ有カサル歩兵ヲ以テ攻撃シテ遠ラシムルト共ニ前衛ノ企圖

... 敵ノ側ニ退路遮断ニ當ラシムルヲ要トス

基幹部隊タル戦車ヲ撃破スルハ混乱ニ導キ其準備ニテラシカ  
馬敵ノ側ニ退路遮断ニ當ラシムルヲ要トス  
歩兵一大隊半ヲ以テ攻撃ニ當ラシメ隊長ヲ起用セサリシハ本戦闘後  
更ラ一行軍部隊ヲ還元セサルベカラサルト第一大隊ハ敵側翼ヨリ  
背後ニ指向スルノ任務ヲ課セシムルヲナリ

三、攻撃方向並砲兵陣地

及撃ノ爲ニハ先ニ正面ノ徒歩部隊並ニ砲兵ヲ破摧スルヲ要スコ  
カ爲ニハ地形ノ關係上主攻ヲ本道速倒地區ヨリ敵ノ左側背ニ指向ス  
ルヲ可トス又敵戦車ノ活動方向ハ本道速倒ハ地隙多ク地形錯雜ニ  
ルヲ以テ本道以西ニ判断スルニ當テ故ニ徒歩部隊ニ對スル攻撃ヲ該  
方ニ指向スルト共ニ本道以西ニ對スル戦車戦闘ヲ準備スルヲ可ト  
ス砲兵ハ迅速ヲ尊フ本狀況ニ於テ徒歩最良ノ陣地ヲ求メントシテ  
時機ヲ失スルハ吾人ノ採ラサル所ニシテ神速ニ陣地ニ進入シ戦機ニ  
シムル射撃ヲ實施シ得ルヲ目途トシ一里堡西方台上ニ陣地ヲ占領セ  
シム

四、對瓦斯

敵カ我攻撃又ハ主カ、前進遲滯ヲ企圖シ撤去ヲ實施スベキ  
ルヲ以テ瓦斯部隊ニ消滅ノ準備ヲシマラシムルヲ要ス

五、前衛、残部

爾後ノ遭遇戦ヲ顧慮シアルヲ以テ停止セシムルコトナク前進ヲ繼  
續スルヲ可トス相違ノ砲兵ヲ展開シアルト敵カ停止シアルト以テ前進  
ニ危険大ナラス但シ地形上敵砲兵ニ暴露期間ヲ少カラシムルト敵戦車  
攻撃方向トテ顧慮シ来道以來ノ道路ニヨルヲ可トス(今テ三ニセ)

狀況第五

一、我前衛、攻撃進捗シ第一線未ニ十家子、敵ヲ駆逐シ、昌圖北端ノ敵ト戦闘中、右側方ニ當リ戰車發見、信号アリ間モナリ敵戰車ニ三十台、西ニ十家子方向ヨリ我第一線ノ右側北背ニ甚篤進攻撃シ来ル

前衛砲兵全火カラレシニ指尙猛射シ他ノ對戰車火器亦良ク射撃シ敵ヲ破壊阻止セシモ一部ノ敵戰車ハ我步兵線ニ迫リシヲ果敢ナル我歩工兵ノ肉迫攻撃ニ會シ救台ヲ擱座セシメラルニ及ヒ大ナル戰果ヲ收メ得スシテ惶惶西方ニ遁走中更ニ砲撃ノ爲全滅的損害ニ蒙リタリ

我第一線歩兵ハ敵戰車ノ攻撃ニ介意スルコトナク銳意敵ニ迫進中ナリシカ敵砲兵先ツ沈黙シ昌圖北端附近ノ敵亦遂次退却ヲ開始シ我第一線勇躍追撃ニ努ム

コレヨリ先キ前兵、砲兵中隊ハ未ニ十家子北側高地ニ陣地ニ表換中ナリシカ既ニ該高地ニ陣地進入シ前衛砲兵ト共ニ退却中ノ敵ヲ猛射ス

ニ此戰闘間ニ十救機ノ敵飛行機我上空ニ來襲セルモ高射部隊ノ機ニ適スル射撃ト各部隊ノ事前準備ニヨリ適切ナル對空射撃並ニ對空奇襲ニヨリ損害ハ比較的僅少ニ止マリ

タルノミシヲラスノ三機ヲ確實ニ撃墜スルヲ得タリ  
 三前衛司令官ハ長春堡北側高地ニアリテ戰鬪ヲ視察指揮シ  
 アリシク戰況ノ進捗ニ併ヒセ家子ニ前進ス時ニ七時三十分ナリ  
 此時迄ニ前衛司令官ノ逐次知得セル狀況左ノ如シ  
 一騎兵隊ハ左大房身(開京城西方四吉米)附近ニ於テ敵情搜索中  
 本陣曉優勢ナル歩騎兵ノ攻撃ヲ受ケ六時三十分後退ノ止ム  
 ナキニ至ル  
 同隊ハ田家窩棚附近ヲ占領シ敵ヲ拒止スル迄  
 2. 敵ハ鉄嶺一開京道並ニ遼西ヲニ縦隊トナリ北進中ニシテ各  
 天ノ歩兵先頭七時ハ高台子(開京南方ニ吉米)及ヒ時十分前史  
 家堡(開京西南ハ吉)ニ達セルモ其主カノ所在ハ不明ナリ  
 同時偵聞京城三台子間ニ砲撃門ヲ有スル一縦隊アリ先頭不詳ナリ  
 (以上飛行隊情報)  
 3. 交戦セシ敵機甲部隊ハ我攻撃ノ爲甚大ノ損害ヲ蒙リ多数ノ  
 戦車貨車ト砲車ニ彈藥等ヲ遺棄シ西方及西南方ニ敗退ス  
 矢我第一線歩兵八目下大平莊ヲ越エテ前進中ニシテ前衛本隊  
 ノ先頭ハ七家子北方ニ達ス  
 四此頃西部昌圖西方ニ達リ盛ナル銃砲声ヲ聞ク

第六問題

七時三十分ニ於ケル中央縦隊前衛司令官ノ決心  
 理由ヲ要セス決心並ニ處置ノ大要ヲ第七問題ノ一例ニ記入スベシ



狀況第六

中央縱隊第一梯團並ニ右縱隊ハ六時三十分前後數次ニ互リ優勢  
ナル敵機ノ攻撃並ニ瓦斯空襲ヲ蒙リ被害ハ輕微ナリシモ行進稍  
遲滯シ七時各其先頭三十里堡及西部長山堡ニ達ス

第七問題

七時ニ於ケル第一師團行軍位置要圖

- 一 行軍長經ノ算定ハ別紙行軍長經實用概教表ニ依リ中
- 二 中央縱隊ハ細部ヲ他ハ先頭後尾ノミヲ記スベシ
- 三 大方眼紙縱書十七日八時提出

行軍長径實用概數表

部 隊 號	長径(m)	長径 (m)
△ 50	250	
△ 100	100	
△ 中 隊	65	
M 中 隊	200	(200)
△ A 小 隊	75	(60)
大 隊	620	620
中 隊	340	(100)
中 隊	100	
中 隊	150	
急 隊	50	(150)
聯 隊	330	(350)
DTL	260	(280)
		60 (70)

使用後返納スベシ

- 備考 (1) ( ) ----- 隊員編制(モ)  
 (2) 徒歩兵ハ四列側面  
 (3) ( ) ----- 停止間(モ)

行軍長径實用概数表

供用後返納スベシ

部	隊	號	長径(m)	長径(m)
A	中隊	100		
		65		
	MG中隊	200	(200)	
		75	(60)	
	大隊	620	620	
		720	720	200 (300)
	IA中隊	250	(ik100)	40
		120		20
	連砲中隊	70		
		70		
R行	270	(300)	100 (110)	
	30			
T	K(中)	1,000	((250))	
		230		
中隊	330			
	St	1,150		
大隊	1,350		320	
	480		130	
RSt(大=應)	150		160	
	320			
中隊	480			
	St	1,550		
大隊	2,000		430	
	800		60	
RSt	150		200	
	350	((150))		
中隊	490	((190))		
	St	1,350	((540))	
大隊	1,900	((750))		
	950	((370))		
RSt	340	((100))		
	130			
中隊	150			
	50	(150)		
忘材小隊	330	(390)	160 (190)	
	260	(280)	60 (70)	
DTL				

備考 (1) ( ) ----- 駝馬編制(毛)  
(2) 徒歩兵(四列側面)  
(3) ( ) ----- 停止間(毛)

幕六問題 宗宗

七時三十分ニ於ケル中興隊前衛司令官ノ決心

前衛ハ獨斷ハ中興家子附近ニ前進シ要地ヲ占領シテ師團ノ戦闘ヲ有利ナラシメントス

理由

一、敵主力ノ所在ハ未ダ不明ナリト雖ソノ前進状態ハ今ヤ明瞭トナリ  
 彼我ノ戰場ハ馬ノ總台附近ニ帯リ高地線トテ定シ得ベク今ヤ  
 正ニ師團カ敵ト遭遇ニ當リ態勢ノ優越ヲ期シ得ヘキニ好ノ機會  
 ニ際會セントス而シテ好機ヲ捕捉シテ戦闘ノ初動ヲ有利ナラシ  
 メンカ爲ニハ敵ヲシテ一帯ノ高地ニ立脚セシメサルコトニ依リテ目的ヲ  
 達成シ得ベシ

然レ本道東西兩方面ニ於ケル高地ノ價值ヲ判断スルニハ四家子方面  
 一高地ハ敵ノ攻撃方向ノ何レニ向テラ問ハス我ニシテ占領シ得ベク  
 ラシテソノ展開並ニ攻撃ヲ困難ナラシムルノ不利ナル状態ニ拘束シ得  
 ルノミナラス師團ノ主攻カ本道東西何レノ方向ニ指向セラルルニ依  
 テ展開並ニ攻撃ノ爲ノ支障ヲルベキトナリ

二、前衛ハ宜シク獨斷果敢ナル行動ニ出テコソ要地ヲ奪取シテ師  
 團戦闘ノ初動ヲ有利ナラシメサルベカラスコレ前衛ニ課セラレタル任



勢ニシテ右縦隊方面ガ高岡西方地區ニ於テ敵機甲部隊ト戦闘  
 甲ナルカ如キ現狀ニ於テ進出時機或ハ遅延スルヤラ計ラサル  
 三想例セハ戦機ヲ重視スル道過利ヲ於テ前衛ノコノ行動ハ更ニ  
 三悪性大ナルモノアリ  
 コノ際前衛カ騎兵隊ヲ増援シヌハソノ戦闘ニ参加シテ田家高岡附  
 近ヲ確保スルノ消極的觀念ニ立脚シテ行動スルガ如キコトナク宜シ  
 ク進シテ敵縱隊ノ先頭部隊ノ四家子附近高地ノ爭奪ヲ敢  
 ラ行フノ概ヲ以テ前進シ始メテ師團ノ初動ヲ有利ナラシムリコトニ貢  
 獻シ得ベシ  
 三間宮城附近ヲ北進中ノ敵縦隊ハ我方縦隊ノ南下ヲ顧慮セハソ  
 ノ全カラ以テ馬牛總台ヲ向テ前進スルコトナカルベキモ若シ敵ニテ  
 コノ行動ニシテタル場合ニ於テハ我ノ一部ヲ以テ馬牛總台西方喜地方  
 ヲ以テ攻撃セシメテ主カハ決然目的ニ邁進スルヲ期ス

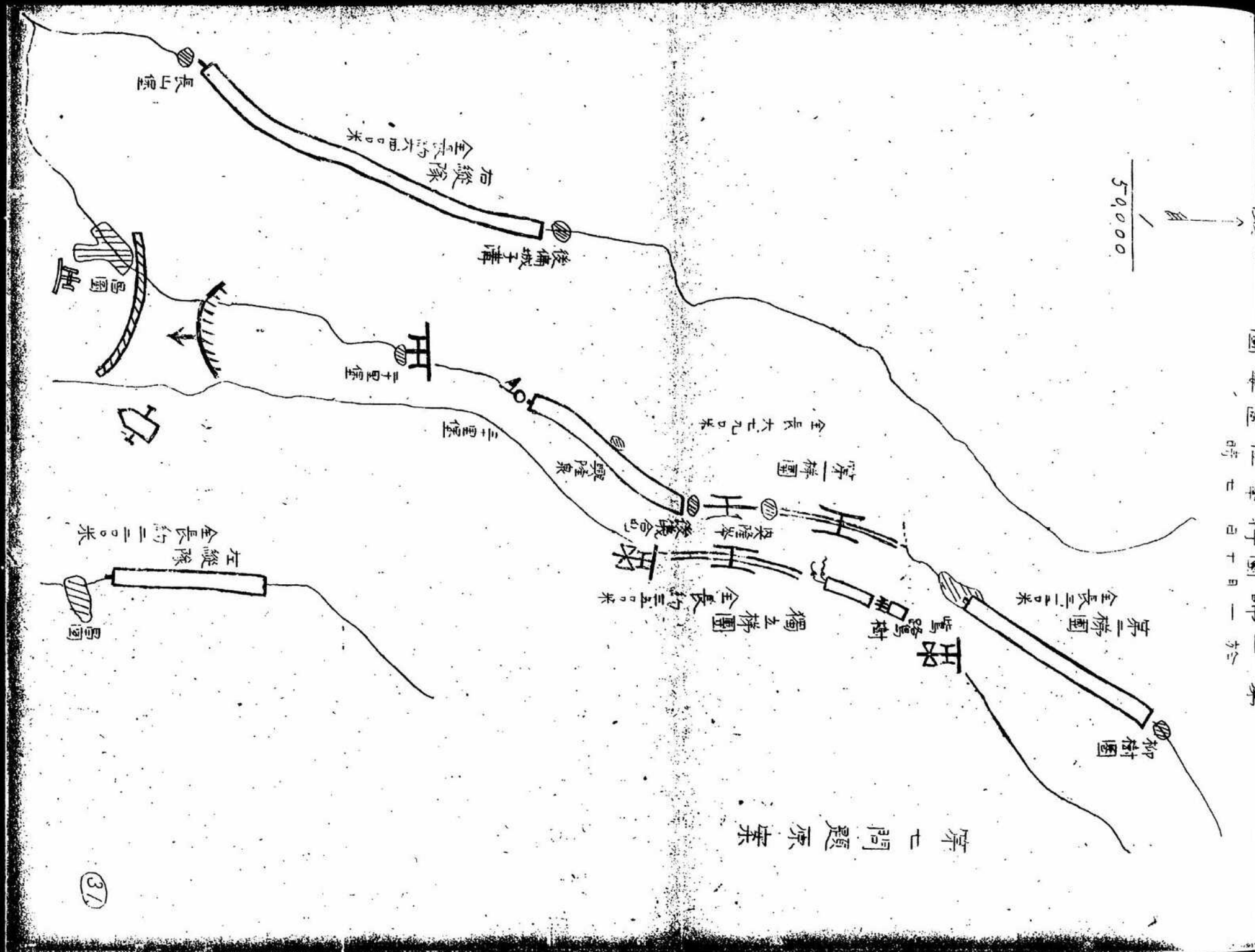
處置

一 戦車中隊ヲ騎兵隊ノ戰鬥ニ協カセシムル目的ヲ以テ南山嶺山ノ  
 黒咀溝一朱家高岡道ヲ田家高岡方面ニ前進セシム  
 二 前兵大隊ヲシテ五家堡子一三家子一孫家高岡一新守堡ノ  
 間ニ進出シテ新カ也一黒咀溝一朱家高岡一四家高岡道ヲ前進シ騎兵  
 三 戦車中隊ヲ新カ也一黒咀溝一朱家高岡一四家高岡道ヲ前進シ騎兵

隊臺面ノ敵ヲ撃破シテ牙口子南方高地ニ進出セシム  
 特ニ一部ヲ黒咀溝一馬牛總台道ニ出シ馬牛總台ヲ經テ南溝線  
 三沿ヒ金溝子方向ニ前進セシム  
 四 前衛砲兵ヲシテ連カニ黒咀溝附近ニ陣地ヲ占領シ先ツ騎兵隊  
 ノ戰鬥ニ協カセシムルト共ニ敵ノ展開ヲ妨碍シ爾後前衛ノ要地占  
 領ヲ直接支援セシム  
 五 工兵隊ハ砲兵ノ陣地進入ヲ援助後三家子ニ位置セシム  
 六 前衛隊ハ砲兵ノ後方ヲ前進ス  
 七 決心處置ヲ師團長ニ報告シ騎兵隊長ニ通報ス

第六問題 前衛の行動

- 一 前衛行動の根據(令一〇五五) 遺運戰ニ於テ前衛行動(令一〇七三)ニヨリ小四家子附近ヲ師團戰鬪ノ支撐タルベシトシテ獨斷前進方向ノ變更並ニ攻撃ヲ決心シテ部ヲ置セリ
- 二 前衛地ハ我敵ニ先ンシテ確實ニ奪取シ得ルノ距離ニハテラサルモ師團爾後ノ戰鬪初動ヲ有利ナラシムル爲ニハ必要ナルヲ以テ敢テ決心ニ出テタリ
- 三 小四家子附近ノ奪取ヲ主目的トストモコレガ爲ニハ騎兵隊ノ田原富棚附近ニ健在スルハコノ目的達成ニ重要ナルヲ以テHKヲ以テ先ツコレノ戰鬪ニ協力セシメ
- 四 主カコ以テコノ方面ノ戰鬪ニ參加セシメタリ
- 五 コシテ一部ヲ馬牛總台方面ニ前進セシメハ敵方ニ通スル主要ナル道路ナルト門ニ戰方尙敵ヲ顧慮シ且騎兵隊並ニ敵ノ側背ニ迫ルノ機ヲ捕捉セントスルノ主旨ニ出テタルモノニシテ步兵一隊ヲ差遣トスルモノトスル希望ナリ
- 六 主カヲ新守堡方面ニ前進セシメハ騎兵隊方面ノ戰鬪ニ卷キ込マレルコトナク目的地ニ進出セシメントスル趣旨トコノ進出カ騎兵隊方面ノ敵ニテ臂威ヲ共ニ戰ハスニテ後退セシムルコトアルベシヲ顧慮セリ



第七問題原案  
 第一梯團  
 第二梯團  
 第三梯團  
 第四梯團  
 第五梯團  
 第六梯團  
 第七梯團  
 第八梯團  
 第九梯團  
 第十梯團  
 第十一梯團  
 第十二梯團  
 第十三梯團  
 第十四梯團  
 第十五梯團  
 第十六梯團  
 第十七梯團  
 第十八梯團  
 第十九梯團  
 第二十梯團  
 第二十一梯團  
 第二十二梯團  
 第二十三梯團  
 第二十四梯團  
 第二十五梯團  
 第二十六梯團  
 第二十七梯團  
 第二十八梯團  
 第二十九梯團  
 第三十梯團  
 第三十一梯團  
 第三十二梯團  
 第三十三梯團  
 第三十四梯團  
 第三十五梯團  
 第三十六梯團  
 第三十七梯團  
 第三十八梯團  
 第三十九梯團  
 第四十梯團  
 第四十一梯團  
 第四十二梯團  
 第四十三梯團  
 第四十四梯團  
 第四十五梯團  
 第四十六梯團  
 第四十七梯團  
 第四十八梯團  
 第四十九梯團  
 第五十梯團  
 第五十一梯團  
 第五十二梯團  
 第五十三梯團  
 第五十四梯團  
 第五十五梯團  
 第五十六梯團  
 第五十七梯團  
 第五十八梯團  
 第五十九梯團  
 第六十梯團  
 第六十一梯團  
 第六十二梯團  
 第六十三梯團  
 第六十四梯團  
 第六十五梯團  
 第六十六梯團  
 第六十七梯團  
 第六十八梯團  
 第六十九梯團  
 第七十梯團  
 第七十一梯團  
 第七十二梯團  
 第七十三梯團  
 第七十四梯團  
 第七十五梯團  
 第七十六梯團  
 第七十七梯團  
 第七十八梯團  
 第七十九梯團  
 第八十梯團  
 第八十一梯團  
 第八十二梯團  
 第八十三梯團  
 第八十四梯團  
 第八十五梯團  
 第八十六梯團  
 第八十七梯團  
 第八十八梯團  
 第八十九梯團  
 第九十梯團  
 第九十一梯團  
 第九十二梯團  
 第九十三梯團  
 第九十四梯團  
 第九十五梯團  
 第九十六梯團  
 第九十七梯團  
 第九十八梯團  
 第九十九梯團  
 第一百梯團

第七問題原案

37

裏面白紙

めくれず

12(- $\frac{1}{2}$ )  
M4(2)  
75A5  
 $\frac{1}{2}$ 12  
M4(2)  
17(- $\frac{1}{2}$ )  
Rst  
 $\frac{1}{2}$ 12

1900  
100  
1000  
100  
476  
3570

獨立梯團約三五〇〇米

30  
TA(- $\frac{1}{2}$ ) 40  
iTL 70  
II 720  
RA(- $\frac{1}{2}$ ) 130  
III(-10,11,12) 440  
 $\frac{1}{2}$ M4  
R 276  
H  
Rst(- $\frac{1}{2}$ ) 320  
A 65  
 $\frac{1}{2}$ TA 40  
H  
 $\frac{1}{2}$ Rst/ISA 400  
II(- $\frac{1}{2}$ ) 45  
S(- $\frac{1}{2}$ ) 300  
 $\frac{1}{2}$ 11 20

15  
8  
15  
8  
26  
8  
20  
8  
20  
20

2990.130  
+130  
3120

第二梯團三一三〇米

250  
30  
80  
70  
720  
I 720  
II 720  
230  
575  
III(-11,12)  
R 270  
H  
150  
H  
1350  
65  
ISA 2000  
12 65  
 $\frac{1}{2}$ TA 40

8  
8  
15  
9  
15  
8  
30  
9  
30  
8

6635.153  
+153  
6790

第一梯團六七九〇米

40  
100  
30  
590  
130  
1000  
30  
720  
15  
270  
8  
300  
3180.76  
+76  
3260

前衛本隊三二六〇米

20  
300  
45  
40  
60  
35  
65  
40  
140  
75  
65  
45  
120  
100  
330  
20  
7200.771  
+771  
7970

第一師團中央縱隊行軍長經明細表  
全長經一八九四〇米 (一九七〇—一〇〇〇—三二六〇—三〇〇—六七九〇—一五〇〇—三三〇)  
前兵一七七〇米

第七問題宗案其二



第七節 野戦司令部の設明

一 行軍位置

指揮官ハ部下ノ状態ヲ正確ニ認識シアルコト緊要ナリ是レ  
 情況判断ノ基礎トレハナリ(令一ノ八)  
 師團長(實際事ニ當ルハ參謀)ハ何時敵ト遭遇スルヤモ豫測  
 シ難キ戰況ニ於テハ師團主要部隊即チ前衛本隊先頭  
 ノ歩兵部隊主力砲兵本隊後尾位置ヲ確知シ在ルコト必  
 ナリ即チ之ニヨリ機ニ處シテ直チニ適切ナル決心又ハ處置ヲ  
 得ルガ爲ナリ但シ部隊内細部ノ行軍位置、如キハ必ズモ承  
 知シ置テ要セサルモトス  
 コノ主旨ニ則リ本作業ニ於テハ主要部隊ノ先頭及後尾ノ位置  
 ヲ明ニスルヲ要ス  
 左右兩縱隊ノ状態ノ知得モ又チ方縱隊ノ状態ノ知得ト共ニ必  
 要ナリコレカ爲(令一六三)ニ各縱隊間ノ連絡ニ関シテ外(令一  
 一六三)ニ所定ノ指揮官間ニ在リテハ電氣的通信ニヨリ常時  
 連絡シ得ル如クスルコトヲ要ス  
 二 行軍長途  
 司令部ニ細部ヲ示セルモ、常ニ斯クノ如クナラシムル能ハス又其必  
 要ナク概略ニ示レリトスルコトアリ

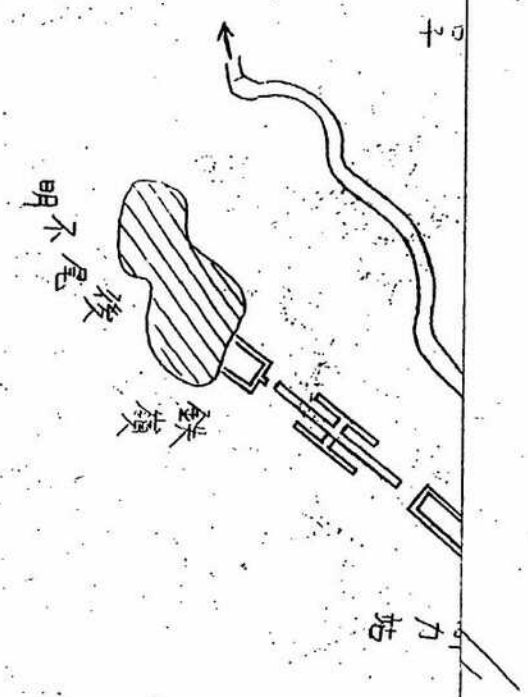
最モ簡便ナル方法ハ其編組内ニ於ケル各部隊ノ長經ニ梯  
 隊距離ヲ加算スルニ在リ  
 例ハ梯隊團ノ長經概教左ノ如シ

部隊	長經 <sup>m</sup>	隊間距離 <sup>m</sup>
△	250	
○	30	
□	70	
▽	720	8
Ⅱ	720	15
Ⅲ	720	15
TA	120	9
RA	250	8
古	270	8
百	25	8
○	150	8
ⅣA	1350	30
ISA	2000	30
<hr/>		
6675		145
+ 145		
<hr/>		
6820		

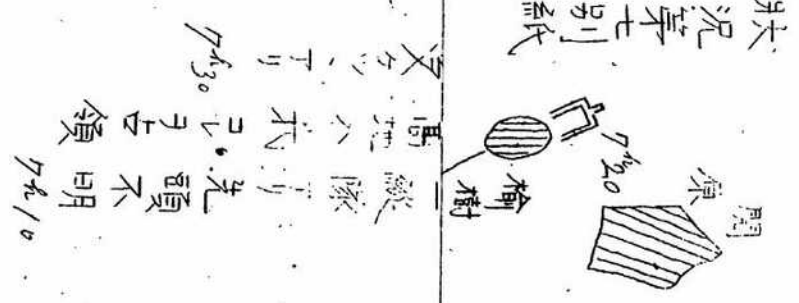
三本狀況ニ於テ師團ハ三縱隊トナリ其ノ自動車編制部隊ハ別路ニ  
 依ラシメタルニ拘ラス高キ方縱隊ノ長經ハ二十吉米ニ及フ是レ師團  
 ノ戰鬪ヲ予期スル前進部隊ニ對シテハ兵力ノ運用ニ便ナル如ク  
 通商諸兵連合ノ教縱隊ニ區分シ前進シ機動ヲ容易ニシ且  
 ツ敵ニ對シ適時態勢ノ優越ヲ期スルハトク不サレアル所以ナリ  
 (今ニノ五九)  
 某軍ノ如キハ師團ヲ以テ縱隊ヨリ展開スル爲一縱隊ニテ行進スベキ最  
 大單位トセリ

敵情報告圖

今十三時七由一十月一於



狀況第七別紙

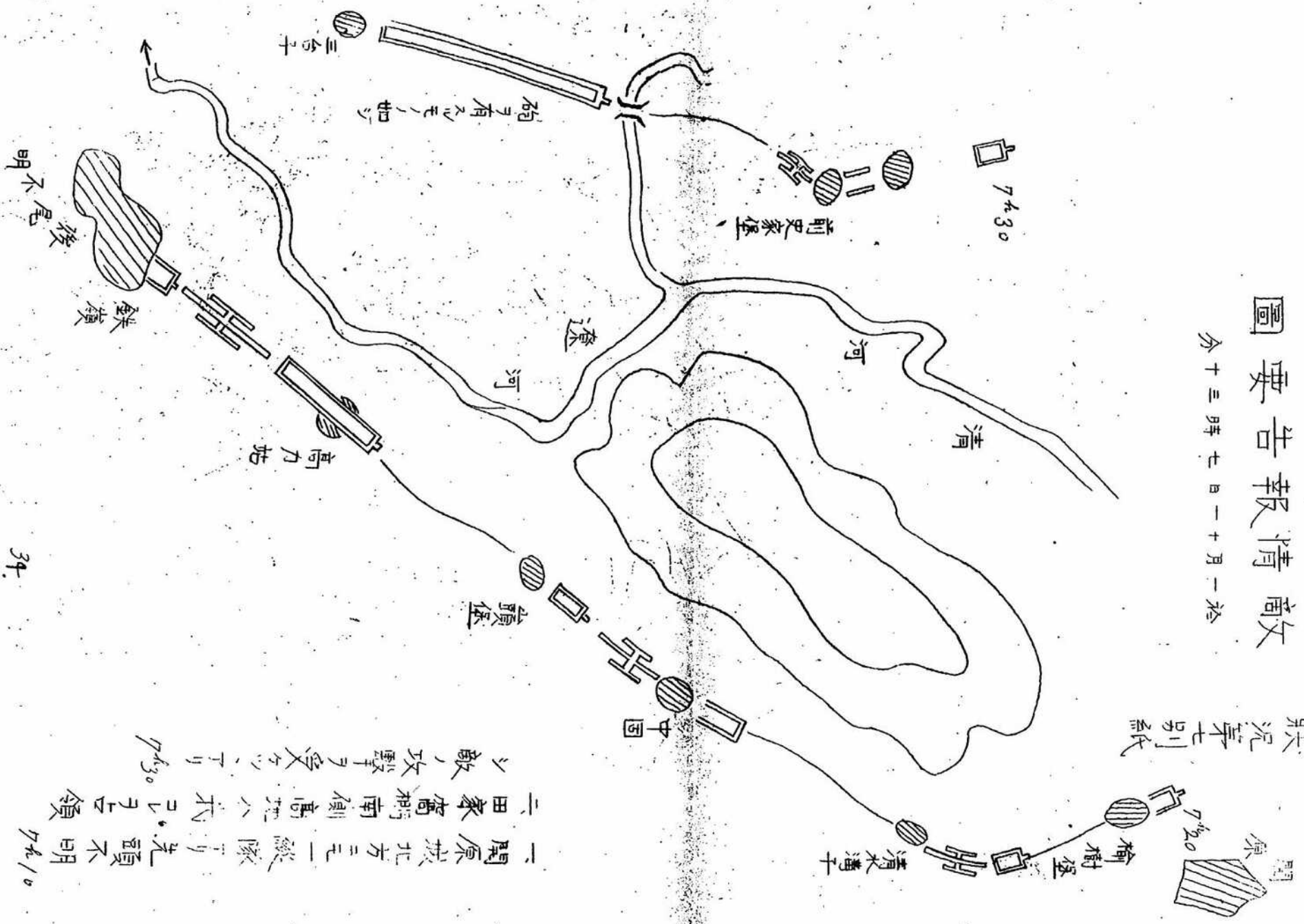




三本狀況ニ於テ師團ハ三縦隊トナリ其ノ自動車編制部隊ハ別路ニ  
 依ラシメタルニ拘ラス尚主ク縦隊ノ長紐ハニテ吉米ニ及フ是レ師團  
 ノ機關ヲ期スル前進部ノ有ニ能ハ兵カノ運用ニ便ナル如ク  
 通商諸兵連合ノ縦隊ニ區分シ前進シ機動ヲ容易ニシ且  
 ツ敵ニ對シ通時態勢ノ優越ヲ期スハワークネカレアル所以ナリ  
 (今ニノ五九)  
 某軍ノ加ヤハ師團ヲ以テ縦隊ヨリ展開スル爲一縦隊ニテ行進スベキ最  
 大單位トセリ

敵情報告圖

於十三時七由一十月一於



狀況詳七別紙  
 一 開原城北方ニ一縦隊ヲ先頭不明 7h/0  
 二 田家窩南側高地ハ木コトヨシ領 7h/30  
 三 敵ノ攻撃ヲ受クツテ 7h/30

34

裏面白紙

狀況第七

一 前衛司令官ハ七時三十分七家子ニ於テ第六問題京宗、如  
キ處置ヲ命ミタル後ハ喜省<sup>各</sup>經テ前兵大隊長ノ許ニ追及中ナリ  
二 師團長ハ七時四十五分二十里堡ニ於テ別紙要圖ノ飛行機報告  
ヲ受領スコ、時迄ニ師團長ハ狀況第五第六内容ノ狀況ノ外騎  
兵旅團本陣曉ヨリ大溝一帯ノ高地ヲ占領セル敵ヲ攻撃中  
ナリ

第八問題

七時四十五分ニ於ケル師團長ハ決心(要圖答解)

理由ヲ要セス  
方眼紙縦書 十八日八時提出



第七時四十五分ニ於ケル第一師團長ノ決心

師團ハ主カラ以テ西奇呂圖一馬牛總台道以西、地區ヲ敵ヲ包圍攻撃スル為ハ四家子附近及ソ、西南高地等向ヒ前進

ニテス

◎處置

一騎兵隊ヲシテ田家寫棚南側喜地ヲ確保セシム

二中央縱隊前衛ヲシテ騎兵隊壹面ノ敵ヲ擊破シハ四家子附近等

ニ於テ上領セシム

但ニ工兵聯隊主カハ前衛砲兵ノ陣地進入ヲ援助シタル後師

團長ノ直轄ヲラシメ黒台子ニ至リ本隊砲兵ノ陣地進入ヲ援

助セシム

三獨立機團ヲシテソノ進路ヲ新カ化ニ急進シISAヲ該地附近ニ陣

地ヲ占領セシメ先ツ敵ノ展開ヲ妨碍シ且ツ清河以北迄大房

身南方ニ於ケル敵ノ前進ヲ阻止セシム

四本隊砲兵ISAヲ除クヲシテ中央縱隊前衛並右縱隊掩護ノ

下西奇呂圖ハ家子ノ前四方台、黒台子ヲ經テ魏家嶺ニ向

ヒ急進セシノ所ニ要ニ應シテ先ツ前衛ノ戰鬪ニ加入セシム  
 五右縦隊ヲシテ西ニ道勾(西奇)ニ向ヒ前進セシム  
 六中央縦隊第一梯團ノ殘部ハ雲圖一雙井子一楊家六高棚  
 一吳家山嶺ノ楊家子道ヲ揚家子ニ向ヒ前進セシム  
 七中央縦隊第二梯團及先進輜重ハ第一梯團ニ續行セシム  
 八左縦隊ハ雲圖ノ敵ヲ攻撃シ開京城北側高地ニ向ヒ前進  
 セシム  
 九通信隊ヲシテ新カ化ヲ基點トシ中央縦隊前衛、右縦隊  
 砲兵聯隊本奇間ニ通信網ヲ構成セシム  
 十行隊ヲ興隆泉ニ輜重ヲ置キ踏鳥樹ニ停止セシム  
 十一師團長ハ新カ化ニ急進ス

第四八問題 京案ノ説明

一遭遇戰ニ於テ地形隘路ヲ成シ我態勢適宜横方向ニ置  
 分セラレ主カ砲兵ノ挺進亦制限ヲ受クル等ノ場合又ハ不期遭  
 遇戰等ニ於テハ師團ハ分進ヲ行フノ餘地ナキコトアルモ本狀  
 況ニ依リテハ先ツ(令ニテ六五七)ニヨリ速カニ決戰ヲ求メントスル  
 方面ヲ決シコレニヨリテ師團ハ砲兵ノ戰力ヲ集中發揮スベキ  
 準ニ備行行動ニ移ルベキナリ  
 敵ト未ダ離隔ナリ戰場ハ彼我共ニ機動ヲ許ス狀態地形ナルニ  
 拘ラス長スナル行軍縱隊ノ師團主カ直ニ攻撃命令合ラ  
 下達セントスルガ如キハ戰鬪ノ經過ヲ跳越セルヲ求メ共ニ攻撃  
 命令下達迄現在ノ態勢ヲ以テ無爲ニ敵ニ接觸スルハ又策ナキニ  
 似タリ  
 二本狀既ニ於テ決戰ヲ本道東西何レノ方面ニ求ムベキヤヲ未察スルモ本道  
 東側地區ニ求メントセバ奏功後ハ敵ヲ遼河ニ壓迫シ得ルノ利アルモ  
 其東方ハ山地ニシテ限界サレ包圍ノ態勢ヲ成シシムルニ適當  
 ナラサルヲ以テ包圍ノ容易ナル西方ニ選ビ敵ヲ退路外ニ壓迫スル  
 地形上利アリトス  
 又敵情判断ヨリスルモ敵ハソノ右縦隊方面ニ主カヲ保持シアル前  
 進狀態ヨリシテソノ主攻ヲ古城堡以西ニ指向スルハ技術上困難ナ

ルノミナラズ我軍退路ニ迫ルルノ利ヲ以テカ爲東方ニ主攻ヲ指シ  
 コト多カルベシ又ソノ展開モ開系西南方高地ノ障碍ノ爲西方ニ倚  
 スルニ從ヒ困難ノ度多シコノ見地ヨリセハ我レハ西方ニ決戦ヲ求ムルニ從  
 ヒ敵軍ヲ包圍スルノ態勢ヲ作爲スル機多シ  
 三 而シテ我カコノ企圖遂行ヲ容易且ツ有利ナラシムル爲ニハ敵軍  
 方面ノ如何ヲ問ハス先ツ我軍子附並ニ高地要點ニ進出シコレヲ確  
 保スルヲ要ス且レ前衛司令官ノ決心ヲ認シコレヲ奪取ニ勉ム  
 ベク勤作ノ憑據ヲ與ヘ本隊砲兵ヲシテ敵ノ展開ヲ妨碍シ且ツ  
 所帯ニ應シ前衛ノ戦闘ニ加入セシメ且ツ本隊ノ各部隊ヲ速  
 カニ戦場ニ到着セシムル如ク部署セル所以ナリ(今ニ七〇七三)  
 他ノ處置ハ(今ニ六五八四)ノ主旨ニヨリ定メタリ

遭遇戦ニ於ケル分進ニ関スル原則的説明

一 分進ノ定義ニ就テ  
 分進ナル兵語ハ屬々吾人ノ耳ニスル所ナルモ作戰要務令中ニハ  
 多ク此兵語ハ發見セズ戰術學教程附録ノ兵語ノ解ニハ分進  
 ト「展開ヲ迅速ナラシムル爲行軍縱隊ヲ分解シ散箇ノ縱隊  
 ニ分レテ進ムラ去フ」ト説明セラレアリ然ラハ作戰要務令第一節三  
 四〇ニ「行李ハ……各所屬部隊ノ位置ニ分進セシムルアル分  
 進ハ甚ク不明瞭トナラザルヲ得ズ然レハ是ハ次ノ如ク解釋セバ可  
 ナラン即チ吾人カ所謂分進ナル兵語ニハ廣狹ニ義アリテ廣義  
 ノ場合ハ單ニ縱隊ヲ解体シテ縱隊内ノ各部隊カハ務ニ從ヒ各々行  
 動ニ就クヲ謂ヒ狹義ノ場合ハ前述兵語ノ解ニアル如ク解釋スベ  
 キナリ抑々我人カ一般ニ分進ト稱スレバ直チニ遭遇戦ヲ想起スル  
 如ク分進ノ概念ハ兵語ノ解ニ不サレタル説明ニテ何等差支ナ  
 キナリ

二 分進ノ目的ニ就テ  
 分進ノ目的カ兵語ノ解ニ不サレアル如ク展開ヲ迅速ニスル爲ナルハ  
 論ナキ所ナリ而シテ陣地攻撃ニ於テハ行軍ト展開ノ間ニハ通常  
 縦隊ノ長短ヲ縮シテ諸準備ヲ行フベキ間進ノ配置ニ就クベキ時機アルヲ  
 以テ師團長ハ分進ヲ部署スベキ也ヤナキヲ通常トスルモ遭遇戦ハ



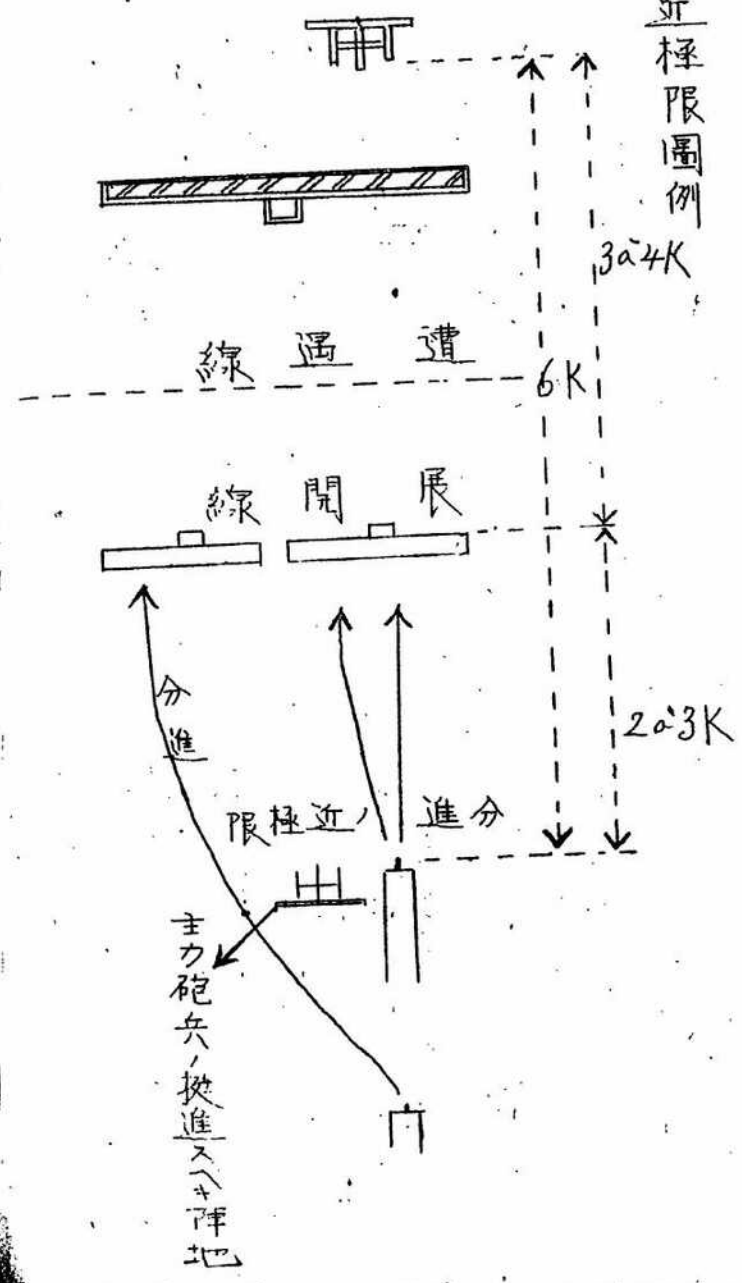
縦隊より直ぐに布陣連進展開スルヲ要スルヲ以テ分進ノ必要アリ  
即チ縦隊ハ諸兵種ノ連合ヨリ成立シ且ツ相當ノ長経アルヲ以  
テ展開ノ爲ニハ單位部隊毎ニ捷路ヨリ自己ノ自由ナル行軍速度  
ヲ以テ他隊ノ邪魔ナク道路ヲ展開位置ニ急進セシムルヲ必要トス  
分進ハ即チ之ガ爲ニ行フベキモノナルハ作戰事務令第二部第九  
項「通達先ツ各別命令ヲ速クニ展開ノ行動若クハ攻  
撃前進運動ヲ就カシメ即チ分進」トアルヲ見ルモ明ナル  
所ナリ  
而シテ師團長ノ部署スベキ分進ハ作戰事務令第二部七〇ノ  
一項ノ終ニ「且本隊ノ各部隊ヲ速ニ戰場ニ到着セシムル如ク  
トアル如ク本隊ニ分進命令スルモノニシテ前衛或ハ一部縦隊  
内ノ分進ハ各々前衛司令官縦隊長ノ命スベキモノナリ」  
三 分進ノ時機ニ就テ  
分進ノ時機ハ其目的ガ展開ヲ迅速ナラシムル爲メノナルヲ以テ指揮  
官ガ少クモ攻勢方面ヲ確立セシレバ實行シ得ル理ナリ即チ縦  
隊ガ解体ニテ分進セバ分進セル各部隊其分進行動中展開ヲ  
決心スルモ最早各部隊ノ總テヲ新シキ決心ニ基キ決戦ヲ求メ  
ントスル方面ニ指向セントスルモ技術上殆ド不可能ナリ故ニ各部隊  
ヲ掌握シ得ル時機ハ右部隊ノ分進目標到着後ト考ヘラルモ分

進目標トハ展開線ニ近ク選定セラルルヲ其目的上自然ナルヲ以テ  
ナリ換言セハ作戰事務令第二部第七十ノ決戦ヲ速ク行ハントス  
ル方面ニ決定セル後タルベキナリ然レトモ分進ヲ行ハントスルハ當然  
時間ヲ要シ且ツ各部隊ハ敵火ノ下ニ於テ斜行又ハ横行ノ行動  
ヲトラスルベカラサルヲ以テ過度ニ敵ニ近接セバ却テ行動ノ不便ヲ招  
來シ展開ハ寧ろ遅滞スルノ虞アルヲ以テ其時機ニモ概ネ一定  
ノ限度アリ還言セバ決戦ヲ求メントスル方面ノ決定時機ニモ亦其  
限度アリト謂フベキカ  
今其限度ヲ考フルニハ地形特ニ對機ヲ重ニスル遭遇戰ニハ基  
斷定シ難ク且敵情不明ナル事多キヲ以テ多ク主觀的判定ニ基  
テ決定セラルル事多カルベシ白紙的ニ考フレバ次ノ如シ即チ展開  
ハ敵ニ先ケ有リテ能ハシ勢ニ行フベキモノナルヲ以テ努力メテ敵ノ妨害  
ヲ受ケサル如ク行フベキナリ而シテ有利ノ態勢ヲ得ル爲過早ノ展  
開ハ不利ナリト雖モ分進ヲ遲ラサバ展開遲レ敵ニ致サル事ト  
ナル事シテ然ラハ如何ナル時機カ適當ナリヤト考フルニ我展開  
ヲ妨害スルモノハ飛行機ハ暫クオキ地上ニテハ多ク敵砲兵ナリ  
從テ敵主力砲兵ノ有動射距離内ニ入ルニ先ケ各部隊ハ分進  
行動ニ入ラバ理論上ハ可ナリ勿論彼我砲兵力ト地形トニ左右  
セラル、事ナルモ展開地ニ於テハ敵有動射程ヲ以テシテ以テ



一、師團長ハ新カ化ニ於テハ時三十分迄ニ左ノ状況ヲ知ル  
 敵ノ開原西方地區ヲ疎開前進中ニシテソノ先頭清河  
 敵ノ一縱隊ハ時ソノ先頭ヲ以テ大高カ化(開原西南ニ  
 2、遼河清河ノ合流上附近ニ達ス  
 騎兵隊ハ田家窩棚南方高地ヲ占領シ七時過ヨリ  
 3、騎兵隊三四中隊騎兵ニ三中隊ヲ攻撃テ受ケツツアリ  
 歩兵隊ハ七時三十分頃朝陽堡附近ニ於テ敵機甲騎  
 4、右縱隊ハ七時三十分頃朝陽堡附近ニ於テ敵機甲騎  
 隊ニ遭遇シ之ニ大ナル損害ヲ與ヘコレヲ西南ニ敗走セシ  
 5、中央縱隊第一梯團ノ先頭ハ八時過ギ西部昌圖ニ  
 6、獨立梯團ハ八時新カ化ニ達シZSAハ大喜省吾附近  
 二、陣地ヲ占領シ戦闘中ナリ  
 三、頃敵機ノ活動極メテ活潑ニシテ騎兵隊方面及左縱  
 隊方面ノ砲声熾ナリ

(6K程射効有) A 敵シセ進捷



今進近極限圖例  
 1、横斜行ヲ避ケントセバソノ前方ニテ分進スベキナリ敵砲兵  
 2、カ我展開線ノ前方3-4Kニ機進シ來ルモトセバ我展開線  
 3、後方ニ先頭が來リ時分進スレバ足りル理ナリ

第九問題  
團長、爾後如何に戦闘ヲ指導セントスルヤ

要圖答解 方眼 紙横書  
三十日八時提出

第九問題原案ノ説明

一 戰鬥ノ方針  
遭遇戦ニ於テハ戰鬥指導ニ於テ確定スベキ主要條件ナルヲ以テ方針確立ニ當リ全隊ヲ統一シテ戰鬥ニ參與セシムヘキヤ逐次到着スル本隊ノ各部隊ヲシテ前衛ノ戰鬥ニ直チニ加入セシムヘキヤ明確ニ定メサテハカラス

本狀況ニ於テ彼後ノ遭遇戦ハ既ニ開原平地ニ連ナル高地線端附近ト判断セラル、而シテコノ附近ニ於ケル戰鬥ニ於テ考察スルニ我ハ敵ヲ瞰制シシノ展開攻惠前進並ニ觀測ヲ困難ナラシムルノ利ヲ收メ得ヘクソノ利ヲ享クルノ度ハ敵ヲシテ高地ニ多クノ立脚地ヲ得シメサルニ從ヒ益々大ナリ

コレ前衛ヲシテ騎兵ノ獲得セル地ヲ超越シテ更ニ遠ク攻惠セシメシ所以ニシテソノ奏功ノ成否ハ逆踏シ得サルモ少クモ前衛ト敵トノ戦線一歩タリトモ敵方ニ直キニ從ヒ我ニハ利ニシテ敵ノ苦痛トスル所ナルハ明ナリ

師団主力ノ戰鬥モ亦コレ全然同様ノ理由ニヨリ統一シテ戰鬥ニ加入セシメントスルヨリ敵ノ弱點ヲ捕捉シ神速ニ之レヲ攻奪センカ爲前衛ノ戰鬥ニ直チニ加入セシムルヲ要ス(令三ノ七四)

二 攻取方向

師団力決戦ヲ求ムシトスル方面ヲ昌圖一馬千總道以西ニ指  
向スルヲ可トスルハ前問題ニ於テ研察セシ所ナリ然ラハ前衛  
方面ニ近ク指向スルハカニハ遠ク敵ヲ我存無誤方面ヨリ包  
圍攻取スベキカラ考察スルニ後春ハ前者ニ比テ規模大ニシ  
テ奏功後ハ態勢有利ナリト雖モコノ方面ニハ敵ノ一部必スヤ  
前進シ來レヘキヲ以テ之レヲ包圍セントセハ我行動範圍大ト  
ナリ又コレヲ專破シテ包圍ニ導カントスルモ何レモ相当ノ時  
間ヲ要スヘクコノ間敵ヲシテ小田家子附近一帯ノ高地ニ立脚  
地ヲ得シムナハ必スシモ有利ナリト斷スベカラズ  
及之前春ハ敵ニ先チ高地線端ニ近ク進出シ得ルノ公算大(我本  
隊ヲシテ前衛ニ連繫シテ攻取セシメナハ行進狀態ヨリシテ大  
高力屯附近ノ敵縱隊ヨリ早ク小田家子西北方ノ高地ニ進出シ  
得ヘシ又前史家子方向ノ敵カ好シテコノ方面ニ來ルコトハナ  
カルヘク又開原方向ノ敵ハ前衛方面ニ以テ攻取ノ余カナカ  
ルベシ)

進出ニヨリ前述ノ如ク敵ヲ不利ナリ状態ニ於テ攻  
撃シ得ルノミナラズ決戦方面ヲ頭溝方面ニ求ムナハ敵ノ主

三 攻取目標ノ指示

カラ西方ヨリ包圍シ得ルニ是レ敵主攻ハ前問題研察ノ如ク東  
方ニ保持セララル公算大ナルハナリ  
コレ原案ノ如ク決戦ヲ求メシトスル方面ヲ確定シテ所ナリ  
之レヲ要スルニ遭遇戦ニ於テ態勢ノ優越ヲ期スルニ爲キハ主力  
ヲ以テスル敵翼ノ包圍ニ導カシ最モ有利ナリトスルニ雖モ戦機  
ヲ捕捉スルコトモ亦忘ルベカラズ

四 部署

前衛隊兵タリシIAハ戦機ニ投スル爲迅速ニ陣地ヲ占領セシ  
メタルヲ以テ第一線ニ並進ノ爲主力砲兵陣地ニ進入セハ陣  
地変換ヲナサシム

2. 砲兵ハ成ルヘク統一使用ヲ可クスルヲ以テ統一指揮ヲ設ケルニシテ雖モ連絡略ニ成リ各部隊ヲ確實ニ掌握スル迄前任務ヲ続行スルモノトス (令ニノ八三、八八)
- 左翼隊方面ノ僅々一中隊ニシテ稍離隔シ統一困難ナルベキヲ以テ配屬トセリ
3. 消毒部隊ハ使用ノ機ヲ逸セザランカ爲重點方面ニ在ル第一線部隊ニ當初ヨリ配屬セリ (令ニノ八五)

第九問題 原案

方針  
師團ハ其主力ヲ中央縦隊前衛ノ隊ニシテ





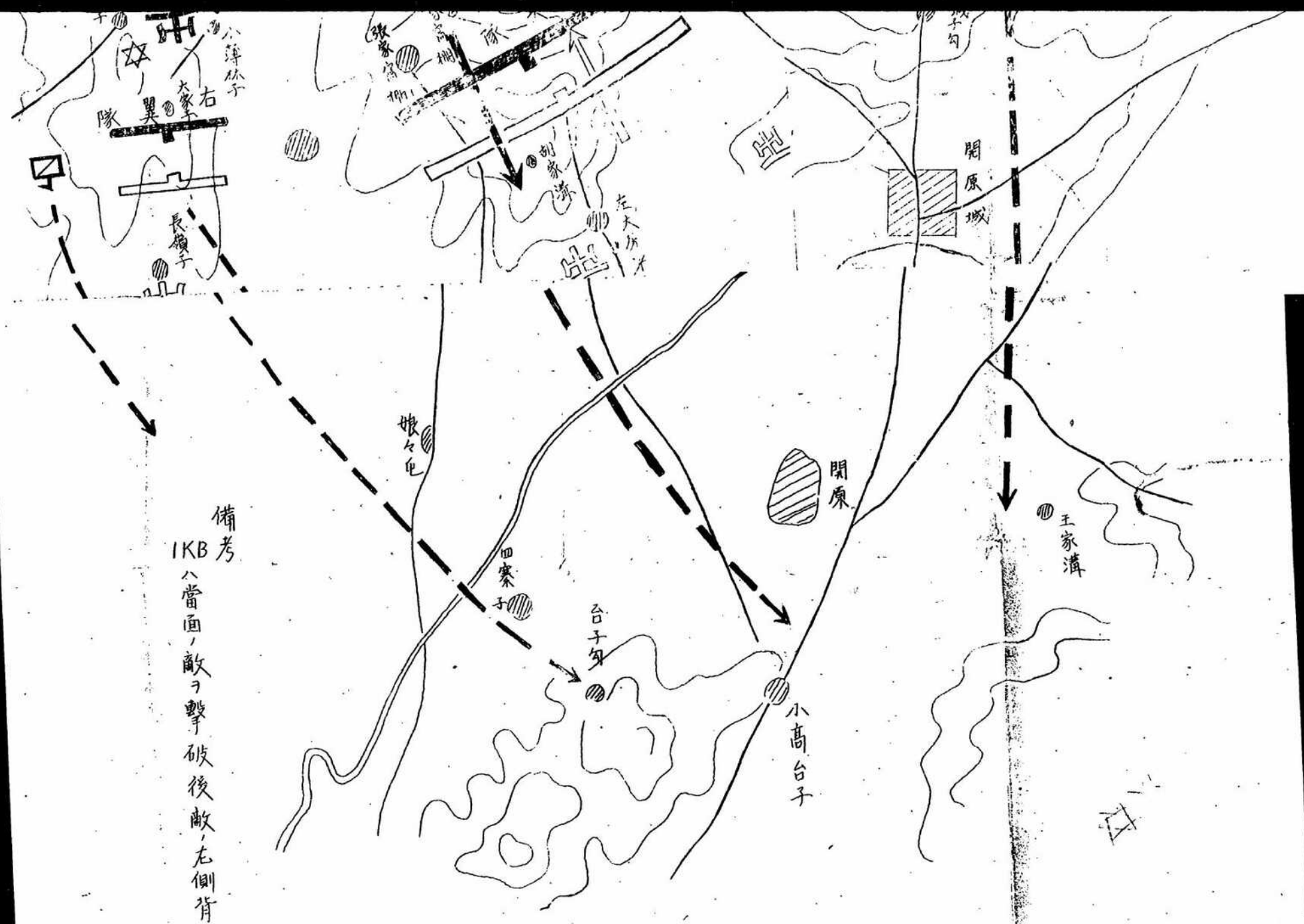
馬十總台附近第一師團遺戰指導要圖

一月十日正午頃於

第九問題原案  
方針  
師團ハ其主力ヲ中央縱隊前衛ノ戰鬥ニ逐次加入セシム敵ノ開原平地ニ捕獲  
師團ノ決戰ヲ求ルル方面ハ古城堡東方高地トス  
一指導要領  
1. 左右兩縱隊ヲシテ各當面ノ敵ヲ攻撃シテ敵翼ヲ包圍ス  
2. 中央縱隊前衛ヲシテ小四家子方向ニ攻撃セシム到着スル本隊各部隊ヲ  
直ニソノ戰鬥ニ加入セシメ敵ノ左翼ヲ包圍シテ開原南方隘路ト以テニ  
捕獲ヲ減ス  
3. 敵ヲ遠ヒバ一拳ツクニ向ヒ追撃ヲ敢行ス  
二軍隊區分  
騎兵隊 (如故)  
右翼隊 (旧右縱隊) 15P  
中央隊 (☆旧中央縱隊前衛及44 2P(2)  
左翼隊 (旧左縱隊及12 3MG/2i)  
砲兵隊 (出) 1A(4) ISA ISA<sub>s</sub>  
工兵隊 (1P (1/2) 2(2))  
豫備隊 (2i 1A 2TA 2RA 3MG)

其他直轄  
三部署  
騎兵隊ハ右翼隊西方地區ニ  
轉進シ敵ノ左側背ヲ攻撃セシム  
左翼隊ヲシテ六家子方向ニ  
敵ヲ攻撃シ敵ノ右側背ヲ攻撃  
進セシム  
中央隊ヲシテ重點ヲ右翼隊ニ保持シ  
胡家溝附近ノ敵ヲ攻撃シ開原南側  
地區ニ攻撃ヲ前進セシム  
左翼隊ヲシテ當面ノ敵ヲ攻撃シ  
開原城北高地端ニ進出シ敵ノ多クノ敵ヲ撃退シ  
抑留シ適時開原東方地區ニ攻撃前進セシム  
砲兵隊ハ先ツ敵ノ展開ヲ妨碍シ爾後主力ヲ以テ中央隊ノ  
攻撃ニ直接協同セシム  
工兵隊ハ砲兵ノ陣地侵入並ニ交換ヲ援助後予備隊ト共ニ位置セシム  
飛行隊ハ鐵嶺奉天方向及遼西ノ敵情ヲ搜索セシム





備考  
 IKB 八當面ノ敵ヲ撃テ破後敵ノ左側背ヲ脅威セリ

裏面白紙  
 めくれず

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1 : 25

状況第九

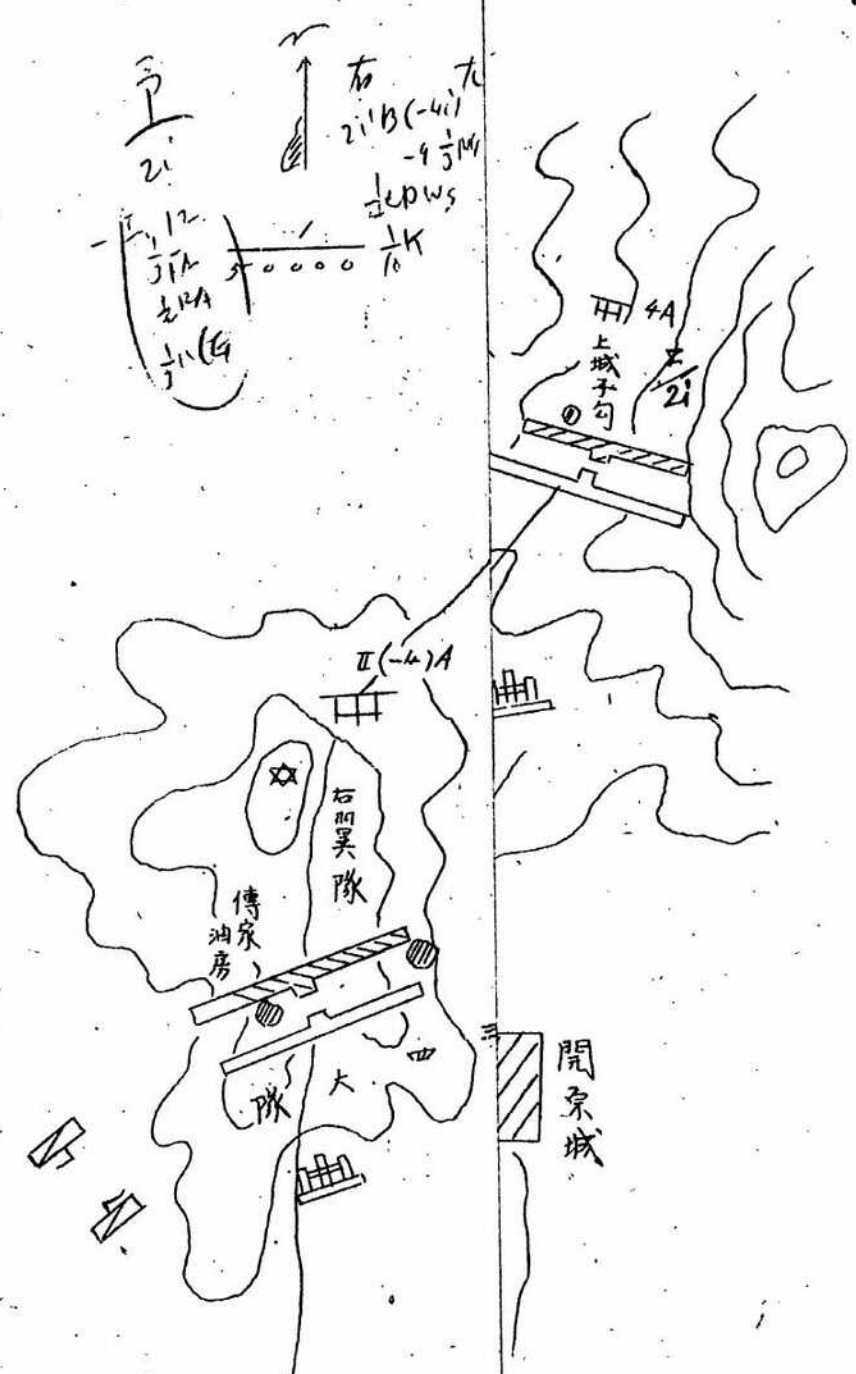
一月十一日十時頃以來開城地方高地線に於て彼我遭遇戦ヲ起シ十四時乃至十六時ノ交戦劇最ニ激烈ヲ極メ幾多波瀾ヲ呈シ勝敗逆轉シ難キモノアリシガ師團長ハ戦闘司令所ヲ西二道溝南側高地ニ進メタリ

二師團長ハ十八時迄ニ別紙要圖ノ彼我態勢ヲ承知スルト共ニ諸情報ヲ綜合シ左ノ状況ヲ知り現在ノ奇策ヲ以テ依然攻撃ヲ續行セリ人本日十五時頃砲ヲ有スル三四ヶ敵ハ奉天ニ到着セルニ爾後ノ状況不明ナリ

一、開城南方高地線ニ敵一部工事中心ナリ  
二、騎兵旅團ハ十二時頃大溝一帯ノ高地ヲ占領シ引續キ磨盤山(五十町合一圖参照)敵ヲ攻撃中十五時頃ヨリ敵兵増加シ攻撃ヲ進メテ、如クナラス

三、師團將兵ノ疲労ハ終日ノ行軍戦闘ニテ相當大ナルノミナラズ平均多クノ損傷アリ  
三、師團ノ戦闘ハ夜ニ入ルニ各方面ニ繼續セラレ殊ニ中央隊左翼正面ノ敵ハ十九時頃優勢ナル兵力ヲ以テ田家高棚南側高地ニ夜襲ヲ試ミ我第一線一時危険ニ瀕シタルモ將兵善戦ニヨリ敵ヲ撃退ス

中央隊右翼方面ハ我々果敢ナル夜襲ニ拘ラス敵ノ抵抗頑強ニシテ奈



① 第一師團追撃新野 (追撃指道守、腹案ヲ含ム)  
 要圖答解 敵方眼紙縦書  
 二十六月八日八時提出

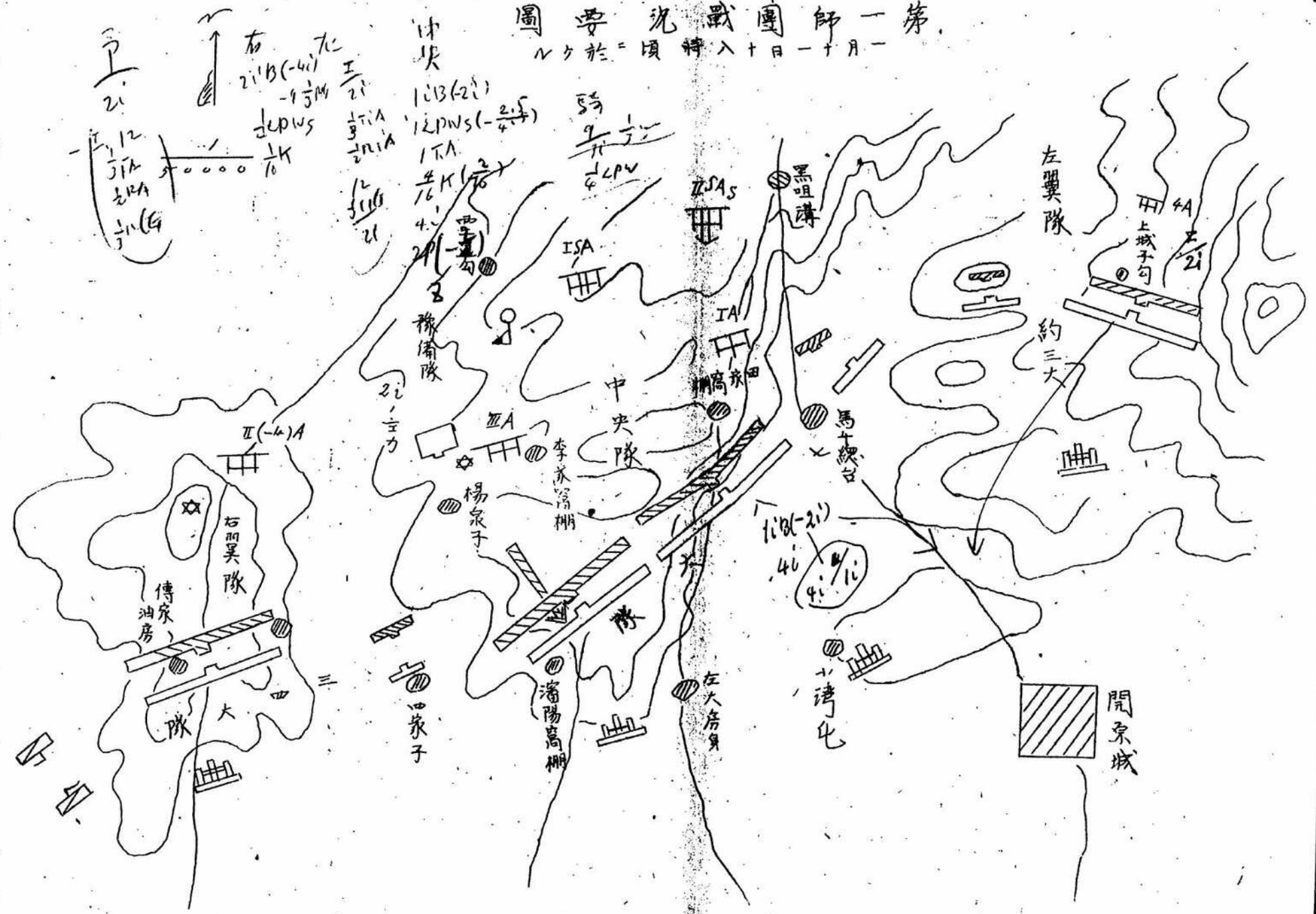
第十問題

功セス  
 右翼隊一師ハ二十時傳家油房南側高地ヲ奪取セシテ爾後戦況發  
 展セス  
 左翼隊方面ハ各所敵ノ小夜襲ヲ撃退ス  
 二十時頃ヨリ戦線自然ニ沈静ニ来ス第一線諸隊ハ依然夜間攻撃ヲ推  
 備中ナリ  
 四、師團長ハ二十時前突如左翼隊長及騎兵旅團長ヨリ相前後シテ左  
 記要旨ノ報告ニ接シ直ニ敵ヲ追撃スルニ決ス  
 一、左翼隊正面ノ敵ハ退却ヲ開始シ、翼隊ハ追撃ニ移レリ(左翼隊二十時發報告)  
 二、敵背後ニ潛入セル將校ノ候、報告ニシテハ十九時頃多敵ノ敵車輜卸部隊  
 ハ陸續鉄嶺ヲ通過南行セリ  
 旅團ハ二十時前山(五十万分一圖参照)ヲ占領セリ(騎兵旅團報告)  
 五、間モナク中央隊長ヨリ中央隊右第一線正面ノ敵ハ第一線後方ニ大規模ノ  
 撤退ヲ實施シ退却セル旨報告アリ





第一師團戰況要圖  
 十一月十日特報



第一師團追撃報告(追撃指導、腹案ヲ含ム)  
 要圖答解(方眼紙縦書)  
 二十六日八時提出

五、問ミテ、中央隊長ヨリ中央隊右第一線正面、敵ハソノ第一線後方ニ大規模ノ撤退ヲ實施シ退却セル旨報出アリ

第十問題

裏面白紙

第十問題 原案

第一師回追撃部署(五十万分一圖参照)

方針

師団ハ主力ヲ以テ遼河以西ヨリ奉天ニ向ヒ敵ヲ追撃シ同地以北ニ之レヲ捕捉撃滅ス

指導要領

- 一 一部ヲ以テ開原南方隘路口ニ向ヒ追撃セシメ爾後之レヲ左追撃隊トシ敵ヲ開原——奉天道方面ニ抑留セシムルト共ニ有力ナル右追撃隊ヲ部署シ速カニ遼河右岸地区ニ進出シ騎兵旅団ト共ニ遼西地区ヲ経テ奉天ニ追撃セシム
- 二 一尙師団主力ヲ集結セシメ縦隊ヲ以テ遼西地区ヲ経テ奉天ニ向ヒ追撃セシム
- 三 敵ヲシテ開原——奉天道東側ニ連ナル高地ニ占據ノ餘裕ナカラシムル如ク急追スルト共ニ敵ニシテ一挙奉天ニ後退停止セシトスルニ當リテハソノ側背ニ殺倒シコレヲ捕捉撃滅ス

部署

- 其一 當初ニ於ケル部署
  - 一、騎兵隊 ハ速カニ遼河右岸地区ヨリ珠爾山、新城堡附近ヲ経テ奉天ニ向ヒ追撃シ敵ノ退路ヲ遮断シ且ツ敵ノ退却状態ヲ搜索セシム
  - 二、騎兵第一旅団ハ法庫—舊門道ヲ経テ奉天西方地区ニ進出シ敵ノ退路ヲ遮断セシム
  - 三、左翼隊ハ開原、城東側地区ヲ開原南方隘路口ニ向ヒ追撃シ爾後歩兵第一旅団長ノ指揮ニ入ラシム
  - 四、中央隊 (4旅団) ハ先ツ敵ヲ開原南方隘路口ニ向ヒ追撃シ爾後左翼隊ヲ合セテ追撃隊トナリ開原—奉天道ヲ奉天ニ向ヒ追撃セシム
  - 五、歩兵第二聯隊長ハ師団予備タル歩兵第二聯隊主力カヲ以テ右追撃隊トナリ通江口—明安碑—尚三家子—五千總堡子—東拉馬河子—石佛寺—奉天道ニ沿フ地区ヲ奉天ニ向ヒ追撃セシム

- 六、追撃地帯ノ如シ
  - 騎兵旅団、右追撃隊間
  - 柘家溝(通江口西南三吉米)—凹凸山—七星山(石佛寺西側)—四方台—奉天西端
  - 右追撃隊、左追撃隊間
  - 大台山(鉄嶺西北五吉米)—馬家窩棚(鉄嶺西方五吉米)—新城堡—奉天總站
  - 線ハ右追撃隊ニ屬ス
  - 七、爾餘ノ師団主力ハ四方台(通江口東北東四吉米)及楊泉子附近ニ集結シ遼河右岸地区ヨリ奉天ニ向テ追撃ヲ準備セシム

其二爾後ノ部署

一、師団主力ハ左ノ行進部署ヲ以テ左追撃隊ニ續行セシム(細部省略)

前衛 5A 1P 1Z 基幹

右側衛 I/4i 基幹

桑墩子—万家房身—東莢—吾子—團山子—得勝台—奉天道

本隊

3i 劫  
IIA(-45)  
4i(-I)  
ISA  
I/i  
Rst/IA  
Rst/ISA  
1.2AA  
IIA<sub>s</sub>  
Rst/ISA<sub>s</sub>

- 一、飛行隊ハ明早朝敵ノ退却状態ヲ搜索シ一部ヲ以テ各縦隊間ノ連絡ニ任ゼシム
- 二、衛生隊ハ傷者ノ處置ヲ終リタル後主力ニ追及セシム
- 三、先進輜重ハ主力ニ續行セシム
- 四、行李ハ通江口ニ輜重ハ先ツ島圖ニ向ヒ前進セシム

第十問題 原安本説明

追撃方針 追撃目標

一、追撃方針ノ根本タルヤモノハ退却中ノ敵ヲ何処ニ捕捉セントスルカニアリ而シテコノ捕捉ヲ企図スル地矣ニヨリ追撃目標定マル

モノトス

我レハ敵ヲ捕捉セントスルニ努ムルモ敵ハ逃避離脱ニ努ムルヲ以テ我レ

希望シ且ツ可能トスル地矣トモ必ズシモ容易ク敵ヲ捕捉シ得ザルベシ茲ヲ以テ今ニ一五ニ容易ニ敵ヲ捕捉シ得ル場合ハ外勉

メテ遠キ地矣ニ追撃目標ヲ選定スル如ク示サレタル所以ナリ蓋シ近ク目標ヲ選定シ該線ニ於テ敵ヲ逸セソカ追撃ハ勦モスレ

ハ余力十分ナルニ拘ラス停顿状態ヲ呈シ又目標ノ過近ハ追撃部隊過早ノ退却路断行動トナリ敵ノ空ヲ衝クニ至ルヲ以テナリ

而シテ敵兵退却ノ動機及其状態等ハ目標選定ノ判断資料ナリコレヲ本状況ニ見ルニ彼我一般ノ状態ヨリ判断シ敵ハ戦況不利ニ陥リ夜ニ入りテノ退却ヲ企図セシニハアラザルカ是レ本朝我ニヨリ敢然攻勢ニ前進シ來リシ敵ヲ僅々半日ノ時間ノ経過ニヨリ戦斗ヲ断念シ退却ヲ實施セルト猶一才的判斷ノ弊ハ免レザルモ知得セル狀況ニ於テハ敵ヲ隨意退却セザルベカラザル原因ハ



考察ノ資料ニ至シキヲ以テナリ  
 三果シテ然ラバ動機ハ深く詮議シ且ツ考察スルモ利ナリ寧ロソノ  
 状態ヲ重視スルノ要アリ即チ敵ノ退却ハ動機ノ如何ニ拘ラガ  
 ソノ状態ハ徹底的打撃ヲ蒙リタル敗走ニハアラザルヲ以テ大ナル  
 混乱ハナカルベシモ退却ニ伴フ一般ノ混乱ト主力ヲ展開セル半  
 日以上ノ戦斗後ノ退却ナルトソノ退路カ地形拉ニ能ク勢上限定セ  
 ラレアルトニ想到セハ相当ノ困難ヲ伴フモノト判断スルヲ寧ロ當レ  
 リトス  
 又コノ反面敵ノ退却ハ夜ニ入り或ル程度リノ企図ヲ柵匿シ得タ  
 ルヲ以テ追撃ヲ初動時ニ於ケル被我離隔ハ稍大ナルニアラザルカ  
 然ラバ敵主力ヲ戰場ニ近ク容易ニ捕捉セントスルハ困難ナルベシ  
 時期夜間ナルニ於テ特ニ然リ  
 敵ノ開原南方既設陣地ニ據ルモノト判断スルガ如キハ戦線ニ近ク  
 實施不可能ナリ  
 コノ故ニ目標ヲ遠ク選定セリ  
 四奉天ヲ目標トシテ選ビレハ鉄嶺以南ノ平野ニ於ケル重要都市  
 ニシテ交通ノ要衝又コノ平野ヲ南北ニ分断スルノ要矣ニシテ敵ノ  
 據ラントスル公算大ナル地矣タルノミナラズ師団カ進出スベキ目標地  
 矣タルヲ以テナリ

戰場追撃

敵兵退却ノ状態ヨリ戰場ニ近ク敵ヲ捕捉セントスルノ困難ナルハ前  
 ノ如ク特ニ暗夜ナルニ於テ然リ故ニ全正面ノ各部隊ヲ以テスル追撃ハソ  
 ノ功効ク寧ロ爾後必然實施スベキ縦隊ヲ以テスル追撃ヲ遅延ナラ  
 シムルノ結果トナルヲ以テ當初ヨリ縦隊ヲ以テ廣ク且ツ深く追撃  
 スルヲ可ナリトス即チ我レガ主力ヲ以テ戰場追撃ヲ實施セバ各部  
 隊ハ地形上勢ニ開原南方隘路口ニ集リ而モ尔後ハ機動ノ余地少  
 ナキ開原一奉天道ヲ追撃セザルハカラザルノ不利ヲ呈スルヲ以テナリ  
 然リトモ敵モ亦主力ヲ以テ開原一奉天道方向ニ退却スベキ現  
 状ニ於テハ多少ノ混雜ヲ免レザルベキヲ以テ一部ヲ以テ果敢ニコレニ  
 突入セシメテ之レニ乘ズル外敵ノ注意ヲコノ方面ニ集中シテ敵ヲ抑留  
 シ主力ノ縦隊ヲ以テスル遼西方面ノ追撃ヲ容易ナラシムルヲ有效ナ  
 リト認メ左翼隊拉ニ中央隊ノ一部ヲコノ方面ニ於テ戰場追撃ヲ實施  
 セシメタリ

部署ノ細部

ノ部署ヲ二段トセシハ当初ハ先ツ敵ヲ追及スル為ノ處置トシ尔後ノ  
 處置ハ時間的ニ稍餘裕アリキヲ以テナリ師団命令モ亦自然ニ二段ト  
 ナルベシ

2. 騎兵隊ヲテ兩追撃隊ノ追撃地境ニ近ク前進セシメハ敵主力ノ追撃方尙南原一奉天道ナルベキヲ以テコレガ搜索ト兼ズベキ機會ヲ與ヘンガ爲ナリ(今ニ一四)

3. 右追撃隊ハ師團主力ノ集結ト午後ノ秩序アル追撃ノ爲ニハ時間ヲ要スベキヲ以テ比較的集結シ進出便ナル部隊ヲ以テ追撃ニ任ゼシメタリ又原則ニ本ツキ多ク砲兵ヲ配屬セリ但シ砲兵ハ拂曉以後ニアラザレバ要ナキト夜間ノ警戒後追及セシムル如クセリ

4. 主力ノ警戒戒部署、追撃隊ハ自然ニ主力ノ爲警戒ニ役立ツモ警戒ノ任務ナキヲ以テ前衛ヲ又敵主力ト併行シテ追撃スルト且ツ又コレト稍離隔セルヲ以テ連絡ヲ兼テ右側衛ヲ設ケタリ

5. 掌握連絡ハ夜間特ニ必要ナルヲ以テ無線ヲ利用スルハ有効ナリテ外回光通信付騎ヲ以テ連絡シ進路上ノ各縦隊間ニ數箇ノ連絡矣ヲ設ケ時刻ヲ定メ相互連絡ヲ確實ナラシムルヲ要ス又各縦隊ハ土民ヲ嚮導トシ進路ヲ誤ラザルコト肝要ナリヲ定メタリ

五、コノ際本朝來ノ行軍戰斗並ニ爾後ノ追撃行程ヲ考フル時將兵ノ疲憊ハ極度ニ大ナルモノアルベシト雖モ最終ノ勝利ヲ完ウシ再戰ノ勞ヲ思ハバ指揮官タルモノ目ヲ閉シテコノ長大ナル距離ノ追撃ヲ敢行セザルベカラズ(今ニ一)

追撃重負

敵主力ノ退却方向カ敵退却開始時ニ於ケル彼我ノ戰線遼河ノ障礙、敵ノ背後連絡線等ヨリ判断シ南原一奉天道ナルベキハ略想像ニ難カラザル所ナリ

而シテコノ方面ニ退却スル敵カ爾後如何ナル企圖ヲ有ストスルモ退却中ノ敵ガコノ道路ヲ遠ク離レテ企圖ノ遂行ハ不可能ナリ然ラバコレヲ破摧センガ爲ニハコレニ尾シテ追撃スルハ徒ラソノ正面ニ向フニシテ利ナキノミナラズ夜間ハ一部ノ抵抗妨礙ニテモ之レハ排除ニ時間ヲ要シ此間敵トノ離隔ヲ益々大ナラシメ追及捕捉ノ可能性ヲ失ハシムルニ至ル特ニ南原南方ニハ敵既設ノ陣地アリテ地形抵抗ニ便ナリ以テ敵ハ必ズ一部ヲ以テ我ヲ拒止スベク尙其後ト雖モコノ方面ハ進路山脚ニ沿ヒ走レルヲ以テ歩々ノ抵抗ニ適シ我機動ハ一方面ニ限定セラレル害アリ

是レ今ニ一五ニ廣ク且ツ深く敵方ニ突進シテ退路ヲ遮断

シ諸方向ヨリ敵ヲ包圍シ……ト所謂併行追撃ヲ高潮セラレタル所以ニシテ夜間追撃ニ於テ特ニ然リ  
 茲ヲ以テ師団ハ追撃ノ崖上ヲ機動容易ナル遼河右岸地区ヲ  
 経テ廣ク且ツ深ク奉天西方地区ニ向ハシメタルナリ  
 併行追撃ハ迂路ナルガ如キモ抵抗少キヲ以テ終局ハ追撃ノ成果  
 ヲ最大トシラシムルモノナルヲ思ハサルベカラズ  
 尚主力ハ遼西方向ニ回ハシムルモ敵主力ニ尾シコレヲ追及シテ抑  
 留スルノ必要アルヲ以テ一部ヲコノ上面ニ指向セリ

所想定  
 五十分、二十五分、十分(假定) 遼河附近圖  
 十分分、一(五十分)ト假定) 齊齊爾附近圖

依克明安城公府大來先附近圖及寧年站  
 齊齊爾附近圖

(一) 戰況

一 三月下旬以來北守附近ニ集中シ、敵ヲ擊滅スベキ任務ヲ有スル藍國第一軍  
 ハ三月二十八日以來呼祐爾河南方地区ニ作戰中ナルIKK掩護、下ニ海  
 拉爾方向ヨリ齊々哈爾附近ニ集中シタリ  
 IKKハ三月三十一日朝來依守北側地区ニ於テ約一師團ノ敵ト遭遇  
 セルモ爾後、情況不明ナリ  
 二 呼祐爾河北岸地区ニ作戰シ、軍將來ノ作戰ヲ有利ナラシムベキ  
 任務ヲ有スルIPWS I Rst ISA I Rst SAS IAY ID I FM S (E) I P S I T L S F I Z (E) I B K  
 ノ先頭兵團トシテ四月一日夕迄ニ齊々哈爾北側地区ニ集結ヲ完了  
 後四月一日夕、小泉子附近ニ泰安西方約一八料) 及同北方地  
 區ニ進出セル約二師團ノ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ一日夜ニ時集結地  
 區ニ發別紙、如キ部署ヲ以テ兩床房子、陽業屯、線、向ヒ前進  
 中

三 第一師團長ハ四月二日黎明ト共ニ馬ヲ馳テ前衛司令官ノ許ニ急



行シ。五〇樹標南方約千米、地臭ニ於テ同官一追及セル時  
猶急激ナル砲聲ヲ東北方ニ聞キ再ニ前衛司令官ト共ニ馬ヲ馳  
テ六二〇三間房子情報所ニ先行シ微ニ銃砲声ヲ東北方ニ聞  
キツ左記狀況ヲ知ル

人昨夕三間房子ニ進出シ略同等ノ敵騎ト相對峙中ナリシBK(3)ガ  
冬ハ昨夜半以來逐次進出シ來レル優勢ナル敵歩騎兵ノ圧  
迫ヲ受ケ主カヲ以テ陽家屯ニ一卻ヲ以テ内處房子西側高地ニ  
後退塔々爾站一泰守道ヲ前進セルBK主カト共ニ同地附近  
確保ニ努メツツアルモ四、三〇頃ヨリ推テ優勢ナル敵、溢出攻  
撃ヲ受ケツツアリ

2、右先遣隊ハ四、〇〇過キ主カ(三中)ヲ以テ242高地(三間房子東側高  
地)一卻ヲ以テ同北側高地ヲ占領セルモ五、四〇頃ヨリ敵兵逐次  
陣前ニ現出ス  
又同隊ヨリ四、二〇頃以來小哈洲東北地方地區ノ銃砲声ハ逐次  
西北ニ移リツツアリ右先遣隊ハ目下BKト連絡中ナル旨報告  
アリ

3、右先遣隊ハ四、三〇確實ニ一卻ヲ以テ圍房子、揚家屯西古四料  
附近主カヲ以テ242(圍房子西北約一、五料)ヲ占領ス〇四、五〇迄  
其前面ニ敵ヲ見ス

又右後隊ハ六、〇〇先頭ヲ以テ三米子ヲ通過ス

六、獨立後隊ハ既ニ三間房子南側ニ到着シアリ同時情報所附  
近ニ散發ノ砲聲落下シ續テ急激ナルMG声ノ東方ニ起ルヲ  
聞ク又北方ハ微ナル砲聲ノ轉アリ當時大兵中隊ハ全員流  
汗淋漓潑刺タル志氣ヲ漲ラセツツ勇躍師團長、面前ヲ通  
過北進中ナリ

四、獨立飛行第一中隊(甲)ハ本朝來IDニ協カシ其第一線ハ既ニ約  
一時間前師團ノ上空ヲ飛翔シ東北進セルヲ見ル

五、地形其他ニ関シ知ル所左ノ如シ  
人嫩江ハ河中200米流速一乃至二米ナルモ目下流水アリテ  
架橋困難ナリ  
呼祛爾河ハ河中知水水深一米内外ニ過キサルモ河底泥土  
ニシテ徒渉ヲ許サス且同河兩岸ノ斷崖ハ高ク數米ニ達シ  
攀登困難ナリ

2、圖上ノ濕地ハ乾涸シアリ  
3、戰場附近ノ地質ハ一般ニ粘土質ニシテ草原ヲ成シ到ル處諸  
兵ノ通過ヲ許スモ降雨アル時ハ道路ト雖モ泥濘ヲ極メ行  
進ヲ阻害スル事少ナカラス  
大馬塚崗子(塔々爾站西南方約三料)——十里河子(塔々爾



北北約...  
 大戦場附近、鉄道ハ現存セス  
 6日出 〇五、五〇  
 日没 十八、〇五  
 薄明 約一時間  
 四月、恒風東北風(風速平均二、五米)

第一問題

〇六、一〇ニ於テ第一師團長ノ情況判断  
 判決及處置、大要(要圖答解)

注意 小方眼紙 五分分一

一月二十七日 〇八、〇〇 迄ニ至出

第一師團、編制ハ字ノ一トス

想定別紙  
 第一師團前進部署

軍隊區分	編	組	性	務
正縦隊	長☆/6iB			二時ハ高梁地ニ發着、ハ爾ハ馬提 崗、一十里河子、三家子、五家子 揚家化、揚樹林子、道、揚樹林 子、向ヒ前進
	2iB(21-34) / 32			
	☆LPWS			
	☆K(-18)			
	IIA			
	☆P(-16)			
	☆S			

1PMs (包)ハ拂曉後1K及右先遣隊ニ協力  
 大行李ハ本隊ノ後方二十米輜重(BKヲ含ム)ハ其後方四十米ヲ前進出  
 IM各一中及IFL2FLハ先遣輜重トシテ本隊ノ直後ヲ前進  
 TLハ軍主力トシテ間、通信連絡

一月二十七日 〇八、〇〇 出

想定別紙  
第一師團前進奇襲

軍隊區分	編組	任務	右縱隊 (分區團梯同)				前衛隊	左先遣隊	右先遣隊	IK
			團梯立獨	團梯二第 (別本軍行用)	團梯一第 (別本軍行用)					
			ISA <sub>3</sub> IAA IZ (1/3)	S(-2/3) 1/3 TA 12/4 L 1/4 L 1/3 P ISA 4i(-1/3) RST/A 2RST ISA	1/4 P 1/2 L 1A(-1/4) 1/3 TA (RST) 5/2 L 1/3 TA 1/3 TA 1/3 TA 1/3 TA	DTL ISF (前衛後尾續行)	I(-3,4) 3 L 1/6 K 1/6 K 1/6 P	I/L 1/6 K 1/6 A 1/6 P	IK 2/4 (-2/16) 欠	
			長△/1iB 2iB(1-34/32) 1/2 LPWS 1/4 K(-1/3) 2A 1/4 P(-1/6) 1/3 S			距離一五〇〇米				
			子向ヒ前進	三時前高頭出發齋々哈爾一ハ哈伯一吉四室七一三間房子道ラ三間房子二向ヒ前進	前衛、後方一五〇〇米ヲ前進					
			子向ヒ前進	二時前高頭出發齋々哈爾一馬提崗一十哩河子一三家子一五家子一揚家化一揚樹林子道ヲ揚樹林子向ヒ前進						

1/15 (包)ハ排腕後IK及右先遣隊ニ協力  
大行李ハ本隊ノ後方ニ付米輜重(BKヲ含ム)ハ其後方四千米ヲ前進  
1/1 AM各一中及IFL 2FLハ先進輜重トシテ本隊ノ直後ヲ前進  
1/1 八軍主力トシテ間、通信連絡

裏面白紙

第一問題 京京

判決

師團ハ有カナル一命ヲ以テ當面ノ敵ヲ攻撃セシメ主カハ戦闘準備ヲ整ヘツツ依然ル楊樹林子ノ線ニ向ヒ前進スルヲ要ス

處置

一 IKハ前衛ノ進出ニ伴ヒ之ト交代シ左先遣隊方面ニ轉進シ爾後 BK

長ノ指揮ニ入ラシム

二 BKノ許ニ副官ヲ派遣シ之ヲ掌握シ且 IKヲ其指揮ニ入ラシメ楊家

化及團上奇北線北方地區ヨリ敵主カ兵團ノ行動ヲ搜索セシ

ムルト共ニ師團ノ左側背ヲ警戒セシム

三 前衛ヲシテ右先遣隊ヲ併セ指揮シ右先遣隊及 IK 當面ノ敵ヲ

撃破シ爾後本道兩側地區ヲ以テ(八家子南方ニ料)ル高地ノ線ニ向

ヒ前進セシム

四 主カハ其一隊ヲ除キ之ヲ三間房子ニ發置シ師團長ノ直轄タ

ラシム

五 左縱隊ヲシテ前衛ニ連繫シツツ三家子一五家子一楊家化一

團上奇北線ニ沿フ地區ヲ楊樹林子南北ノ線ニ向ヒ前進セシム

六 右縱隊前衛及左縱隊間ノ搜索(警戒)地境ハ五家子南端ニ

(楊家化南方ニ)ハ八家子北端ヲ連ヌル線トシ線上ハ前衛

慶又

六、本隊砲兵中隊(A)ハ前進セシ、先其主カヲ以テ三間房子附近ニ陣地ヲ占領シ前衛ノ戰鬥ニ協カシタル後前衛ノ進出ニ伴ヒ概ネ前衛ハ左縦隊ヲハ爾一塔子爾站一八家子本道ニ沿テ地亞前衛及左縦隊ノ戰鬥ニ協カシ得ル如ク射撃準備ヲ整ヘツツ逐次躍進セシム

速ニIA、IIヲ掌握セシム

七、第一梯團(A々)ハ前衛ノ進出ニ伴ヒ概ネ本道ニ沿テ地亞前衛ノ後方概ネ二午米ノ距離ヲ前進セシム

ISAヲ其指揮ニ入ラシム

八、第二梯團(ISA々)ハ第一梯團ノ後方約一五〇〇米ヲ前進セシム

九、獨立縦隊ハ第一梯團第二梯團間ヲ躍進セシム但AA、HAノ防空

十、IP主カハIAノ陣地推進ニ協力セシム

十一、左先遣隊ハ左縦隊ノ進出ニ伴ヒ左側衛トナリ楊家屯北側地區ヲ經テ左縦隊ノ北方約一午米ヲ揚樹林子基準<sup>1000</sup>ニ向ヒ前進セシム

十二、FMSハ本道及圍上喬北線ニ沿テ地區ニ主トシテ敵主カカ兵團ノ前進狀況ヲ搜索セシム

十三、DILハ先三間房子ヲ基点トシヨ前衛司令官ノ間、有線連絡及左縦隊左側衛隊トヨ間、無線連絡ニ付セシム

十四、其其他畧ス

第一問題 京案ノ說明

本問題ハ作要第二部六六ノ研究ナリ

一、師團ハ今ヤ騎兵隊右先遣隊等其一部ニ於テ戰鬥ヲ惹起セルモ是等ハ何レモ局部的ノモノニシテ未カ以テ敵主カト遭遇セルモノト断定シ得ベキ資料ナシ而シテ敵軍ノ慣用戦法ヨリ推察シ得ル大隊等ノモノトモ想像シ得ラレサルニ非サルモ之亦判定ノ資料ナシ此ノ如キ情況ニ基キ師團ハ如何ニ行動スルヤヲ考察スルニ作要第一節ハ、敵情判断ノ項ニ基キ師團ハ飽ク迄攻撃ヲ為シ前進ヲ繼續スル自主的ノ方針ニ重ナル影響ヲ及ボスベキ敵ノ行動ヲ判定シ敵ノ此ノ行動ニ對シテ覺ラ取ラサル如ク部置スベキナリ

果シテ然ラハ敵ノ我前衛ヲ繼續ニ重ナル支障ヲ與ルモノハ敵主カガ既ニ戰場ニ到着シ我が行軍縦隊ニ在ル間既ニシテ我ニ殺到シ來ル場合ナリトス之レ敵ニシテ昨夜半ハ家子附近ヲ出發セバ十分揚家屯附近ニ到着シ行ベキヲ以テナリ

即チ師團トシテハ作要第二部六六ニ在ル如キ手段ヲ講シ假令敵主カト衝突スルモ直ニ封應シ且有利ナル態勢ヲ確保、自由ヲ保持シツツ前進ヲ繼續スルヲ要スル所以ナリ

二、右先遣隊正面ノ敵ノ處理

三、右先遣隊ハ既ニ敵ノ攻撃ヲ受ケツツアル事明瞭ナリ而



シテ右先遣隊ノ占領シアル高地ハ師團トシテハ現況上絶対  
ニシカ確保ヲ必要トスベキ要點ナリ蓋シ該高地ヲ敵有ニ歸  
スルニ於テハ實ニ敵ニ對シ師團主力縱隊ヲ暴露スルノミナ  
ラズ呼祐爾河ニ依リ南カ、進路ヲ制限セラレタル師團ノ前  
進路ハ勢ニ同高地以北ニ束メサルヲ得ナルヲ以テ之ハ正ニ亦  
師團前進ノ爲メ一軸タルベシ況ンヤ一般ノ地形上師團  
ハ少ク共ニ五家子ヲ連ヌル線以北ニ決戰場ヲ求ムルヲ必  
要トスル於テオヤ即ケ右先遣隊正面ノ敵兵力ハ末詳ナリ  
ト雖モ師團爾後ノ兵力運用ヲ拘束セサル範圍ニ於テ鷄  
ヲ裂クニ牛刀ヲ用フル主義ヲ採リ且速ニ之ヲ確有スル爲前  
衛ノ主力ヲ用フルヲ可トス

三 搜索警戒ノ要

師團トシテ目下最モ知得ニ要スル敵情ハ勿論敵主力ノ行  
動ナリ之ク爲飛行隊ノ活動ハ勿論ナリト雖モ地上搜索機  
関タルハ特ニ目下連絡ヲ断絶セルハ主力ヲ一時指揮下ニ入レ  
以テ搜索實施施ノ統一ヲ圖ルベキ事敵ヲ講スルヲ要ス此ノ  
如キ手段ヲ講スルモ適時敵情ヲ得ル事困難ナルハ戰史ノ明  
証スル所ナリ即チ師團トシテハ前進スル各師團ノ警戒ニ  
相漏ナカニシテ持ニ北カヨリスル敵ノ迂回ニ對シ師團ノ弱

四 前進法ニ就テ

突ヲ露セサル如ク着意スアルヲ要ス  
前進法ニ就テ  
前衛及左縱隊ニ對シ搜索警戒地境ヲ劃定スルノミナラ  
ズ本隊砲兵ハ絶エズ前衛又ハ左縱隊ノ戰鬪ニ協力シ得ル  
如ク逐次躍進セシメテ不意ノ衝突ニ際シ初動ノ威力ヲ  
ニカシク用フルヲ可トス而シテ野戰重砲ハ其陣地裏  
野砲ノ如ク輕快ナラサルニ鑑ミ之迄射撃準備ヲ整ヘ  
シツツ前進セシムルハ必要ニ際シ機ヲ失スル恐少ナリ  
カレテ以テ前衛ニ近ク行軍姿勢ノ儘續行セシムルヲ有  
利トス本隊中ニ在ル歩兵ハ前衛又ハ左縱隊ノ衝突ニ際  
シ師團長之ヲ以テ重兵ヲ成形スベキ重要ナル兵ヲナルヲ以  
テ前衛及左縱隊ノ戰鬪ニ直ニ加入シ得ル如ク行動ノ自由  
ヲ失ハサル限リ近ク其後方ヲ前進セシムルヲ要ス

五 前進ノ標ニ就テ

八家子西側ニハ米粥南北ノ綫線ハ地形上一ノ結節ナリ即  
チ同線迄ハ二條實線路南北地區ニハ共ニ緩徐ナル高地脈  
アリ師團ハ敵トシテ進路ニ當リ南北何レニモ重兵ヲ成形シ得ル  
如ク主カチ本道ニ進ムルヲ有利トスルニ該線以東ニ於テハ主カチ  
是ニ基キ師團ハ昨夜

半目標ヲ茲ニ選定セシモ目下敵軍カが果シテ何レニ在ルヤ不  
明ナル情況ニ於テハ今尚且ラ更スルノ要ヲ認メス師團内  
各隊ノ氣勢ヲ弛ムル事ナク前進ヲ繼續セシムルヲ要ス

狀况第一  
師團長ハロホ一ノ第一問題ヲ察ス如キ情況判断ニ基キ先ツ  
前衛ヲシテ右先遣隊及IK臺面ノ敵ヲ攻撃セシムルニ決シ  
左ノ命令ヲ下達ス

第一師團命令 四月二日 六、一五  
三間房子

- 一 敵情及友軍ノ狀況貴官ノ知レル所ノ如シ
- 二 師團ハ前衛及左縱隊ヲ以テ臺面ノ敵ヲ撃破セシメ主力  
ハ戦闘準備ヲ整ヘツツ依然ク揚樹林子ノ線ニ向ヒ前進  
セントス
- 三 左縱隊ハ五家子南端<sup>202</sup>八家子北端ヲ連ヌル線(線上ハ前  
衛ニ屬ス)以北ノ地區ヲ臺面ノ敵ヲ撃破シツツ揚樹林子  
南北ノ線ニ向ヒ前進ス
- 四 IK前衛ノ進出ニ伴ヒ團房子ノ方ニ轉進ス
- 五 貴官ハ連ニ右先遣隊ニ向ヒ指揮シ臺面ノ敵ヲ撃破シツツ  
本道兩側地區ヲ<sup>277</sup>高地ノ線ニ向ヒ前進シ師團ノ前進ヲ  
掩護スベシ
- 六 主力ヲ三間房子附近ニ挺進セシメ先ツ前衛ノ戦闘ニ  
協カシタル後其進出ニ伴ヒ本道兩側地區ヲ逐次躍進シツ

ツ前衛及左縱隊ノ戦闘ニ協力ス  
 IP主力ハ依然一カ隊ヲ貴官ノ指揮ニ屬シ爾余ノ言カハ自  
 今予ノ直轄トス三間ノ傍ヲ發置スベシ  
 四予ハ暫ク現在地ニ在リ爾後第一梯團ノ先頭ニ在リテ本  
 道ヲ前進ス

師團長

某 中 將

下達

前衛司令官ニ直接口達シタル後命令受領者ニ筆記セシム  
 師團長ハ六、二五右命令ノ下達ヲ終ルヤ同時IKヨリ左記報告  
 ヲ受領シ前衛司令官ト共ニ披見ス

IK報告

號 四月二日 五、五〇

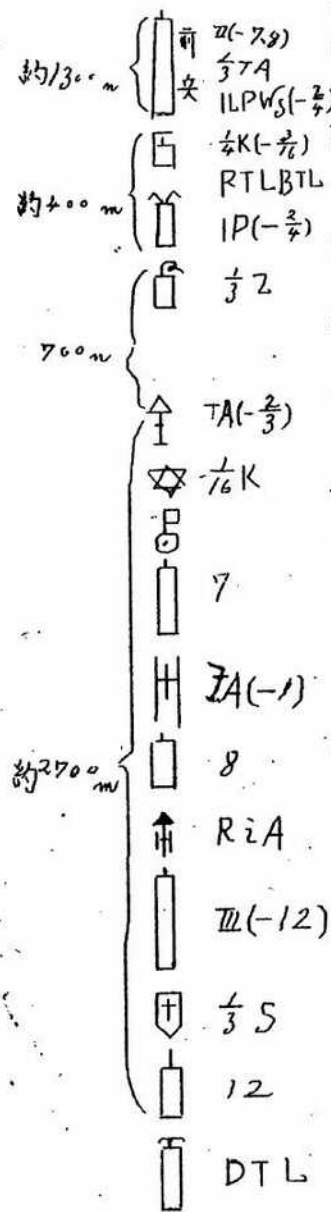
一 IKハIKノ一部ト共ニ本宇朝來西處房子西側高地ヲ占領シ  
 アリシモ四、二〇頃ヨリ戰車十數輛並ニ砲十數門ヲ有スル敵  
 歩騎兵ノ攻撃ヲ受ケ遂ニカカノ河地ヲ撤退スルノ止ムナ  
 キニ至リ目下ハ哈利北側高地ヲ占領中ナリ  
 二 我ニ追尾中ナリシ敵ハ主力ヲ以テ西南方右先遣隊方面  
 ニ前進シIK當面ノ敵ハ數百ニ過ラサルモノ如シ  
 敵主力カ兵團ノ行動ニ關シテハ未タ不明ナリ  
 三 IK主力ハカノ前後協同化ヲ撤退セルモノノ如キニ爾後

ノ行動不明ナリ候ノ報告ニ依レハ目下揚象化西南方地區ニ  
 ハ敵ヲ見サルニ揚象化ニハ戰車自動負車東方ヨリ進入中  
 ナルカ如シ  
 四 IKハ依然ハ哈利附近ニ確保シ師團ノ進出ヲ掩護ス  
 目下尚IKト連絡中

師團長殿

IK隊長 某 大佐

茲ニ於テ師團長ハIK連絡將校ニ命令ヲ筆記携行セシムル  
 ト共ニ前衛司令官ト所要ノ協定ヲ遂ケシム時ニハ六ミロアリ  
 當時ニ於ケル前衛ノ前進部署左ノ如シ



對空對機甲對及斯訂罪ハ各人想定スベシ

第二問題

口大三〇ニ於ケル

前衛司令官ノ決心

要圖答解(理由ヲ要セス)トシテ命令下達ノ順序ヲ附記スベシ

注意

- 一、用紙、四方眼紙
- 二、様尺、五分分一
- 三、呈出

狀況第二(命令ヲ以テ第二問題ヲ解決スベシ)

一、前衛司令官ハ工兵主力ニ直ニ現在地ニ停止ヲ命スルト共ニ、先遣隊ハ相次左記命令ヲ下達ス

其一、IA長前兵長及IA長ニ共フルモノ  
一、旅作命令 第一号 其一

前衛命令

四月二日 六三〇

各部隊ニ

一、右先遣隊ハ〇五〇頃以來、敵主力ノ情況ハ未ダ不明ナリ、戦車ヲ

用スル敵、攻撃ヲ受ケツツアリ、ICハ谷ノ東側高地ヲ占領シ、敵百

敵ト相對ス、師團ハ戦闘準備ヲ整ヘツツ依然然、楊樹林子ノ線

左縱隊ハ壹面、敵ヲ攻撃シツツ楊樹林子南北ノ線ニ向ヒ前

進ス

二、前衛(右先遣隊ヲ屬セシメラル)重要ラ242高地ヲ向ニ指

シ、五、赤子南端262八赤子北端ヲ連ヌル線(線上ハ前衛ニ

屬ス)以南、地區ヨリ壹面ノ敵ヲ攻撃シ、243兩麓ヲ占領シ、

高地ノ線ニ進出セントス、217

IA主力ハ先三間房子附近ニ陣地ヲ占領シ前衛ノ攻撃ヲ協

助ス



三、長八麾下聯隊（先遣隊ヲ復歸シ前兵大隊及ワハノ）及  
 旅團無線一分隊ヲ指揮シ右第一線トナリ右先遣隊  
 連面ノ敵ヲ攻撃シ263高地南北ノ線ニ進出スベシ  
 聯隊通信班ヲシテト在右第一線ノ間ニ構成ノ準備ニ  
 在ラシ  
 四、前兵（先遣隊）ヲタキワテ復歸スハ概ネ本道西側地區ヨリIK  
 面ノ敵ヲ撃破シ兩處房子西側高地ニ進出スベシ  
 貴大隊ノ進出ニ伴ヒIK八圍房子方面ニ轉進スル筈  
 六、右第一線一部ヲ以テ左第一線ノ戰鬥ニ協カスベシ  
 六、右第一線一部ヲ以テ左第一線ノ戰鬥ニ協カスベシ  
 高地ノ方向ニ前進ス  
 前衛司令官 某少將  
 長及IK長ニ直接口達シツツ命令受領者ニ筆記セシム

其二 旧先遣隊ニ共フルモノ  
 一本作命令 号其二  
 前衛命令 四月二日六、四〇  
 三間房子

一、敵主力ノ情况未ダ不明ナリ  
 IK八目下ハ吟洲北側高地ヲ占領シ數百ノ敵ト相對ス  
 師團一部ヲ以テ連面ノ敵ヲ攻撃シ主カハ戰鬥準備ヲ整  
 ヘツツ依然242揚樹林子ノ線ニ向ヒ前進ス  
 二、前衛ハ自今貴隊ヲ伴ヒ指揮シ重ク263高地ノ方向ニ指  
 向シ連面ノ敵ヲ攻撃シ263兩處房子西側高地ノ線ニ進出ス  
 三、貴隊ハ現在地附近ヲ確保シ前衛ノ展開ヲ掩護シタル後  
 右第一線聯隊ノ進出ニ伴ヒ其轄下ニ復歸スベシ但シハ視察地  
 下達法  
 旅團副官ヲ派遣傳達セシム  
 前衛司令官 某少將

其三、爾余ニ其フルモノ  
一旅行命令 号其三  
四月ニヨッ六、四五

前衛命令 二間房子

一敵主カ、状況未タ不明ナリ  
右先遣隊及在ハ哈洲北側高地IKハ有カナル敵ト目下交戦  
中師團ハ戦鬪準備ヲ整ヘツツ依然ル揚樹林子ノ線ニ向ヒ  
前進ス  
二前衛ハ五家子南端262入家子北端ヲ連ヌル線以南ノ地區ヨ  
リ重兵ヲ242高地方向ニ指シ當面ノ敵ヲ攻撃シ263西處  
房子西側高地ノ線ニ進出セトス  
三主カハ242高地及同北側高地ヨリ又前兵ハハ洲方ヨリ  
各當面ノ敵ヲ攻撃ス本隊砲兵タルIA主カハ三間房子附  
近ニ前進シ主トシテ前衛ノ戦鬪ニ協カスル筈  
四IP(子)ハ直ニ三間房子ニ到リ師團長ヲ下ニ入ルベシ但其一  
隊ヲ直ニ242西北側地區ニ到ラシメ前衛砲兵ノ陣地進入ニ  
協カセシムベシ自今該小隊ハ三ノ直轄トス  
五クハ直ニ本道ヲ前進シ前兵大隊長ノ隷下ニ入ルベシ  
六ハハ三備隊トス先三間房子ニ到レ爾後242高地北側ヲ經

ナ263高地方向ニルノ後方ヲ前進  
六旅團通信班ハ☆ヲ基點トシ西第一線ト連絡スベシ  
七部ハ三備隊ト共ニ行動スベシ  
八予ハ暫ク現在地ニ在リ第一線ノ進出ニ伴ヒ242北側高地ヨリ263方  
向ニ前進ス  
前衛司令官 某少將

下達法  
IP及旅團通信班ハ先要旨ヲ傳ヘ後命令受領者ニ口達  
筆記セシム

第二問題系本、説明

1、攻撃の重要

242 ハ師團前進ノ爲、要トシテ去ラ敵手ニ委スルニ於テハ師團ノ本道方面ヨリノ前進ノ極ノ困難ナルベキハ勿論若シ敵主力ニシテ既ニ近ク先遣隊正面ニ進出シアル場合ニ於テハ師團ノ爲展開ノ枢軸タルベキモノナルヲ以テ先立ヲ確立實ニ我軍中ニ収ムルヲ要ス

2、攻撃兵力ニ就テ

前衛ノ攻撃ハ壹ニ壹面ノ敵ヲ撃破スルノミナラズ敵主力ノ状況ヲ搜索スル爲有カナル保証タルベキモノナルヲ以テ十分威力アル兵力ヲ以テ壹面ノ敵ニ衝撃ヲ共ヘ以テ初動ノ威力ニ依リ將來ノ有利ナル戰勢確保ノ着意ナカルベカラズ此際徒ラ敵情不明ヲ以テ理由トシ縦長ヲ大ナラシムスルハ却テ益々敵情知得、平段ヲ失ヒ師團ノ爲密リ前衛ノ積極的任務遂行ヲ躊躇スルモノナリト云ハサルベカラズ

3、部隊ニ就テ

前兵ハ既ニ三間房子ヲ通過セルヲ以テ去ラ以テIK當面ノ敵ヲ攻撃セシメ242ハ前衛本隊中ノ部隊ヲ以テ攻撃セシムルヲ可トシ且正面相當ニ廣大ナルヲ以テ縦長ニハ242方面ノ指揮セシム

前兵大隊ハ依然ト直轄スルヲ可トス  
砲兵大隊ハ速ニ陣地ヲ占領セシメ先遣隊ノ威力ヲ増大スル爲  
目下既ニ三間房子ニ近ク前進中ト判断セラルルヲ以テ直  
其附近ニ陣地ヲ占領セシムルヲ可トスルカ如キモ三間房子附  
近ニテハ適達ナル觀測所ナク却テ射撃ニ困難ヲ感スルヲ以  
テ連區戰ノ如ク直接指揮ヲ必要トスル情況ニ於テハ此地形  
ニ鑑ミ先遣隊掩護ノ下ニ近ク挺進セシムルヲ可トス  
今ヤ師團ノ前進目標迄約十村ヲ余スノミナルヲ以テ一舉ニ  
之迄進出スルハ前衛トシテ大ニ希望スル所ナルモ今尙敵主  
カノ行動不明ナル情況ニ於テ前衛カ攻撃部署ノ儘一舉ニ  
ニ師團ノ前進目標迄進出スルハ一考ヲ要ス蓋シ當面ノ敵ヲ  
撃破後直ニ敵主力ト遭遇スル場合ヲ考慮セハ常ニ前衛ハ有  
カタル砲兵ト協調ノ下ニ前進スルヲ要シ且前進中ノ各部隊  
相互間ニモ十分ナル連絡ヲ保ケツツ前進ノ要アルヲ以テ途中ニ統  
制シ假令何處ニ敵主力ト遭遇スルモ直ニ歩砲ノ連絡アル攻撃  
ヲ施シ得ル如クスルヲ要ス之ガ爲北部隊ノ高地及西處房子西側  
高地ハ一ノ要線タルノミナラス現在地附近ヨリスル砲兵ノ有力ナル支  
援ヲ可能トスルヲ以テ先此隊ニ進出スルヲ以テ第一躍進目標トスルヲ要ス

狀況第三

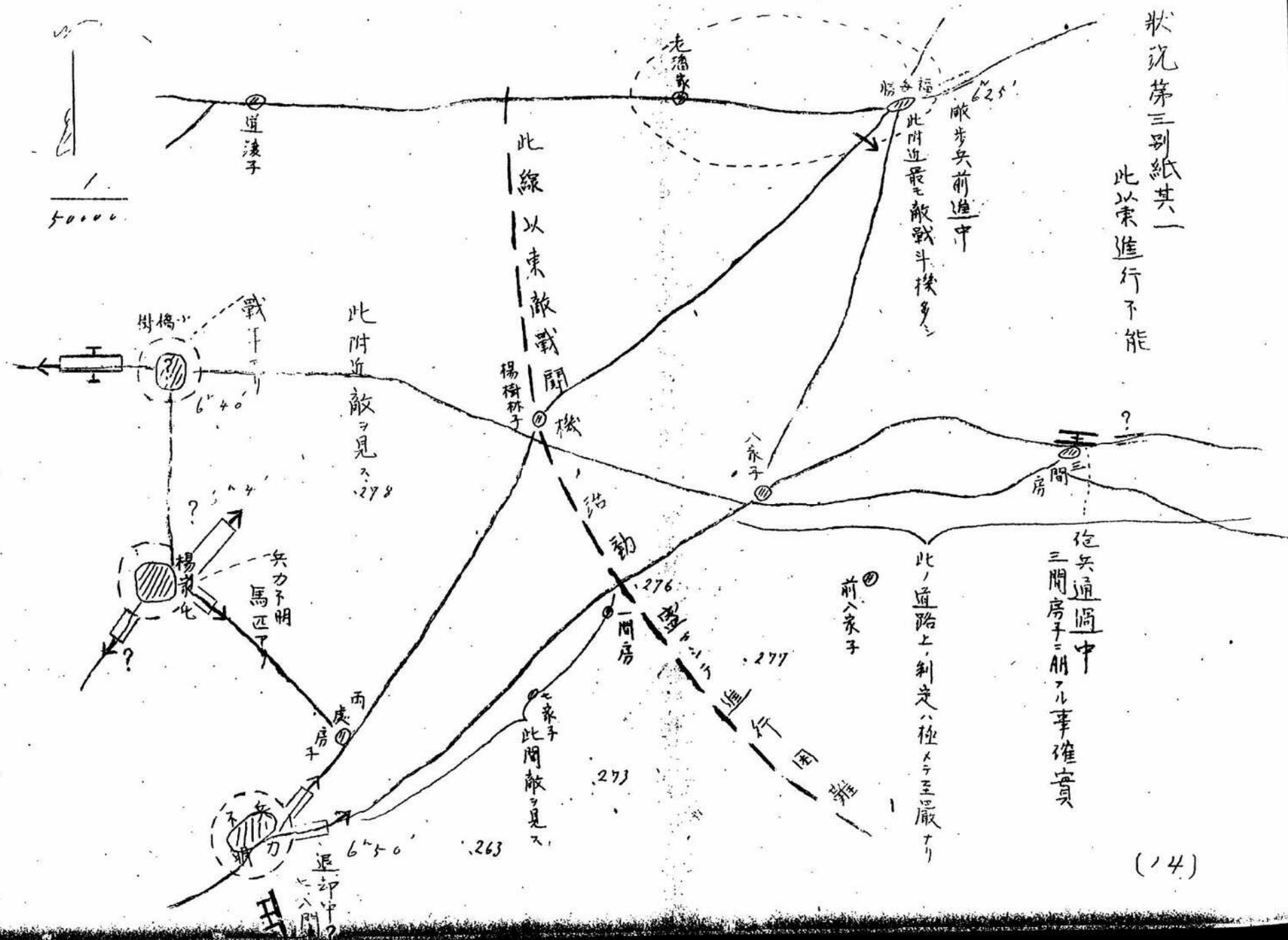
一、師團長ハ第一問題ノ解決ノ如キ情況判断ニ基キ三間房子ニ  
於テ各部隊ヲ部署中セシメ別紙其一ノ如ク我飛行機ノ第  
一報ヲ受領ス

問 師團長ハ快心又ハ處置

二、師團長ハ旧右先遣隊及ハ當面ノ敵ハ其一部ニシテ彼我主力  
ノ戰場ハ概ネ大哈洲揚家屯ノ線以東ナルベシト判断シ此旨  
前衛司令官並左縱隊長ニ通報セル外別ニ處置スル所ナシ  
三、前衛ハ七〇頃ヨリ逆次同右先遣隊及ハ敵斗ニ加入シ當  
面ノ敵ヲ攻撃セシカセ、二〇頃ヨリ當面ノ敵ハ一有ニ退却ヲ開始  
シ前衛ハ直ニ追撃前進ニ移リハハハ洲附近ニ兵力ノ集  
結ヲ開始ス  
茲ニ於テ師團長ハ砲工兵指揮官ヲ隨ヘ先ニ北側高地  
ニ躍進シ七〇五同高地ニ登リ前衛司令官等ト共ニ敵  
情地形ノ觀察ニ努メシモ朝來ノ朝霧未タ霽レズ且旭光  
ノ爲敵情ヲ確知スル能ハス當時銃聲ハ各方面共ニ逐次激  
タルニ至リ獨リ三間房子附近ニ於テ敵機ノ盛ニ我AAノ砲  
火ヲ肩シツツ第一梯團ヲ攻撃中ナルヲ望見ス  
四、ハハハ師團長ハ先我偵察機ヨリ別紙第一ノ如ク報告ヲ







狀況第三別紙其一  
此以東進行不能

敵步兵前進中

此線以東敵戰鬥中

此附近敵ヲ見ス

此ノ道路上、利走ハ極メテ至難ナリ

前八家子

兵力不明  
馬匹了

(14)

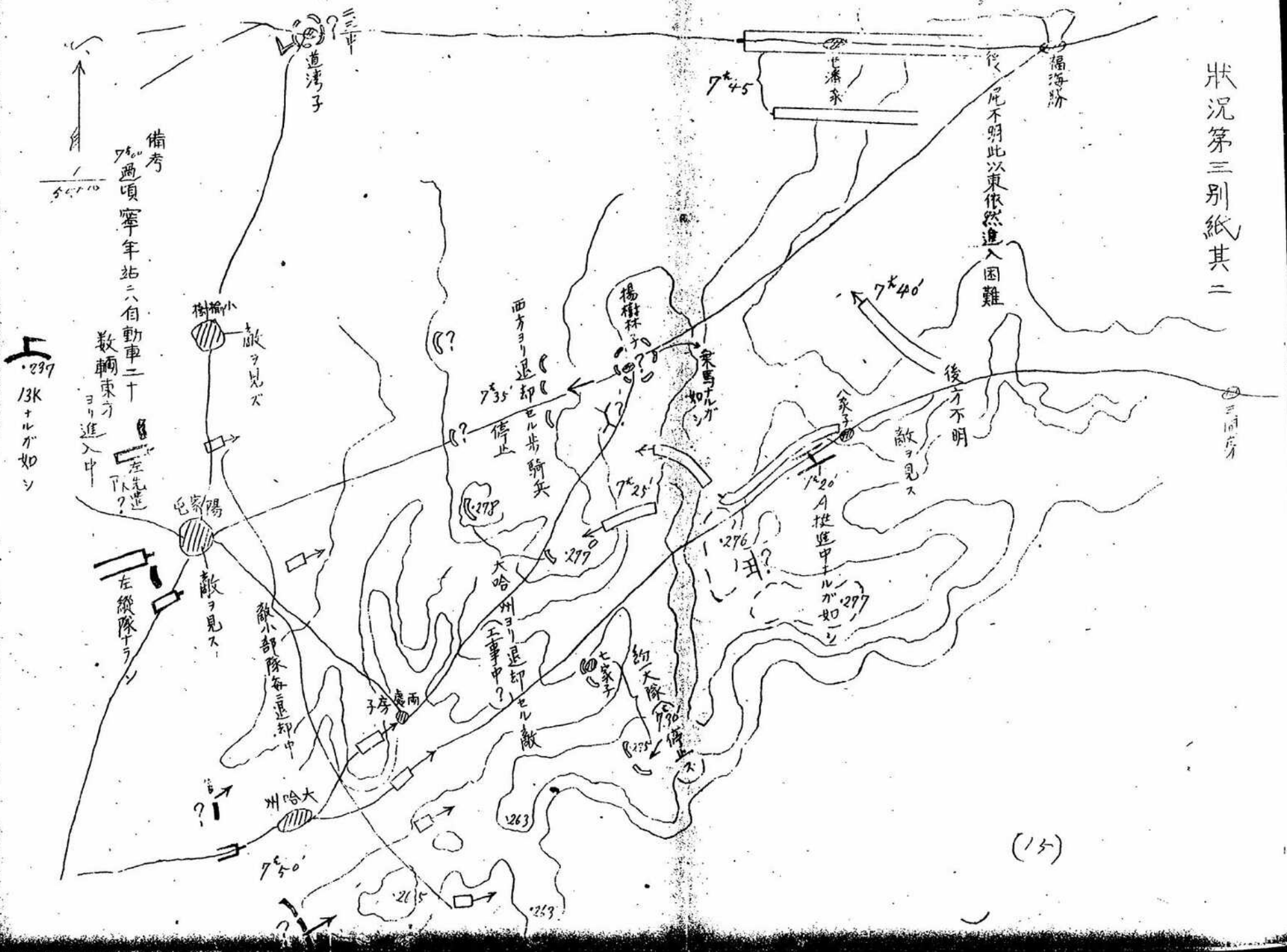
第三問題

○ハ、ワロニ於ケル第一師團長ノ快心  
要圖答解(理由ヲ要セス)  
用紙ハ方眼紙五万分ニ  
至出一月三十一日ロハ、ロ

裏面白紙



狀況第三別紙其二

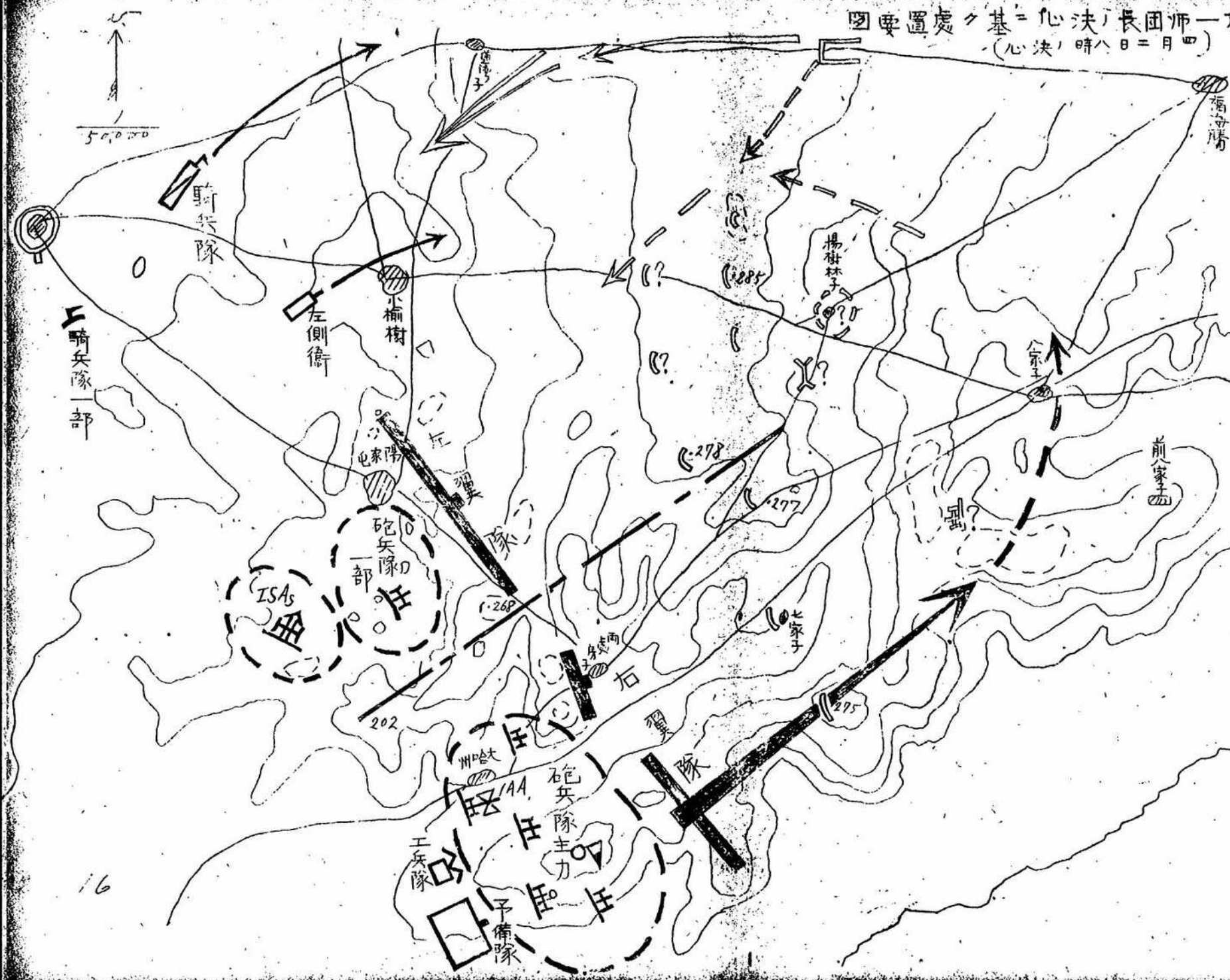


裏面白紙

(15)



第一師團長決心之基處要圖  
 (四月八日決心)



第一師團長決心  
 師團ハ速ニ兩處房子西側高地陽家屯ノ線ニ展開シ重兵ヲ本道背後ニ布陣シ  
 指尙シ當面ノ敵ヲ擊破シタル後引續キ敵主力ノ左側北月ヲ求メラ攻惠セントス

裏面白紙



第三問題 系案其二

處置

騎兵隊 (BK) 以テ密着年粘方面、敵ニ對シ發言式

ニシテカヲ以テ東房子道、渡子方面ニ前進セシメ師團主力

左側北側ヲ檢護セシム敵ノ正進ニ受ケルニ至ラハ團房子方

向ニ後退ス

二右翼隊 (LB) LPW 敵P 12 敵DLT 八南奇 263 西處房子西側高地ノ

線ニ展開シ突ラ 275 敵方 向ニ指 向シ先當面ノ敵ヲ撃破

タル後ハ家子方向ニ攻撃

三左翼隊 21B (I-275) 敵LPWS 敵K (-1/6) 敵P (-1/6) 敵DLT 267 高地 (西處房子西北一料) ヲリ

陽家北側約 500 米 丘 直ニ 展開 揚 揚 揚

四 兩翼隊ノ 戦斗 地 境 ハ 200 1 277 同 西南 側 高地 ト 敵 部

五 基礎 線 277 6 275 6 連 スル 線

六 左側 衛 隊 攻撃 前進 ノ 時機 ハ 一 〇 〇 〇 ト 予 定 スル 別 命

七 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

八 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

九 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十一 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十二 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十三 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十四 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十五 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十六 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十七 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十八 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

十九 左側 衛 隊 (旧 左 先 遣 隊) ハ 小 楡 樹 方 向 へ 前進 師 團 主 力

砲兵隊の位置  
指揮官の位置  
主力の位置

左側背掩護止ムヲ得サレニ至ルモ陽謀死守  
六砲兵隊(ISA)ハ要圖、如ク陣地占領先、敵砲兵、刺圧後  
主力ヲ以テ右翼隊一部ヲ以テ左翼隊ニ協力  
特ニ小楡樹東西、地區ニ約一大隊、阻止火力ヲ準備  
ISAハ直ニ要圖、如ク陣地占領揚樹林子北方ヨリ進出シ  
來ル敵主力縱隊ヲ射撃且其展開妨害

公工兵隊(長官)IPS(先砲兵隊、陣地占領ニ協力後  
又ニ其陣地推進ニ協力シ得ルニ至ルニ至テ準備  
九AAハ大哈洲附近ニ陣地占領主トシテ砲兵隊主ク、防空  
兵(FMS)ISAニ協力  
兵(DTL)爾後、研究上者(署)  
三衛隊ハ各一部ヲ以テ南東約西北約米谷地及陽家屯東  
南側地區ニ編隊所ヲ開設主力ハ予備隊、位置ニ在リテ爾  
後、進出ヲ準備  
兵(F)ハ出陣子哈洲ニ開設FLハ小哈洲ニテ待機  
兵(F)ハ出陣子哈洲ニ開設FLハ小哈洲ニテ待機

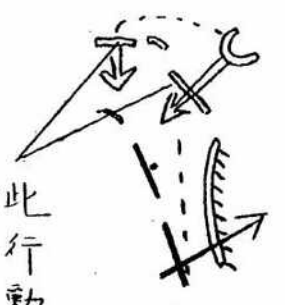
### 第三問題 系案ノ説明

敵情判断ニ就テ  
敵一部(騎兵)支フル約六七隊ト判断セラルヲ以テ七  
家子南方約一帯の高地ヨリ揚樹林子ニ直ル間ヲ占領シ  
包圍軸ヲ成ルセシメ主カヲ以テ我ヲ北方ヨリ包圍セント企圖  
ツツアルハ今ヤ殆ント確定的ナリ  
之右ノ場合敵が重点ヲ揚樹林子北側ニ近ク指向スルヤ或ハ  
更ニ遠ク北方ヨリ指向スルヤハ不明ナルモ前者ノ場合ハ先正  
面衝突ニ近ク敢テ恐ルル要ナシ我トシテ重視スベキハ敵  
が更ニ北方ヨリ我ヲ包圍スル場合ナリ勿論此ノ如キ行動ハ  
敵トシテハ時間ヲ要スルモ我ハ敵ハ包圍軸タル七家子南  
北ノ敵ヲ撃破スル以前ニ敵主力カ我左側ニ近ク殺到シ来  
ルハ我カ甚痛トスル所ナリ

敵包圍軸ノ最左翼ニ向フモノニシテ敵ハ此地以南ニ據点  
ナク兵カモ約一大隊内外ニシテ其弱又後線傳ヒニ揚樹  
子東方台地ニ進出シ深ク敵主力ノ側背ニ進出シ得一度勿

功高地ヲ我手ニ收ルハ此高地ヲ利用シ其南方ヨリ遠ク  
 ハ家子東方地區ニ進出シ包圍ノ實施ヲ容易ナラシム  
 不利トフル所ハ敵主カト離隔シアル爲敵主カノ北カヨリ  
 スル包圍ニ對シ當初殆ト制勝ヲ與ヘ得ルコトナリ  
 2. 兩處房子西側高地ヨリ功方ヨリ包圍ニ向フモノ  
 展開ハ最モ迅速ニ行ハレ得ルニ敵包圍軸ノ中央ニシテ且之ガ  
 攻撃ノ爲ニ迅速ニ攻谷地ヲ通過セサルベカラハルヲ以テ南北ヨ  
 リズル敵ノ妨害ヲ受ケ攻撃進展迅速ナラザルノ恐大ナリ  
 3. 陽家屯附近ヲ揚樹林子北側ニ向フモノ  
 敵主カニ最モ近ク向フモノニシテ迅速ニ行ハバ敵主カノ旋回内  
 翼ヲ衝キ包圍ヲ妨害シ得ルモ我ニ正面衝突ナリ易ク成果  
 少キヲ恐リ殊ニ七家子南北ノ敵包圍軸ヲ突破セズニテハ敵  
 主カヲ包圍スル事ハ頗ル困難  
 要スルニ當テ初ハ宿敵主カノ包圍ニ縁遠キ感アルモ先迅速ニ  
 敵ノ包圍軸ヲ突破シ大ナル成果ヲ求ムルヲ主眼トシ第一案  
 カ可特ニ敵主カ包圍完成ノ爲ニハ揚樹林子西側高地ノミ  
 ニマハテ不可ハ家子北方台地立脚地ヲ求ムルヲ要スルニ之ガ爲  
 谷地ヲ起ヘツツ突破スルヲ要スル本道北カ家子ノ後線傳ヒ  
 ニ突破シ得ル本道南側後線ニ重トスヲ指向シ敵膽ヲ行

勦ニ出ツルカ可  
 此際攻撃ニ重トスニ関連シ正面ノ敵ニハ我ニ亦一部ヲ發遣シ  
 主カヲ陽家屯西北カニ轉進セントスルハ一應ヲ了ラレサルニ  
 非ザルニ此ハ敵ニ追隨セルモノニシテ成果極メテ少シ  
 戰斗加入ノ方式  
 敵主カハ我ニ側面ヲ暴露セントシツアルモ之ガ爲敵ハ一部  
 ヲ以テ其左側ヲ掩護セシメアリ而モ其掩護部隊ハ我ニ先ナ  
 セ家子南北ノ線ヲ占領シアリ且兵力モ六七大隊ト判断セ  
 ラルルヲ以テ戰カテ統合スル事ヲ前衛等ガ獨力トシニ衝  
 突シ迅速ニ戰斗ニ加入スルハ却テ不利師團ノ戰力ヲ統合發  
 揮シ一擊ニ敵ノ包圍軸ヲ突破シ敵主カニ殺到スル爲統一  
 戰斗參與ヲ可トス  
 展開線  
 敵ニ近接スルヲ可トスル一般原則ニ從フモ全然東面スルハ敵  
 主カトノ關係位置置不可  
 圖示セハ左ノ如シ



此行動ニ對シ余社アル如クス

此際ハ展開ノ迅速ヲモ考慮シ前衛ノ進出目標併ニ指揮技  
術上ニ適宜

四 翼隊區分及兵力

本道以南ノ高地線ハ專心一翼隊ニ攻撃シ待シムル如ク  
スルハ業ナルモ之ガ爲本道北側ニ進キ台地ハ極メテ密接ナル  
間連アリ然ル時ハ現在ノ建制上ニ翼隊トスルヲ適宜且自然  
宜矣兵力ヲ徹底的ニ使用ノ注意ハ重要方面ハ約五倍外現  
在ノ多隊區分及建制保持ノ着意ニ基キ兵力決定  
當ハ先敵ノ包圍ヲ突破スルヲ要スルヲ以テ之ガ爲ニハ各翼

七 砲兵用法

隊共戦斗正面ト深カラ規定スルヲ可トスルヲ以テ戦斗地  
境ヲ劃定ス此際輜糧隊揚樹林子西側台端ニ進出スル前後  
ニ於テ予備隊ヲ右翼隊ノ東方或ハ西方ニ増加シ敵ヲ西北  
方ニ包圍スル事アルベキニ鑑ミ戦斗地境モ揚樹林子西方台端  
附近迄切ルヲ可

六 北翼ニ對スル處置

ISAAS  
其射程ノ長大ヲ利シ且正面ノ敵ハ既ニ疎閑シアル現況ニ  
鑑ミ敵主力ノ包圍行動ヲ妨害スル如ク用フルヲ可トス  
北翼ニ對シ此方面ハ最カ限ニテ我慢ス蓋シ到ル所數  
レサラントスルハ又勝ツ能ハサルヲ以テナリ一時此方面ノ危險  
ハ敵ヲ忍ブノ慨ヲ以テ單ニ騎兵隊及シ若干ニテ我慢ス而  
シテ此ニ共ナル任務ハ大ニ獨斷ノ余地ヲ共ニ現況ニ即シ  
努メテ積極的ニ任務ヲ解決シ得ル如クス



軍任我

(2) ↓

(丙) 電

(丁) 信

第四狀況

一、師団後方主任參謀ハ茅三問題原案ノ如キ企圖ヲ承知スルヤ直

ニ、通信隊ハ26高地ヲ基點トシテ左ノ如ク通信網ヲ構成スルノ準備ニ

テレベシ

1、有線通信網 26師団司令部前ヲ基點トシ前衛(三翼隊トナリ)

263兩處房子ノ西側高地ノ線ニ進出スル筈) 左縱隊(左翼隊トナリ)

267陽家化ノ線ニ進出スル筈) 砲兵隊ISA及 4i(予備隊トナリ) 26

西南才ニ五料ノ地区ニ位置スル筈) 間

無線通信網 左側衛騎兵隊(13K)ヲ以テ編成

セラルル筈) 間

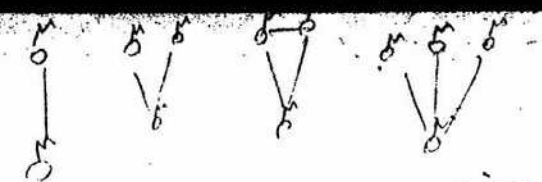
一、師団通信隊長ハ右指不ヲ受クルヤ直ニ同所ニ在ルIA長ISA長ト協定ス

シ自己ノ腹案ヲ練リ且部下通信隊ニ所要ノ指不ヲ授ケツツアリシ

ガハ四ノ左ノ命令ヲ受領ス

一、師団命令 四月二日ロハニロ

三四三北側高地



一、敵情友軍ノ状況並ニ師団ノ企圖及各部隊ノ任務(略)

二、通信隊ハ左ノ如ク通信網ヲ構成シ通信連絡ニ任ズベシ

246 無線機ニ機ヲ配屬ス

1、有線通信網ハ265師団司令部前ヲ基点トシラカ、三ノ迄ニ左翼隊  
右翼隊砲兵隊及IS向ニ構成シ師団司令部前ヲ備隊ノ為其位置ニ電  
通信所ヲ開設ス

2、無線通信網ハ師団司令部前無線電信所ヲ基点トシテ遠ニ右翼隊  
左側衛隊向「ソ」型通信系  
左翼隊騎兵隊向「ワ」型通信系ヲ構成スベシ 但シ騎兵隊ニ對スル  
向機ハIS所屬無線機トス

旅団無線機ニ依ル連絡ノ為ニハ交信符号「E」周波數「F」ヲ用  
ルカ、三ノ以後受信姿勢ニ在ルベシ

三、予ハ暫ク現在地ニ在リ後265高地ニ到ル

第一師団長 某中將

下達法

通信隊長ニ口達ス

四、茲ニ於テ通信隊長、通信網構成ニ関スル通信隊命令ヲ下達ス

第四問題(即題)

ロハ、ロニ於ケル第一師団長ノ企圖ニ基ク第一師団通信隊ノ行フ  
通信網構成計畫要圖

備考

一、通信隊ノ編制別紙ノ如シ

ニ、ロハ、ロニ於テ通信隊ハ第一小隊第一分隊ヲ以テ三向房子  
5ト北側高地間ニ有線連絡、又無線ハ三向房子ニ  
ニ機附設シ左側隊を側衛隊向ニ「ワ」型IS向ニ「ソ」型通信  
ヲ実施シツツ下リ不ハ余ノ主力ハ小哈州ニ待機

注意 素圖ニ答解 時間四十分

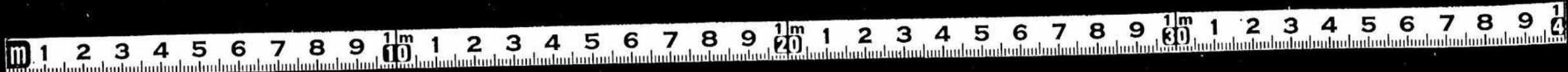


止	工	大隊	
242北側 間(二卷)一分	242北側 間(二卷)一分	構 成	(通信隊ハ施設) 重兵ヲ右翼隊方面ニ保持シ 通信網ニ構成ス
	側高地 子242北	撤收	
265 大哨所及子備隊(二卷) 一分	265 世/A(三卷)一分	構 成	
265 左翼隊間(二卷) 一分	265 右翼隊間 (二卷)一分	構 成	
モ次	芽	撤收	
(余一四卷)	(余三三卷)	構 成	
撤收			撤收
III 六卷	II 一〇卷	I 五卷	分配ス 本部ニ有スル線 86卷ハ左ノ如ク

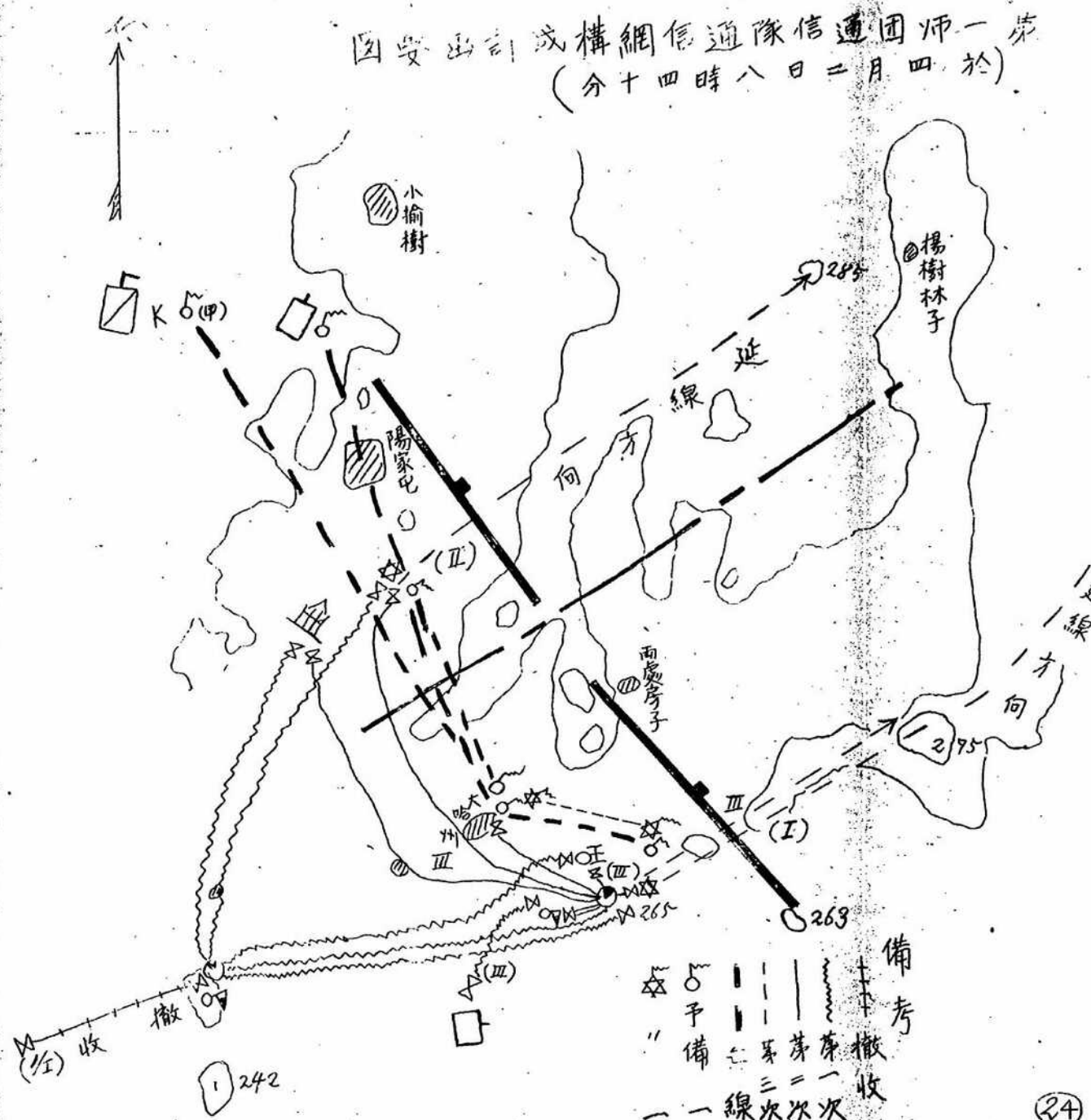
石  
三  
山  
三

74 330  
74 330  
3010 2 727

354 80km  
332 50km  
330 30km  
53(85) 15km



第一師團通信隊通信網構成圖  
 (於四月二十八日十四分)



裏面白紙

III	II	I	小隊
242 ○ — SA <sub>3</sub> — 一分 (二卷)	242 ○ — SA <sub>4</sub> — 一分 (二卷)	242 北側 ○ — 左翼隊 — 一分 (二卷)	通信隊ハ施設ノ 重要夫ヲ右翼隊ハ 回ニ保持シ通信網 構成ス
265 ○ — SA <sub>5</sub> — 一分 (二卷)	265 ○ — 左翼隊間 (二卷) — 一分 大哈州及予備隊 (二卷)	265 ○ — 右翼隊間 (三卷) — 一分 倒高地 子 242 北	撤收 構 成
○ — SA <sub>5</sub> — 一分 (余二卷)	○ — 左翼隊間 (余一四卷)	○ — 右翼隊間 (余三三卷)	撤收 構 成
戰況進展ニ依リ 第一第四号 車ハ大哈州ニ 位置ス			
本部有スル線 右卷ハ左 分 I II III IV 六卷			

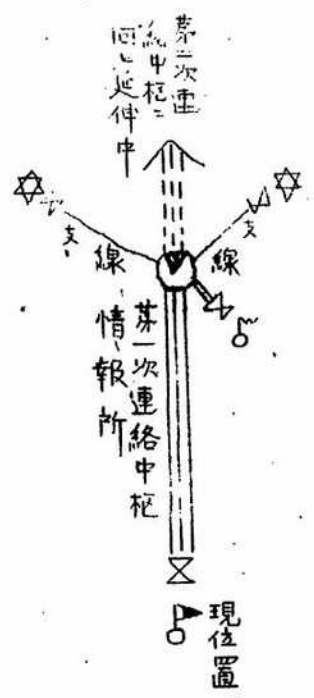
(24)



第四問題原案ノ説明

一、有線通信ノ連絡施設ノ基本方式ハ大別シテ連絡幹線式ト放線式トナリ其方式左ノ如シ

連絡幹線式



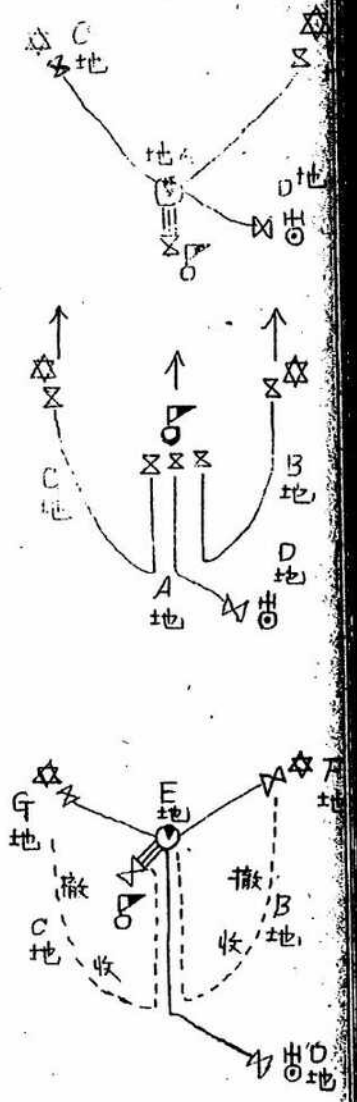
時トシテ支線ハ下級連絡機内ニテ其施設ヲ担任セシムルコトアリ

放線式

第一次

第二次

而シテ連絡幹線式ノ利トスル所ハ各種連絡機関ヲ利用シ最短距離連絡ヲ行ヒ事前準備ト推進並ニ回收ニ便ニシテ連絡施設ノ理想ニ合致スル所ニアルニ幹線ノ指定ニ依リ指揮官ノ行動ヲ束縛スル事アルヲ以テ機ニ應ニ神速敏捷ニ作戦ヲ指導セントスル國軍ニ於テハ常ニ必ズシテ唯一無二ノ形式トシテ輕々ニ採用シ得ザルモノアリ又放線式ニアリテモ常時電話連絡ヲ行ヒ得ルノ利アルヲ以テ或ハ情報所ヲ設置シテ傳達機關ノ到着地ヲ示シ或ハ電話交換所ヲ推進シテ迂回線ヲ短小ナラシメ或ハ通信部隊ニ速ニ本後ノ行動ヲ憑據ヲ與フル等不利ヲ認識シテ爲レ得ルニ依リ連絡幹線式ノ利益ヲ採用シ以テ兩方式ノ美長ヲ消化採擇シ情況ニ適應セル施設ヲ行フ事必ズナリ之ヲハ情報ニ見ルニ(其ノ基本施設、通信網圖ニ依リ師団命令ニ依リ指示セラルルヲ通常トスルモ(作要第一節三八三)茲ニハ研究上省略セリ)師団ノ戰鬥ノ爲メ前進中ニ於テハ本道方面ヲ連絡幹線トシテ構



成ヌルヲ可トスル如キニ今ヤ師団ハ重要トシテ右翼ニ保持シ攻撃ヲシテ決シタルヲ以テ通信重要トシ此ノ方面ニ指回スルハ異論ナカルベシ然リトモ假令連絡幹線式トスルモ本道以南ニ幹線ヲ設クルヲ可ナリトス然ル時左翼隊方面トノ距離大ナルハ忍バザルベカラズ而シテ今ヤ師団ハ展開ニ決シ各部隊ハ各々行動中ニシテ師団長ト速ニ各部隊ト確實ニ連絡ヲ要スル時期ナリ即チ先師団長ノ現位置ヲ基準トシテ速ニ兩翼隊ニ通信線ヲ延伸スト共ニ別々次ノプロノ予定位置タルハ高地ニハ前衛ニ近ク續行シツツ延線シ26ニ達スルヤ直ニ支線ヲ兩翼隊ニ出ス所謂連絡幹線式ヲ可トス而シテ師団攻撃前進後ハ常時連絡ヲ確保スルヲ放線式ニ依ルヲ便トス而シテ此ノ如クスル時ハ先ヅ展開完了迄ノ師団通信隊ノ所要通信線ハ約三〇料(約八〇卷)ヲ要スルモ26ヲ中樞トスル連絡線ノ完成後ハ242北方高地ヲ中樞トスルモノハ不要トナリ撤收シ得ベキモノナルヲ以テ約三四卷ハ尔後ノ戰鬥ニ用ヒ得ルモノト胸算サセバ約一ニ八卷ヲ攻撃ノ前進後ニ用ヒ得ルノ放線式トシテ延線セバ兩翼隊ノ爲メ十卷(約四十卷)ヲ要ストスルモ尚余裕アリ十分砲兵隊トモ連絡シ得ヤレシ況ンヤ戰況進展後展開線附近ノモノハ撤收シ主力ニ合シ得ルニ於テ益々然リ殊ニ右翼隊ノ前進路ヲ前進スルモノトセバ尤ニ加設線ハ節約セラルルニ至ルベク展開以後放線式トスルモ敵主力ト決戦迄十分

師団ノ戦斗ニ追隨シ得ル

二、無線通信ニ就テ

師団命令ニ示サレアルヲ以テ別ニ考慮ノ余地ナキモ右翼隊トノ連絡ハ特ニ重要ナル為歩兵無線師団無線ヲ併用セリ又「A」型通信ヲ行フ場合波長ノ配属呼出符号(受信符号)又ハ受信時間)ノ配属等必要ナルモ茲ニハ省略ス又「B」又ハ左側衛ト「C」型トシ右翼隊ハDLト用ヒガルモ一案ナレモ將來右翼隊ノ戦況進展スル時ノ連絡ノ必要ヲ顧慮シ之ヲ重複シテ用ヒ目下其必要ナキヲ以テ受信時間上ニ於テト又ハ左側衛ニ通信産出ヲ作ルツ可トス

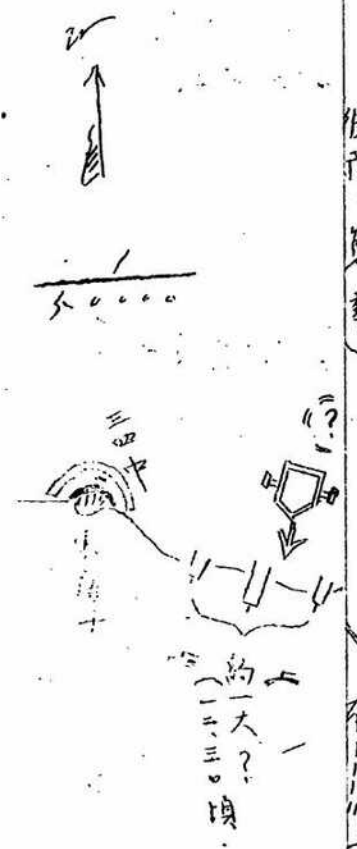
狀況第五

一、師團長ハ「A」ノ攻撃ニ関スル決心ニ基キ各々諸隊ヲ部署シ砲兵隊ハ「A」四ノ頃相前後シテ陣地ニ進入シ直ニ射撃ヲ開始シ右翼隊亦「B」ノ頃展開ヲ完了ス茲ニ於テ師團長ハ右翼隊ニ「C」ノ頃攻撃前進ヲ命ス  
二、右翼隊ノ攻撃ハ其後極メテ順調ニ進展シ「D」ノ頃ハ當面ノ敵線ヲ突破シ「E」ノ頃敵ヲ追ヒ「F」ノ頃過迄ニ前ハ家子一間房ノ線ニ出ス「G」ノ頃敵ハ殆んど戦意ナク右翼隊ハ正ニ無人ノ野ヲ行クク如キ勢ニ突進中ナリ  
三、左翼隊正面亦尙初ハ極メテ順調ニ攻撃進展セシモ正午前後ヨリ逐次北方ニ現出セル優勢ナル戦車ヲ有スル敵ノ為其左翼方面ハ大ナル苦戦ニ陥リ「H」ノ頃激戦中  
四、左側衛方面ハ正午前後ヨリ敵倍ノ敵ノ圧迫ヲ受ケ「I」ノ頃「J」ノ頃敵ニ後退シ騎兵隊ハ東房子ニ後退セルモ約一大隊ノ敵ハ其間隙ヨリ逐次溢出南下中ナリ「K」ノ頃對シ攻撃シ来ル其兵力約ニ三中隊ニ過キス  
五、三ノ頃師團長ハ高地ニ在リテ相前後シテ右情況

並別紙ノ如キ情況ヲ知得ス壹時砲兵隊主力ハ一問一答  
 南側地區ニ陣地を構築シテ師團予備隊ハ必高北  
 西側ニ位置ス  
 第五問題  
 一三、三〇ニ於ケル師團長ノ決心(二十分)  
 決心及處置ノ大要

第五狀況別紙

(一三、三〇)頃ニ於ケル  
 彼我ノ態勢



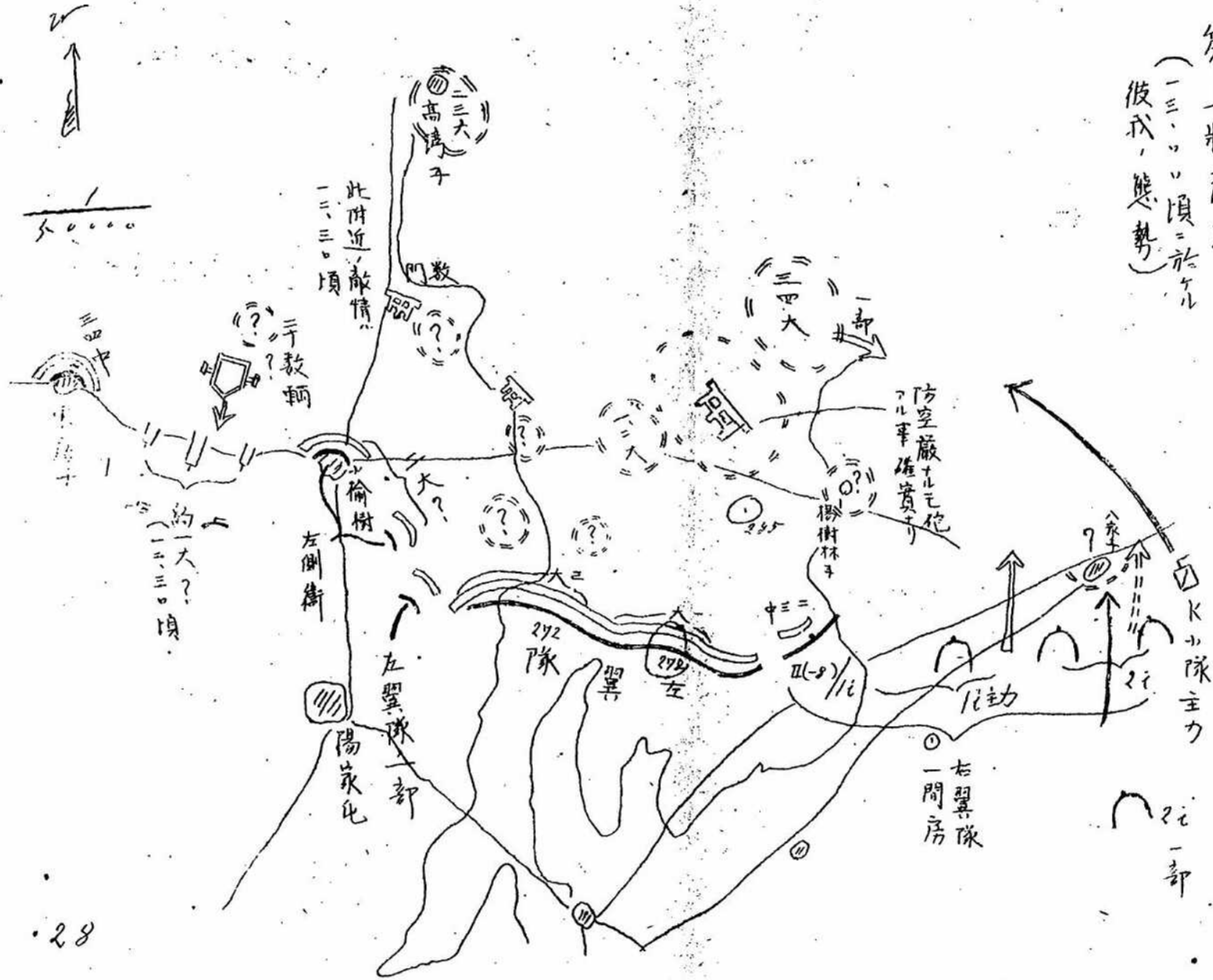
砲兵隊主力

砲一隊





第五狀況別紙  
 (一三三)頃ニ於ケル  
 彼我態勢



裏面白紙

28

第五問題 原案

決心

師團ハ右翼隊左翼方ヨリ敵主力ノ左側背ニ近ク重点ヲ指向シテ之ヲ戰場ニ捕捉撃滅セントス

處置ノ大要

一、予備隊タルハ(四)ヲ一間房西側地區ヨリ揚樹林子方向ニ攻撃セシム

爾後ハト共ニ指揮ニ屬シ中央隊ヲラシメ二道ヲ

子方向ニ攻撃セシメハ右翼隊トシ中央隊ト連繫シツ

ツ敵側背ヲ包圍セシム

二、砲兵隊主力ハ一間房子附近ニ陣地ヲ占領セシメ主トシテ

先ヅ戦斗ニ次テ中央隊ノ戦斗ニ協力セシム

三、後方機關ヲ以テ七家子以東ノ地區ニ推進シ後方ヲ安全ナラシム

(細部省略)

第五問題 原案の說明

一、師團現在、戦況ハ予想ノ如クニシテ正ニ所謂今一揮ノ所マデ

来レリ

二、此際五ニ敵ノ最ニ致命傷タルベキ所ヲ先ニ衝キタルモノニ勝利

ハ歸着ス

而シテ敵カ我左翼ヘノ包圍迂回ハ楊樹林子西南側ニ軸アルヲ

守サレバ師團ハ速ニ此ノ軸ヲ崩壊セシムルカ否カノ目下ノ機微

ナル戦況ニ解決ヲ冀フル鍵ナリ即チ予備隊ノ主力ヲ擧ケテ之ヲ

左側背ヲ解セシムル如ク使用スル所以ナリ此際徒ラニ予

備隊ヲ遠クハ家ヲ束方ヨリ用ヒントスルハ形ノミニ擬ハレ機ヲ

窺ハサルノ機ヲ免レス

況ニヤ予備隊ヲ彌縫策ニ用フルカ如シキ戦勝ヲ齎ス所

以ニ非ス左側背ノ危険ハ之ヲ他ノ手段(守全圖内)ノ諸機

関ノ推進)ニ依リ之ヲ除キ一意戦勝ノ一途ニ邁進スルヲ要ス

蓋シ今ヤ意志ノ強烈ナルモノニ戦勝ノ榮冠ハ燦トシテ揮クベ

クモナル事ヲ銘ニスルヲ要ス

狀況第六

此シテハハ勇躍攻撃前進ヲ開始シ一四、三〇頃相前後シテ  
 戦線ニ加入ス為ニ左翼隊右翼隊共正面ノ敵ハ遂ニ北方ニ退却シ  
 我中央隊及右翼隊ハ所ニ敵ヲ撃破シツツ揚樹林子ヲ越ヘ  
 果敢ニ西北方ニ戦果ヲ擴張ス然ト共左翼隊持ニ左側衛及  
 騎兵隊正面ノ敵ハ益々増加シ陽家他團房子正ニ累卵ノ危  
 キニ在リ  
 カタテ幕僚ノ焦燥ト喜悦相半シアル時獨リ師團長ハ  
 高地ニ凜然トシテ立ケ自信ヲ肩守ニ漲ラセツツアリ



持久戦

昭和十三年二月

# 持久鉄

## 想定

所要地圖

五十分分一

奉天及遼陽附近  
新京及奉化附近

十分分一

奉天及新民附近  
法庫門附近  
其一其二

(但五十分分一八二十五分一分十分分一八五分分一)  
標高八圖上ノ通りト假想ス

- 一、新京方向ヨリ南下シ三月十三日頃ヨリ鐵嶺西南方地區ニ陣地ヲ占領セル赤軍(約五師團ヲ基幹トセルモノノ如シ)ニ對シ南滿線ニ沿ヒ北上セル藍軍第一軍(四師團ヲ基幹トス)ハ三月二十日以來攻撃ヲ準備中ナリ
- 二、新第一軍ノ隸下ニ入り錦州方向ヨリ鐵道ニヨリ新民ニ輸送セラレ集結ヲ完了セル混成第一旅團ハ三月二十一日正午左記要旨ノ第一軍命令ヲ受領ス

### 第一軍命令ノ要旨

- 一、軍主力方面ノ情況別紙要圖其一ノ如シ
  - 二、軍主力ハ二十三日拂曉ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃セントス
  - 三、混成第一旅團ハ遼河右岸地區ニ行動シ軍主力ノ攻撃ヲ容易ナラシムベシ
- 軍飛行隊ノ一部ヲシテ協力セシム

三混成第一旅團ノ編組左ノ如シ  
旅團長 少將 某

☆  
1L  
2L  
1LPWs  
1K  
I 3rst  
/ 1BA  
/ 1P  
PLI (1)  
1/3S  
T (若干)

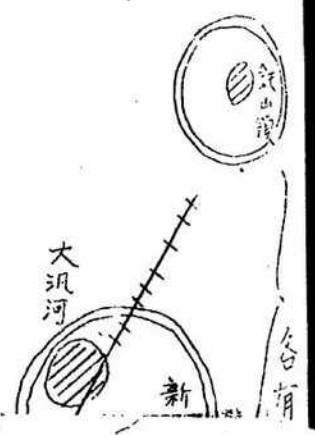
第一問題  
二十一日正午ニ於ケル混成旅團長ノ決心及理由並處置ノ大要

注意  
一日出大時 日没十八時 薄明三十分 (二十一日ニ於ケル)  
最低氣温 二度 恒風東北風

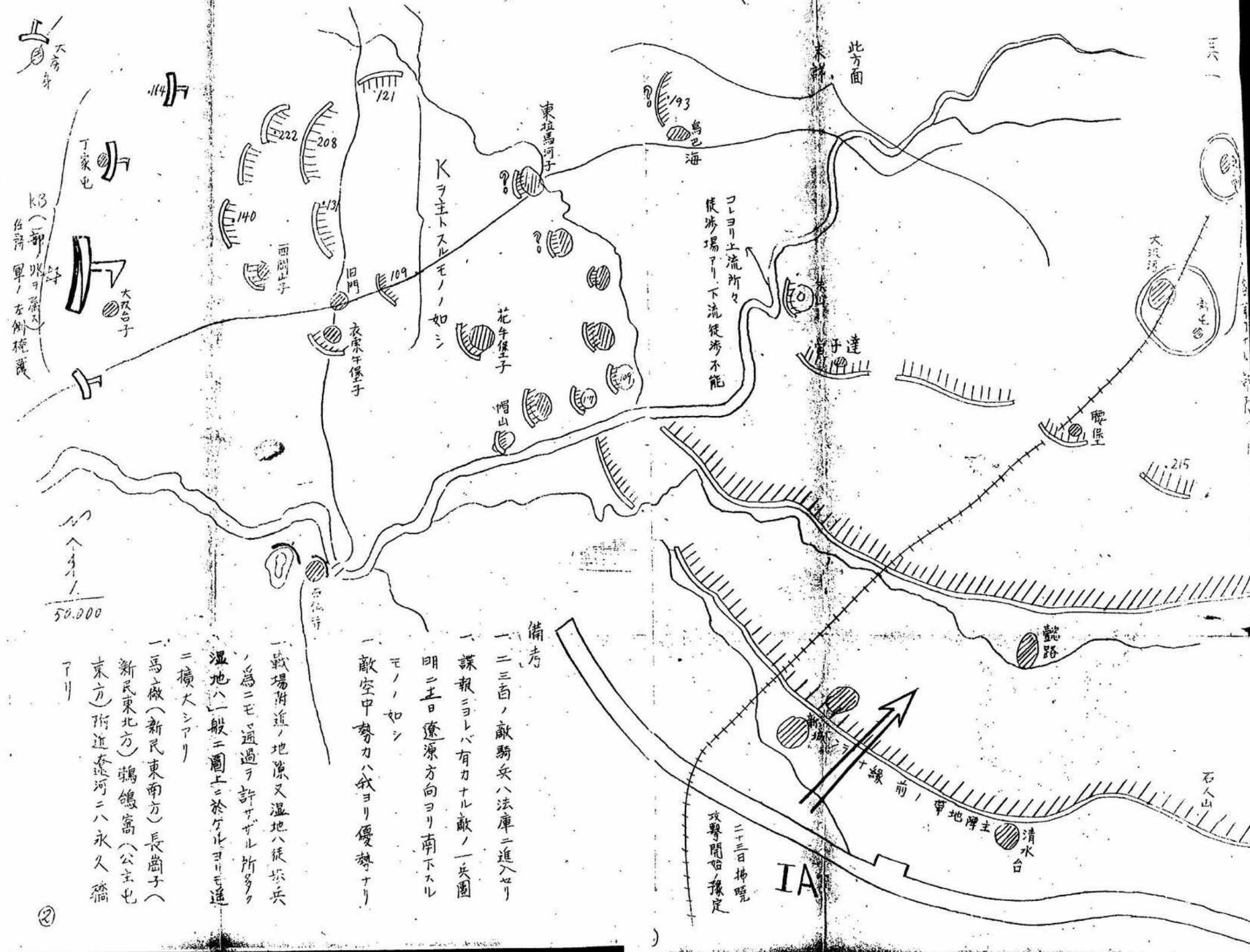
二小方眼紙ニ處置ヲ要圖答解其他餘白ニ記入  
(理由ハ骨子ヲ簡單ニ)

三二月 日八時呈出

其一



1 : 3 2



- 備考
- 一 二三百ノ敵騎兵ハ法庫ニ進入セリ
  - 一 諜報ヨレバ有カナル敵ノ一兵團 明ニ至日遼源方向ヨリ南下スルモノノ如シ
  - 一 敵空中勢力ハ我ヨリ優勢ナリ
- 一 戰場附近ノ地隙又湿地ハ徒歩兵ノ爲ニモ通過ヲ許サザル所多ク 湿地ハ一般ニ圖上ニ於ケルヨリモ遙ニ擴大シアリ
- 一 馬ニ倣(新民東南方)長崗子(新民東北方)鶴鎮窩(公主屯東方)附近在遠河ニハ永久橋アリ

三二月 日八時呈出

二 小方眼鏡ニ處置ヲ要 函答解 其他餘白ニ記入 (理由ハ骨子ヲ簡單ニ)

裏面白紙

めくれず



第一問題 系案

決心

敵團ハ直ニ兵力ヲ張馬夫谷(石佛寺西南方約六軒)附近ニ移動シタル後  
敵ノ右側背ヲ攻撃スル目的ヲ以テ本三十一日薄暮首發此處ハ鶉  
鳴也一東山山子一小塔子一丁家房身一犬房身一後家窩棚一  
黄貝僅道ヲ黄貝僅ニ向ヒ前進セントス

理由

ハ旅團ハ其任務達成ノ為ニハナレ得ル限り多クノ敵兵力ヲ遠河右岸  
地ニ牽制抑留スルヲ專レ其目的ヲ達成セシカニ為ニハ攻勢ヲ執  
ラザルヘカラス(要23)

而シテ此ノ攻勢カハ敵ノ側背ニ向フニ於テ其効果特ニ顯著ナリ  
ハ敵ノ右側背ノ情況尚詳ナラザルニ在リテ其任務ニ鑑ミ地形道路網ノ關係  
並ニ地形方面ノ敵ヲ顧慮シ黄貝僅附近ニ向ヒ前進スルヲ適當トス  
且本行動ハ企圖糾合ノ為メ夜間行フヲ可トシ(要23)敵ヲ欺騙シ  
且夜間ノ行程ヲ短縮スル為メ昼間兵力ヲ張馬夫谷附近ニ移動  
シタル後企圖ノ秘匿途途遠慮ノ判断等ニ鑑ミ系案ノ進路ヲ東  
ルヲ可トス  
又本行動ハ本三十一日夜間實施スルヲ專ス蓋シ連ニ任務ニ邁進スヘキヲ  
以テナリ

1 2 3 4 5 6 7 8 9

1 : 25



第一情况  
 一、現敵夜圍ニ岸一問題原案ノ如ク行動ス  
 前衛ハ二十時二十分東地山子ヲ出發整齊迅速ニ行進ヲ繼續  
 シ熊谷山子(黄貝堡西方約五里)附近ニ於テ微弱ニ敵騎ヲ  
 驅逐シ一(日五時頃)黄貝堡附近ニ至テ力ヲ集結中ナリ燭天ニ  
 星光燦トシテ東風報カナリ  
 六(日五時迄)ニ知り得タル諸況別紙要圖其ニ如シ

第一問題原案、説明補足

一、諜報ニモル遼源方向ヨリ南下スルモノ、如キ敵情ヲ搜索シ  
 タル後行動ヲ律セントスルハ適時搜索ノ成果ヲ擧ケ得ルヤ  
 否ヤ疑問ニシテ爲メニ任務ノ遂行ヲ遷延スルニ至ル虞アリ  
 一般ニ此ノ如キ不確定ナル情報ヲ過重視シテハ戰場ニテチ  
 モ足モ出ヌコトトナルベシ  
 我方策ニ重大ナル影響ヲ及ボスベキ敵ノ行動ヲ攻究ス  
 ベキモ主カガ爲我方策ノ遂行ヲ躊躇スルハ不可ナリ  
 我方策ノ遂行ヲ積極且徹底的ナラシムル爲我方策  
 ニ重大ナル影響ヲ及ボスベキ敵ノ行動ヲ攻究シ所要  
 ノ處置ヲ講スベキナリ本情況ニテハ搜索手段ヲ講スレ  
 バ可ナリ但シ遼源方向ニ對スル空中搜索ハ軍ニテ行ハ  
 ルルヲ至臺トスベシ  
 又敵ノ右側北月ヲ攻撃スルハ北方ノ敵(確實トセバ)ヲ我方  
 面ニ牽制シ得ル公算大トナリ任務達成上適宜ナリ  
 遼河右岸地區ニ行動スベキ任務ノ判断ヲ行ハサルベ  
 カラス即チ目下ノ情況ニテ遼河左岸地區ノ敵ノ退路ヲ  
 遮断セントスルカ如キハ任務ニ悖ルモノナリ



第二問題原案ノ説明

一、烏巴海北側高地ヲ攻撃スル理由

烏巴海北側高地ハ遼河右岸ノ據地ニシテ之ヲ奪取セバ南ニ興  
フル痛痒大ニシテ有利ニ目的ヲ達シ得ベシ

標高約附近ノ高地ハ其前方ニ多クノ地隙ヲ有スレノミナラズ其北  
方ニ高地アル時ハ攻取困難ナリ又之ヲ攻取スルモ烏巴海北側高地

ノ敵健在スル時ハ地形ト相俟テ旅団ノ行動ハ自由ナラザルヲ以テ適當ナラズ  
ニ、直々ニ展開攻撃スル理由

攻撃ハ為未ダ十分ナル資料ヲ知得シアラズト雖モ旅団ガ企圖ヲ擧  
テ所望ノ地ニ進出シ得タル利益ヲ十分ニ發揮センガ爲ニハ敵ヲ急襲ス

ルニ在リテ存ス敵陣地ノ障礙物少キト、日出マテ約一時間ノ貴重ナル時  
展開ノ爲メ利用シ得ルト天明後ハ側方ノ敵ノ妨害ヲ予期スベキト

三、其ノ他、後ノ研究ニ讓ル

第三問題(宿題)

混成第一旅団攻撃部署要圖

小方眼紙 拵尺ニ万五千分一  
月 日 八時提出



第二問題(筆記答解十分)

五時ニ於ケル混成第一旅団長ノ決心(決心ノミ)

第二問題原案

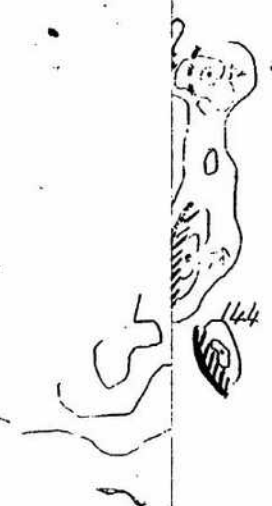
決心

旅団ハ直チニ……ノ線ニ展開シ重兵ヲ姑夫屯東南側高地ニ指伺シテ烏巴海北側高地ノ敵ヲ攻撃セントス

其二

備考

騎兵隊ハ法庫附近ノ敵ニ対シテ攻撃準備中ナリ



軍也ハ國勢自カレ

5.



其二

備考

前兵隊ハ法庫附近ノ敵ニ対シ攻撃準備中ナリ

是レヨリ  
北不明

楊相園屯

(1) 陣地ハ相當有カナル  
敵アルカ如キ天兵力不明  
鉄條網ハ植立レアル所アルモ未ダ  
張線シヨラカク多シ

(2) 敵ハ極メテ  
微弱ナリ

裏面白紙

5





第三問題 原案ノ説明

- 一、北方ヨリ重兵ヲ右ニシテ姑夫屯東南側高地ヲ攻撃スル理由  
ナルベク堅固ナル敵ノ正面ヲ避ケテ攻撃ヲ開始スルニシテ  
夫ニ地形ノ利用(西南方ニ對シテハ)高地及姑夫屯東方ニ對シ  
テハ三橋子南側高地揚相國屯又該部落以北ノ地隙ニヨリ南側  
方ヨリスル敵ノ妨害ヲナシ得ル限リ避ケ尚東天ニ昇ル旭光ヲ  
正面ニ受ケザル如ク且東風ノ利用スル敵ノ瓦斯使用ヲ事前ニ  
封スル如ク敵陣地ノ要兵タル姑夫屯東南側高地ニ向フニアリ
- 二、戰鬪地境及兵ノ配屬  
地形特ニ通過困難ナル地隙ヲ顧慮セリ左翼隊正面ハ地隙多キ  
ヲ以テ兵ノ配屬ヲ比較的大ニセリ
- 三、砲兵ノ用法ニ就テ  
重兵ニ對シ最大威力ヲ發揚スルト夫ニ勉メテ敵陣地ノ要部ヲ  
縱射シ得ル如ク尚兩側方ノ敵ノ反撃ヲ阻止スルヲ顧慮セリ又狀況  
ノ變化大ナルベキヲ予想シ砲兵火力ヲ之ニ即應セシムル為全  
部ヲ統一セリ
- 四、予備隊ノ兵力

状況ノ變化ニ對シテ他ノ大カクシク(海) 36

五、兩側掩護隊

KB當面ノ敵ヨリ我後方連絡ヲ遮断セラレ易キ状況ナレハ特ニ  
一部ヲシテ之ヲ掩護セシメ機動ノ自由ヲ確保セザルベカラズ  
又東北方ノ敵ニ對シ主力ノ行動ヲ掩護スル為メ一部ヲ以テ標高  
附近ヲ攻撃シ之ヲ奪取シテ確保セシメザルベカラズ  
六、進出線ヲ烏巴海東西ノ線ニ制限セル理由  
烏巴海北側高地奪取後ハ他ノ方東方ニ行動スルヲ適當トシ且  
狀況ノ変化大ナルベキヲ予想スレバナリ

第三問題 原案ノ説明補足

一、烏巴海北側高地ノ攻撃ハ持久戦ニアラズ  
旅團ハ烏巴海北側高地ヲ攻略スルコトニヨリ遼河左岸ノ敵ヲ  
該方面ニ牽制セントスルモノニシテ該高地ノ攻撃ソノモノハ  
持久戦ノ攻撃ニアラズ 即チ實力ヲ以テ迅速ニ該高地ノ奪取  
ニ努メザルベカラズ  
故ニ或ハ諸方面ノ敵ニ對シ廣正面ニ兵力ヲ分散シテ攻撃シ或  
ハ第一線ノ兵力ヲ極度ニ節約シテ強大ナル予備隊ヲトシ  
ニ不可ナリ  
二、右側掩護隊及左側掩護隊ガ三橋子南側高地奪取後行動ハ  
持久戦ナリ

其三



備考

- 一、KBハ主力ヲ以テ李家房申方向ヨリ高地ニ向テ攻撃シ旅団ノ戦鬪ニ協力中ナリ
- 二、騎兵聯隊ハ法庫附近ノ敵ヲ攻撃中ナリ





第四問題 原安不

決心

変化ナシ

處置

一、 $\frac{1}{2}i(-12)$  ヲ右翼隊ニ増加シ速ニ $\frac{1}{2}i$ ヲ奪取セシム

二、砲兵ヲシテ其全火力ヲ $\frac{1}{2}i$ 高地ニ集中セシム尚左ノ地臭ニ前進妨害射撃(各ニ中隊ノ火力)ヲ準備セシム

注家ニ台子、英ニ台子(東方)  
小嶺、拉馬橋子、团山子、才家窩棚(西方)

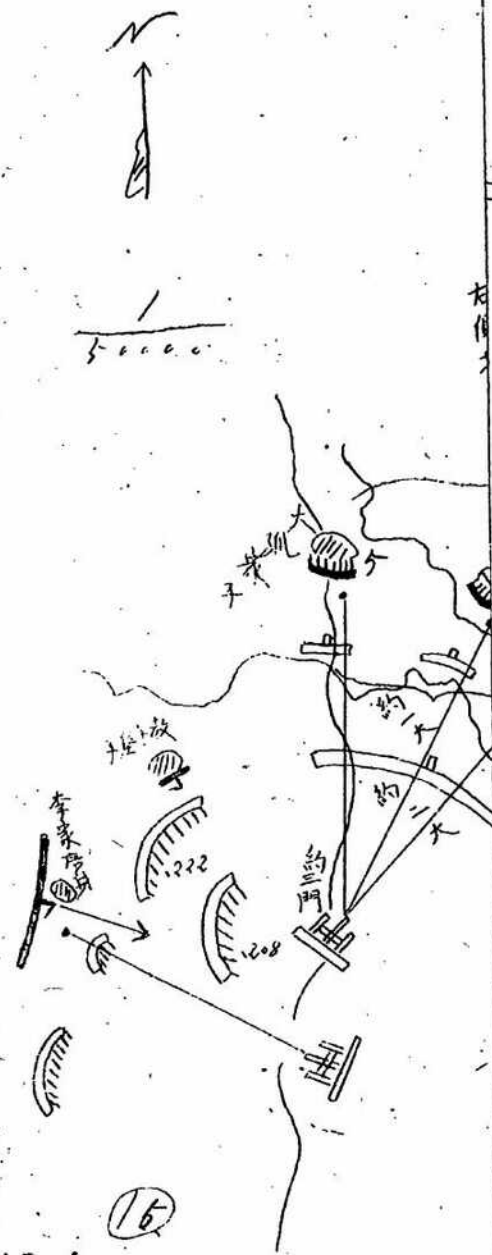
三、 $\frac{1}{2}i$ ヲシテ李家窩棚南側閉鎖曲線ノ台ヲ占領シテ旅団ノ側背ヲ掩護セシム

第四問題原案ノ説明

一、旅團ハ優勢ナル敵ニ包圍セラシントシツアルモ是當初ヨリ予期セル所ニシテ此ノ如クシテ初メテ任務ヲ達成シ得ルナリ然レ共鳥巴海北側高地ノ奪取ハ焦眉ノ急ナリ蓋シ敵ガ該高地ヲ據点トシテ兩側ヨリ我ヲ包圍スルハ我苦痛トスル所ナルノミナラズ我レ該高地ヲ領有スルニ非ズンバ機動ノ自由ヲ拘束セラレ任務ヲ十分ニ達成シ得ザレハ...

故ニ予備隊ノ主力ヲ拳ナゲテ之ヲ右翼隊長ニ与ヘ砲兵ノ全火力ヲ重兵ニ集中シ敵陣地ノ最要点タル所ヲ速ニ奪取スルコトヨリ鳥巴海北側高地ノ迅速ナル領有ヲ企圖セザルハカラズ敵機ノ銃撃ノ如キニヨリ動搖スルキモノニアラズ

二、新卒ノ敵中最モ顧慮ヲ要スルハ側背ニ殺倒スル敵ナリ而シテ之等ニ對シ多クノ兵力ヲ割クハ鳥巴海北側高地ノ攻撃力ヲ減少スルヲ以テ勉メテ之ヲ避ケ要兵ニ砲兵ノ阻止火力ヲ準備シムルト共ニ右翼隊ノ攻撃ニ最モ影響アル方面ニ必要ニシテ最少限ノ兵力ヲ部署セリ



備弁  
 一、主力集結完了ニハ南約十分ヲ要ス  
 二、左翼隊其ノ在翼方面ノ敵(要圖共三)ヲ撃退シタル後第三中隊ヲ本  
 要圖ノ位置ニ殘置シ主力ヲ以テ烏巴池東北側高地ヲ攻撃シタルモノナリ

約一六  
 羅家  
 房身

約六門

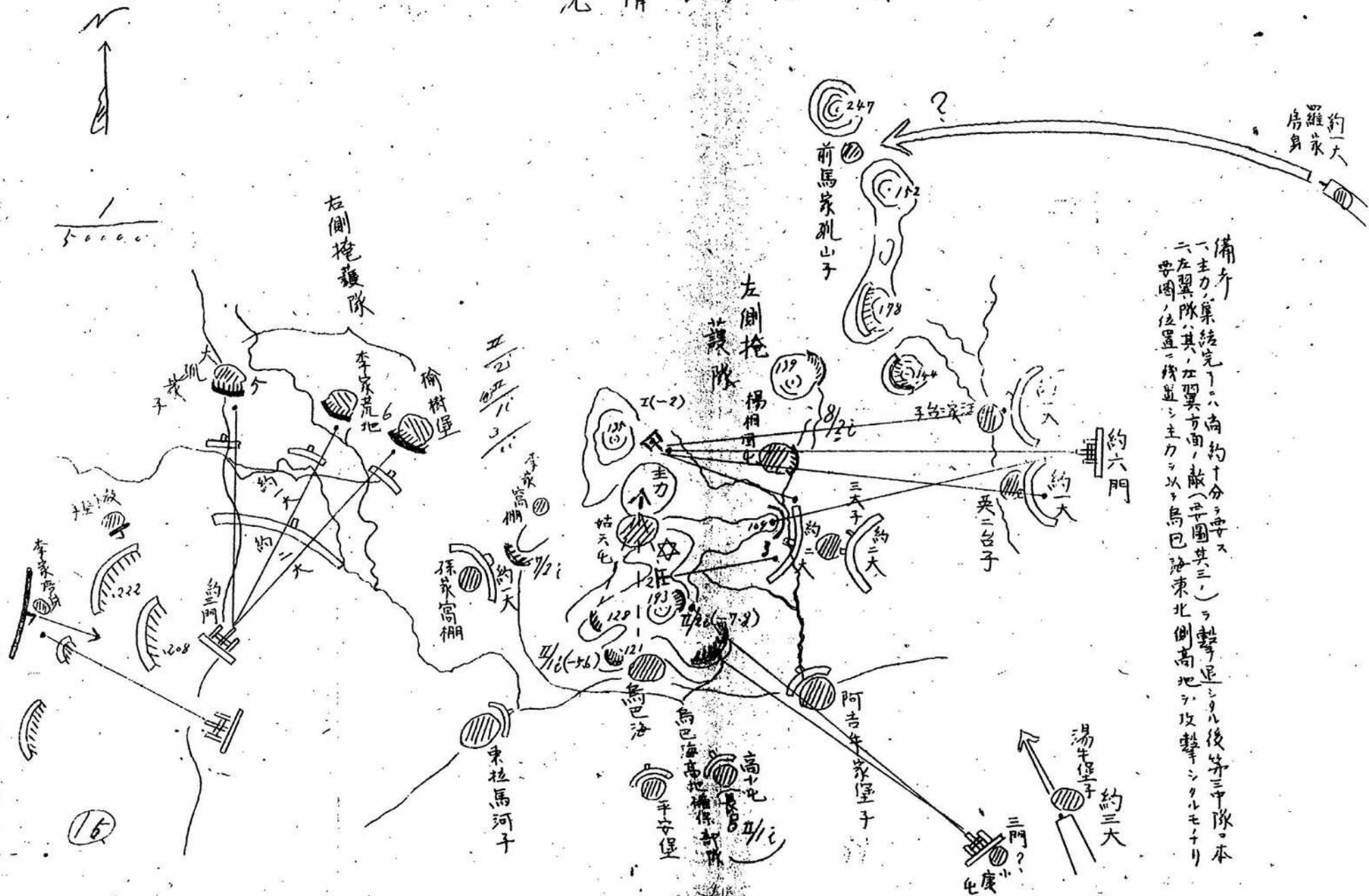
約三門

50000

(15)



況情ルケ於 = 時 = 十



備齊  
 一、主力、集結完了、二、南、約十分、分、母、ス、  
 二、左翼隊、其、右翼、方面、敵、(平圍、共三)ラ、撃、退、シ、ル、後、第、三、隊、本、  
 要、固、ク、位、置、ヲ、保、持、シ、主、力、ヲ、以、テ、烏、巴、池、東、北、側、高、地、ヲ、攻、撃、シ、テ、モ、ナ、リ

裏面白紙



第三狀況

一、旅団長ノ堅確ナル決意ト適切ナル部署ト及將兵ノ勇戰奮闘  
トニヨリ土時過キ烏巴海北側高地ヲ奪取スルヲ得タリ  
二、十二時ニ於ケル狀況別紙要圖其ノ四ノ如シ

第五問題(宿題)

十二時ニ於ケル旅団長ノ決心ヲ處置(要圖)

通信紙

月 日 八時 呈出

第五問題 砲兵隊

決心

旅團ハ主力ヲ以テ三台子方面

攻メ別上ヲ攻撃セリ

右翼隊 1(1+2) 2(1+2)

予備隊 1/2

砲兵隊 1BA



5.....

右翼隊ヲ以テ直々ニ攻撃セシメ左翼隊ヲ  
統一シテ戦斗ニ参加セシム但シ一部ヲ連  
隊出陣ニ先遣ス

魚坂崗子以東ニ阻止セシメ決心ニ方リテハ  
主力ヲ以テ左翼隊ノ戦斗ニ協カセシム

15



第五問題 示案

決心  
旅團ハ主力ヲ以テ三台子方面  
敵側背ヲ攻撃セントス

右翼隊ヲ直ニ攻撃セシメ左翼隊ヲ  
統一ニテ戰鬥ニ参加セシム但シ一部ヲ連急  
隊崗ニ先遣ス



右翼隊 2(2) 1/4 P  
左翼隊 1(1) 1/4 P  
予備隊 1/2 C  
砲兵隊 1BA

砲兵隊ニシテ先ツ主力ヲ以テ東方ノ敵ヲ  
魚坂崗子以テ阻止セシメ決心ニテウリテハ  
主力ヲ以テ左翼隊ノ戰鬥ニ協クセシム

北方ヨリ迂回スル敵ニ對シ前  
馬家山ノ方面ニ攻撃ヲ  
已ムヲ得ガハ龍鳳山ヲ確保シ  
テ旅團ノ側背ヲ掩護セシム

裏面白紙

第五問題 京案說明

一、三台子方面、敵ヲ攻撃スルコト

三台子方面、敵ハ最モ我ガ主力ニ近ク且比較的他ト分離シアリテ攻撃ノ好機ナリ

二、剛背攻撃及攻撃ノ實施法ニツキ

3. 若戰中ナルハ認ムルモ之ニ近ク主カヲ使用スルハ正面攻撃トナリ戰鬪、進捗迅速ナル能ハス殊ニ汪家ニ台子英ニ台子、敵ヲ顧慮スルトキ最モ迅速ナル決勝ヲ必要トスル情況ニ於テ適當ナラス故ニ展開ノ稍々遅ルルハ、其ノ敵ノ側背ヲ攻撃スルヲ有利トス。3. 高地ノ領地ニ於テハ地形相國セテ左側掩護隊ガ領シアルト爲家岡ヲ味方ニシテハ地形相國シテ有利ナル觀測所ヲ有スル我ク砲兵、火力ガ發揚ニ適スルトハ相俟テ其ノ實施ヲ可能ナラシム而シテ主カヲ地隙(無名ニ三台子間)ノ東北方地ニ移ス爲ニハ高地ノ領有繼續ヲ前提條件トスルヲ以テ右翼隊ハ直ニ攻撃セシムルヲ要スルモ左翼隊ハ強圧ヲ一舉ニ敵ノ側背ニ加フル爲統一シテ戰鬥ニ加入スルヲ有利トシ取り敵ヘズ爲家岡子ニ奇ヲ先遣シテ該地東方及南方並ニ北方ノ敵ニ對シ主カノ戰鬥ヲ有利ナラシムルヲ適當トス

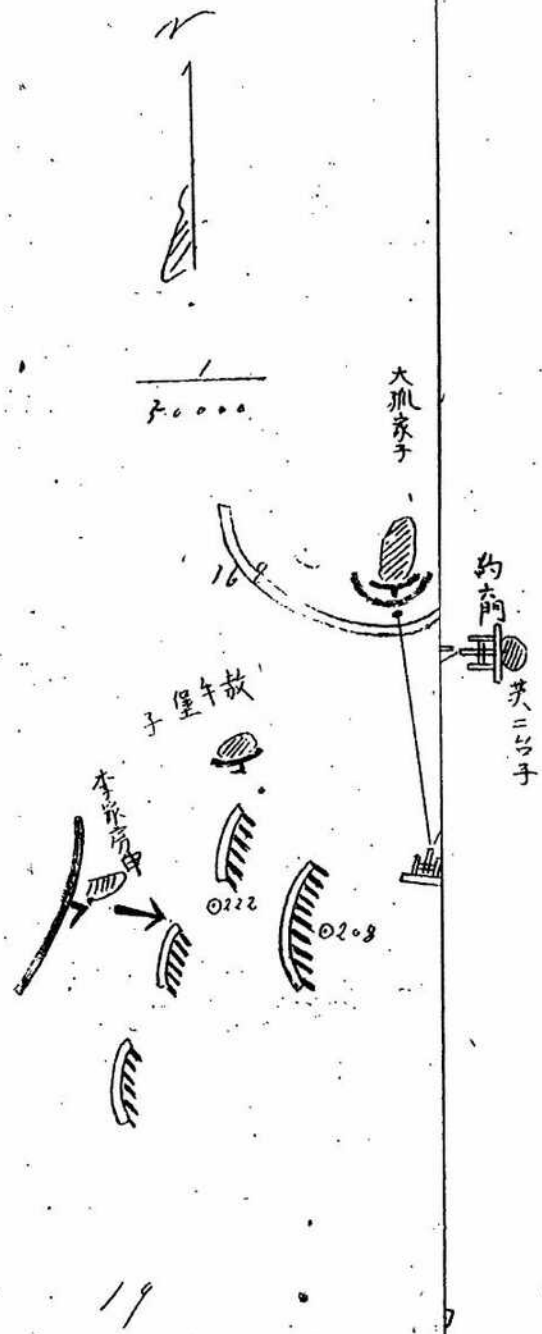
三、戰鬥地境及進出線



戰鬥地境ハ地隔ニヨリ進出線ハ情況ノ変化測リ難キヲ以テ  
 血ヲ制限セリ  
 四、予備隊迅速ナル成果ヲ必要トスルヲ以テ最カ限ニ制限セリ  
 五、砲兵ノ用法  
 旅團長ノ方針トシテ行ハズニ台子方面ノ敵ノ阻止ヲ持ニ必要  
 トスルヲ以テ當初主カク砲兵ヲ用ヒテ然レドモ決戦ニ方リテハ該方  
 面ニ主カク傾テスルハ必要ノ鉄則ナリ  
 六、工兵ノ用法  
 砲兵援助ノ必要ナク地形ノ障、碍排除ヲ持ニ必要トスルヲ以テ  
 全カラ第一線ニ配屬セリ  
 七、北方ヨリ迂回シテ敵ニ對シナルベク遠ク之ヲ支ヘシムル爲メ錯  
 雜セル地形ヲ利用シテ攻撃ヲ採ラシメタリ  
 八、輕裝甲車中隊ノ用法  
 旅團ノ決戦ヲ迅速ニ有リニ指導セシメガ爲地形ニ鑑ミ斷、呼、側、背  
 攻撃ノ一途ニ使用セリ

第四情況

一、旅團ハ第五問題 宗案ノ如ク三台子方面ノ敵ヲ攻撃シ之ニ  
 大ナル打撃ヲ與ヘタルモ敵兵漸ク増加シ來リ戰果膠着  
 状態ヲ呈スルノミナラズ旅團ノ全線ニ直リ所々危殆ニ  
 瀕スルニ至ル  
 二、薄暮ニ於ケル情況要圖其五ノ如シ  
 薄暮ニ於ケル旅團長ノ決心



其五  
 戰車約三千台自動車約四千台ハ敵ハ塗原一法庫門道ヲ南方ニ急行中ニシ  
 十八時其先頭柳官屯附近(法庫門北方約五里)ニ陣セリ



旅團ハ全線ニ亘リ敵ヲ攻撃セントス  
正面トシテ遼河ノ線ニ進出ス  
第六問題 系業  
重点ハ依然左側隊



第六問題 蒙策說明

一、旅團ハ倍教以上ノ敵ヲ牽制シアリト雖モ軍主力ノ攻撃ハ明拂曉ヨリ開始セラレラ以テ旅團ハ其任務ヲ完全ニ遂行シ得ルガ否マハ疑ハレテ旅團兩後ノ行動如何ニ存ス即チ旅團ハ自己ノ運命ハ主ラ度外視シ軍主力ノ赫々タル戦勝ノタメノ各營アル儀性タルコトヲ甘受シ其行動ヲ律セサルベカラズ即チ旅團正面ノ敵ヲ確實ニ抑留スルノミナラス更ニ勇クノ兵カラ遠河右岸ニ牽制スルノ概ナカルベカラス之が爲ニハ執抑ニシテ猛烈ナル攻撃ノ一途アルノミ若シ夫レ却官化方面ノ新來ノ敵ヲ顧慮シ後退シテ後圍ヲ策セントスルカ如キハ旅團正面ノ敵ヲシテ其ノ欲スル行動ヲ取ラシメ九段ノ功ヲ一筆ニ虧クニ至ルベキ慮アルヲ以テ不可ナリ

二、攻撃ノ重要ハ情況特ニ地形ニ鑑ミ依然左翼隊正面ヲ直撃トシ遠河ノ地隙ニ壓迫スルヲ可トス  
其他全面ニ直リナシ得ル限り攻勢ヲ執ラシムルヲ要ス

三、牽制一度成功スルモ主ラ持續スルコト即チ抑留ハ困難ニシテ有爲ノ敵ニ對シテハ動モスレハ逆牽制ノ結果ヲ招來スルコトアリ主ラ避クンカ爲ニハ一ニ撤幼ニシテ猛烈ナル攻撃

ラ交覆繼續セサルベカラス是至難ナリト呈モテ断平ト  
シテ敢行セサルベカラス  
將兵一貫熱烈ナル犠牲的精神横溢スルニ非スンハ中々  
困難ナリ殊ニ兵ニ將タルモノ平素十分ナル修養ヲ重ヌル  
ニ非スンハ部下ヲ必死ノ境ニ駆ツテ笑ツテ無理ヲ強行スル  
コト能ハカルベシ

### 補遺

旅團ハ爾後如何ニナルナリカ軍主カノ攻撃開始ハ明拂曉  
ヨリナリ而モ軍主カノ攻撃ハ終日ヲ要スルヤ不明ナリ旅團  
ハ一晝仕務ノ達成ニ努カスルモ敵モナルモノ或ハ速ニ旅團ヲ各個  
ニ撃破シテ有利ニ我カ軍主カニ對スルニ至ラサルヤ或ハ旅團ニ  
逆率制ヲ以テ應スルニ至ラサルヤ果シテ然ラハ旅團ハ作戦行動開始  
格ニ一日延期シ軍主カト同時ニ行フヲ可トセカリシヤ  
然ラハ旅團ハ二十一日正午ニ命ヲ受領セリ命令ハ直ニ其  
實行ヲ強要スル旅團當時ニ態勢ハ何等行動開始ヲ拘束ス  
ルモノナシ故ニ速ニ實行ニ移ラサルベカラス但シ昼間直路目標  
ニ前進セカリシハ戦術上正當ニ有利ト思フヲレタレハナリ二十  
二日夜ヨリ行動開始スルモノトハ全ク其精神ヲ異ニス

軍司令官カ旅團ヲシテ二十一日以後行動開始セシメントセ  
バ二十一日ノ命令ニ就テ其旨日ヲ指定スルカ或ハ旅團使用  
ノ予定ヲ示シテ研究準備ヲ要求セラルルナルベシ然ラスシテ  
本研究ノ如キ命令ヲ受領セル旅團長トシテハ正當迅速ニ  
實行ニ移ラサルベカラス然ルニ若シ一日後レテ行動開始ス  
ルヲ有利ナルトテヘテ其ノ如ク實行シ其結果十分ニ任務  
ヲ達成シ得カリトモ何ヲ以テ其罪ヲ謝スベキ  
要スルニ情況ノ推移ハ不能ナリ不明ナレバコソ軍司令官ハ  
其ノ信スル所ニヨリ旅團ニ二十一日命令ヲ下達セルモノナルベシ  
本研究ニヨリ情況ノ推移ヨリ歸納シテ旅團ノ行動開始  
ラ一日後ラシムルヲ可トスルハ遇々推移シタル狀況ヨリスル  
結果論ニシテ適當ナラス  
離テ本狀況ヲ觀ルニ旅團長トシテハ高率利兵カノ少  
キヲ嘆シアルベシ吾人ガ吾人ノ敵ニ對シテハ高優勢ナル敵ヲ率  
利ヲ留スルニ非スンハ十分ニ任務ヲ達成セリト謂ヒ得サルベシ  
此ノ故ヲ以テ旅團長ハ二十一日以後更ニ奮戦健闘ヲ期シア  
ル次第ナリ  
只情況ノ推移ハ確實ニ予見スル能ハス結果ハ予断ヲ許サス  
旅團長トシテハ万難ヲ排シテ任務ニ邁進シ其ノ犠牲性價値ヲ最高

度ニ昂揚スベキノミ

十五  
十六  
十七  
十八

昭和十三年二月

騎  
兵  
戰  
術

想定

所寄地圖

五分一、新京及奉化附近、奉天及遼陽附近  
十分一、法庫門附近、其二、奉天及新民府附近、其  
其、二

但五分一ハ五分一十分一ハ五分一  
標高ハ圖上ノ通りト假想ス

一、農守(新京及奉化附近圖右上)地方ヨリ前進セル我カ軍主クハ、清京方  
向(新京及奉化附近圖右下)ヨリ前進シ西豊(清京北方約十里)西北  
方地區西安、大平溝(西安東方約六里)ノ線附近ニ據ル地ヲ占領  
セル敵ニ對シ二月十七日以來攻勢準備中ナリ

二、渾河河谷方面ヨリ敵、左側背ニ進出シ軍、攻勢ニ參與ス  
ル爲ニ遼瀋—鉄嶺—撫順道ヲ前進セル/Dハ、清京方  
ヨリ西進セル阻撃約10ノ敵ト遭遇シ二月十八日午後以來法  
庫東南方地區ニ於テ交戦中ニシテ十九日早朝ニ於ケル彼我ノ  
戦線ハ南ニ移リ(法庫東方約三里)通江口(法庫東北方約三里  
半)ノ線附近ニアリ

三、新/Dニ屬セラレ遼瀋ヨリ遼瀋—法庫道ヲ南進シタル/KBハ  
遼陽方ヨリ北進中、敵騎兵団ヲ毒滅スベト仕勢ヲ以テ法  
庫ノ大房身(法庫西南方約二里)登陸堡子道ヲ新民府附近ニ



向ヒ急進中ニシテ二月十九日九時其前衛本隊ノ先頭ヲ以テ  
 大房身東北端ニ達ス  
 此時迄ニKB長ノ知得セル状況左ノ如シ  
 1. 前面ノ敵ハ三家子(法庫東南方約20K)大明碑(三家子  
 東北方約4K)龍王廟(通江口南方約2K)ノ線ニ於テ高頑強  
 ニ抵抗中ナルモ師團ハ其右翼方面ニ於テ逐次敵ヲ庄迫シ  
 ツツアリ  
 2. 敵騎兵團ノ兵力ハ約一師團ニシテ其主力ハ本<sup>九〇</sup>日軍朝大民屯  
 附近ヲ出發シニ縦隊トナリ大民屯(新民東南方約10K)新民通  
 及該道ニ沿ヒ其以北ノ地ニ進<sup>九〇</sup>ヲ西北進<sup>九〇</sup>セリ  
 3. KBハ本十九日軍朝新民附近ニ於テ敵ノ搜索支隊ヲシキ  
 機甲部隊及騎兵隊中隊ノ連合部隊ト戦斗ヲ交ヘ  
 爾後其庄迫ヲ受テテ逐次多水河子(法庫西南方約10K)ノ向  
 ニ退却シツツアリ  
 4. 朝來我ガID右翼方面ノ上空ニ於テハ敵飛行機ノ行動極  
 マテ活潑ナリ  
 5. 軍飛行隊ハ一部ヲ以テ旅團ニ協力シアリ  
 6. 北日ニ於ケルKBノ準備奇襲別紙第一ノ如シ  
 7. 地形ニ関スル假想左ノ如シ

1. 法庫—奉天道ハ荒廢シ車輛ノ通過困難ナリ  
 2. 遼河ノ右岸(法庫南約20K)上流ニ於テハ諸河徒涉場  
 アルモ該地下流ハ韭菜崗子(新民東南方約4K)刘家窩  
 棚(新民—大民屯道上新民東南方約4K)ニ永久橋アル外  
 渡渉場ナシ  
 3.  
 (1) 町崖地際及五分一圖上ノ道路ニ概テ戦列ヲ<sup>九〇</sup>通過ヲ許  
 ス  
 (2) 草地ハ其雜草ノ高さ五六尺ニ及ブモノアリ  
 4. 法庫附近ノ恒風ハ東北ニシテ数日來ノ風速平均ニ米ナリ  
 5. KBノ編組別紙第一ノ如シ

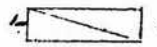
小隊  
兵

2/16



中隊  
兵

1(-1/2, 2/16) 1/2 RMG



150 100 700 50

250

MG(-1/2)

7A(1/2)

13

720



300

4840

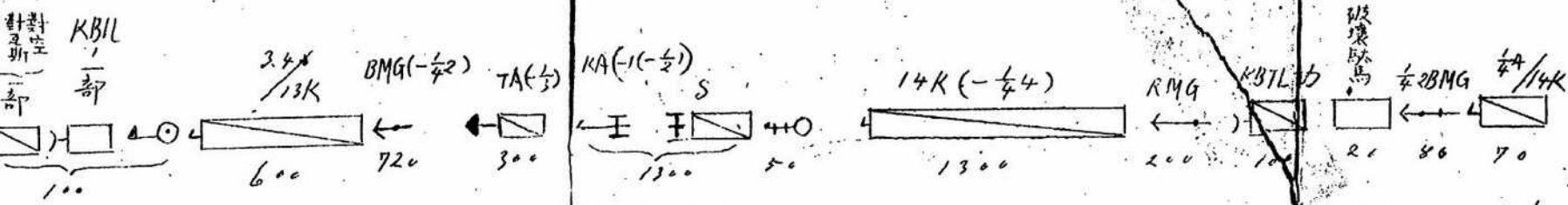
奇襲隊  
竹筒川  
長里  
マ  
JX  
ラ

7

別紙第一

二月十九日

騎兵第一旅團



本隊 4840

全長 8390

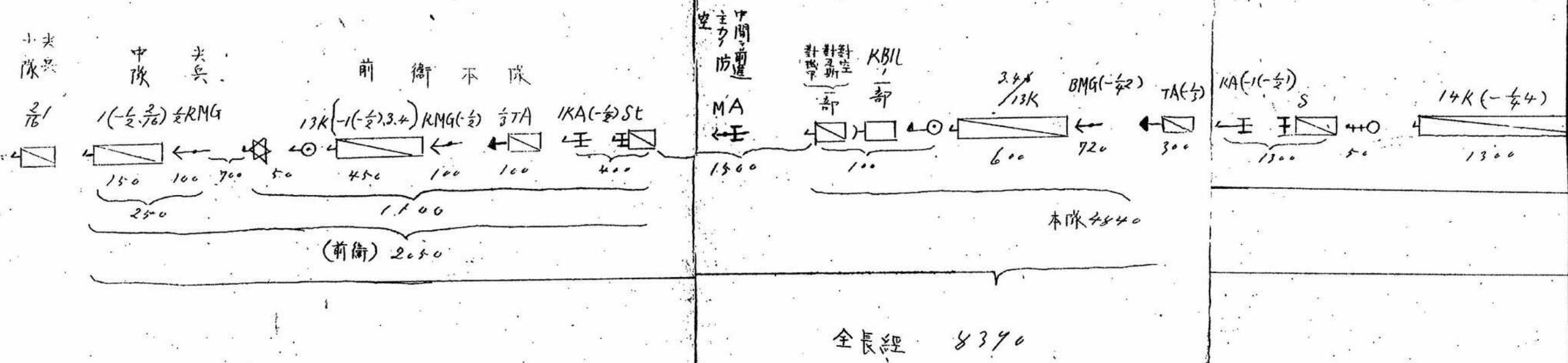
隊方より  
進行の順序



- 一、騎兵中隊へ新編制ノ長短(300)ヲ以テ計算ス(カ隊ハ70)
- 二、大行李、丁ハ有零ス
- 三、隊形ハ二列縦隊トス
- 四、前方ハ斥候ノ外部隊ヲ派遣シテアラズ

於 = 日 九 十 月 二

圖 等 署 部 進 前 團 旅 一 第 兵 騎



裏面白紙



狀況第一

一、九時四十分、大蛇山子西南端前衛本隊、先頭ニ在リテ西南方秀水河子方向ニ起レル銃声ヲ耳ニスルト共ニ左ノ諸報

告ニ持ス

人砲教門ヲ有スル敵、騎兵三四百ハ新民一互ニ序屯(秀水河

子西南方約4)道ヲ北進シ来リ九時稍々前柳樹屯(秀水河

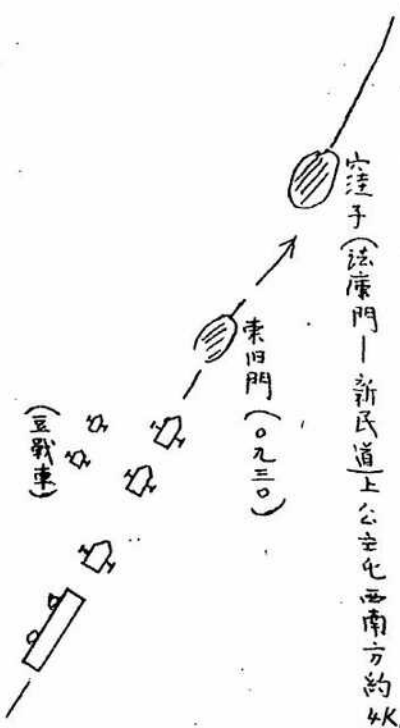
子西南方約3)味方ノ台上ニ進出シ我ICハ目下之ト激戦中

ナリ

2、ICヲ主体トシ教輜、自動貨車ヲ混合セル十教台ノ敵ノ車輜縦隊ハ左ノ如ク前進中(友軍飛行機ノ通信筒下)

六窪子(法庫門—新民道上—公主屯西南方約4)

東門(0.930)



第一問題

九時四十分ニ於ケル☆ 決心及處置ノ大要

要圖答解

注意

一 用紙、小方眼紙

二 呈出期日、二月十六日八時

第一問題 案

決心

旅團ハ一奇ヲ以テ敵機甲部隊ヲ攻撃セシメ主カハ壘面ノ敵騎  
兵ヲ各個ニ撃破スル目的ヲ以テ且ケニ双台子(大房身西方水)石頭房  
房身道ヲ經テ秀水河子南側陣並ニ向ヒ前進セントス

處置

一 左記命令ノ要旨ヲ前衛司令官ニ傳達ス

ハ 旅團ハ敵騎兵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ直ケニ双台子―石頭房

身道ヲ經テ秀水河子南側陣並ニ向ヒ前進セントス

ニ 前衛ハ(新)敵機甲部隊ヲ攻撃シKBノ左側ヲ

掩護スベシ(本)敵機甲部隊ヲ攻撃ス

三 副官ヲシテ旅團長ニ左記ヲ傳達ス

旅團長ハ旅團長ニ左記ヲ傳達ス

台地ニ向ヒ前進

三 MAニ上空ニ對シ本隊ノ大房身陣並進進ヲ庇掩スベキヲ命ス

四 本隊ハ先頭ニ躍進セシムル外現任ノ奇襲ヲ以テ前衛ノ後

方々米ニ續行ス

第一問題 系案ノ説明

一 敵情判断ニ就テ

窪子方面ニ前進セル敵機甲部隊及柳樹屯ニ進出セル敵騎兵部隊ハ其兵力一般ノ状況上共ニ敵ノ搜索機関ト判断シ得ベク戦斗開始ニ於テ敵騎兵ノ積極果敢ナル特性ハ我ガ从ラ庄迫シタル爲驕惰増大シタルベク而シテ敵ノ機甲部隊ハ地形上登陸堡子方面ヨリ我ヲ攻撃シ来ルベク柳樹屯方面ノ敵騎兵部隊ト相協カシ我ガ陣ヲ挾撃スルノ策ニ出ズベシ況ヤ我ガ目下地形上不利ナル位置ニ在ルニ於テオヤ敵騎兵主力部隊ノ現在ノ位置ハ不明ナルモ從來知得シアリシ状況上聽テ新隊以北ノ地ニ進出シ来ルベシ

二 位置達成手段ニ就テ

KBハ敵ノ支分セル一部ヲ積極的行動ヲ採ルラ好機トシテ之ニ對シ断ヤトシテ各個撃破ヲ行ハ茲ニ戰勝ノ基ヲ掃クト同時ニ爾後ノ機動ノ自由ヲ確保シ敵騎兵主力ニ對スル戰斗ニ於テ有利ナル態勢ヲ占ムル爲秀水河子方面ニ進出スルヲ要ス蓋シ我レガ敵ニ先ニ進出シ秀水河子附近ニ進出シアラバ敵ノ前進部ノ如何ニ論ヤ我ガ攻撃面ヲ自由ニ選定シ得敵ノ弱點ニ投シ決戦ヲ強要シ得ベシ

又ハ赴援スルハ旅團目下ノ急務トスル所ナリ而シテ將來ノ戦斗ニ於テ我ガ左側ヲ安全ナラシムル爲敵機甲部隊ヲ撃破シ置クノ要アルモ機甲部隊ノ特性上騎兵主力カク之ニ投スルハ不利トシテ避ケカハルベカラス

故ニ一部ヲ以テ之ヲ攻撃セシメ之ニ依リKB主力ノ轉進ヲ掩護セシメ連クニ秀水河子附近ニ進出シ本然ノ戦斗目的ニ向ヒ進進スルヲ要ス(要妙)

三 機甲部隊ニ對スル兵力配置

彼我騎兵團ノ衝突迫レル本状況及機甲部隊ノ機動力等ニ鑑ミ機甲部隊ヲ攻撃スル爲ニ支分セル兵力ハ勉メテ之ヲ節約シ撃破ノ見込アル限ヲ充塞スルト同時ニ巧遅ヨリモ拙速主義ヲ以テ一部隊ヲ配置スルヲ要ス從テ本状況ニ於テハ前衛司令官ニ其任務ヲ課シ現在ノ部隊ヲ以テスルヲ適當トス(要妙)

状況第一

一 KBハ前系案ニテ前進奇習ヲ以テ轉進ヲ開始シ新前衛ハ  
 十時四十分頃仰樹屯達シ喇嘛營子附近ヲ占領シテ優執カ  
 ル敵騎兵ト激戦中ノ以テ戦斗ニ加入セリ  
 此頃 KB本隊ハ前衛ニ降シテ秀水河子南側地區ニ進出中  
 ニシテ十一時其先頭タルノ敵騎兵ニ秀水河子東南端附近ニ達  
 ス

二 ☆ハ挺進シテ十一時其高地ニ達ス此時迄ニ得タル情報左如シ  
 一 飛行機通報別紙要圖ノ如シ  
 二 BK長ノ指揮スル旧前衛ハ登壇堡子附近ニ於テ敵機甲部  
 隊ヲ攻撃シ相撃中戰後トシテ多大ノ損害ヲ受ケタリ  
 三 目下 BK主力ハ敵騎兵ニ追撃中ニシテ秀水河子西南方約4Kノ方  
 向ニ追撃中ナリ  
 四 前面敵騎兵ハ約四中队ニシテ其KA四門ハ遠ク後方ニ降レ  
 テ間家荒地(折樹屯南東方2K)附近ヲ北進中ナリ

第二問題

KB戦斗指導

腹本

要圖答解



↑

50000

P.

注意  
一、方針及指道等要領明記  
二、用紙、大方眼紙  
三、呈出期日、二月十八日八時

7.



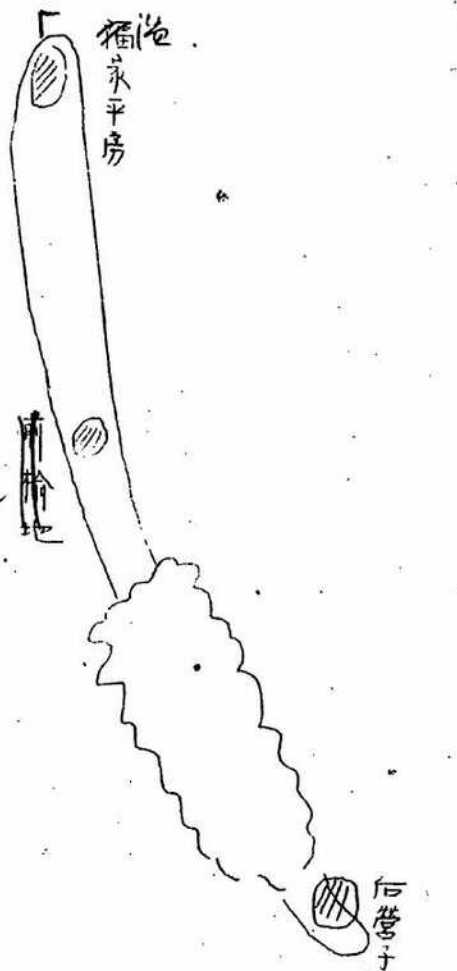
十侍十五分一ル心位置守圖



50000

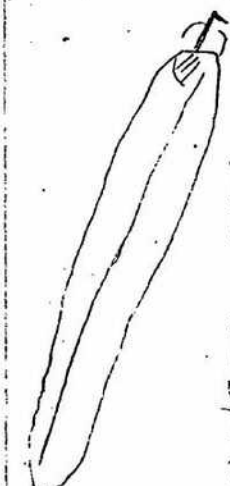
宿遷  
永平房

井  
地



周家屯(法庫—新民道上公主屯西方約1K)

東三林子



裏面白紙

第二問題 軍章

一 戦斗指導方針

旅團ハ連ニ前面ノ敵騎兵ヲ撃破後主カラ以テ秀水河子西  
南側高地脈東側ノ地帯ヲ山ノ方向ニ進出シテ敵ノ機動軸  
ヲ撃破シテ敵ノ主カ縦隊ニ波及シテ退  
路外ニ圧倒殲滅スル如ク先ツ敵ノ右縦隊ヲ攻壊ス

二 戦斗指導ノ要領

第一期(直後ニ於テ)戦斗指導  
人TK(秋屬)南家窩棚(柳樹化東方約水)——黄家荒地南

側道方向ヨリ敵砲兵ヲ奇襲セシム(要2)

2. 全カニ逆家窩棚西北側附近ニ陣地ヲ占領セシメ前衛ノ

戦斗ニ協力セシム

3. 高地東側附近ニ陣地ヲ占領シテ前衛ノ戦斗ニ協力セシム

第二期(將來ニ於テ)戦斗指導(敵右縦隊ニ對スル攻撃)

1. 前面ノ敵撃破後ニ於テ一部ヲ以テ新刊化(秀水河子西南方約

3K)靠山ニ直ル高地脈ニ進軍前進セシム他ノ一部ヲ以テ敵

右縦隊方面ニ對シ前進妨害ノ處置ヲ講ス

2. 旅長ノ指揮スル部隊ニ爾後ノ決心ヲ通達シ成ルベク

クノ兵カヲ以テ濰東迄北カ地ニ於テKB主カ合スルコトヲ命ス

3. 爾余ノ主カヲ以テ新利屯ヨリ靠山ニ亘ル高地脈東側地ニテ靠山東南地ニ進出ス敵ノ旋回軸ヲ索メテ破摧ス  
第三期(將來ニ於テハ)戰斗指導(敵主カ縦隊ニ對スル攻撃)  
敵右縦隊擊破後敵主カ縦隊ノ右側北側ニ殺陣シテ之ヲ退路外ニ圧倒殲滅ス

第一問題 宗棠ノ說明

一、敵情判斷ニ就テ  
敵騎兵ハ從來得タル情報ヨリ判斷シテ少クモ一師團ヲ基幹トスルモノナルベク今ヤニ縦隊ヲ以テ前進中ニシテ其重占ラ外翼タル左縦隊ニ保ヲセルト一般ノ態勢及其守守套ヲ段ヨリ判斷シテ我ト衝突スル時機ニ於テハ其主カヲ以テ西方ヨリ我ヲ包圍スルコトヲ企圖スベシ  
二、各個擊破ノ可能性ニ就テ  
數縦隊ヲ以テ前進スル敵騎兵ニ對シテハ各縦隊ヲ各個ニ擊破スルヲ以テ要訣トナスモ本狀況ノ如ク兩縦隊間ノ距離比較的ニ略々奈頭前進ラシアル場合ニ於テハ敵縦隊ノ十分及協同連繫ノ不良等ヲ利用シ得ルコト難シ然レト

モ一、縦隊ノ縦隊ニ對シテ牽制抑留等ノ處置ヲ請フ此間他縦隊ニ對シテ敘連軍敵ナル攻撃ヲ以テ其弱ヲ衝キ戰斗ノ部署ニ於テ我ノ獲得スル有利ナル戰勢ヲ擴大スルヲ以テ全高ノ勝利ニ導ク如ク戰斗ヲ指導セハ敵ノ持性ニ鑑ミテ依然各個擊破ノ可能性アリト謂フベシ  
三、包圍ノ可能性ニ就テ  
本敵縦隊ニ於テハ敵ノ包圍翼ヲ包圍セントスルモ地形上正面衝撃ニ終リ易ク過早ニ敵ノ展開セシメ得タル場合ニ於テハ戰場機動ニ依リテハ小規模ノ包圍ヲ行ヒ得ルニ過キス

然レモ及對翼タル敵ノ右縦隊ノ右側背ニ對シテ迅速ナル打撃ヲ加フルコトヲ得バ敵ノ進出方向ニ鑑ミ敵全般ノ旋回軸ヲ崩壊セシムル結果ヲ獲得シ得ベシ  
四、將來ニ於ケル戰斗指導ノ要領ニ就テ  
以上ノ理由ニ依リKBハ敵ノ右縦隊ノ右側背ヲ攻撃シ得ル如ク持敵スルコトニ先前面ノ敵騎兵ヲ害破シテ敵ノ救急ヲ利用スルヲ要ス

而シテ新利屯ヨリ靠山ニ亘ル高地脈ハ本戰場ニ於ケル樞軸ヲ形成セルヲ以テ主カヲ以テKB主カノ包圍軸ヲラシムルコト



同時ニ成ルベリ多クノ敵ヲ該正面ニ牽制スルヲ要ス  
故ニ敵ヲ撃破セバ追撃奇隊ヲ該高地ニ進ムル事肝  
要ナリ又此主カ持敵ノ進ニハ最初ヨリ温家ノ店ヲ向  
回シテ我々企圖ヲ過旨ニ敵ニ暴露スルハ戒ムルヲ要ス  
故ニ新利化ヨリ靠山ニ直ル以テ東ノ地区ヲ前進シ敵右縦隊  
ニ對シテモ其行動ヲ暴露セサルコトニ勉メ衝突直前ニ於  
テ機動カクテ揮シ更ニ戰場機動ヲ行ヒテ一層有利ナル  
態ヲ勢ヲ占ムルヲ要ス

五、直後ニ於ケル戰鬥指導ニ就テ

前面ノ敵騎兵ニ對シテハ牛ヲ用ヒテ一帯ニ敵ヲ被推ス  
ルヲ要ス  
然レトモ敵騎兵ノ兵力優勢ナララル以テ火線ニ出スベ  
キ第一線奇隊ヲ現在ノ兵力以上ニ増大スルヨリモ火カ奇  
隊ノ協力及TKノ如キ突撃隊カト機動カアルモノヲ使用シテ迅  
速ニ戰鬥ノ解決ヲ企リ去ニ依リ東馬奇隊ノ主力ヲ予備隊  
ノ編中ニ設テ爾後ノ機動及戰鬥指導ノ爲ニ時間ヲ遷  
延スルコトヲ避クルヲ可トス

狀況第三

一、十一時十分頃前衛力TKノ左側ヨリ敵ノ右側背ヲ包圍スル如ク  
取撃前進ヲ開始スルヤ前面ノ敵騎兵ハ退却ヲ開始シタルヲ以テ  
ハ前衛ニ強ク屬シテ追撃ヲ命シ將ニ攻撃部署ニ就カントスル本隊  
火力奇隊及TK主力ニ其行動ヲ中止セシメTKニ現在地附近ニ於テ  
隊伍ヲ整頓スルヲ命ス

二、十一時三十分前衛ハ退却スル敵ニ追ヒテ黄家荒地附近ニ進出ス  
前衛司令官ハ黄家荒地北側閉鎖曲線高地ニ馳セ上リ前オヲ展  
望スルニ我カ(1)TK(2)ハ黄家荒地西側ニ展開シ黄家荒地大平庄中  
間草地北端附近ニアル稍ニ優勢ナル敵ト戰鬥中ニシテ靠山高地  
上ニハ莫クト徒歩シテ敵兵ノ現出シアルヲ知ル

三、敵ヲ眼ヲ後方ニ転ズレバTK主力ハ花家窩柵附近ニ進出中ナリ  
同時ニ東馬予備隊及新ニ配屬セラレタルTK小隊ハ黄家荒地東北  
方七百ノ地處ニ集結中ナルヲ報ニ接ス

第三問題

前衛司令官ノ決心

第三問題 原案

決心

前衛ハ前面ノ敵ヲ撃退シ靠山高地ニ進出セントス

處置

一 TK及乘馬豫備隊ヲシテ呂家窩棚—刘字窩棚道方面ヨリ靠山高地ニ推  
進シ靠山ヲ占領セシム

二 第一線部隊ハ銳意前面ノ敵ヲ撃破シ靠山高地ニ進出セシム

三 敵情及決心ヲ☆ニ報告

着眼

一 靠山高地ノ本遭遇戦ニ於テル價値

二 戦術ノ初動ヲ有利ナラシムル爲メ前衛ノ機先獨斷 (70)

三 TKノ用法 (81)

四 一部隊ノ機動ニ依ル敵驅逐處置

狀況第四

一之タリ先十一時三十分前、黄家荒地附近ニ進出、  
 敵左縦隊、前進ヲ妨害セシ、  
 台子(香永河子西南方約1km)方面ニ派遣セリ、  
 二之タリ八諸情報ニ依リ、敵、右縦隊主力が黄家嶺(崑山西南方約1km)附近ヨリ  
 展開態勢ヲ以テ崑山方面ニ進出中ナルヲ察知シ、既定セル戰鬥方針ニ基キ其  
 企圖ヲ各々直屬上官ニ明示シ、攻撃ヲ爲メ前進運動ニ就キツツアリテ其  
 先頭部隊ハ王家窩棚附近ニ在リ、時既ニ十一時ヲ過クル五十分ナリ、  
 同時友軍中ヨリ黄家嶺附近ニ於テ敵右縦隊ニ對シ、  
 相當ノ損害ヲ與ヘタリト、  
 三、前衛方面ニ於テハ激烈ナル聲漸次南方ニ移リツツアル如ク感セラル  
 ニ台子方面敵左縦隊、情報ニ關シテハ知ル所ナシ  
 四、隊長、指揮スル部隊ハ敵機甲部隊ヲ過家店以南ニ擊退後、十一時五十分頃ヨリ主力ヲ以テ新立屯(過家店西北方1km)附近ニ集結中ナリ  
 五、登任堡子附近ニ於テ擊テ残シタルTK十數台及乘車歩兵一、二小隊、遠ク南方ニ退却シタルモ新ニ敵騎兵一中隊ハ泡子沿(公主屯西南方2km)附近ニ來リ、  
 十一時三十分頃ヨリ同地附近ニ陣地ヲ占領シ始メタリ、  
 六、一部ハ公主屯西南方附近ニ於テ目下之ヲ監視シアリ、  
 七、五敵ノ飛行編隊群八十時頃ヨリ、右翼方面ニ屢々飛來シ壯烈ナ

ル空中戦ヲ現出シアリシガ今ヤ遠ク東北方ニ其機影ヲ没セリ  
 第四問題  
 十一時五十分ニ於ケル☆・處置及旅團主力ノ態勢  
 (要圖参照)  
 注意

- 一、用紙小方眼紙
  - 二、呈出 二月二十一日 八時
  - 三、要圖ハ二万五千分、一トシヨ、前進部隊ヲモ記入スヘシ
- 前記部隊ノ方此部ヨリニ入

圖要勢態、團旅及置處、長團旅一第兵騎  
 (分十五時一十九月二於)







第四問題 原案説明

一 KB主力、態勢

本状況ニ於ケルKB、態勢ハ包繞運動間逐次本隊ヲ展開ニ便ナル態勢ニ  
導キツ接敵スル部署ヲ執ルヲ至當トス。即チ彼我、衝突ハ前進後退何モナ  
ク惹起スベク前衛ノ獲得スル迄制、利ヲ直チニ利用シテ本隊、攻撃ヲ命ジ  
得ルヲ要シ而モ敵ヲ包圍シ得ル態勢ニアラサルヘカラス。而テ敵右縦隊ニ  
對シテ勉メテ蔭蔽近接ニ爲シ高北脈東側地區ニ右ヒ前進スルヲ可トス。

二 騎砲兵ノ用

砲兵ハ爾後包繞運動方面ニ使用スルハ戰機ヲ逸スルノ虞アルヲ以テ其主  
力ハ旅團ノ爲ニ包圍軸ヲ成セル黃家荒地附近ニ陣地ヲ占領シテ敵ノ機  
先ヲ制スル如ク射撃ヲ開始シテ敵ノ展開妨害ヲ行ハシムルト共ニ前衛、戰鬪  
ニ協力セシメ以テ該方面ヨリ主力ノ戰鬪ニ協力セシムルヲ可トス。

而シテ此、砲兵ハ敵ノ左縦隊方面ニ對シテ一部ノ火力準備ヲ爲サシメ得ル  
ヲ以テ之ニ依リIKト共ニ敵主力、合撃ヲ妨害セシメ得ルノ利ヲ收メ得。

三 要突奪取、爲、派遣部隊

靠山奪取如何ハ本遭遇戰勝敗、分岐点タリ前衛、奪取ノ成否未  
タ不明ナル本狀況ニ於テ☆ハ二TKヲ該地附近ニ捷進シ前衛、戰鬪ニ協  
力セシメ以テ該地附近、奪取ヲ公ルヲ要ス。  
又亲家房身及馬圍子附近ハKD將來、爲シ必マ一石ヲ投シ置クノ要

アルハ言ヲ撰タス 而ルニ舊前衛、兵カヲ以テハ稍々正面過底面<sup>現況ニ於</sup>テハ其餘裕ナシ故ニ新立屯附近ニ集結シタルBKヨリ之ニ一部ヲ派遣セシムルヲ可トス

BK主力ヲ以テ該地ヲ確保セシムルハ旅團將來ノ企圖ヲ過早ニ暴露スルモノニシテ同意シ難シ 而シテ以上ノ如ク兵力ヲ分散スルハ決戦場ニ於テ重兵形成ヲ不徹底ニシラシムル嫌ナキニアラサルモ本地形及敵情ニ於テ一部方面ニ敵主力ヲ牽制シBK主力カヲシテ敵ノ側背攻撃ヲ敢行セシムル爲メニハ之ヲ自然ノ勢トスヘク要ハ一時分散シタル兵力ヲ攻撃時機ニ於テ勉メテ集結シ得ル如ク部署スルニ在リ

四、隊形及警戒部署

敵、右縦隊ニ蔭蔽シテ前進スル如ク其幅員ヲ狭少ナラシムル爲聯隊ハ中隊ヲ重疊シテ前進スルヲ自然トス 而シテBK主力カ左前方ニ位置シタル圖線上特別警戒部隊ヲ支分スルノ意ナシ

状況 第五

一、十二時十分 ☆ハ旅團、地頭ニ在リテ呂家窩棚ニ達ス  
右顧リシニハ靠山高地諸所ニ國旗翻々トシテ凱リ歡聲、撃ルヲ耳ニス  
旅團長莞爾ナリ

TKハ刘家窩棚附近ニ集結中ナルヲ目撃ス  
同時我カ協力<sup>ハ</sup>、通信筒投下及舊前衛、存候、報告ニ依リ左ノ如キ  
狀況ヲ知得ス

1. 敵長、指揮スル舊前衛ハ靠山高地ヲ確實ニ占領セリ

2. 敵ハ香山(靠山西方)瓦房屯—陳家窩棚線ニ續々徒歩展開  
中ナリ

3. 白家店附近ニハ砲數不明、敵砲兵陣地アリ亦昭星台附近ニハ手  
馬及乘馬部隊密集シアリ

又十二時頃敵、右縦隊、先頭ハ馬家屯ニ達シ該地附近ヨリ吳家窩棚  
ニ台子東方約外方面ニ轉進中ナリ

5. TKハ果敢ナル攻撃ヲ及覆シテ敵ノ前進ヲ妨害シタルモ逐次敵、嚴道  
ヲ受ケ目下ニ台子附近ヲ占領シテ優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受ケツツアリ

☆ 第五問題 處置アリヤ

第五問題 原案  
一、外長ヲシテ旅團ヲ指揮セシメ、道ヲ經テ〇〇ニ急追セシム  
二、靠山高地ニ急行シ舊前衛ニKBヲ企圖( )ヲ明示ス



十二時十分 隊長ハ新立屯西北側ニ在リテ敵ノ第一線瓦房屯一  
陣家窩棚ノ線ニ續々徒歩展開中ナルヲ目撃ス  
狀況  
第六問題  
聯隊ハ獨断〇〇方面ニ向ヒ敵ヲ攻撃セントス  
隊長ノ決心(決心ノミ)

13K方ニ運動ヲ開始セントスル頃汗馬ニ鞭チ疾驅シ來リ1KB攻撃命  
令ヲ傳達ス

狀況 第七

第七 問題

1KB 攻撃部署要圖

一用紙

呈出期日

二月二十七日 八時

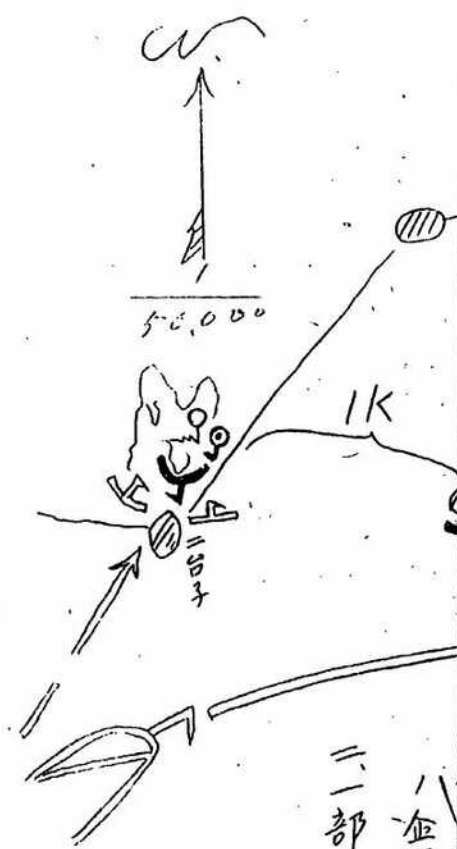
第七問題 原案ノ説明

一 攻撃重兵ニ就テ  
敵騎兵四五中隊ハ既ニ我カ舊前衛ト交戦中ナルト敵右縦隊ノ  
兵力ヨリ判断シテ其重兵ハ靠山方面ニ指向セラレアルモ如ク其豫備  
隊砲兵陣地手馬等ハ昭々台一自家屯間ノ地區ニ在リ  
今ヤ旅團ハ豫定ノ如ク敵ノ側背ヲ攻撃スヘキ絶好ノ機會ヲ得タリト  
謂フヘシ  
即KB主力ハ敵右翼部隊及其後方部隊ヲ攻撃スルヲ可トシ特ニ其手  
馬ヲ攻撃スルノ價値甚大ナルニ鑑ミ一部ヲ以テ之ニ向ハシムルヲ可トス  
二 舊前衛ヲ以テスル敵牽制ニ就テ  
靠六方ニKBハ包圍軸ヲリ而テKB主力ノ機動及爾後ノ右側背攻撃  
ヲ愈々効果的ナラシムル爲メニハ最悪ノ條件ノ場合(KBハ企圖暴露場合  
ニ於テ敵ヲシテ現在ノ態勢ヨリ離脱スルノ余裕ナカラシムル如ク豫メ處  
置ヲ講シ置クヲ要ス 即舊前衛ヲ以テ靠山ノ占有ヲ確實ナラシムルト  
共ニ敵主力ヲ該方向ニ牽制セシムル所似ノモノ茲ニ存スルナリ  
三 戦鬪加入ニ就テ  
敵ノ弱兵(不利ナル態勢)ヲ捕捉シ神速ニ之ヲ攻撃セントスルマ若クハ  
前衛等ノ既ニ獲得セル利益ヲ確保或ハ増大セントスルカ如キ場合ニ於テ  
ハ逐次到着スル本隊ノ各部隊ヲシテ直ニ戦鬪ニ加入セシムルヲ要ス(改)

本狀況ハ即以上兩者ニ通スル場合ト解スヘキナリ  
 四 戰果擴張方向ヲ示スルヤニ就テ  
 KBハ狀況上敵ノ右縱隊ノ攻撃ニ引續キ敵ノ左縱隊ノ攻撃ヲ續行シ  
 テ各個撃破ヲ完ウスルヲ要ス  
 之ガ爲今ヨリKBノ戰果擴張方向ヲ示スモ取テ不可ナキモ本地形上左敵  
 左縱隊ノ進出方向ニ依リ狀況ノ變化測リ難キモノアルヲ以テ之ヲ示サズ更  
 ニ統制ノ機會アルコトヲ豫期セリ  
 五 騎砲兵陣地ニ就テ  
 主力騎砲兵陣地ノ變換等モ亦之ヲ豫測シ得ルモ未タ之ヲ命スルノ時機  
 ニアラズ依然現在地ニアリテKB主力ノ戰鬥ニ協力セシムルヲ可トス  
 六 TK、用法ハ其ノ原則通り包圍部隊ノ外側ニ深ク突進セシメ敵ノ側  
 背ヲ奇襲セシノ其特性ヲ遺憾ナク發揮セシムルヲ可トス

騎兵

方針  
 依團ハ旧前衛ヲ以テ敵ヲ靠山方面ニ牽制シ主力ヲ以テ旧前衛ノ戰鬥ニ逐次ニ加入シ敵右縱隊ノ右側背ヲ攻撃シ引續キ敵主力縱隊ヲ包圍攻撃シテ之ヲ退路外ニ壓迫殲滅ス  
 右翼隊 (13K-3,4)  $\frac{1}{3}$ TA  $\frac{2}{4}$ 2BMG  
 予備隊 (4) 14K MA 2BMG(-7)



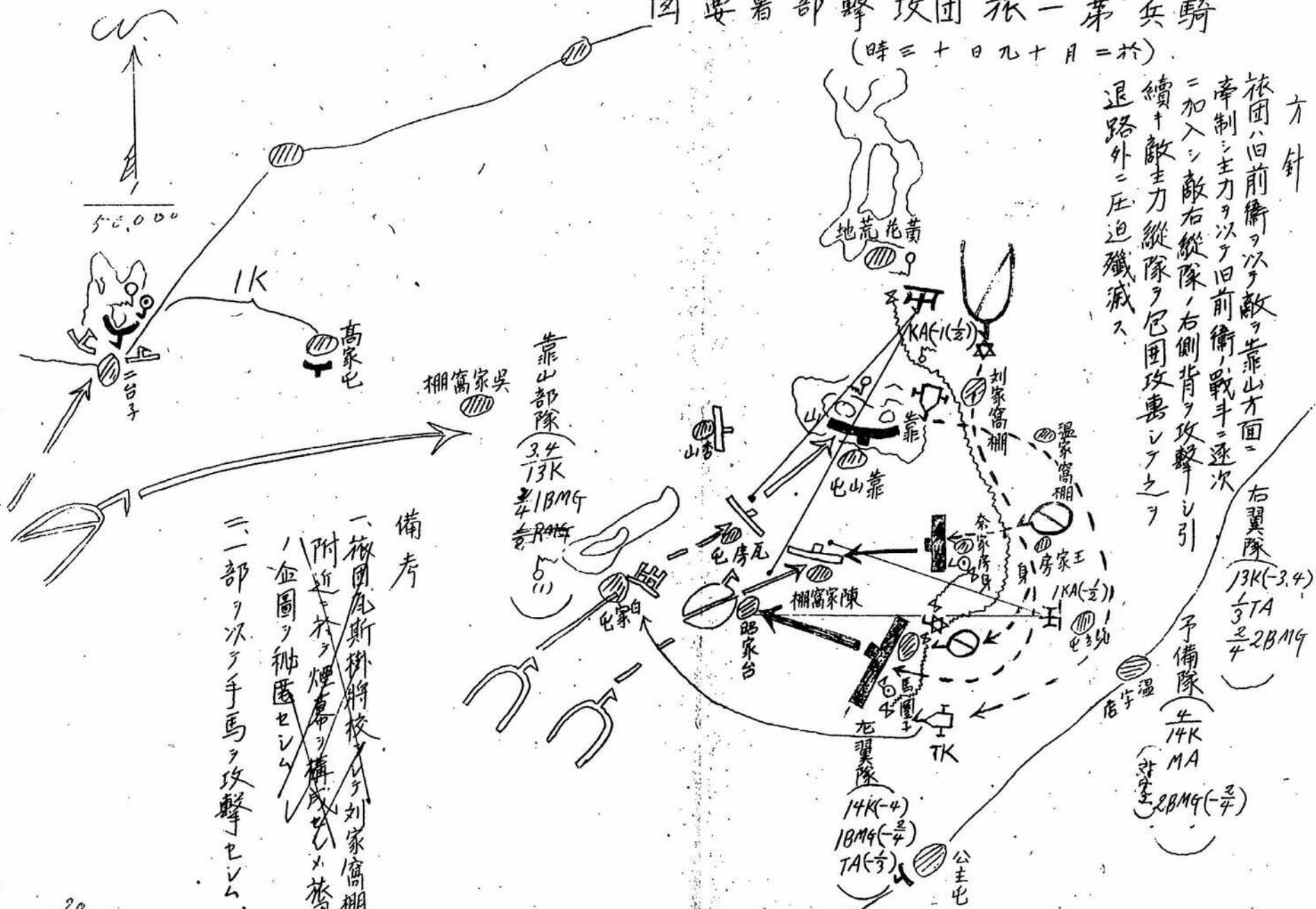
企圖ヲ秘匿セシムル  
 一部ヲ以テ手馬ヲ攻撃セシム





圖要署部擊攻団旅一第兵騎

(時三十日九十月=於)



方針

旅団は日前衛ヲ以テ敵ヲ靠山方面ニ牽制シ主力ヲ以テ日前衛ノ戦斗ニ逐次ニ加入シ敵右縦隊ノ右側背ヲ攻撃シ引續キ敵主力縦隊ヲ包围攻撃シテ之ヲ退路外ニ圧迫殲滅ス

右翼隊

13K(-3.4)  
1/3 TA  
2/4 2BMG

予備隊

4/14K  
MA  
2/7 2BMG

備考

一旅団瓦斯射撃隊ヲ以テ柳家窩棚附近ニ於テ煙幕ヲ構成セシメ旅団ノ企圖ヲ秘匿セシム  
二一部ヲ以テ手馬ヲ攻撃セシム

裏面白紙

背ヲ奇襲セシメ其特性ヲ遺憾ナク發揮セシムルヲ可トス

# 山地戦

第一師團長任務遂行ノタメノ腹案

## 第一問題

一 速ニ豊橋平地ヲ領有スベキ任務ヲ有スル甲國第一師團(駐馬編) 二十万分一 廣松、豊橋、名古屋一級圖

制ニシテ ~~田本Rst~~ 2A ~~IsRst~~ 1SA 2(消) 小 1/PS 1/FMS 1/BK 2/BK bLT (示) 其他 兵站部隊等ヲ有ス

ハ東海道ヲ前進シ四月五日夜鳴海町赤池河レモ名古屋東南方

約ニ里ノ線以西ノ地區ニ宿營中ニシテ二十四時迄ニ師團長ノ

知リ得タル狀況別紙要圖ノ如シ

## 想定

### 所要地圖

二十万分一 廣松、豊橋、名古屋一級圖

五万分一 別ニ交付ス

- 答解事項
- 一、方針
  - 二、指導要領(要圖、二十方分)

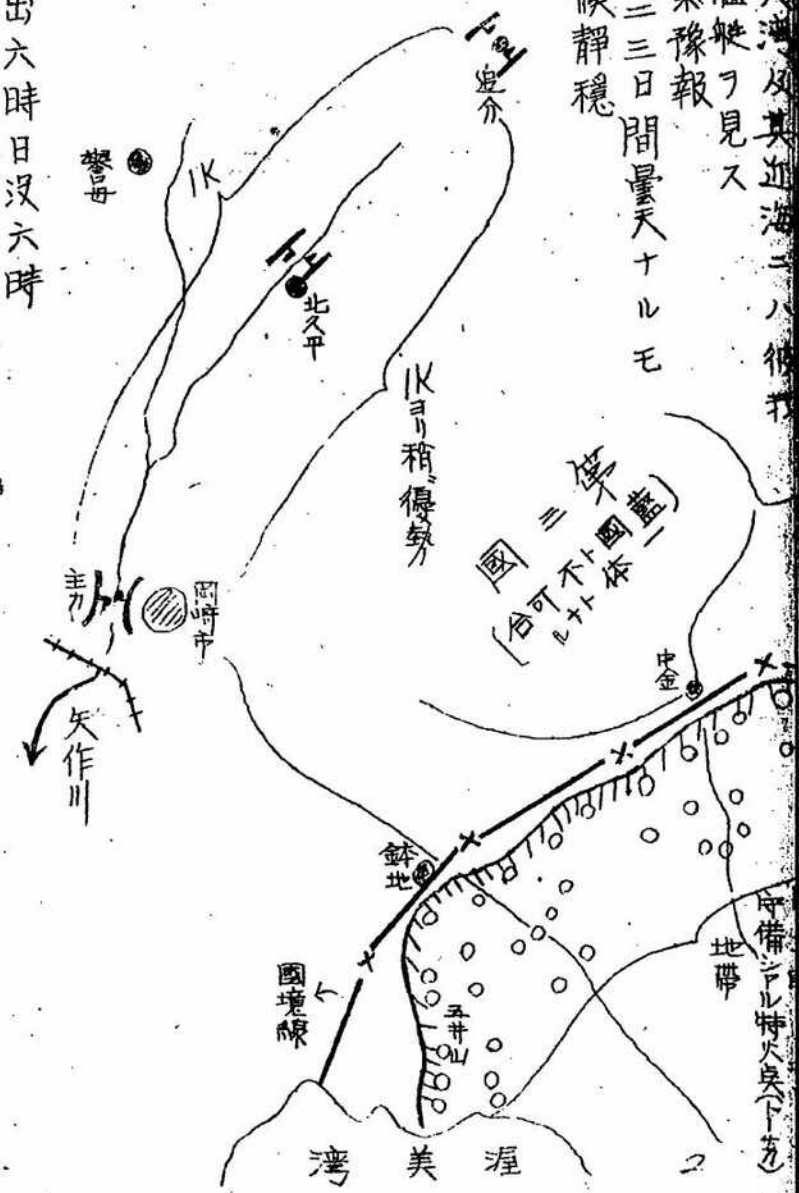
想定附圖

- 備考
- 一、森林ハ展望射撃ヲ妨ケス。
  - 二、條實線路ハ野戰諸車輛ヲ實線路ハ駄馬ヲ通ス但シ高戸山(岡崎市東北方約十里)岳(高戸山東南方約三里)岩(高戸山東方約二里)日本場山(高山東方約四里)ヲ連又ハ漢以北教里向ハ道路全ク荒廢單独兵ノ通過モ至難ナル所少ナカラス
  - 三、矢作川ハ東海道線ヨリ下流徒揚山場ナシ



四、瀨美灣及其近海ニハ俄打  
 艦艇ヲ見ス  
 五、天氣豫報  
 向フ二三日間曇天ナルモ  
 天候靜穩

六日出六時日没六時  
 薄明三十分(天且)



想定附圖 正誤

備考ニ  
 〃三  
 要圖  
 日本ヶ塚山  
 數里ノ間  
 下流徒涉  
 徒涉ノ許ス  
 一師團ヲ基幹セル  
 不可分一休ナラ

正  
 日本ヶ塚山  
 數里ノ間  
 下流徒涉  
 徒涉ヲ許ス  
 一師團ヲ基幹トセル  
 不可分一休ナラ



第一問題 原案

一 師團ハ各一部ヲシテ北方山地及渥美灣ヲ經テ敵ノ背後ヲ攻撃セシメ速ニ主力ヲ以テ新城北方ノ敵陣地ヲ攻撃シ天龍川以西ノ地區ニ敵ヲ捕捉殲滅ス

二 爾後天龍川ノ線ヲ確保シ止ムヲ得サルモ濱名湖ヨリ特大突地帯ニ巨ル間ヲ確保シテ豊橋平地ヲ領有ス

指導要領

一 一部ヲ先遣シテ矢作川畔ノ敵騎ヲ驅逐シ岡崎中樞形岡崎市東方約四里千萬高里旁山源代附近ニ進出シ師團主力ノ行動ヲ掩護セシム又東海道線ヨリ下流矢作川ノ橋梁破壊ヲ準備セシム

二 師團主力ハ明六日朝現地出發シテ東海道ヲ一部ヲ以テ名古屋一赤池一警母一堀又平道ヲ矢作川一足助川一線ニ前進シ夜ニ入ルト共ニ主力ヲ以テ岡崎一北久平一田折一田原道ヲ田原附近ニ一部ヲ以テ北久平一追分一梨野一桑平一安郷道

ヲ受御附近ニ轉進新城北方高地ノ敵情地形ヲ偵察シ速ニ之ヲ  
 攻撃ス  
 三 川ヲシテ主力ノ攻撃ニ先ケ本御(長篠東北方約四里)附近ヨリ天  
 龍川ニ沿テ地區ヲ經テ敵ノ背後ヲ攻撃セシムナシ得レハ天龍  
 川ニ於ケル橋梁ヲ破壊セシム  
 四 歩兵一大隊ヲ基幹トスル部隊ヲシテ主力ノ攻撃ニ先ケ舟艇ニ  
 ヲリ渥美灣口ヲ横断渥美半島ヲ經テ豊橋市方面ヨリ敵ノ背後  
 ヲ攻撃セシム  
 五 敵陣地ヲ突破セハ天龍川線ニ向ヒ進撃シ該川以西ノ地區ニ敵  
 ヲ捕捉殲滅ス  
 六 爾後天龍川ノ線ヲ確保スルニ勉メ敵情ニヨリ止ム得サルニ至  
 ルモ濱名湖ヨリ特火矣地帯ニ昼間ヲ確保シテ豊橋平地ヲ領有  
 ス

第一問題 原安ホソ説明

一 迂回ニ就テ(105 332)  
 主カヲ以テ敵陣地ノ右側背ニ迂回セントスルモ天龍川左岸ヲ  
 利用スルハ爾後右岸ヘノ進出至難トナル虞アリ右岸ニ於テハ  
 適當ナル進路ナク寡兵ヲ以テ拒止セラルル虞アリ又敵陣地ノ  
 右側背ニ進出シ得タリトスルモ濱名湖北方ノ山地ニヨリテ拒  
 止セラハル等急速ナル目的達成ノ見込薄キナリノミナラズ高  
 山東西以北ノ地區ノ道路ノ荒廢ハ後方連絡線トシテ使用スル  
 ヲ得サレバトテ敵陣地ニ概不並行シテ近ク其ノ前方ニ迂回  
 道路ヲ補給路トシテ使用スルコト亦不適當ナルニヨリ妥當ナ  
 ラス  
 然レトモ一部ヲ該方面ニ使用シテ敵ノ背後ヲ攻撃セシムルヲ  
 可トスルヲミナラズ架橋材料カ師團主力ノ爲メニ差向キ必要  
 ナラザル狀況ニ於テ之ヲ使用シテ海上ヨリ敵ノ側背ニ上陸セ  
 シメ敵背後ヲ攻撃セシムルヲ適當トスルニテ山地迂回部隊ニ  
 アリテハ騎兵ヲ可トシ(33)海上迂回部隊ニ至リテハ枝料ニ鑑ミ  
 歩兵一大隊ヲ基幹トセリ  
 二 攻撃方面及進撃目標

新城北方ノ陣地ヲ攻撃スル爲ニハ相當ノ山地ヲ經過セサルハ  
 カラザルモ而モ尙東オニ何ノモニ比スレハ其ノ深サ小ナル  
 ノミナラズ道路縱横ニ通シ前後左右ノ連絡交通容易ナリ  
 本宮山以西ノ陣地ハ特大矣地帯ニシテ突破最モ困難ナルヘク  
 戦略上ノ價値ニ於テモ著シク劣ル  
 追撃目標トシテ金指町附近ノ隘路ハ價値ヲ有セサルニ非サル  
 モ近ク其東方ニ天龍川ノ地障アルヲ以テ寧ロ該河川ヲ目標ト  
 スルヲ可トス  
 三、前進目標縱隊分割進路行動開始ノ時機  
 新城北方ノ敵陣地攻撃ノ爲ニハ敵情地形道路網ノ關係  
 道路價値ニ鑑ミ主力ヲ以テ北久平田前田原道ヲ田原附近  
 ニ一部ヲ以テ進分梨野桑平愛郷道ヲ愛郷附近ニ前進ス  
 ルヲ可トシ晝間接敵スルハ企圖行動ヲ暴露スルノミナラズ地  
 形特ニ敵機ノ爲大ナル打撃ヲ蒙ル虞アルヲ以テ明六日夜行十  
 フヲ要ス然レトモ矢作川足助川ノ線マテノ前進ヲ晝間俟案ノ  
 如ク行ナイタルハ夜行軍ノ行程ヲ短縮シ併セテ我カ部署ヲ欺  
 騙センカ爲ナリ  
 四、先遣隊ノ派遣  
 敵騎撃隊ノ爲ニハ先遣隊ヲ要スト雖モ山地内ノ要矣ヲ占領シ

一 師團ノ夜行軍ヲ掩護セシムル爲メ  
 先遣隊ヲ部署セリ側敵行ナルニ於テ特ニ然リ(263 286)  
 五 敵撃滅(擊退)後ノ行動  
 天龍川以西ノ地區ニ敵ヲ撃滅後又ハ敵ヲ逸シタル場合ニ於テ  
 ハ豊橋平地領有ノ爲地形上天龍川ノ地障ヲ確保スルヲ有利ト  
 スルモ敵情之ヲ許ササルニ至ルモ最少限度濱名湖ヨリ特火點  
 地帯ニ亘ル間ヲ確保セサルベカラス

### 第一狀況

一 第一師團長ハ前研究ノ腹案ニ基キ左記要旨ノ命令ヲ下達セリ

### 第一師團命令ノ要旨

- 一 敵狀地形別紙要圖ノ如シ(想定附圖)
- 二 師團ハ明六日敵ヲ攻撃ノ目的ヲ以テニ縱隊トナリ主カヲ以テ  
田原新城北方約三里附近ニ一部ヲ以テ愛郷附近ニ向ヒ前進セン
- 三 八日早朝ヨリ新城北方ノ敵陣地ヲ偵察スヘシ
- 四 依然前任務ヲ續行シ先遣隊進出ト共ニ之ト協力シテ當面  
ノ敵騎ヲ驅逐シタル後夜間海走町(田原町東方約三里附近)ニ進  
出シ師團ノ左側ヲ掩護スヘシ
- 五 右先遣隊(I/4c 2/RIA 1/BA 1/IP DLT(1))ハ明六日四時宿營地出發以主カト協  
力シテ岡崎中附近ノ敵騎ヲ驅逐シ該地附近ニ於テ師團ノ行動



ヲ掩護スベシ  
東海道線以南矢作川ノ橋梁破壊ヲ準備スベシ  
主カハ師團主力矢作町附近ニ到着セハ工兵隊長ノ指揮ニ復  
歸セシムベシ

六左先遣隊 (I/BK 2/R1A 4/1P DLT(1))  
八明六日四時宿營地出奔北久平附近ノ敵

騎ヲ驅逐シ櫻形干萬萬里附近ヲ占領シ師團ノ行動ヲ掩護スベシ

七右縦隊前衛 (☆ 3I(1) 2/R1A 1P(1) 2/4) 八明六日六時其先頭ヲ以テ鳴海東端

出奔東海道河城市ノ北久平田原道ヲ田原ニ向ヒ前進スヘシ

八右縦隊本隊 (5/4I DTL TLT(-4) Z(=分) 4I(-1) 1/2R1A 1BA(-1) 2I(-1) 1P/2A I/1SA 12/2I Rst/1BA(-1) 1/2Rst/2A 1/2Rst/1SA N(-1/3)) 八明六日六時其先頭ヲ以テ赤池ヲ

ノ集合シ上記ノ序列ヲ以テ右縦隊前衛ノ後オ約千米ヲ前進スヘシ(集合ノ件略ス)

九右縦隊 (10B(-20) 11/3Rst/1BA 1/4 2/1P Z(=分) DLT(2) 1/3) 八明六日六時其先頭ヲ以テ赤池ヲ

右縦隊 出奔赤池ノ攀母ノ北久平一追分一梨野一桑平一愛御道ヲ愛御

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

是是隊ニ向ヒ前進スベシ

士余ハ依然現在地ニアリ右縦隊ノ前進ニオリテハ本隊ノ先頭ニ  
アリテ行進ス

下 達 法

先ツ要旨ヲ口達シタル後印刷交付ス

(三)ニ於テ五分ノ一豊橋及濱松近傍圖基ヲ交付ス

二、諸隊ハ任務ニ從ヒ夫々行動ヲ起シ概ネ予期ノ如ク情況ノ進捗  
ヲ見タリ

六、日九時頃マテニ右縦隊前衛ハ白鳥附近ヨリ高松附近ヲ經テ  
必東側閉鎖曲線附近ニ右縦隊ハ西側閉鎖曲線附近ヨリ布里

南側高地ヲ經テ小松野東側高地ニハ海老町南方地區ニ進出  
シ師團ハ銳意敵情地形ノ偵察ニ勉メテ結果正午ニ至リ師團

長ハ右縦隊前衛ヲシテ其ノ一部ヲ以テ左縦隊ヲシテ其一  
部ヲ以テ御嶽山ヲ夜襲ニヨリテ奪取セシメ更ニ敵情地形ヲ偵

察スルニ決ス

三、右縦隊前衛及左縦隊ノ各一部ハ何レモ初夜ニ於テ所命ノ敵ヲ  
其ノ側背ヨリ奇襲シ敵ニ大ナル損害ヲ与ヘテ之ヲ奪取セリ

四、八日正午マテニ知り得タル清況及師團ノ態勢判紙要圖ノ如シ

狀ル

師團  
主力

甲  
640





八日正午ニ於テ之ル狀況要圖



IK

備考

- 一、右先遣隊ハ小隊ヲ岡崎市附近ニ残置シ依然前任務ニ服セシメ/Pヲ工兵隊長ノ指揮ニ復帰セシメ、尔余ハ1/1RS 1BKト共ニ知多半島東南端ニ在リテ渡航準備ヲ完了シヤリ
- 二、障碍物ハ概シテ深サ四米ノ網形鉄條網ナリ

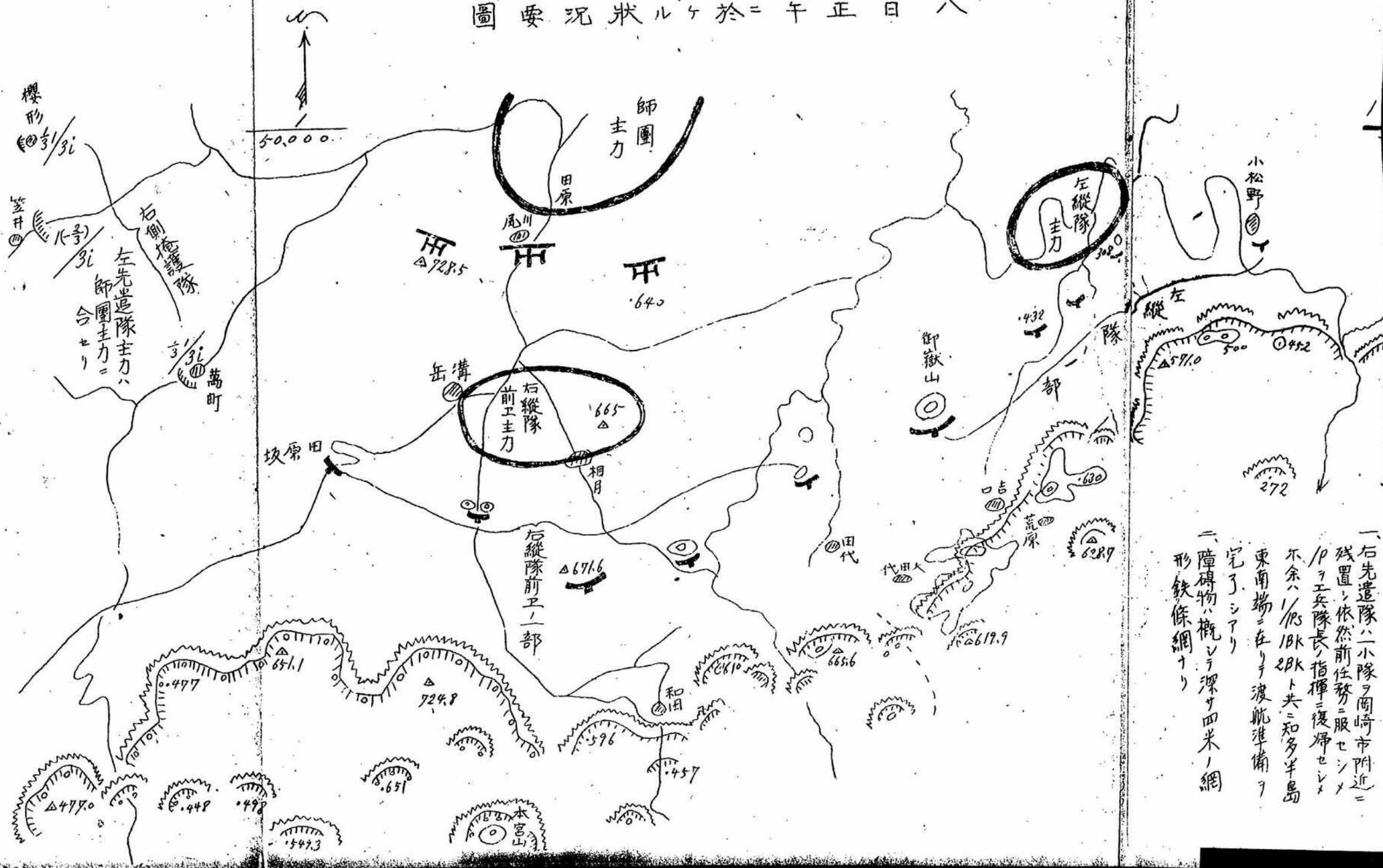
シ師團ハ鋭意敵情地形ノ偵察ニ勉メタリ結果正午ニ至リ師團長ハ右縦隊前衛ヲシテ其ノ一部ヲ以テ左縦隊ヲシテ其一部ヲ以テ御嶽山ヲ夜襲ニヨリテ奪取セシメ更ニ敵情地形ヲ偵察スルニ決ス

三、右縦隊前衛及左縦隊ノ各一部ハ何レモ初夜ニ於テ所命ノ敵ヲ其ノ側背ヨリ奇襲シ敵ニ大ナル損害ヲ与ヘテ之ヲ奪取セリ

四、八日正午マテニ知り得タル清況及師團ノ態勢別紙要圖ノ如シ



八日正午に於ける状況要圖



一、右先遣隊ハ小隊ヲ岡崎市附近ニ  
 残置シ依然前任任務ニ服セシメ  
 1/Pヲ工兵隊長ノ指揮ニ復帰セシメ  
 不余ハ1/Ps 1/Bk 2/Bkト共ニ和多半島  
 東南端ニ在リテ渡航準備ヲ  
 完了シタリ

二、障碍物ハ概シテ深サ四米ノ網  
 形鉄條網ナリ

裏面白紙



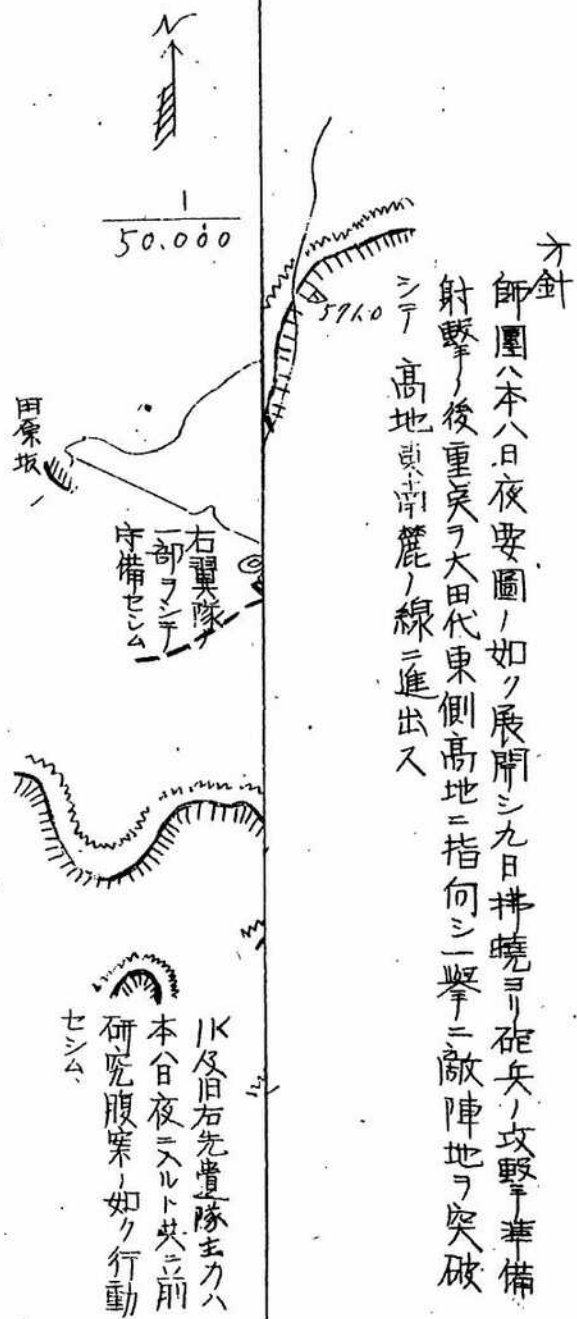
第二問題

第一師團攻撃部署

要圖答解  
小方眼紙

様尺

五分分ノ一



針  
 師團八本八日夜要圖ノ如ク展開シ九日拂曉ヨリ砲兵ノ攻撃ヲ準備  
 射撃ノ後重兵ヲ大田代東側高地ニ指向シ一撃ニ敵陣地ヲ突破  
 シテ高地東南麓ノ線ニ進出ス

11及10右先遣隊主カハ  
 本日夜ニスルト共ニ前  
 研究腹案ノ如ク行動  
 セシム



第一問題原案



針  
師團八八日夜要圖ノ如ク展開シ九日拂曉ヨリ砲兵ノ攻野ヲ準備  
射撃ノ後重突ヲ大田代東側高地ニ指向シ一舉ニ敵陣地ヲ突破  
シテ高地東南麓ノ線ニ進出ス

工兵主力ハ砲兵陣地占領後爾後陣地要換ニ協カ  
IK及旧右先遣隊主力ハ本日夜ニシテ共ニ前研究腹案ノ如ク行動セシム

右翼隊  
2C  
IBA(-1)  
42P  
Z(-1分)  
10

中央隊  
20B(3)  
III BA  
1/1P(-1/4)  
Z(-11)

左翼隊  
1/1(-11)  
4BA  
42P  
Z(-1分)  
DLT(1)

裏面白紙





第三狀況

一右翼隊長ハ八日正午ヤ、過第三問題原案ノ如キ師團命令ノ要旨ヲ受領ス

第三問題

(即題中分)

右翼隊攻撃部署要圖

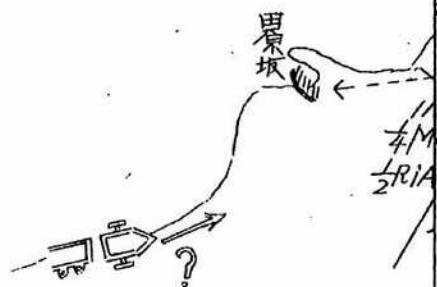
通信紙

二不五十分一

方針 仰攻ニシテ而攻車ヲ研出ス

右翼隊ハ一部ヲ以テ要圖ノ如ク右側ヲ掩護シメ主力ヲ以テ本八月夜要圖ノ如ク展開シ明拂曉砲兵ノ攻撃ヲ射準備射撃ヲ後高地ヲ攻撃シテ新成西北則ニ進出ス

ヲ表ハセリ





第三問題 原案ノ説明

一 主カノ展開線攻撃方向砲兵ノ用法  
 高地ヲ攻撃スヘキコトハ前研究ノ如シ△5.6  
 隊ヲ側防ニ適スルコト亦前研究ノ如シ茲ニ於テ右翼隊ハ上述  
 側防火ヲ制壓妨害シ得ル如ク展開攻撃セサルベカラズ  
 右翼隊ソノモノノ攻撃容易ヲ主トスレハ地形上西北方ヨリ攻  
 撃スルヲ可トスト雖モ然ルトキハ主力タル中央隊ニ對スル側  
 防ヲ制壓妨害シ得サルヲ以テ勉メテ東北方ヨリ西南方ニ向ヒ  
 攻撃スルヲ要ス  
 此ノ場合大田代南方敵陣地ヨリスル側防ハ制壓ニ勉ムヘシト  
 雖モ或程度忍ハサルヘカラズ  
 又此ノ如ク攻撃ヲ行フコトニヨリ砲兵ヲシテ△5.6附近ニ陣地ヲ  
 占領シテ側防ヨリ有利ニ攻撃ニ協力セシメ得ベシ(此ノ砲兵  
 ハ第一線ト遠隔スルノミテ西方ニ於ケル情況ノ變化ニ對應セ  
 シムル爲メ直轄トスヘキモ爾余ハ隊隊長ニ配属スルヲ可トス  
 二 標高610方面ノ處理  
 610方面ノ奪取ハ地形上直接中央隊ノ攻撃ニ關係ナシノミナラ  
 ス右翼隊ニトリテモ△5.6ヨリ五十米モ低キ同線止ノ高地ハ敢テ



攻略ヲ必要トセズ殊ニ我が攻撃方向地形ニ鑑ミル時ハ愈々其  
 ノ然ルヲ覺ユ尚之ヲ攻略セントスレバ相當ノ兵力ヲ割カザル  
 バカラスシテ命ノ突破感ヲ減殺シ師團主力ノ爲ニ不利ナリ  
 故ニ該高地奪取ヲ企圖セサルヲ可トス然レトモ命ニ近キ東正  
 面ノ敵ハ之ヲナルベク制壓スルヲ命高地攻撃ノ爲ニ有利トス  
 ルヲ以テ最少限ノ兵力ヲ充當セリ  
 三右側掩護法  
 多クノ兵力ヲ割クノ不可ナルハ論ナシ但シ師團カ攻撃セザル  
 西方ノ陣地方面ヨリ我側背ニ通スルニ條ノ良道ヲ有スルヲ以  
 テ特ニ敵ノ機甲部隊ニ対シ準備セサルヘカラス之カ爲歩兵一  
 中隊ヲ基幹トシMG部隊ヲ配屬セリ

第三狀況

一、八日夜ニ入ルト共ニ迂回行動ヲ起シ本郷天龍川畔ヲ經テ  
 先ツ中野町ニ向フ時、敵自候ノ妨害ヲ受ケルモ之ヲ排除シテ  
 前進ヲ繼續ス然レトモ嶮岨ナルト暗夜ナルトハ其ノ行動ヲ極  
 メテ困難ナラシメタリ  
 九日九時、長八本隊ノ先頭ニアリテ笠井町附近ニ達タル時、  
 候ノ報告ニヨリ左ノ狀況ヲ知ル  
 人白鳥及中野、東方天龍川ニハ堅固ナル木橋アリテ、少数ノ敵人  
 馬車輛時ニ果行シ時ニ西行シアリ  
 両橋梁ニ若干ノ防禦施設アルモノノ如シ  
 又天龍川鉄道橋上ヲ一列車東行セリ

第四問題(即席)

八爾後如何ニ行動スベキヤ

第四問題 原案

K隊ハ三橋梁附近ノ敵ヲ攻撃シ該橋梁ヲ破壊シタル後一部ヲ以テ今切附近東海道線ノ破壊ヲ準備且之ヲ監視セシムルト共ニ敵ノ背後ヲ攻撃スル爲メ金指町附近ヲ至テ新城町附近ニ向ヒ前進ス一海上迂回隊ハ歩工渾然一体トナリ漕航ニ努カシタル結果九日四時頃宇津江附近ニ上陸シ直々ニ豊橋ヲ經テ新城町何ヒ前進中迂回隊長ハ本隊ノ先頭ニアリテ正午ヤ、前豊橋市南側ニ達シタル時友軍飛行機ヨリ左ノ通信筒ヲ受領ス

通報

十二時頃師團主力ハ公656附近敵主陣地ヲ奪取シ戦果擴張中ナリ

第五問題 (即席)

迂回隊長ノ決心

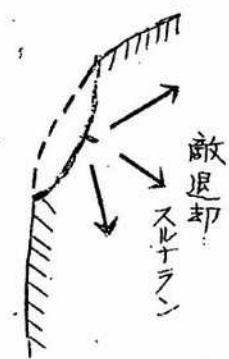
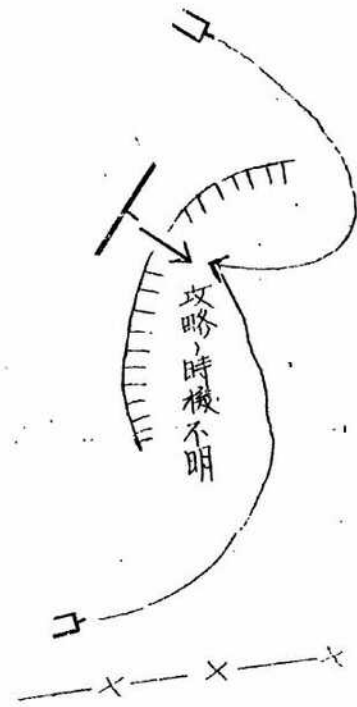
第五問題 原案

迂回隊ハ敵ノ退路ヲ遮断スル目的ヲ以テ一部ヲシテ今切附近鉄道橋ヲ遮断シ之ヲ監視セシメ主力ヲ以テ姫街道ヲ氣賀町附近ニ

向ヒ前進セントス

説明

一 師團長が敵ハ背後攻撃ヲ命シタルハ敵陣地突破ヲ主トセシガ  
 爲ナリ今ヤ敵陣地奪取シ戦果擴張中ナレハ敵陣地ハ臆テ全面  
 的ニ崩壊シ敵ハ退却スルヲ断  
 二 汝ニ今ヤ背後攻撃ヨリモ独断退路遮断ニ邁進スルヲ要ス  
 三 汝ノ現況ハ知リアラザレハ之ヲアゲニスヘカラス  
 左ノ關係ヲ圖示スレバ左ノ如シ



一 田原坂ニハ敵ノ殘車十數輛歩兵一、二中隊來襲シ極メテ危險ノ  
 状態ニアリ  
 二 豊川町附近ヨリ歩兵約千名門目下東進中  
 三 特火矣地帯ノ敵ハ動搖ノ色アリ  
 (以上何レモ平通報)

第六問題

右翼隊長ノ決心 處置(即題)  
 通信 紋 要圖 二万五千分一

第四狀況

一 師團ハ豫定ノ如ク拂曉ヨリ攻撃ヲ開始ス  
 右翼隊長ハ隊長ノ適切ナル部署ト指導及將兵ノ奮闘効力ニヨリ  
 左翼隊ニ先ケテ十一時ヤ、過キ敵ノ第一線ヲ攻略シ戰果 擴  
 張中ナリ  
 二十一時四十分頃ノ情況別紙要圖ノ如シ



第四狀況附圖



第六問題原案

変化ナシ 決心 置

一、豫備隊ヲシテ中央隊正面ノ敵ノ左側ヲ攻撃セシム  
 二、主力ヲ主軸トシ先ツ豫備隊ノ攻撃ニ協力セシム  
 三、招致シテ豫備トス

説明

目下ノ情況ハ突破ノ完成ニ努カスベキモ山地ノ特性トシテ其  
 影響ヲ中央隊正面ニ及ボスコトナク狭正面ノ突破ハ大成  
 果ヲ擧グル所以ニアラサルヲ以テ予備隊ヲ以テ中央隊正面ノ敵  
 ノ側面ヲ攻撃セシメタリ(33)  
 田原坂方面ヲ顧慮スル時ニアラス 我突破ニヨリ自ラ解決ス  
 ハキナシ

第五狀況

一、右翼隊長前研究ノ所置ヲ講スルヤ幾何モナク中央隊正面敵  
 ノ左翼ハ崩壊シ次テ其ノ全線ニ及ブ  
 二、師團ハ戰果ヲ擴張シツ、新城町附近ニ進出スル頃敵全線退却  
 中ニシテ師團長ハ濱松東方天龍川ノ線ニ向ヒ果敢ナル追撃ヲ  
 断行ス  
 三、敵ノ退却ハ全ク潰乱ニ陥リK及海上迂回隊ノ退路遮断ト相待  
 テ金指町以西ノ地區ニ全ク之ヲ捕捉殲滅セリ  
 時ニ西天楸ニ雲ヲ破リ眞紅ノ夕陽大洋ニ浮ビ三遠ノ山ニ伏  
 セル勇士ノ戎衣ト紅ヲ競ヒツ、其ノ犠牲ヲ悼ムガ如ク西海ニ  
 沈ム  
 時ニ富峯山頂東天ヲ拜シ容易ニ頭ヲ抬ケサル左將軍ヲ仰グ

# 河川攻取

一 山海関方向ノ敵ニ對シ軍主力ヲ作戦ヲ有利ナラシムベキ任務ヲ有スル第一ノ師團  
 二 車中隊ヲ屬スルハ新地ヨリ一隊ヲテ新地  
 三 區鎮安(黒山)ノ石山ノ向ヒ南進中四月十一日七時五台子栗樹園子  
 四 當線=達スル師團ノ前進部署ノ概要左ノ如シ  
 五 飛行隊(1FMS)鎮安飛行場ヲ用シ前進シ敵情搜索  
 六 騎兵隊(1K)錦州附近ノ敵情搜索  
 七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 二十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 三十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 四十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 五十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 六十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 七十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 八十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十一 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十二 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十三 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十四 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十五 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十六 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十七 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十八 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 九十九 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向  
 一百 右縦隊(1B(2))IA(1/2)IP(2)1/3)鎮安ノ石山ノ向

## 想定 所要地圖

五十万分ノ一 奉天及黒山附近圖  
 十万分ノ一 錦州附近圖 其一  
 但シ五十分ラニ五分ヲ用シ標高モニ分ノ一トス

前進中

5. 左縦隊 (41) 女IA 2P 3S 鉄道及同南側地區ヲ大凌河ニ向ヒ前進中

6. BK 兩縦隊ノ中間地區ヲ躍進 2B K 一日行程後方ニ在リ

7. 高射砲隊 (AA) 兩縦隊ノ中間地區ヲ躍進シ主トシテ右縦隊本隊ノ防空ニ任ズ

三師團長ハ右縦隊前衛本隊ノ先頭ニ在リテ七時マデニ在リ、状況ヲ知ル

1. 軍主力 (四師團) ハ奉天地方ヨリ南進シ營口附近ヨリ海城南方地區ニ亘リ陣地ヲ占領中ナル敵ニ對シ攻撃準備中ニシテ明

2. 山海關方向ヨリ北進セル敵ハ約一師團ニシテ昨日朝來錦州附近ニ陣地ヲ占領中ニシテ尚約一師團以上ノ敵ハ十三日午

3. 當時ニ於ケル彼我ノ狀況別紙ノ如シ

4. 地形及氣象ノ狀況左ノ如シ

A. 圖上ノ片点線路ハ野戰諸車輛ノ通過ヲ許ス

B. 大凌河ハ渡渉ヲ許サズ 其ノ他ノ諸河川ハ諸兵ノ通過ニ支障ナシ

C. 昨日來南風強ク渤海灣ハ波高クコノ風ハ當分續ク見込ト豫報セラル

四師團長ハ前記狀況ヲ判断シ速カニ大凌河ヲ渡河シ當面ノ敵ヲ攻撃スルニ夫シ夫々之ガ準備ニ着手ス

第一問題 (宿題)

第一師團長ノ行フ渡河方針決定ノ爲メノ準備如何

注意

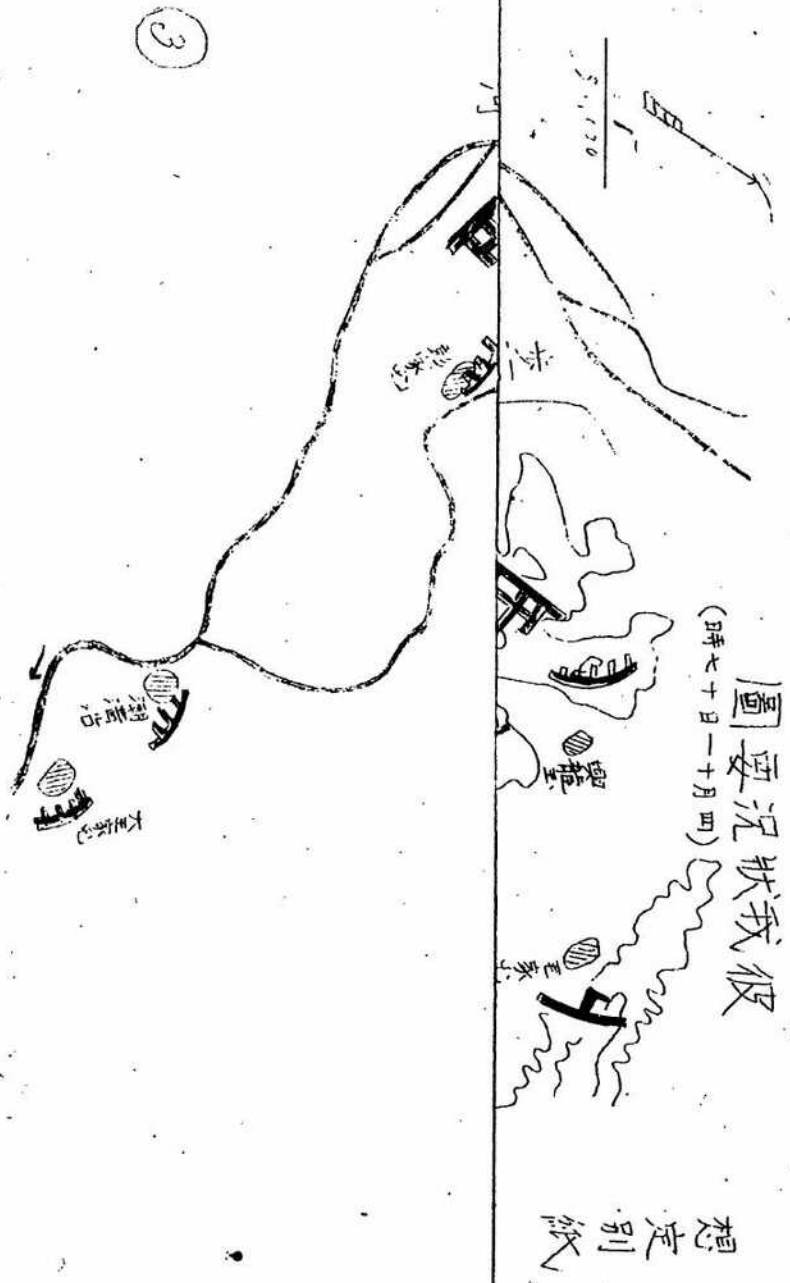
1. 四月十一日 日出六時 日没十八時 月齡二十一

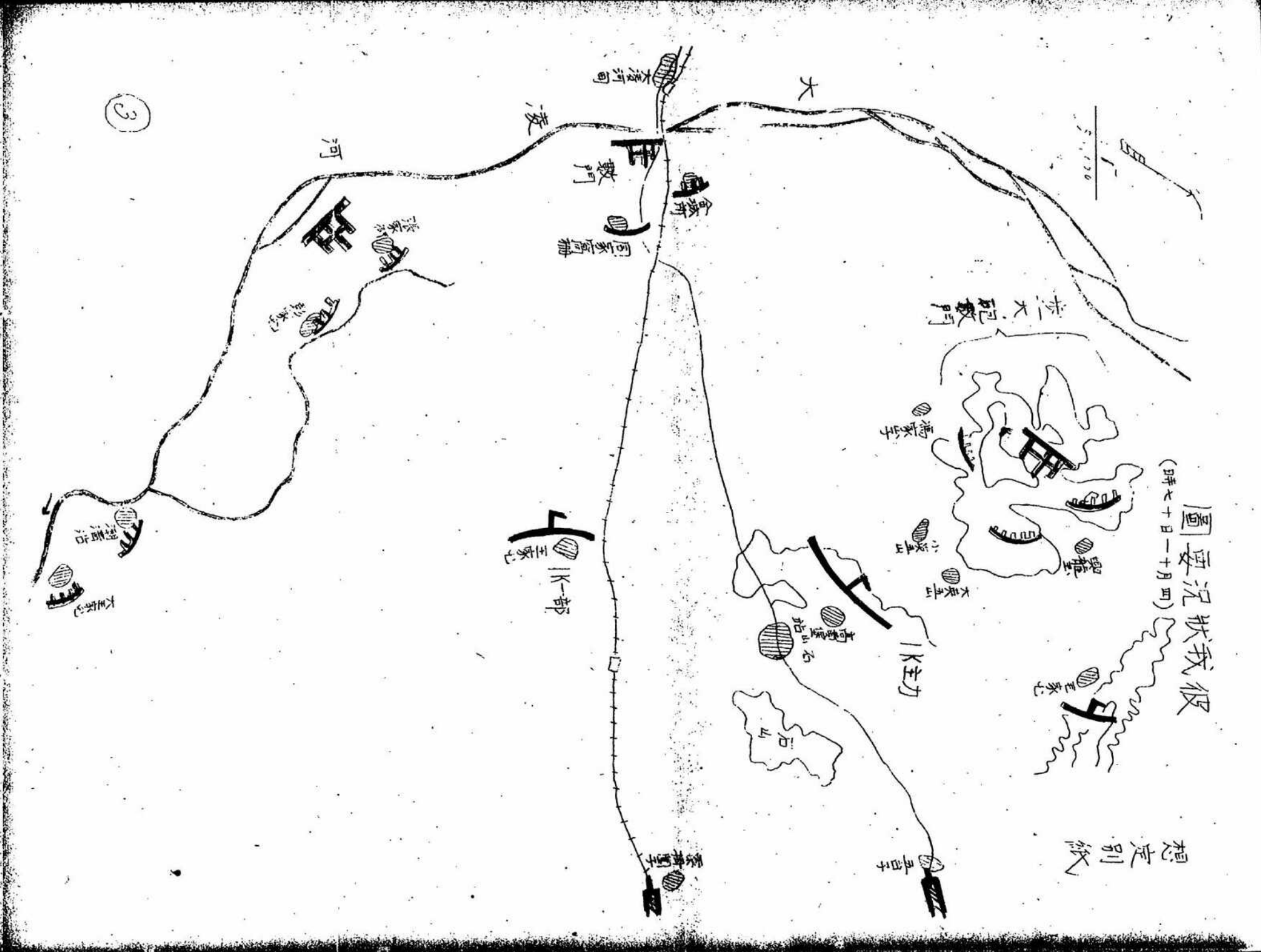
2. 時ニ敵判断斷ヲ附記シ、極力以テ之ノ進行ノ遅延ヲ求ム

3. 要圖答解

4. 四月十日八時呈出







圖要況狀我彼  
(時七十月一十月四)

想定別紙

裏面白紙

第一問題 原案

師團長ノ行フ渡河攻襲方針策定ノ爲ノ準備

一 右縦隊前衛ヲシテ大英五山西側高地ノ敵ヲ驅逐シタル後主力ヲ石山站附近ニ集結シ一部ヲ以テ河岸ヲ占領シ敵情地形ヲ偵

察セシム  
二 左縦隊ヲシテ本道及張家街附近ノ敵ヲ驅逐シタル後主力ヲ大張林堡子附近ニ集結シ一部ヲ以テ河岸ヲ占領シ敵情地形ヲ偵

察セシム  
三 騎兵隊(新)ニシテ潮溝台附近ノ敵ヲ驅逐シ河岸ヲ

占領シ敵情地形ヲ偵察セシム  
四 各隊ノ攻襲ハ師團長之ヲ統一ス  
五 搜索警戒ノ地境左ノ如シ

右縦隊前衛 間石山站南方約三十草甸子(錦州東北方四料)北端  
左縦隊 間上苗家屯北端 平山(大凌河甸南方約八料)  
騎兵隊 松山街(錦州南方約四料)北端

六師團主力ヲ五台子驛馬房大羊圈子間ノ地區ニ集結シ且敵ノ攻  
 勢ニ對應スルノ準備ニアラシム  
 七本隊砲兵ハ一部ヲ以テ羊戶岫附近主力ヲ以テ石山站西南側附  
 近ニ陣地ヲ占領シ各攻惠部隊ニ協力スルト共ニ敵ノ攻勢ニ對  
 シ準備セシム  
 八P長38長ヲテ河川偵察及渡河材料ノ蒐集整理ヲ命ズ  
 九飛行隊ハ主力ヲ以テ大凌河畔ノ敵情ヲ蒐集整理ヲ命ズ有無  
 ヲ搜索スルト共ニ一部ヲ以テ山海関方向ノ敵後統部隊ノ狀況  
 ヲ搜索セシム  
 十敵ノ攻勢ニ際シテハ適時一機ヲ以テ本隊砲兵ニ協カスルノ準  
 備ニアラシム  
 十一八望三嶺244ハ大羊圈子附近ニ陣地ヲ占領シ師團主力ノ防空  
 二師ハ各隊河岸占領後老庄(本道上)附近ニ氣球ヲ昇騰セシメ前  
 岸ノ敵情ヲ搜索セシム  
 十二各集結地ヲ直接警戒シ住民相互ノ交通ヲ禁止シ地方ノ通信機  
 関及通信ヲ管理ス  
 十三各部隊ハ別命アルマデ無線ノ通信ヲ禁ズ  
 十四師團司令部ヲ石山站ニ情報所ヲ三家子(上苗家屯北方四料)ニ開

十五 設ス  
 十六 通信設備ヲナス  
 十七 2BK = 急行ヲ命ズ  
 十八 32BK = 急行ヲ命ズ  
 十九 其ノ他略ス  
 二十 師團長ハ先ヅ石山ニ位置ス

(5)



第一問題、説明

師団は、この河を渡り、北岸に陣をとり、一、二日待てば、南岸は我が軍の手に落ちる。

敵情判断(令一、八) 敵は我レヨリ劣勢ニシテ大凌河ヲ利用シ防勢ニ立チアルハ想定ノ示ル所ナルモ以下如何ナル企圖ヲ有スルヤヲ判断セント

A 自力ヲ以テ決戦ヲ企圖ス(令二、三五五)

B 大凌河ニ依リ先ツ持久シ後続隊ノ未着ヲ待テテ決戦ヲ企圖ス

C 単ニ大凌河ノ障碍ニ依リ我が前進ヲ妨害シ適時後方ニ退却シ後続隊ヲ合シ後圖ヲ策ス

(B案) 目下ノ敵情(兵力ト時間)ヨリ判断スルモ後続隊ト近ク合シ其ノ優勢ヲ利用シ我ニ對スルモノニシテ敵ノ希望スル軒アルモ30軒以上ノ正面ヲヨク充分ニ持久シ得ルヤ懸念ナキ能ハス

(C案) 餘リニモ消極ノ案ニシテ其ノ公算モ亦小ナリ

(A案) 有為ノ敵ニシテ我行動如何ニ依リテハ實行ノ可能性ヲ充分ニ有スルノミナラス我が方策遂行上考慮スベキナリ

而シテコノ場合ニ於テモ敵が大凌河右岸ニ於テ攻勢ヲ  
 トルヤ左岸ニ進出シテ攻勢ニ轉ズルヤ更ニ考察ス  
 ルノ要アリ特ニ進出シテ攻勢ニ於テ然リ(○軍野外敵令(四五)  
 即チ敵ガ左岸ニ要點ヲ占領シテ大英五山西側高地ヲ  
 稍々堅固ニ守備シアルヲ見テモ敵ガ左岸ニ進出シテ攻  
 勢ヲトルコトアルハ判断難クザレベシ  
 以上ノ如ク判断スルモ其ノ企圖ハ不明ニシテ之ヲ適中セシメ  
 勤特ニ我が方策ニ重テ判断ノ目的ハ敵トシテ爲シ得ベキ行  
 以テ我が方策ニ遂行ニ過誤ナカラントスルニ在リ  
 之ヲ要スルニ當面ノ敵ノ企圖ハ各案ノ何レナリヤ不明ナルモ  
 其ノ何レノ場合ニモ考慮シ充分之ニ對スルニ準備ヲ要スルノ  
 ミナラズ進ニテ其ノ企圖ヲ封スルノ概ナカルベカラズ  
 左岸ノ敵ノ驅逐及河岸ノ占領  
 左岸ノ敵ノ存在ハ我渡河企圖ノ秘匿ニ不都合ナルヲ以テ之ガ  
 全部ノ驅逐ヲ要スルハ原則ニ(三三四三三四)示ス所ニテ殊ニ太  
 地形ニ依リテハ其ノ何レノモ直接攻撃スルヲ要ス  
 而シテ其ノ方法ハ  
 A 前衛及左縱隊等ノ向方ヲ以テ處置セシムルカ(三一九九)ニ

3. 師團長ノ統一部署ニ依ルカ(三一九九)ニ  
 (A案) 前衛等ガ任務上當然ノコトナルモ敵情ニ於テ判断セシ  
 ガ如ク左岸ノ敵ヲ秘メテ輕微ナルモノトシテ判断スル  
 ハ適當ナラス  
 殊ニ敵ガ左岸ニ攻勢ヲトル際ニ於テ特ニ然リ  
 (B案) 敵ガ前速ノ如ク左岸ニ於テ攻勢ヲ企圖スル際ニ於テモ  
 又然ラサル場合ニ於テ右岸ノ敵ガ協力シ得ル本狀況ニ  
 於テモ亦必要ナリ  
 而シテ敵ノ地上搜索ヲ妨害シ我が行動ヲ掩蔽セントメ  
 コノ全正面ノ敵ヲ速カニ驅逐スルタメニハ右縱隊前衛  
 及左縱隊ノミニテハ兵力不充分ナルヲ以テ騎兵隊ヲモ  
 使用スルヲ要ス又騎兵隊其ノ兵力關係上新ニ歩兵一  
 大隊ヲ配屬スルヲ要ス  
 以上ノ如ク部署シ敵ヲ驅逐シ各小部隊警戒隊ヲ以テ河岸ヲ占  
 領スルヲ要ス  
 三 主力ノ集結  
 渡河ノ準備ヲナスト共ニ適時敵ノ左岸ニ於ケル攻勢ニ應スル  
 タメ主力ヲ後方適當ノ位置ニ集結スルヲ要ス  
 其ノ位置ハ渡河ノ便ノタメニハ河岸ニ成ルベク近キヲ可トス

且得且我企圖ヲ過早ニ暴露セザルタメニハ適宜河岸ト離隔シ  
 且集團ヲ避クルヲ可トス  
 而シテ軍隊ハ渡河ノ直前ニ於テ迅速ナル機動ニ依リ河岸ニ至  
 ルモノトス之ガ爲特ニ夜暗ヲ利用スルヲ可トス  
 四砲兵ノ用法  
 左岸部隊驅逐ノ爲メニハ左岸ノ敵ニ對スル外之ニ協カスル石  
 岸ノ敵ヲ制シ得且攻勢ヲ阻止得ル如ク適宜陣地ヲ占領セシム  
 ルヲ要ス  
 五偵察及搜索  
 敵前渡河ニ於テハ河川ノ偵察及前岸ノ敵情搜索最モ必要ナリ  
 即チ空中偵察謀報ニヨリ外各級指揮官ノ自ラ行フ偵察搜索極  
 メテ必要ナリ又一方ニ於テ之ガ実施ヲ慎重ニセザレバ反テ  
 我企圖ヲ暴露シ功ヲ一篋ニ缺クニ到ルベシ  
 本狀況ニ於テハIP長30長ヲシテソノ任務ニ服セシムル外特ニ  
 前岸ヲ觀望スルメ大英五山西側高地ノ利用氣球ノ昇騰ヲナ  
 ス外各種ノ手段ヲ講ズルコト必要ナリ  
 六情報所  
 於ケル情報ノ收集傳達ヲ迅速ナラシムルタメ師團司

今部ヲ石山站ニ置ク外鐵道以南ノ地區ノ部隊ノタメ一情報所  
 ヲ設置スルコト必要ナリ

第一狀況

一 各部隊ハ師團、要旨命令ニ基キ夫々行動ヲ起シ九時頃攻妻津  
 備ヲ完了シ師團主力モ亦逐次所命ノ如ク集結中ナリ  
 二 各部隊ハ師團長ノ命令ニ依リ攻妻前進ヲ起スヤ俄然大凌河左  
 岸、敵砲兵先ヅ射妻ヲ開始シ引續キ同河右岸ニ在リ遮蔽シア  
 リシ敵砲兵モ亦射妻ヲ我前進部隊ニ集中シ恰モ大凌河左岸ニ  
 對スル敵砲兵結果砲兵漸ク沈黙シ大英五山及騎兵隊正面ノ敵  
 制壓シタル結果敵砲兵漸ク沈黙シ大英五山及騎兵隊正面ノ敵  
 ヲ最後トシ敵兵逐次同河右岸ニ退却シ諸橋梁モ本道方面ノ外  
 多クハ破壊セラレ舟筏モ全部前岸ニ曳航セラレ敵前渡河ニテハ  
 三四ノ動作ハ困難ナリ

問

一 本道方面、橋梁ハ如何ニスルヤ其ノ目的如何  
 二 各攻妻部隊ノ第一線ハ十一時頃相前後シテ大凌河岸ヲ占領シ  
 三 敵情地形、偵察ニ勉ム  
 四 師團長以下ハ十三時テ別紙ノ如キ諸狀況ヲ知ル



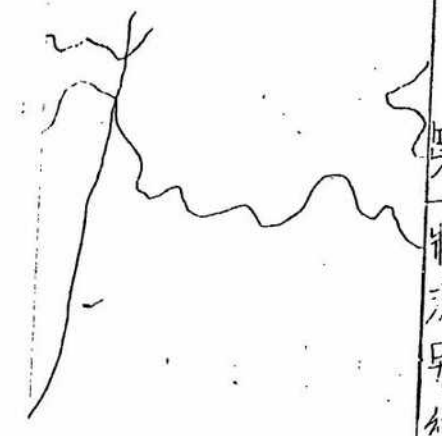
第二問題(宿題)

第一師團大凌河渡河、爲、地形判断  
特=左ノ件ヲ明ニスベシ

- 1. 敵情判断
- 2. 渡河ノ時機
- 3. 渡河方面並其ノ兵力
- 4. 陽動ノ要領

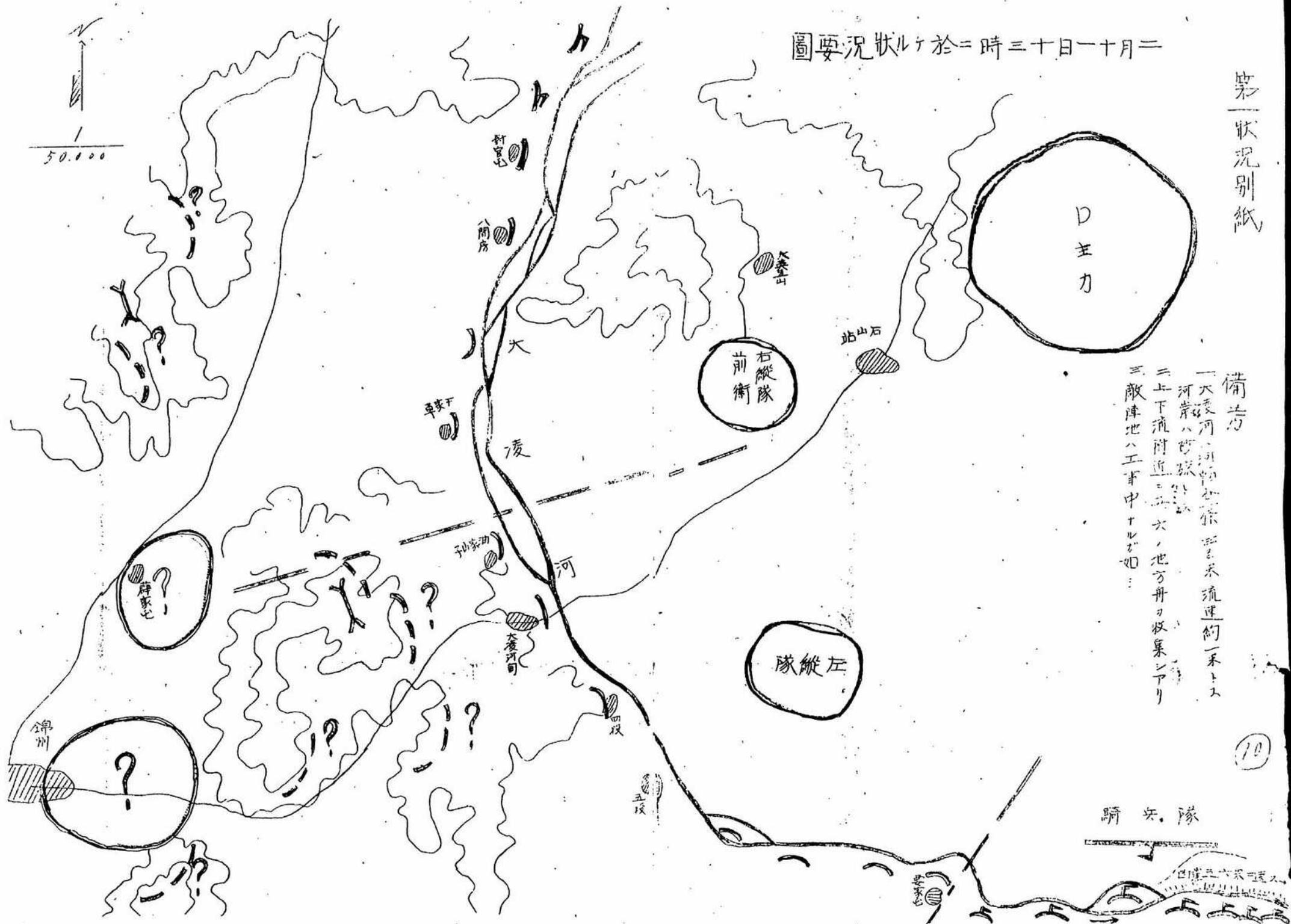
注意  
 1. 要圖答解 十分分、一 小方眼紙横書  
 2. 四月十日八時呈出

第一狀況別紙



圖要況狀ルケ於ニ時三十日一十月二

第一狀況別紙



備考  
 一 大凌河、河幅を狭くせし米流運約一米トス  
 河岸ハ砂礫等ニシテ  
 二 上下流附近ニ五六ノ地方舟ヲ收集シアリ  
 三 敵陣地ハ工事中心ナルガ如シ

10

裏面白紙  
 めくれず



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1:25

第二問題ノ説明

敵情判断  
 敵ハ今ヤ大渡河右岸ニ於テ防勢ニ立チアルコト確實ナルモ  
 A. 主力ヲ以テ後退配備シ決戦ノ企圖シアリヤ  
 B. 主力ヲ以テ直接河川ニ配備シ持久ヲ策シアリヤ  
 既ニ第一問題ニ於テ判断セシガ更ラ本問題ニ於テモ以上ノ  
 判断ヲナシ敵ガ積極的ニ攻勢ヲトル場合ヲ顧慮シ之ニ對スル  
 ノ津備ヲナスト共ニ敵ノ消極企圖ニ對シ河川ニ於テ相當ノ抵  
 抗ヲ排除スルノ用意ヲ必要トス  
 二 渡河ノ時機  
 一 般ニ敵後統隊ノ來着ニ先チ敵ヲ毒滅スルタメ渡河開始ハ成  
 ルベク速カナルヲ可トスルハ異論ナカレバシ  
 A. 今夜直ニ渡河セントスルモ  
 B. 明日拂曉以後渡河セントスルモ  
 C. 明日夜渡河セントスルモ  
 (A) 案 敵ノ陣地占領ノ不備ニ乗ゼントスル拙速案ナルモ時間少  
 キタメ渡河成功ノ最大要素タル企圖ノ秘匿準備ノ周到ニ  
 於テ欠クレモトイフベシ



(B案) 天明後、火カヲ以テ敵ヲ制シツ、晝間渡河ヲ強行セントスルモノニシテ、縦令目下對岸ノ敵ノ兵力微弱ナルト正面トノ關係上成功シ得ルガ如キモ、企圖ノ秘匿困難ニシテ、其ノ準備火カト敵ノ空中勢力ノ關係上必ズシモ有利ナラス

(C案) 準備周到ニシテ、且20Kモ到着シ、敵後統隊ノ來着前ニ毒破シ得ベシト雖モ、萬一當日渡河シ得ザルニ於テハ、敵ヲシテ後統隊ヲ合シ、任務ノ達成困難トナルベシ

以上ノ如ク各案共ニ利害アルモ、吾人ハ任務ト戰機トヲ重視シ、準備ニ於テ多クノ不利ヲ忍ブモ、拙速主義ヲトルベク、自己ノ安

全ヲ布クノ餘リ、敵ノ防禦ヲ益々堅固ナラシムルニ終ニ後統隊ノ來着ニ會シ、任務ヲ遂成シ得ザルニ至ランカ、自決シテ罪ヲ謝スルモ、何ノ效力ヲ發揮シテ能ク限リ、準備ヲアスト共ニ戰機ヲ捉

寧口全能力ヲ發揮シテ能ク限リ、準備ヲアスト共ニ戰機ヲ捉

ヘ速カニ敵ヲ蕪滅シ、其ノ戰勝ノ快報ヲ主力軍ニ及ボスベク、馬

シ得レバ一部ヲ後統隊ニ對シ、主カヲ以テ軍主力ノ作戰ニ

直接赴クノ概ナルベカラズ、雖モ本狀況ニ於テハ、最少限

即チ準備ノ周到固ヨリ必要ナリト雖モ、本狀況ニ於テハ、最少限

ヲ以テ、河計畫策定ノ爲ノ搜索偵察、岸ノ敵ノ驅逐、渡河材料

、整備等渡河準備既ニ着々実行セラレツ、アリ渡河計畫ノ完

成命令下、諸兵種特ニ渡河作業隊ト渡河部隊トノ協定、其ノ他

渡河点細部ノ偵察、渡河材料ノ技術的準備等、爲ニ尚日没マテ

半日ヲ使用シ得ル現況ニ於テ、將兵ノ奮斗ヨク本夜、渡河ヲ可

能ナラシムルヲ得ベシ

C. 千家章ヨリ五段間

D. 五段ヨリ南地子間

E. 南地子ヨリ下流

(A案) 敵ニ遠ク豫想セザル方面ナルガ如キモ、渡河準備ハ山

地ニテ容易ナラス、渡河モ亦數條ノ河川アリ、技術上渡河ノ

動作モ容易ナラス

(B案) 前案ヨリ渡河準備容易ニシテ、後岸ニ掩護陣地ヲ有シ、渡河

直後ノ敵妨害少キモ、渡河技術稍々困難ナルノミナラス、渡

河後ノ戰果ハ兩側ノ山地ノタメ小ナリ、又敵ヲ退路方向

ニ壓迫シ得ルニ過キズ

(C案) 敵ノ最モ堅固ナル正面ニ向フモノニシテ、敵ノ抵抗ニ依リ

渡河容易ナラス、且渡河後ノ戰果亦小ナリ

(D案) 敵ニ遠ク渡河ヲ準備シ、且實施シ得、又渡河後ノ抵抗少キモ

敵主力ヲ求ムルヲ準備シ、且右旋回ヲナサザルベカラズ

(B案)天明後、火カヲ以テ敵ヲ制シツ、晝間渡河ヲ強行セントスルモ、ノニシテ、縦今、日下、對岸ノ敵ノ兵力微弱ナルト正面トノ關係上、成功シ得ルガ如キモ、企圖ノ秘匿困難ニシテ、其ノ準備、火カト敵ノ空中勢力ノ關係上、必ずしも有利ナラズ、得ベシト雖モ、萬一當日渡河シ得ザルニ於テハ、敵ヲシテ後、以上ノ如ク、各案共ニ利害アルモ、吾人ハ任務ト戰機トヲ重視シ、準備ニ於テ、多少ノ不利ヲ忍ブモ、拙速主義ヲトルベク、自己ノ安全ヲ會シ、任務ヲ遂成シ得ザルニ至ランカ、自決シテ、罪ヲ謝スルモ、何、全、能、力、ヲ、發揮シテ、能、限、リ、ノ、準備ヲ、ア、ス、ト、共、ニ、戰、機ヲ、提、寧、口、全、能、力、ヲ、發、揮、シ、テ、能、限、リ、ノ、準備ヲ、ア、ス、ト、共、ニ、戰、機ヲ、提、直、接、赴、ク、ノ、概、ト、カ、ル、ベ、カ、ラ、ス、メ、主、力、ヲ、以、テ、軍、主、力、ノ、作、戰、ニ、即、チ、準備ノ周到固ヨリ必要ナリト雖モ、本狀況ニ於テハ、最少限ヲ以テ、渡河計畫策定ノ爲ノ、搜索偵察、岸ノ敵ノ、驅逐、渡河材料

而シテ、渡河計畫策定ノ爲ノ、搜索偵察、岸ノ敵ノ、驅逐、渡河材料、  
 又、整備等、渡河準備既ニ着々、実行セラレツ、アリ、渡河計畫ノ完、  
 成トシ、爲、協、定、其、他、  
 本、夜、渡、河、可、

三、渡河方面

主カヲ渡河ヒシムベキ方面ハ  
 A 劉官屯ヨリ上流  
 B 劉官屯ヨリ千家章間

(B案)前案ヨリ、渡河準備容易ニシテ、後岸ニ掩護陣地ヲ有シ、渡河直後、敵妨害ツキモ、渡河技術稍々困難ナルノミナラス、又敵ヲ退路方向ニ壓迫シ得ルニ過キズ、  
 (C案)敵ノ最モ堅固ナル正面ニ向フモノニシテ、敵ノ抵抗ニ依リ、渡河容易ナラズ、且渡河後、戰果亦小ナリ、  
 (D案)敵ノ遠ク渡河ヲ準備シ、且實施シ得、又渡河後、抵抗少キモ、敵主力ヲ求ムルタメ、右旋回ヲナサザルベカラズ、

地ニテ容易ナラス、渡河モ亦、數條ノ河川アリ、技術上、渡河ハ、山、  
 動、作、モ、容、易、ナ、ラ、ス、  
 河、川、ア、リ、技、術、上、渡、河、ノ、  
 山、  
 河、川、ア、リ、技、術、上、渡、河、ノ、  
 山、

裏面白紙

(正案) 最も敵に遠く渡河し得ルノ利アルモ河川渡河ノ為技術上  
 以上、適當ナラス  
 四陽動、如上各案、利害アルモ口案ヲ以テ最も適當ナリト認ム

本狀況ニ於ケル渡河ハ敵前ニシテ殊ニ稍々堅固ニ敵岸ヲ守備  
 シアルノ公算大ナルヲ以テ企圖ノ秘匿ニ稍々堅固ニ敵岸ヲ守備  
 敵ヲ欺騙スルコト必要ナリ  
 即チ陽動ニ依リ我が企圖ヲ秘匿スルト共ニ一部ヲ渡河セシム  
 ルコト要ス  
 疑ハシキハ戰史ノ語ル所ナリ  
 即チ當初ハ相當強大ナル兵力ヲ豫備隊タルベキモノ兵站自動車  
 等又大部ヲ渡河セシム  
 又主力方面ニ於テモ騎兵隊正面ニ於テハ其ノ第一線ヲ日没マ  
 テ其ノ儘トナシ努メテ主力ノ行動ヲ秘匿スルヲ可トス

第三狀況

師團長ハ諸狀況ヲ知ルト共ニ第二問題原案ノ如キ渡河ノ方針  
 決定メコノ部署ノ下ニ大渡河ヲ渡河攻惠スルニ決シ十四日之  
 間スル要旨命令ヲ下達セリ

第三問題(宿題)

師團主力渡河攻惠部署  
 時ニ左記事項ヲ明ニスベシ

1. 渡河ノ方針
  2. 渡河ノ開始時刻
  3. 渡河法
  4. 軍隊區分(主助渡河共)及任務ノ概要
- 注意  
 1. 要圖答解 五分分一 小方眼紙横書  
 2. 四月十三日八時呈出

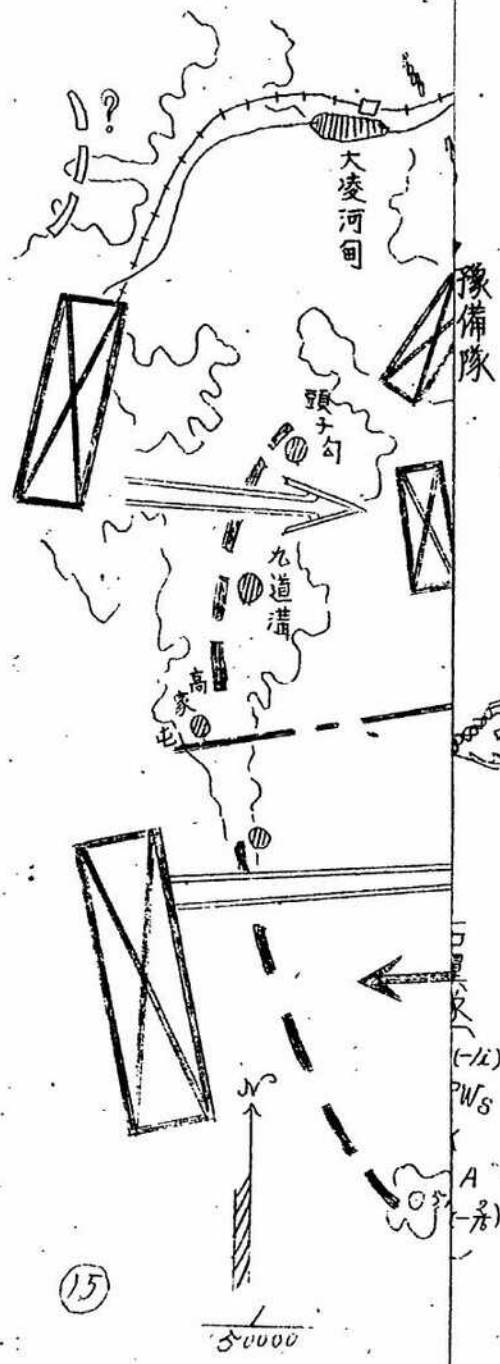
第三問題原案

方針

師團ハ本夜一時ヲ期シ主力ヲ以テ右屯衛附近ニ依リ急襲渡河シ九道溝  
 平山ノ線ニ進出シタル後敵ヲ  
 求メテ攻撃ス

騎兵隊

軍隊區分

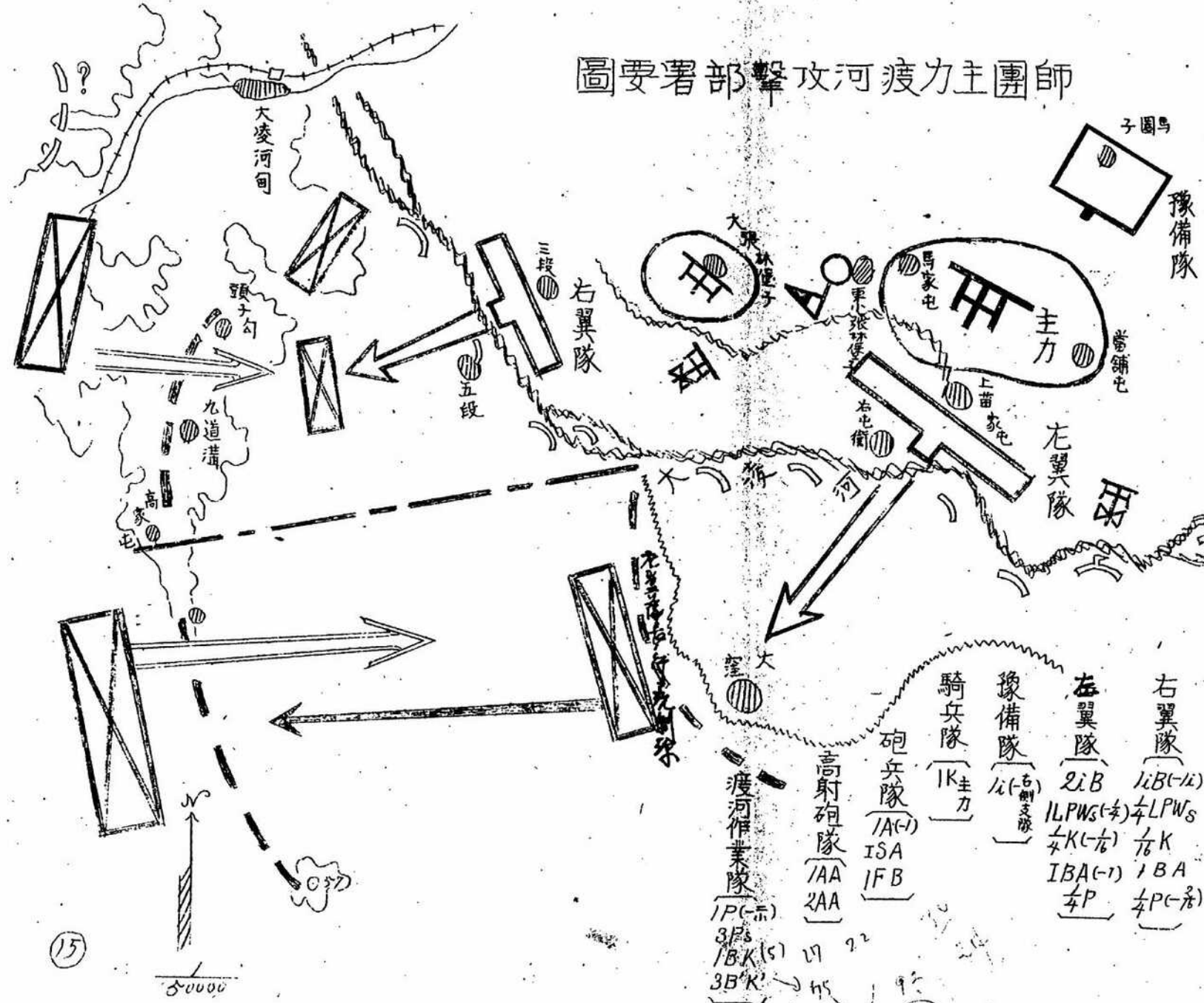


30  
 新隊





師團主力渡河攻撃部署要圖



第三問題原案  
方針  
師團八本夜一時ヲ期シ主力ヲ以テ右屯衛附近ニ一部ヲ以テ三段附近ヨリ主トシテ漕渡及機航ニ依リ急襲渡河シ九道溝平山ノ線ニ進出シタル後敵ヲ求メテ攻撃ス

軍隊區分  
右翼隊 (1/2 B(-1/2), 1/4 LPWS(-1/4), 1/8 K, 1 BA, 1/4 PC(-1/2))  
左翼隊 (2 1/2 B, 1/4 LPWS(-1/4), 1/8 K(-1/8), 1 BA(-1), 1/4 P)  
騎兵隊 (1 K 主力)  
豫備隊 (1/2 (-右側支援隊))  
砲兵隊 (1 A(-1), 1 SA, 1 FB)  
高射砲隊 (1 AA, 2 AA)  
渡河作業隊 (1 PC(-1), 3 P, 1 BK(1), 3 BK')

裏面白紙

卷之三 問題原案の說明

一 渡河ノ部署(三ノ三四六)

A. 渡河掩護隊ヲ渡河セシメ其掩護ノ下ニ渡河ヲ実施スベキヤ  
B. 戰鬥部署ヲ以テ渡河スベキヤ  
渡河点ノ前岸ニ於ケル現在ノ敵ハ微弱ナルヲ以テ前者ヲ可ト  
スルガ如キニ前研究ノ如ク渡河ノ爲相當ノ抵抗アルベキ公算  
アルノミナラズ敵ノ攻勢ヲ予期スルヲ以テ渡河部署即チ戰鬥  
部署ヲ以テ渡河スルヲ要ス

二 渡河開始時刻

準備ニシテ且企圖ヲ暴露セザル範圍ニ於テ勿クモ日没後早  
クトシテ天明マテニ成ルベク多クノ兵力ヲ渡河ハ予定ノ如ク進捗セズ動モス  
ト必要ナルモ戰史ニ依レバ渡河ハ予定ノ如ク進捗セズ動モス  
レハ流滞ヲ招来スルモノナリ  
而シテ師團ノ全カヲ一夜ニ渡河セシムルガ如キハ望ミ得ザル  
所ナリ故ニ天明マテニ戰列部隊ヲ大部クモ歩兵ノ主力砲兵  
ヲ一部ヲ渡河セシメテ以テ前岸ニ確乎タル地步ヲ獲得スルコト  
ヲ望ム特ニ制空權ヲ確保シ難キ本狀況ニ於テハ主力方面ノ渡河  
部隊ガ晝間河岸ヨリ約十吉米以上ヲ離隔シテハ主力方面ノ渡河

点進出マデニ約五時間ヲ要スベク尚此ノ際ニ於テハ晝間集結  
地ニ於テ歩エノ充分ナル協定ヲナシアルヲ要スルコト勿論ナ  
リ改ニ日没ヲ豫ヘ若テハ餘裕ヲ見預ルトキハ一時開始シ得  
ルガ如キモ兵力ヲ少キト及テ陽動ヲ判断セラルルヲ恐レテ以  
テ同時刻トナシ眞渡河ガ何レナルヤ不明ナラシムヲ可トス

三 渡河法  
A. 穩密(奇襲)  
B. 強行(急襲)

敵ノ意未ニ出ズルヲ奇襲ハ望ム所ナルモ本狀況ノ如ク此  
較的正面ト時機トヲ制限セラレアル敵前渡河ニ在リテハ之  
敵ニ抵抗ヲ排除シツテ渡河スル覺悟ヲ準備シルニ至ルニ於テ  
然レドモ當初ヨリ我が威カニ期待シ河川ノ障礙ト敵  
抵抗トヲ実力ヲ以テ強襲的ニ突破ヲ企圖スルハ適當ナラス  
即チ本狀況ニ於テハ渡河ノ強行ヲ覺悟シテテ意表ニ出テント  
ツツ其準備並實施ハ勉メテ之ヲ秘匿シ以テ意表ニ出テント  
スル急襲的奇襲ニ依ルヲ適當トス

3P. 樹艦上ヲ

(一) 軍隊分  
本狀況ニ於テハ前研究ノ如ク戰鬥部署ヲ以テ渡河ヲ強行ス  
ルヲ要スルヲ以テ翼隊ヲ區分シ重点方面ヲ定メ左翼隊ヲ主  
力トシ右翼隊ヲ補助トシテ渡河ヲ行フ

(二) 渡河法  
戰斗指導上重大ナル關係ヲ有ス而シテ單ニソノ一法ノミ  
ニ依ルコトナク各種ノ渡河法ヲ併用シ最モ能率的ナラシム  
本狀況ニ於テ敵前架橋又ハ本道上唯一ノ残存橋梁ヲ利用セ  
ントスルハ餘リモ無暴トイフベキナリ

敵前架橋ノ構造ハ(一) 通常トシ渡河  
敵前架橋ノ構造ハ(二) 通常トシ渡河  
敵前架橋ノ構造ハ(三) 通常トシ渡河

混同シテハ訓練及渡河ヲ急グタメニ之ヲ併用スルヲ可  
トス但シ第一回ハ架橋スベキモ敵ノ空中勢力ノ優勢ナル  
狀況ニ於テ許スニ至リ架橋スベキモ敵ノ空中勢力ノ優勢ナル  
現狀ニ於テ許スニ至リ架橋スベキモ敵ノ空中勢力ノ優勢ナル  
料ノ關係ニ於テ許スニ至リ架橋スベキモ敵ノ空中勢力ノ優勢ナル

注 從隊 百未



渡河部隊トナシコノ立渡河ヲ容易ナラシムルタメ石翼隊ヲ  
シテ助渡河部隊トナセリ而シテ助渡河ノ兵力稍々多キニ失  
スル(三、四、五)ガ如キモ敵ノ配備ト地形トノ關係上歩兵一聯  
隊位ヲ適當トスベシ

(一) 攻勢ノ重点  
敵ノ攻勢企圖特ニ其ノ方面ハ不明ナルモ我トシテハ自主的  
ニ隨前ニ之ヲ專破シ稍々迂遠ナルガ如キモ渡河準備ハ渡河  
後ノ前進容易ナル方面タル左方ニ之ヲ選定シ右旋回シテ錦  
州方面ニ向テ可トス

(二) 砲兵用法  
渡河直後ノ戦斗ヲ有刊ナラシムルタメ砲兵ノ一部特ニ輕量  
ナル山砲ヲ兩翼隊ニ配屬セリ

(三) 渡河作業隊  
渡河作業隊ヲ編制スルヲ可トスベキハ勿論ナルモ主助渡河  
方面進マハ渡河材料少キタメ彼此融通性アルヲ可トスベキ

(四) 進出線  
一 錦州方面ニ進出スルヲ可トスルガ如キモ夜間ナルト旋回  
要スルト砲兵主力方トノ協同ノ關係ヲ考ヘ九道溝平山ノ線ニ進出シタ  
ルヲ可トス

第一師團渡河計画  
第一方針

第一師團ハ本十一日下流河下流方面ヨリ急襲渡河シ九道溝平山ノ  
線ニ進出シタル後敵ヲ求メテ攻襲ス

第二 指導要領

一 師團ハ日没マテ概テ現態勢ニ在リテ渡河ヲ準備中開始シ日没  
後直ニ行動ヲ開始シ河岸ニ近接シ正子マデニ準備ヲ完了ス

二 師團ハ有力ナル一部ヲ以テ陽動ニ依リ敵ヲ上流方面ニ牽制シ  
特ニ左側支隊ヲ以テ奉章附近ヨリ渡河シ主力ノ渡河及尔後ノ  
敵陣ヲ容易ナラシメ主カヲ以テ苗家屯附近ヨリ一時ヲ期シ一  
帯ニ潛渡及縱火ニ依リ渡河ヲ開始シ九道溝平山ノ線ニ進出シ  
錦州方面ニ突進ヲ準備ス

三 師團主力ヲ渡河シ九道溝平山ノ線ニ進出セバ速ニ錦州方向  
ニ前進シ敵ヲ求メテ北ヲ攻襲ス

第三問題 原案ニ對シ



五飛行隊ハ前任務ヲ履行ス  
 六騎兵隊ハ主カヲ以テ前任務ヲ履行スル外一部ヲ以テ大凌河ノ  
 上下流地區ヨリ渡河シ前岸ノ敵主力ノ状況搜索ス  
 七右翼隊ハ現在地ニ在リテ渡河ヲ準備シ日没後行動ヲ起シ三段  
 前進ニ至リ準備ヲ完了ス  
 八左翼隊ハ現在地ニ在リテ渡河ヲ準備シ日没後行動ヲ起シ苗家  
 屯附近ニ至リ準備ヲ完了ス  
 九新設陣地ニ於テ第一線ノ交代ハ日没後開始シ正字マデニ  
 完了ス

十右側支隊ハ現在地ニ在リテ渡河ヲ準備ス  
 十一砲兵隊ハ現在地ニ在リテ特ニ企図ヲ秘匿シ陣地及射撃ノ  
 準備ヲ行ヒ日没後行動ヲ起シ一部ヲ以テ大張林堡子主カヲ以  
 テ苗家屯北側地區ニ陣地ヲ占領シ主トシテ左翼隊ノ戦闘ニ協  
 カスルノ準備ニ在ラシム  
 又攻勢阻止ノ爲メ砲兵隊ハ大カク準備ス  
 十二渡河作業隊ハ渡河作業ニ任ズ渡河材料ノ運搬ハ両翼隊及兵站  
 自動車ヲシテ協力セシム  
 十三八集結地ニ於テ渡河作業隊ニ交付ス

十四高射砲隊ハ現在地ニ於テ前任務ヲ履行シ日没後行動ヲ起シ十  
 二日拂曉又テニ要領ヲ確保スル  
 十五師団司令部ハ現在地ニ在リテ二十二時東小張林子ニ至ル

第五 渡河実施

十六飛行隊ハ前任務ヲ履行シ且拂曉以後一部ヲ以テ右側支隊トノ  
 連絡主カノ戰鬥ニ際シテハ主カヲ以テ砲兵隊ニ協カス  
 十七右側支隊ハ一時 章附近ヨリ渡河シ陽動ヲ行ヒ師団主力ノ渡  
 河及尔後ノ進出ヲ容易ナラシメタル後拂曉以後敵ノ左側ヲ求  
 メテ攻真シ師団主力ヲ有利ナラシム  
 十八右翼隊ハ一時三段附近ヨリ渡河シ敵ヲ驅逐シ九道溝ノ線ニ進  
 出シ左翼隊ノ進出ヲ容易ナラシメ且尔ノ前進ヲ準備ス  
 十九左翼隊ハ一時苗家屯附近ヨリ渡河シ敵ヲ驅逐シ甲木屯ノ線  
 ヲ準備ス  
 二十兩翼隊戰鬥地區ノ境界要領ヲ  
 二十一騎兵隊ハ渡河後速ニ錦州附近ノ敵情ヲ搜索ニ任ズ  
 二十二砲兵隊ハ渡河開始後速ニ射撃ヲ開始シ主トシテ右翼隊ノ戦闘  
 ニ協力シ渡河ノ進捗ニ伴ヒ逐次前岸ニ陣地ヲ交換ス  
 二十三予備隊ハ通時河岸ニ進接シ左翼隊ニ続イテ渡河シ左翼隊ノ左

（注）この位置不明の部隊は、  
 14時10分頃、  
 14時15分頃、

翼後ニ位置ス  
 孟渡河順序左ノ如シ  
 一 兩翼隊騎兵隊砲兵隊(但シ一部ヲ兩翼隊ト同時天明マテニ豫備隊  
 二 師團長ハ十一日夜依然現在地ニ拂曉迄ニ青蛇子ニ到ル  
 三 企圖秘匿ノ爲十二日拂曉迄使用ヲ禁止ス但シ偽騙ノタメニハ  
 四 使用スルコトアリ  
 五 師團通信隊ハ………  
 六 補給衛生  
 七 以下略ス

第三 狀況

一 右翼隊長ハ十一日十四時スギ電話ニ依リ師團ノ要旨命令ヲ知  
 ルト共ニ師團某少佐參謀末リ渡河計畫ノ大要ヲ承知シ長等  
 ト堅ク握手シテ別レ直ニ大張林堡子ノ左翼隊長ノ許ニ到リ諸  
 狀況ヲ知悉スルト共ニ渡河作業隊長ト連絡シ渡河ノ計畫ヲ立  
 案ス  
 二十五時マテニ右翼隊長ノ知得セル狀況別紙ノ如シ

第四 問題

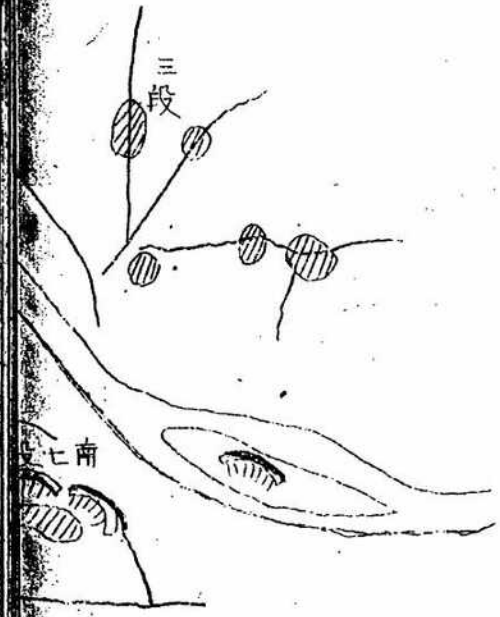
右翼隊渡河攻勢部署要圖

注意  
 一 要圖答解 二テ五千分ノ一ハ才眼紙横書  
 二 四月十四日八時呈出

四月十一日十五時

第三狀況別紙

一敵情要圖ノ如シ河岸ハ一連ニ監視兵配置セラレアリ  
 二我岸ハ30ノ一部警戒ニ任ジアリ  
 三コノ附近ニ地方舟ナク唯ニ中洲ノ南側ニ三雙繋留シアリ  
 四兩岸約百米内外砂地アリ其外方ニ高サ約二米上流五乃至  
 六米ノ堤防一連ニアリ我ノ監視兵ハ之ヲ利用シアリ



(参考)

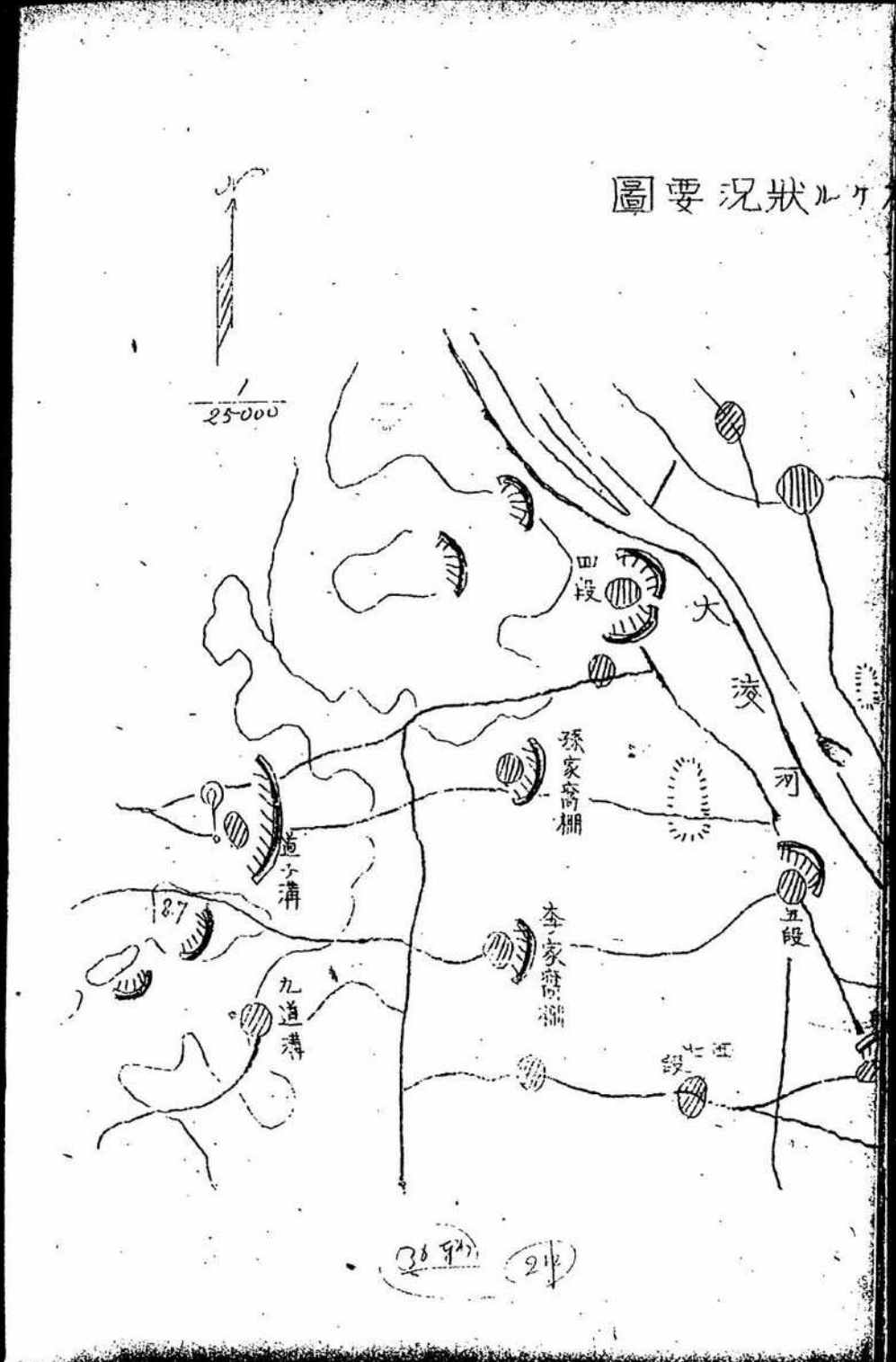
- 1. 主渡河
- 2. 助渡河
- 3. 真渡河
- 4. 陽渡河
- 5. 敵前渡河
- 6. 機航

用語ノ解

主カ、行フ渡河ヲ謂フ  
 主渡河ニ直接協力スルヲ一部ノ行フ渡河ヲ謂フ  
 即チ主攻ニ對スル助攻ノ如シ  
 主渡河ノ助渡河ノ別ニ陽渡河ニ對シ呼ブ時ニ用フ  
 某方面ニ真渡河ヲ行ク如ク敵ヲ誤認セシムル目的ヲ  
 以テ行フ渡河ニシテ實際ニ渡河スルト否トニ拘ハラ  
 ザルモノトス  
 渡河点ニ對シ歩兵火或ハ砲兵火ノ及ブ虞アル場合ニ  
 於ケル渡河攻撃ニ依リ若クハ之ガ舟舟ニ依リ航行スル  
 機航又ハ汽艇ニ依リ若クハ之ガ舟舟ニ依リ航行スル



圖要況狀ルケル

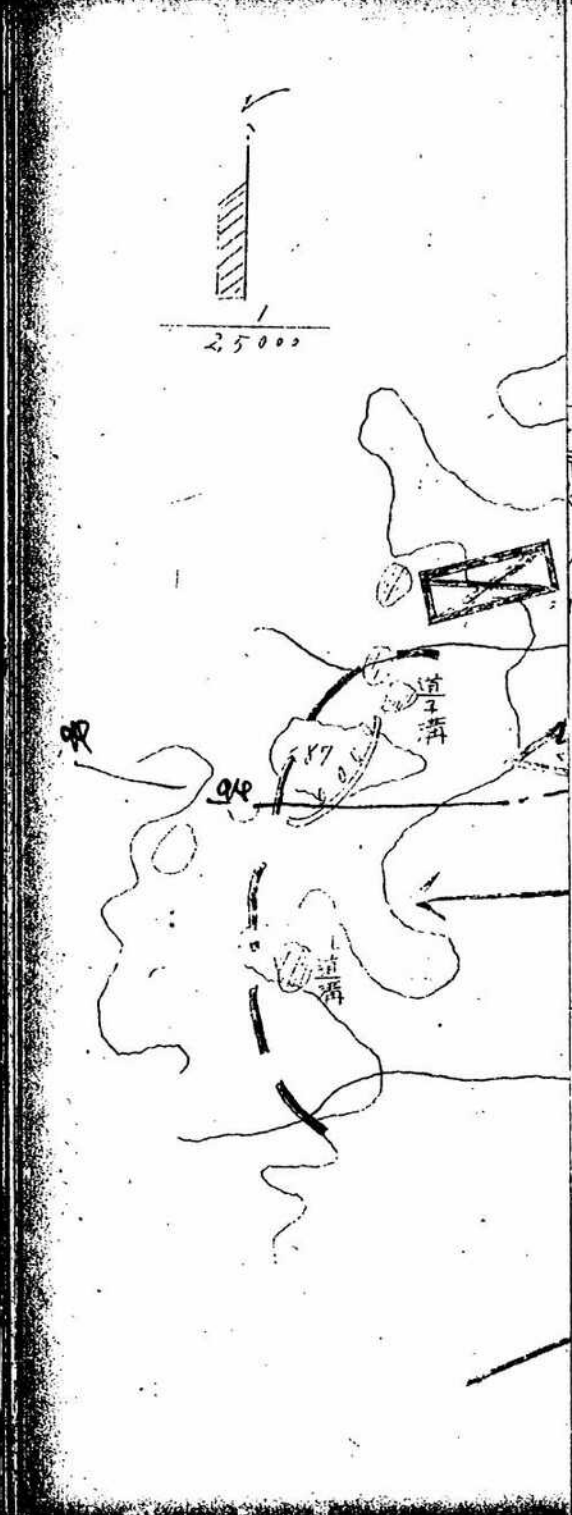


第四問題原案

方針

右翼隊二十一日夜一時ヲ期シ三殺附近ヨリ渡河シ當面ノ敵ヲ驅逐シ五殺西北  
 方堆土ヨリ西七殺ノ線ニ於テ隊勢ヲ整ヘタル後道子溝九道溝ノ線ニ進出シ爾  
 後ノ突進ヲ準備ス

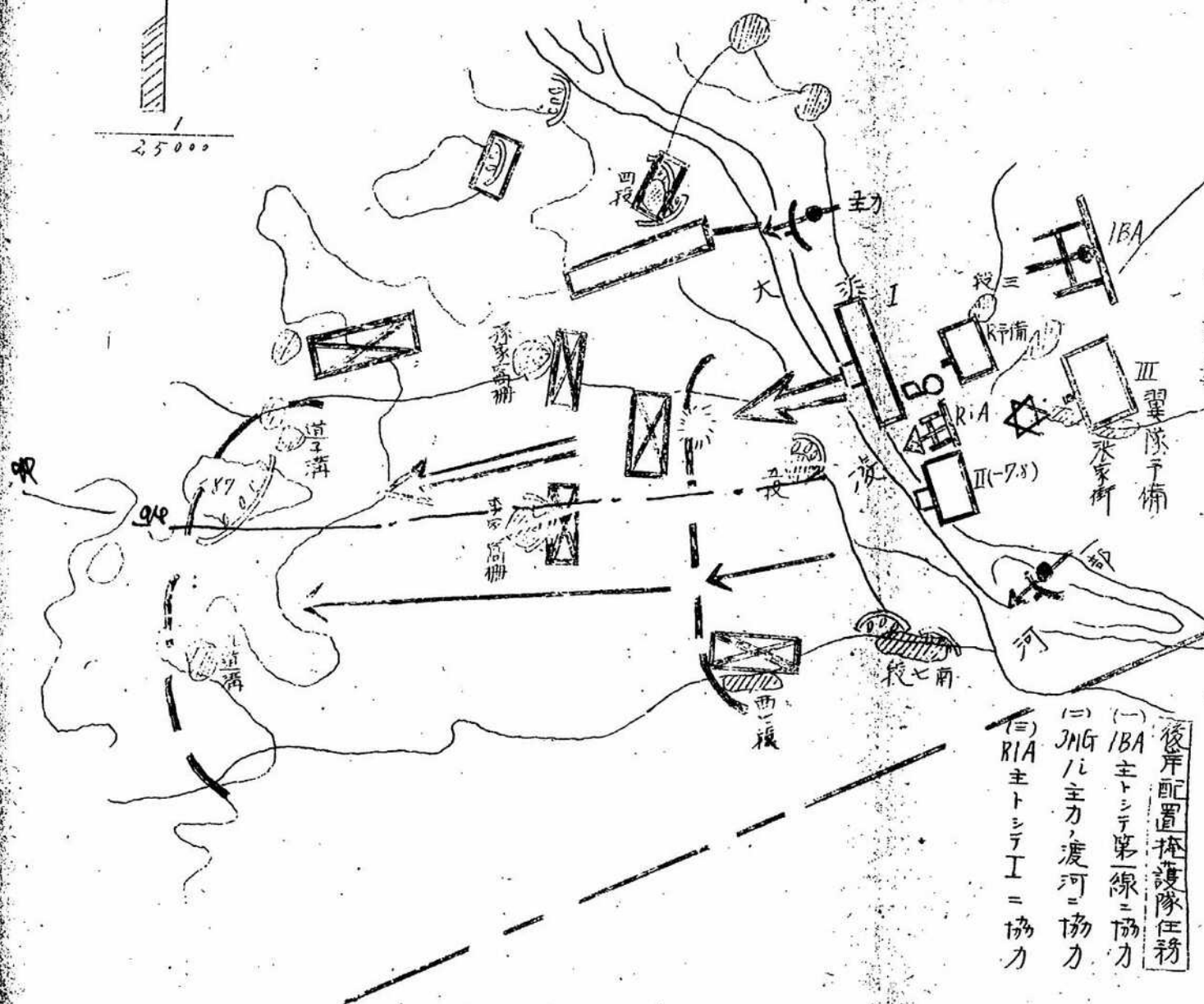
軍隊區分  
 第一線 呂 21(III)  
 右第一線 I  
 打AG線 K(2)







右翼隊攻撃部署要圖



右翼隊は十二日夜一時ヲ期シ三役附近ヨリ渡河シ當面ノ敵ヲ驅逐シ五役西北  
 方推テヨリ西七役ノ線ニ於テ隊勢ヲ整ヘタル後道子溝九道溝ノ線ニ進出シ爾  
 後ノ突進ヲ準備ス

第四問題原案  
 方針

- 軍隊區分
- 右翼隊
    - 砲兵隊
    - 直轄
    - 第一線
    - 第二線
    - 第三線
  - 第一線
    - 右第一線 I
    - 左第一線 III(78)
    - 砲兵隊
    - 直轄 RIA

後方配置擁護隊任務

- (一) IBA 主トシテ第一線ニ協力
- (二) 216 主カ、渡河ニ協力
- (三) RIA 主トシテ I = 協力

裏面白紙

第四問題ノ説明

一 縦長區分  
 一線ノ兵力ヲ強大ニシ歩兵聯隊ノ特色ヲ發揮セシメ  
 タキハ望ム所ナルモ渡河後ノ戰鬥指導殊ニ北側ノ地形ト此ノ  
 方面ニ對スル顧慮大ナルトニ鑑ミ右翼隊トシテ一大隊ノ豫備  
 隊ヲ有スルヲ適當トス  
右翼隊ヲ豫備隊トシテ一大隊ノ豫備

二 攻撃ノ重點  
 渡河後南七段西七段八段等ノ部落ニ衝突シ又ハ之ニ近ク突進  
 スルハ敵ノ抵抗ニ會スルハ不利アルヲ以テ戰鬥進捗ノ容易ナ  
 ル五段北側ヨリ道子勾ニ指向スルヲ有利トス

三 渡河後ノ進出線  
 右翼隊ハ其ノ任務上速ニ道子勾九道勾ノ線ニ進出シ左翼隊ノ  
 渡河ヲ容易ナラシメザルベカラサルモ渡河戰鬥ノ特質ニ鑑ミ  
 特ニ敵ノ抵抗ト右旋回トノ關係上先ツ五段西北方推土西七段  
 ノ線ニ於テ第一線ヲ統制シタル後所命ノ線ニ進出スルヲ可トス

四 後岸ヨリスル渡河掩護  
(二三五〇)  
 渡河ノタメ敵ノ抵抗ヲ豫期シアル本狀況ニ於テハ特ニ後岸ニ  
 我ガ火力ヲ配置シ適時敵ヲ制壓シ渡河ヲ掩護スルヲ要ス

之ガタメ配屬砲兵ハ勿論歩兵ノ一部ヲ使用セザルベカラズ  
 而シテ歩兵砲機銃等ヲ使用スルヲ有利トス即チ右翼隊長  
 トシテハ豫備隊タルMGヲ聯隊長トシテハRifヲ使用スルヲ適當  
 トス而シテ之ガ配置上特ニ顧慮スベキハ河岸ノ屈曲有利ナ  
 ラザル本狀況(三三四)ニ於テハ四段及南七段ノ兩側方ヨリスル  
 敵ノ側防ヲ封スルヲ要ス之ガ爲渡河ノ直前中洲ヲ占領スルヲ  
 有利トス尚ホ流下物ニ依ル妨害ヲ避クル爲特ニ上流方面ニ  
 對スル警戒ヲ要トス

五 工兵ノ用法  
 ソノ兵力少ナキヲ以テ渡河間第一線ニ配屬シ水際障物ノ排  
 除ニ任ゼシメ爾後之ヲ直轄スルヲ可トス

六 第一線大隊ノ進出線  
 各大隊ハ先ヅ河岸ヲ確保シ當面ノ敵ニ對スル攻撃ヲ準備スル  
 ヲ要ス

渡河戰之戰例

一 渡河準備ノ周到ト企圖ノ秘匿  
 一九一五年十月獨逸軍ノセルピヤ國境渡河ニ於テ其集中及渡  
 河ノ諸準備ヲ極メテ秘密ニ行ヘリ

二 當時西方戰場ニテ從軍中ノ將校ヲ某日突然出發ヲ命ジ下車  
 シテ始メテドウナ河畔ナルヲ知リタリ

三 塞軍ノ飛行ハドウナ河北方約六十吉米侵入シタリシモ獨逸  
 軍ノ變化ヲ認メザリシニ反シ獨逸軍飛行機ヨリ塞軍ノ配備  
 ヲ偵知シタリ其ノ周到ナル獨逸軍ガ塹壕ノ戰線ニ到リ偵察ス  
 ル際ニハ常ニ塹壕ノ服裝ヲナセリト云フ

四 敵前渡河ト陽渡河  
 敵前渡河ハ困難ナルニ成功セル戰例多キハ攻者ガ不意ニ乘ジ  
 若クハ陽動ニ依リ敵ヲ欺キ得タルニ依ル

五 日露戰爭鴨綠江ノ渡河ノ際偶々モ下流ヨリ渡河材料ノ一部  
 ヲ輸送スルヲ見テ我主ガ南方ヨリ渡河スルト判断セリ

六 一九一四年八月ヨリ一九一五年十月ニ至ル塞國境ニ於ケ  
 ル渡河  
 一九一四年八月ドウナ方面陽渡河ニ於テ先ガ後岸ニ於テ陽動シ砲



一、師團ノ渡河準備上下一体諸兵協同ノ下ニ著ク進捗シ各部隊ハ渡河ノ豫習ヲ実施シ歩工兵各級指揮官ハ各其上級指揮官ノ渡河ニ関スル指示ニ基キ各渡河点附近ニ進出シ偵察標示等ヲ実施シ中ニシテ既ニ必勝ヲ期セリ  
 二、師團長ハ更ニ夜間ノ夕メ道路ヲ配當スル等交通統制ニ関スル指示ヲナス  
 三、各渡河部隊ト作業隊トハ相互ニ渡河ニ関スル諸般ノ協定ヲ實施シ日没後各隊ハ行動ヲ起シ渡河材料ハ歩工輜ノ密接ナル協同ノ下ニ運搬セラレ泛水準備ノ位置ニ到リ堤防ノ線ニ整頓待機ス  
 四、右翼隊長及右長ノ部署ニ基キコノ方面ノ渡河作業ニ任ズル兵第ニ中隊長ハ尤、如ク部署セリ  
 五、折疊14. 鐵舟6. P一小半  
 六、折疊6. 鐵舟3. P半小

第四狀況

一、九月マク地方ニ於テハ塊ノ8Cハ執拗ニ前岸ニ移ラシムルコトヲ企圖セシタメ塞ノ2A軍主力ヲ牽制シ塊軍ノ「トナウ」渡河容易ナラシメタリ  
 二、九月マク地方ニ於ケル獨塊ノ陽渡河ハ主力ノ「トナウ」渡河ヲ容易ナラシメタリ  
 三、地形ノ觀察  
 四、九月第二次ノ渡河ノ際塊軍ハ敵ノ意表ニ出デントシ地形峻ナル「トナウ」上流地方ヨリ主力ヲ渡河シ渡河ハ成功シタルモ同方面ノ地形ハ塞軍ノ持久戦ニ適シ最後ノ目的ヲ達成シ得ザリキ  
 五、六月塊軍ノ「トナウ」河ノ渡河ニ於テ準備射撃ニ於テ毒瓦斯催涙彈及煙彈ヲ使用同河ノ全正面ニ亘リ高サニ米ノ煙幕ヲ構成セル外朝霧及砲彈ノ爆煙ノタメ伊軍ハ塊軍ノ岸ヲ通過シ得ズ塊軍ハ之ヲ利用渡河ヲ決行セリ  
 六、視得ズ塊軍ハ之ヲ利用渡河ヲ決行セリ  
 七、激勞ニ堪エ得ザラシム  
 八、濠正ニ使用渡河  
 九、濠正ニ使用渡河  
 十、濠正ニ使用渡河  
 十一、濠正ニ使用渡河  
 十二、濠正ニ使用渡河  
 十三、濠正ニ使用渡河  
 十四、濠正ニ使用渡河  
 十五、濠正ニ使用渡河  
 十六、濠正ニ使用渡河  
 十七、濠正ニ使用渡河  
 十八、濠正ニ使用渡河  
 十九、濠正ニ使用渡河  
 二十、濠正ニ使用渡河

問 I/2 第一回渡河部隊ノ兵力如何  
 答 P. 1. 2. MG 主力 P. 3. 部



五各部隊ノ渡河準備ハ殆ンド完了シ〇時五十分トナルヤ師團司令部ノ附近ニ線吊星ノ上ルヲ見ル

問 各部隊長ノ判断

答 我岸ニアル土民又ハ間諜ノ敵ニ對スル記號ナラン本狀況ニ於テハ敵ニ近キヲ以テ堤防ノ線ニ於テ準備ヲ完了シシ後直ニ發航スベク命ズルモノトス而シテ發航命令ハ上級指揮官ノ命令及步兵指揮官ノ協定ニ依リ步兵指揮官之ヲ決定シ工兵指揮官之ヲ命ズルモノトス

六一時トナルヤ各部隊ハ一齊ニ低速ヲ以テ發航シ以テ方面ニ於テ

第一回渡河部隊ノ右第一線中隊方面ニ在リテ敵河岸ニ近ズカントスルヤ俄然敵岸ヨリ小銃輕機ノ次テ照明砲兵ノ射撃ヲ受テ若干ノ死傷ヲ生ジ一隻(折疊)轉覆シ舟内ヨリ應射スルコトヲ能ク沈著シ各舟ハ全速ニテ一時十分前岸ニ突入シ堤防ヲ占領スルハ直ニ各方面ヘ連絡シ前方ニ豫メ準備セシ將校片候ヲ派遣ス

問 一齊發航ノ隊形如何

答 基準舟ヲ中央トシ舟隊ヲ編制シアリ(各舟間隔ハ折疊ニ〇米三〇米)

三時ニ回渡河部隊ニ逐次遅滞ナク乘船シ渡河中絶スルコトナク適宜集團シ發航セリ以下夜間ニ於テ多少ノ混雜ヲ招來セルモ概ネ順調ニ第一線歩兵ノ大部ヲ渡河セシムルヲ得渡河作業隊長ハ鐵舟ニテ門橋ヲ作り門橋渡河ヲ併用ス又夜間ハ風強キタメ敵ノ互斯使用ニモ會セザリキ第一線殊ニ右翼隊ハ四時頃ニハ概ネソノ進出線ニ達シ左翼隊ハ舊大凌ノ線ヲ出發セントスル所敵砲兵ノ集中火ニ會スルト共ニ歩兵約一大隊ノ逆襲ニ會ヒタルモ之ヲ撃退シ天明頃漸ク明家屯平山ノ線ニ進出スルコト項砲兵ハ配屬セルモノノ外野砲ニ大隊ヲ前岸ニ渡河セシメタルノミナリ八是ヨリ先師團長ハ前岸ニ情報所ヲ設置シ直ニ之ヲ連絡スルト共ニ尚下渡河場ヲ設置シ兩岸連結ヲ圖リ各隊亦河ヲ隔テテノ連絡特ニ歩砲ノ連絡ニ努ム九東天紅ヲ染ムル項ヨリ我射撃中ニモ拘ラズ敵ノ優勢ナル飛行機極メテ困難ナリ遂ニ若干ノ損害ヲ受ク河極メテ困難ナリ昨日來ノ南強風ハ漸クオザマリ兩翼隊ハ當面ノ敵ニ對シ攻撃準備中ナリ

騎兵隊ハ海岸方面ヨリ敵情搜索中ナリ

十六時將軍台附近ニ戰鬪司令所ヲ進ム。コノ頃マデ大凌河左岸ニアル戦列部隊ハISAタルノミナリ日没マデハ凌河ヲ完了シ得ル見込ミナリ。右側支隊ハ正午以來敵ノ左翼ヲ攻撃中トノ報告ニ接ス又飛行機ノ報告ニ依レバ山海關方向ノ敵ハ北進中ニシテ本朝山海關ヲ出發セリ山海關―錦西―錦州道ハ荒廢シアルガ如シ。主當時ニテ判明セル敵情別紙ノ如シ。

十六時ニ於ケル師團長ノ決心及處置ノ大要

決案

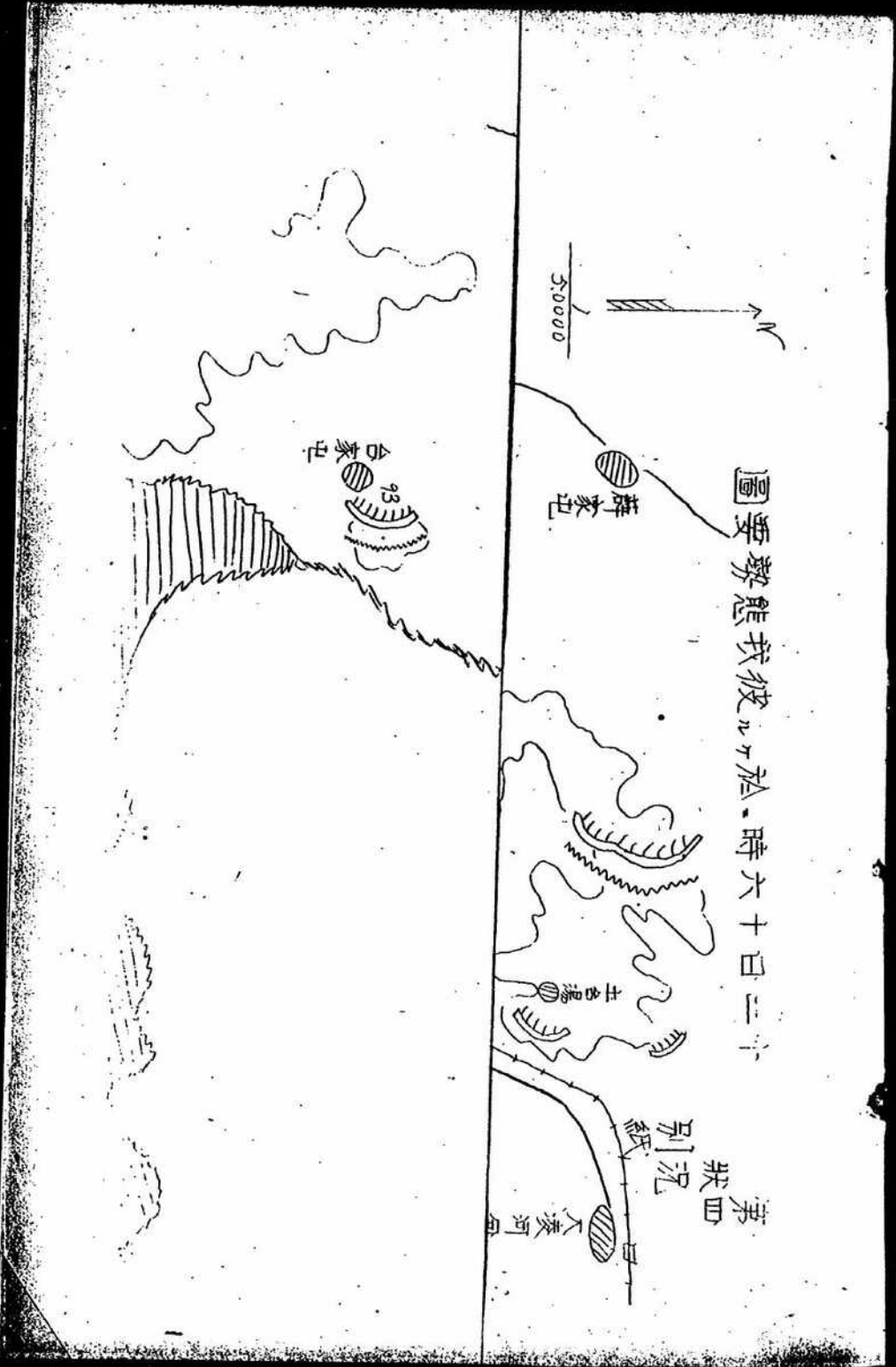
師團ハ明十三日黎明ヲ期シ松山街以南ノ地區ニ重點ヲ指向シ敵後續部隊ノ來著ニ先グテ當面ノ敵陣地ヲ突破シ錦州附近ニ敵ヲ撃滅セントス

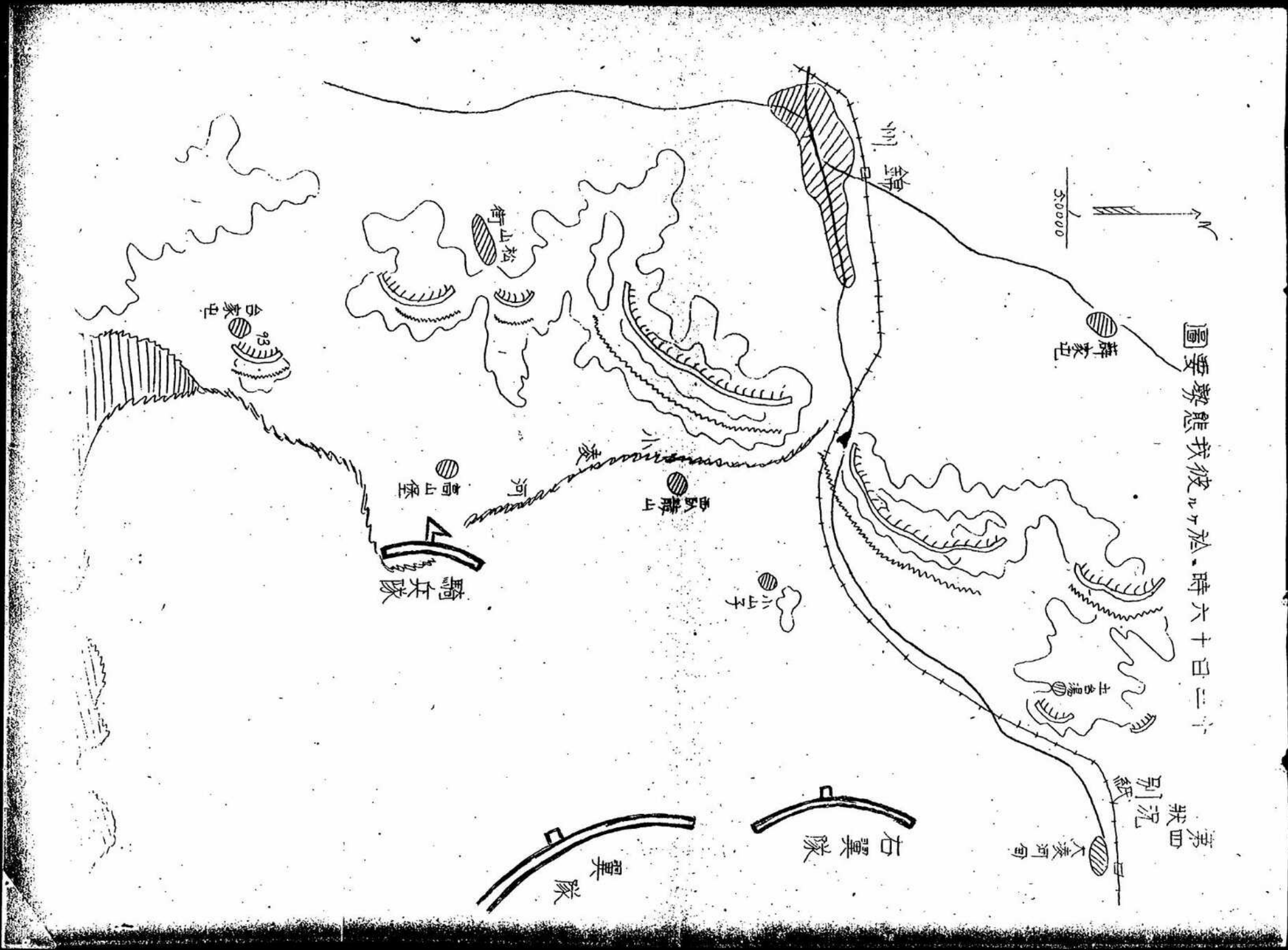
處置ノ大要

- 1. 師團ハ一部ヲ以テ直ニ上台溝附近ノ敵ノ前進陣地ヲ奪取シ師團ノ攻撃方面ヲ欺騙ス
- 2. 夜間右側支隊ノ外一部ヲ以テ土台子西側高地小山子西臥龍山ノ線ニ於テ擬攻撃準備ヲナサシメ且明日ノ攻撃ニ於テ右

側ヲ掩護セシム

- 3. 主力ハ松山街以南ノ敵ニ對シ近ク黎明攻撃ヲ準備ス
- 4. 歩兵約一大隊ヲ基幹トセルモノヲ折疊舟ニ依リ日没直後大凌河ヨリ海上機ニ依リ塔山附近ニ上陸シ敵ノ退路ヲ遮斷セシム
- 5. 鐵舟ヲ以テ終夜補給ニ全カテ擧ゲシメ架橋ハ行ハズカクシテ師團長ノ任務ニ對スル責任觀念ノ旺盛戰機ノ捕捉ノ妙果敢斷行ノ性格ト部下ノ忠誠奮闘トハヨク敵ヲ各個ニ撃破シ軍主力ノ作戰ヲ有利ナラシムルヲ得タリ





第四狀別況  
三十日六時於松州我勢要圖

錦州  
松山街  
白旗堡  
高台堡  
騎兵隊  
右翼隊  
左翼隊

裏面白紙



